

ソフトウェアバージョン: 12.20

# ラボ管理ガイド

ドキュメントリリース日:2014 年 12 月 (英語版) ソフトウェアリリース日:2014 年 12 月

### ご注意

#### 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するもの は一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。 ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

#### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピュー ターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許 諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 2002 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の登録商標です。

Microsoft®, Windows®は, Microsoft Corporationの米国登録商標です。

Unix®は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ)のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

### ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の登録は、次の Web サイトから行なうことができます。 http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

### サポート

HP ソフトウェアサポートオンライン Web サイトを参照してください。http://support.openview.hp.com

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできま す。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧 • 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

ー部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契 約が必要です。HP Passport ID を登録するには、次の Web サイト にアクセスしてください。

#### http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

#### http://h20230.www2.hp.com/new\_access\_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP 製品間の統合に関する詳細なリストやITLプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLはhttp://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jspです。

# 目次

第1章: ラボ管理の概略	11
ラボ管理の概要	12
第2章:ラボ管理の管理	14
ラボ管理の概要	15
ラボ管理の管理者の作成方法	15
ラボ管理の管理の使用方法	15
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース	
[ラボ管理]タブ	
[一般設定]ダイアログ・ボックス	
第3章:プロジェクト設定	22
プロジェクトの設 定 の概 要	23
ターゲット IP アドレスの使用	
サブネット・マスクの使用	
プロジェクトを作成する方法	24
プロジェクト設定のユーザ・インタフェース	
プロジェクト設定 モジュール	
プロジェクト 設 定 モジュールのメニューとボタン	
プロジェクト設定モジュールのフィールド	
[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス	
VUD のアクション	35
[Performance Center Controller のオプション]ダイアログ・ボックス	
第4章:メンテナンス・タスク	46
メンテナンス・タスクの概要	
メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース	
メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ	
メンテナンス・タスクのフィールド	
メンテナンス・タスクのメニューとボタン	
[メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックス	
第5章: クラウド設定	54
クラウド・ホストの概要	

クラウド・ホストを使用するメリット	. 55
ALM でのクラウド・ホストの使用	. 55
クラウド・ホストの設定方法	56
クラウドの初期設定	57
クラウドの初期設定の概要	58
クラウド通信の初期設定	63
クラウド・ネットワークの設定方法	65
デジタル証明書を作成する方法	66
クラウド の初 期 設 定 のユーザ・インタフェースス	. 68
[クラウド ネットワーク設定]ダイアログ・ボックス	69
クラウド・アカウント	. 70
クラウド・アカウントの概要	71
クラウド・クレジット	71
クラウド・アカウントを管理する方法	71
クラウド・アカウントの追加	. 72
クラウド・アカウントの詳細の変更	. 74
クラウド・アカウントの削除	74
クラウド・アカウントのユーザ・インタフェース	75
クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ	76
クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン	77
クラウド・アカウント・モジュールのフィールド	. 79
[新規クラウド アカウント]ダイアログ・ボックス	81
[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス	. 82
[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックス	83
クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ	. 84
ホスト・テンプレート	. 86
ホスト・テンプレートの概要	. 87
ホスト・テンプレートを管理する方法	88
ホスト・テンプレートの作成	. 88
Microsoft Azure クラウド・アカウント 用の画像の作成	89
ホスト・テンプレートの詳細の変更	90
ホスト・テンプレートの削除	. 90
ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース	90
ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ	. 91
ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン	. 91
ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド	94
[新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックス	96
「ホスト テンプレートの詳 細 ] ダイアログ・ボックス	97

ホストのプロビジョニング	
ホストのプロビジョニングの概要	
クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法	
クラウド・ホストのプロビジョニング	
クラウド・ホストの終了	
ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース	102
[クラウド ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックス	
ホスト・プロビジョニング・レポート	
クラウド・リソースの監視	
クラウド・リソースの監視の概要	
クラウドの使用状況レポート	
クラウド 警告 および通知	111
クラウド警告の構成方法	
クラウド・リソースの監視のユーザ・インタフェース	112
[クラウド 警告 および通知]ダイアログ・ボックス	
第6章:ラボ・リソース	115
ラボ・リソースの概要	116
ラボ・リソースの管理	
テスティング・ホストの管理方法	
ホスト・プールを管理する方法	
ホストの場所を管理する方法	
タイムスロットの予約方法	
メンテナンス・タイムスロットのスケジュール - 管理者のユース・ケース	
ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	
ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン	135
ホスト・モジュール	141
ホスト/テスティング・ホスト・モジュールのウィンドウ	142
ホストのフィールド	144
[新規テスティングホスト]ダイアログ・ボックス	
[テスティング ホストの詳 細]ダイアログ・ボックス	151
イベント・ログ	154
[プロセス] <i>ページ</i>	
[サービス]ページ	
[ホストのステータスの確認]ページ	158
ホストのステータスの確認のフィールド	
[ファイアウォール越し]ページ	
[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス	
プール・モジュール	

プール・モジュール・ウィンドウ	164
プール・フィールド	
[新規ホスト プール]ダイアログ・ボックス	165
[ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス	166
[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス	168
[リンクされたホスト]ページ	169
場所モジュール	170
場所モジュール・ウィンドウ	
場所のフィールド	171
[新規ホストの場所]ダイアログ・ボックス	172
[ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス	173
タイムスロット・モジュール	174
[タイムスロットの予約:メンテナンス]ダイアログ・ボックス	
第7章:PC テスト実行	
PC テスト実行モジュールの概要	179
PC テスト実行のユーザ・インタフェース	179
PC テスト実行モジュールのウィンドウ	
PC テスト実行モジュールのフィールド	
PC テスト実行 モジュールのメニューとボタン	
[実行詳細]ダイアログ・ボックス	
第8章:使用状況レポート	
使用状況レポートの概要	
使用状況レポートを作成する方法	
レポートを PDF または Excel 形式 にエクスポートする方法	
使 用 状 況 レポートの時 間 フレーム	191
使用状況レポートのユーザ・インタフェース	
リソース・サマリ・レポート	
同時実行対ライセンス・レポート	
タイムスロットの使用状況レポート	
継続時間別リソース・レポート	
実行別リソース使用状況レポート	
プロジェクトごとの VUD ライセンス使 用 状 況 レポート	
日 次 VUD ライセンス使 用 状 況 レポート	
プロトコル粒度使用状況レポート	215
クラウド高レベル・レポート	
クラウド・クレジット(タイプ別)レポート	

クラウド利用率レポート クラウド操作レポート	223 225
第9章:システム・ヘルス	
システムのヘルスの概要	231
システムのヘルスのユーザ・インタフェース	
システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ	
[システム チェックの設 定]ダイアログ・ボックス	233
第10章:PC ライセンス	235
HP ALM Performance Center ライセンスの概 要	
Performance Center のライセンス・キーの設定方法	
Performance Center Community ライセンス・バンドルの設定方法	
PC ライセンスのユーザ・インタフェース	240
PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ	
[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックス	244
第11章: MI Listener	246
MI Listener の概 要	
MI Listenerを管理する方法	247
MI Listener モジュール	
MI Listener モジュール・ウィンドウ	
MI Listener のフィールド	
MI Listener モジュールのメニューとボタン	
[新規 MI Listener]ダイアログ・ボックス	
[MI Listener 詳細]ダイアログ・ボックス	
第12章:診断管理	255
J2EE/.NET 診断の概要	
ERP/CRM 診断の概要	
ERP/CRM メディエータの追加方法	258
HP Diagnostics サーバの追加方法	
Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法	
Oracle 11i 診断を事前に設定する方法	
SAP 診断を事前に設定する方法	
Siebel サーバでログを有効、無効にする方法	

Oracle サーバのログを有効にする方法	
Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法	
診断のユーザ・インタフェース	
診断モジュール・ウィンドウ	
診断モジュールのフィールド	
診断モジュールのメニューとボタン	271
第13章: パッチ管理	
パッチの概 要	
パッチの ALM へのアップロード 方 法	
パッチ管 理 のユーザ・インタフェース	275
パッチ・モジュール・ウィンドウ	
パッチ・モジュールのフィールド	
パッチ・モジュールのメニューとボタン	277
[パッチの詳細]ダイアログ・ボックス	
[新規パッチ]ダイアログ・ボックス	
第 14章 : AUT ホストの管理	
AUT リソースの概 要	
Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法	
AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	
AUT ホスト・モジュール	
AUT ホストのフィールド	
[新規 AUT ホスト]ダイアログ・ボックス	
[AUT ホストの詳 細]ダイアログ・ボックス	291
AUT プール・モジュール	
[リンクされたホスト]ページ	
[AUT ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス	294
AUT プールのフィールド	
[新規 AUT ホスト プール]ダイアログ・ボックス	
[AUT ホスト プール詳 細]ダイアログ・ボックス	
AUT リソース・モジュールのメニューとボタン	
第15章:プロジェクト管理	
ラボ管理対応プロジェクトの使用の概要	
ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法	
第16章:PC サーバ	

PC サーバの概 要	
Performance Center サーバを管理する方法	
Performance Centerサーバ・モジュールのユーザ・インタフェース	
PC サーバ・モジュール・ウィンドウ	
PC サーバ・モジュールのメニューとボタン	
PC サーバ・モジュールのフィールド	
[PC サーバの詳 細]ダイアログ・ボックス	
[新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス	
[プロセス]ページ	
[サーバのステータスの確認]ページ	
第 17章 : CDA サーバ	
CDA サーバの概要	
CDA サーバを管理する方法	
CDA サーバのユーザ・インタフェース	
CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ	
CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン	
CDA サーバ・モジュールのフィールド	
[新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックス	
[CDA サーバ詳 細]ダイアログ・ボックス	
第18章: Lab Service	
HP ALM Lab Service の概 要	
HP ALM Lab Service のインストール	
HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール	
HP ALM Lab Service の使用	
自動ログイン	
HP ALM Lab Service Agent	
ドキュメントのフィード バックを送信	

# 第1章:ラボ管理の概略

本章の内容

ラボ管理の概要

HP ALM ラボ管理では、ALM サーバ側テストで使用するリソースを管理します。

ALM テストでは、さまざまな実行モードでテストを実行できます。 ALM エディションまたは Performance Center のユーザは、機能テスト・セットまたはパフォーマンス・テスト・セットにアクセスし、リモート・テスティン グ・ホストでテストの即時実行またはスケジュール実行を行うことができます。 ALM では、ビルドのデプロイ メントとテストをエンドツーエンドで実行し、ラボ管理では、 ALM のサーバ側テスト機能のインフラストラク チャを構成するテスト・リソースを管理します。

ラボ管理は、次のモジュールで構成されています。

#### ラボ設定

リソースを監視,保守,ALM プロジェクトに割り当てる方法を管理します。このグループには次のモジュールが含まれます。

プロジェクト設定	各 ALM プロジェクトの設定を管理します。 ホスト数の上限とホスト・プールの 割り当てを、 プロジェクトごとに設定します。
メンテナンス・タスク	主要なシステム・コンポーネントで発生した障害を検出および修復するタスク を監視します。

#### クラウド設定

ALM でクラウド・テスティング・ホストのプロビジョニングに使用するクラウド・アカウントとホスト・テンプレートを追加します。

クラウド・アカウント	外部 クラウド・アカウントを ALM に追加します。
ホスト・テンプレート	クラウド・ホストのプロビジョニングに使用するテンプレートを作成および 変更します。

#### • ラボ・リソース

サーバ側テストで使用できるテスティング・ホストとプールを作成および定義します。

ホスト	ALM がサーバ側テストで使用するテスティング・ホストを作成および変更します。
プール	テスティング・ホストのプールを作成および変更します。ホスト・プールは、ALM プロジェクトに割り当てられます。
場所	テスティング・ホストに割り当て可能な場所を定義します。
タイムスロット	ホスト上 で行う手動 メンテナンスのスケジューリングと予約を行います。

• Performance Center

Performance Center に関連するリソース,設定,テスト結果データを管理します。

PC テスト実行	すべてのプロジェクトについて、Performance Center テスト実行の結果を表示 します。
使用状況レポー ト	Performance Center サイト・ユーザとリソースの使用状況を分析します。
システムのヘルス	システムの稼働状態を追跡および管理します。
PC ライセンス	Performance Center とPerformance Center のホスト・ライセンスを管理します。
MI Listener	MI Listener を作成および変更します。これにより、ファイアウォールを介してパフォーマンス・テストを実行可能になります。
診断	診断 モジュールを統合 することによって,複雑なテスト対象 アプリケーションの パフォーマンスを監視 および分析します。
パッチ	アプリケーション・パッチをアップロードします。これにより、Performance Center サーバとホストにパッチをインストールできるようになります。
AUT ホスト	テスト対象アプリケーション (AUT) コンポーネントをホストするマシンを作成およ び変更します。
AUT ホスト・プー ル	AUT ホストのプールを作成 および変更します。

・サーバ

パフォーマンス・テストとテストのデプロイメントで使用するサーバを作成および構成します。

PC サーバ	Performance Center サーバを作成し、パフォーマンス・テストでの使用方法を 管理します。
CDA サーバ	HP Continuous Delivery Automation (CDA) サーバを作成および変更します。 これによって ALM は、サーバ側テストの環境を、クラウドを使って動的にデプロ イできるようになります。

# 第2章:ラボ管理の管理

本章の内容

ラボ管理の管理の概要	
ラボ管理の管理者の作成方法	15
ラボ管理の管理の使用方法	15
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース	

## ラボ管理の管理の概要

ホストやホスト・プールの作成や保守などの管理タスクを実行するラボ管理ユーザには、管理者権限を 割り当てる必要があります。

ラボ管理 ユーザの定義や管理者の役割の割り当ては、ALM サイト管理で行います。ラボ管理の管理 者ユーザを作成する方法の詳細については、「ラボ管理の管理者の作成方法」(15ページ)を参照してく ださい。

関連タスクの詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

### ラボ管理の管理者の作成方法

このタスクでは, ラボ管理とサイト管理で, すべてのプロジェクト管理タスクを担当する, ラボ管理の管理 者ユーザを作成する方法について説明します。

#### 注:

- このタスクは、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)のタスクの前提条件になります。
- このタスクはサイト管理で実行されます。サイト管理へのログインと使用方法の詳細については、 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理の管理者ユーザを作成するには、次の手順を実行します。

- 1. 「サイト管理」にログインします。
- 2. [サイトのユーザ]タブで,新しいユーザを作成します。
- 3. [**ラボ管理**]タブで, [**ラボ管理ユーザ**]タブを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[ラボ管理]タブ」(19ページ)を参照してください。
- 4. 手順2で作成したユーザを追加し,新しいユーザに対して[プロジェクト管理者]オプションを選択します。

### ラボ管理の管理の使用方法

本項では、ラボ管理管理者が実行できるタスクの一覧を示します。

- 部のタスクは、Performance Center ライセンスのあるプロジェクトのみで実行できます。

- •「前提条件」(16ページ)
- 「Performance Center の初期設定の実行」(16ページ)
- •「Performance Center プロジェクトの作成とプロジェクト設定の定義」(16ページ)
- 「ラボ管理のラボ・リソースの管理と保守」(17ページ)
- •「パフォーマンス・テストの実行の表示と管理」(17ページ)
- 「Performance Center 使用状況レポートの表示」(17ページ)
- 「アプリケーション・パッチのアップロード」(17ページ)
- •「Performance Center サーバの管理」(17ページ)
- 「Performance Center ライセンスとPerformance Center ホスト・ライセンスの管理」(17ページ)
- 「Diagnostic サーバとDiagnostic メディエータの管理」(17ページ)
- •「システムのヘルスの維持」(17ページ)
- 「Performance Center システム・ユーザの変更」(18ページ)
- 「通信セキュリティ・パスフレーズの更新」(18ページ)
- •「セキュリティ保護されたホスト通信設定の更新」(18ページ)
- •「Performance Center の一般設定の設定」(18ページ)

#### 前提条件

これらのいずれかのタスクを実行するには、ラボ管理管理者である必要があります。ラボ管理の管理者を作成する方法の詳細については、「ラボ管理の管理者の作成方法」(15ページ)を参照してください。

Performance Center の初期設定の実行

Performance Center コンポーネントのインストール直後に、関連するコンポーネントの設定ツールが開き、 初期設定の入力が求められます。この設定をスキップした場合、Performance Centerの使用を開始す る前に、手動で設定を行う必要があります。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

#### Performance Center プロジェクトの作成とプロジェクト設定の定義

サイト管理でプロジェクトを作成し、 ラボ管理のプロジェクト設定モジュールでプロジェクトの制限やその他の設定を定義します。詳細については、「プロジェクトを作成する方法」(24ページ)を参照してください。

#### ラボ管理のラボ・リソースの管理と保守

ホスト, ホスト・プール, ホストの場所の管理は, ラボ・リソース・モジュールで行います。詳細については, 「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)を参照してください。

ホスト上でメンテナンス・タスク(パッチのインストール,ホストの再起動など)の実行を計画している場合, これらのホストをタイムスロットに確保することをお勧めします。これで,ホストをメンテナンスに確実に利用 できるようになります。詳細については、「タイムスロットの予約方法」(130ページ)を参照してください。

#### パフォーマンス・テストの実行の表示と管理

システムのすべてのラボ管理からのテストの実行は、テスト実行モジュールで表示、管理できます。詳細については、「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(180ページ)を参照してください。

#### Performance Center 使用状況レポートの表示

Performance Center 使用状況レポートには、Performance Center サイト・ユーザの全体的な分析、リソース使用状況、同時実行リソース使用状況とライセンスによる上限の比較、タイムスロット使用状況、期間と実行別のリソース使用状況に関する情報が表示されます。詳細については、「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)を参照してください。

これらのレポートを PDF 形式と Excel 形式 でエクスポート することもできます。詳細については、「レポートを PDF または Excel 形式 にエクスポート する方法」(191ページ)を参照してください。

#### アプリケーション・パッチのアップロード

アプリケーション・パッチを Performance Center のサーバとホスト にインストールする前 に, パッチをシステム にアップロード する必要 があります。詳細については,「パッチの ALM へのアップロード方法」(275ページ)を 参照してください。

Performance Center サーバの管理

Performance Center サーバの管理は、ラボ管理のPC サーバ・モジュールから行います。詳細については、「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)を参照してください。

Performance Center ライセンスとPerformance Center ホスト・ライセンスの管理

Performance Center ライセンスとPerformance Center ホスト・ライセンスの管理は、ラボ管理のライセンス・モジュールから行います。詳細については、「PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ」(241ページ)を参照してください。

#### Diagnostic サーバとDiagnostic メディエータの管理

診断モジュールを ALM と統合すると、テスト対象の複雑なアプリケーションのパフォーマンスを監視、分析できます。診断モジュールの設定の詳細については、「診断管理」(255ページ)を参照してください。

#### システムのヘルスの維持

システムのヘルスの追跡と維持は、のシステムのヘルス・モジュールから行います。詳細については、「シス

テムのヘルスの概要」(231ページ)を参照してください。

Performance Center システム・ユーザの変更

Performance Center のサーバとホスト上の Performance Center システム・ユーザを変更 するには, Performance Center サーバ上 にインストールされているシステム ID ユーティリティを使用します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

通信セキュリティ・パスフレーズの更新

Performance Center のサーバとホスト上の通信セキュリティ・パスフレーズを更新するには、Performance Center サーバ上にインストールされているシステム ID ユーティリティを使用します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

#### セキュリティ保護されたホスト通信設定の更新

最初に、Performance Center ホストまたはスタンドアロン Load Generator にローカルにインストールされて いるホスト・セキュリティ・セットアップ・ユーティリティを使用して、各ホストまたは Load Generator 上でセキュ リティ保護された通信設定を定義します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参 照してください。

すべてのホストとLoad Generator で同時にこれらの設定を更新するには、Performance Center サーバに インストールされている Host Security Manager を使用できます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

Performance Center の一般設定の設定

Performance Center の一般設定は、ラボ管理で管理します。マストヘッドで、 Sefering Sefering

## ラボ管理管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

[ラボ管理]タブ	
[一般設定]ダイアログ・ボックス	20

# [ラボ管理]タブ

サイト管理の[ラボ管理]タブを使用すると、LAB\_PROJECT プロジェクトの詳細を管理し、ラボ管理管理タスクを担当するラボ管理ユーザを定義できます。

サイトのプロジェクト ラボ管理 サイトのご	ユーザ   サイトの接続   ライセンス   サーバ   DB サーバ   サイト設定   サイト分析   💿 🚺
ジェブロジェクトの更新	🦯 編集 🕪 Pine コマンド 🚭・ 🥥 🏷 🖂
E S LAB_PROJECT	ラボ管理の詳細 ラボ管理ユーザ
	1 追加・ 表削除 ∽ 検索 尚
	ユーザ名 △ 名前 ブロジェクト 管理者
	alex_alm Alex 🗹
	deveng 1
	robert_alm
	ユーザ音計:8

アクセス方法	「サイト管理」の[ <b>ラボ管理</b> ]タブをクリックします。
関連タスク	「ラボ管理の管理者の作成方法」(15ページ)
参照情報	「ラボ管理の管理の概要」(15ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
🥒 Edit	<b>接続文字列の編集:</b> ラボ管理の接続文字列を編集します。接続文字列の編集の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
🧶 Ping	<b>プロジェクトに Ping コマンドを適用</b> : プロジェクト・データベースがサイト管理からア クセスできるかどうかをチェックします。
<b>*</b>	<b>プロジェクトのメンテナンス</b> : プロジェクトを検証,修復,アップグレードできます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
V 🧶	プロジェクトのアクティブ化/非アクティブ化: LAB_PROJECTを非アクティブ化する と、ユーザはラボ管理にログインできなくなります。非アクティブにすると、プロジェクト に現在接続されているすべてのユーザが、強制的にログアウトされます。LAB_ PROJECT がサーバから削除されるわけではありません。
	また,ユーザは LAB_PROJECT にリンクされているプロジェクトに接続できず,現 在接続されているユーザは切断されます。

UI 要素	説明
3	<b>ラボ・プロジェクトの復元</b> : LAB_PROJECT へのアクセスを復元し, サイト管理の [ラボ管理]タブに追加します。LAB_PROJECTを復元した場合, 復元した LAB_PROJECT で作成したラボ管理プロジェクトのみ使用できます。
	復元プロセスの詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理 者ガイド』を参照してください。
	<b>ラボ・プロジェクトの削除</b> : サイト管理の[ラボ管理]タブからLAB_PROJECTを削除します。この操作でLAB_PROJECT がサーバから削除されることはありません。 LAB_PROJECT は, 必要に応じて元に戻せます。 プロジェクトがまだアクティブな場合は, 非アクティブにするように求めるメッセージが表示されます。
	LAB_PROJECTを削除すると、関連付けられているすべてのラボ管理プロジェクトが非アクティブ化されます。これらのプロジェクトを有効にするには、該当するバージョンのLAB_PROJECTを復元する以外に方法はありません。
[ラボ管 理 の詳 細]タブ	ラボ管 理を使 用 するための LAB_PROJECT の詳 細を表 示,編集 できます。 プロ ジェクトの詳 細の表 示と編集の詳 細 については,『HP Application Lifecycle Management 管 理者 ガイド』を参照してください。
[ラボ管理ユー ザ]タブ	ラボ管理管理を担当するユーザを割り当てることができます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management管理者ガイド』を参照してください。

# [一般設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、Performance Center の一般設定を定義できます。

PC サーバの設定     PC サーバの意定       Data Processor     ● ポリシュサイズ       Data Processor の設定     ● オーズ(OB) 1	🔜 Performance Center の一般	設定	- D ×
ビナ: 通用 キャンセル(C) 儒楽顕定 ヘルブ(H)	Performance Center の一統     PCサーン     PCサーン     Data Processor の設定	設定 PC サーバの数定 PC サーバのキャッシュ サイズ © 制限なしキャッシュ サイズ C キャッシュ サイズ サイズ (GB) 1	_ <b>_</b> ×
ビオ: 通用 キャンセル(C) 標準設定 ヘルブ(H)			
通用 キャンセル(C) 標準設定 ヘルプ(H)			
H		適用 キャンセル(C) 標準設定 ヘルプ(H)	

<b>アクセス方法</b> ラボ管理のALMマストヘッドで、 一般設定]を選択します。	🌣 をクリックして [Performance Center の
---	---------------------------------

重要な情報	ここで定義した設定は、Performance Center システムの一般設定となります。
関連タスク	「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)
参照情報	「ラボ管理のでででのです。」(15ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
[PC サーバ]>[PC サーバの設定] ページ	<ul> <li>Performance Center サーバの次のキャッシュ設定を定義できます。</li> <li>制限なしキャッシュ・サイズ: Performance Center サーバのキャッシュ・サイズが無制限になり、キャッシュはクリアされません。</li> <li>キャッシュ・サイズ: Performance Center サーバのキャッシュ・サイズ (ギガバイト単位)。</li> <li>標準設定値: 1GB</li> </ul>
[Data Processor]>[Data Processor の設定]ページ	<ul> <li>Data Processor の次の設定を定義できます。</li> <li>Data Processor のタイムスロットの最小長(分): Data Processor のタイムスロットに割り当てる必要がある最小時間(分)。</li> <li>標準設定値:1分</li> <li>保留中のData Processor タスクのタイムアウト(分): データ処理タスクが保留中のままの状態を維持できる時間。</li> <li>標準設定値:30分</li> </ul>
適用	定義した設定を保存します。
標準設定	Performance Center サーバおよび Data Processor の標準設定を復元します。

# 第3章: プロジェクト 設定

本章の内容

プロジェクトの設 定 の概 要	23
プロジェクトを作成する方法	24
プロジェクト設定のユーザ・インタフェース	26

## プロジェクトの設定の概要

プロジェクト設定モジュールを使用すると、プロジェクト設定の次のような項目を表示、変更できます。

- 一般的なプロジェクトの詳細
- パフォーマンス・テストのターゲットとしての IP アドレスの使用
- プロジェクトと使用状況へのVUD 仮想ユーザの割り当て
- プロジェクトに対するタイムスロットの設定
- プロジェクトに対する Controller の設定

ターゲット IP アドレスの使用方法の詳細については、「ターゲット IP アドレスの使用」(23ページ)を参照してください。

## ターゲット IP アドレスの使用

ターゲット IP アドレスは,指定されたネットワーク上のすべてのホストのアドレスが共通のプレフィックスを共有するように割り当てられます。 共通のプレフィックスで IP アドレスのネットワーク部分を定義し,残りでホスト部分 (ローカル部分とも呼ばれる)を定義します。

このコンテキストでのネットワークという用語は、1つまたは複数の物理ネットワークにまたがる論理ネット ワークを指します。IP アドレスのネットワーク部分によってサイトが識別され、ローカル部分によってそのサイトの1つのホストが識別されます。

### サブネット・マスクの使用

サブネット・アドレス指定を使用しているサイトは、各ネットワークに 32 ビットのサブネット・マスクを指定する 必要 があります。サブネット・マスクの各ビットは、ネットワークで IP アドレスの対応 するビット がネットワーク・ アドレスの一部として扱われる場合、1 に設定され、IP アドレスの対応 するビット がホスト ID として扱われ る場合、0 に設定されます。

たとえば、次のサブネット・マスクを考えてみましょう。

11111111 1111111 0000000 0000000

(10 進数形式では255.255.0.0)。このサブネット・マスクでは、最初の2つのオクテットでネットワークが識別され、最後の2つのオクテットでそのネットワークのホストが識別されます。

個々のIP アドレスの定義時に追加する、サブネット・マスク255.255.255.255 (2進数形式では 11111111 111111111111111111)では、サブネット・マスクが存在しないかのように、IP アドレスの 4 つのオクテットすべてでネットワークとホストが識別されます。実際上は、NULL がターゲット・パフォーマン ス・テストに対する正確な IP アドレスとして使用されます。

## プロジェクトを作成する方法

このタスクでは、プロジェクトを作成する方法について説明します。 サイト管理でプロジェクトを作成し、ラボ管理でプロジェクトの設定を定義します。

注:

- このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。
- 製品の機能紹介ムービー:パフォーマンス・テスト・プロジェクトの作成方法を例示するムービーを 表示するには、ALMのメイン・ウィンドウで、[ヘルプ]>[ムービー]を選択します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「サイト管理へのログイン」(24ページ)
- 「プロジェクト・ドメインの作成 オプション」(24ページ)
- 「プロジェクト管理者ユーザの作成」(24ページ)
- •「新規プロジェクトの作成」(25ページ)
- •「その他のプロジェクト管理者のプロジェクトへの割り当て-オプション」(25ページ)
- 「プロジェクトの設定の定義」(25ページ)
- 「プロジェクト・ユーザの追加とカスタマイズ」(26ページ)
- 1. サイト管理へのログイン

Web ブラウザを開き,次の形式でALMのURLを入力します。

http://<ALM 名>[<:ポート番号>]/qcbin

HP Application Lifecycle Managementウィンドウで, [サイト管理]をクリックします。

サイト管理者のユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。

- プロジェクト・ドメインの作成 オプション
   [ドメインの作成]ボタンをクリックし、新しいドメインの名前を入力して、[OK]をクリックします。
- 3. プロジェクト管理者ユーザの作成
  - a. [**サイトのユーザ**]タブを選択し, [**ユーザの新規作成**]ボタンをクリックします。[ユーザの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。

- b. プロジェクト管理者ユーザの詳細を入力し, [OK]をクリックします。
- c. ユーザを選択し、 [パスワード]をクリックして、 パスワードを入力します。 [OK]をクリックします。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- 4. 新規プロジェクトの作成
  - a. [サイトのプロジェクト]タブをクリックし、プロジェクトを作成するドメインを選択します。
  - b. [プロジェクトの作成]ボタンをクリックし、プロジェクトを作成する手順を実行します。必要な場合、次の操作を実行します。
    - 上記で作成したプロジェクト管理者ユーザを追加します。
    - 。 まだ有効になっていない場合には, ALM ラボ拡張を有効化します。

詳細については、 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- 5. その他のプロジェクト管理者のプロジェクトへの割り当て-オプション その他のプロジェクト管理者を追加するには、次の手順を実行します。
  - a. [**サイトのプロジェクト**]タブをクリックします。
  - b. 左側の[プロジェクト]リストで,作成したプロジェクトを選択します。
  - c. 右の表示枠の[プロジェクト ユーザ]タブをクリックします。
  - d. 別のユーザを追加し, [プロジェクト管理者]を選択します。
- 6. プロジェクトの設定の定義

プロジェクトは標準設定で作成されますが、必要に応じて変更できます。 ラボ管理で、次のようにプロジェクトの設定を定義します。

- a. 管理者のユーザ名とパスワードを使用して、ラボ管理にログインします。
- b. ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]で, [プロジェクト設定]を選択します。
- c. 少なくとも次の設定を定義します。ホスト数の上限,仮想ユーザ数の上限,同時実行数の上限。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス」(32 ページ)を参照してください。

注: プロジェクト管理者は、ALM内のプロジェクトのプロジェクト設定を表示し、いくつかのプ

ロジェクト設定を変更できます。ALM内のプロジェクト設定にアクセスするには、ALMマスト ヘッドで、 をクリックし、 [ラボ設定]を選択します。

7. プロジェクト・ユーザの追加とカスタマイズ

この手順は、プロジェクト管理者が実行します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

# プロジェクト設定のユーザ・インタフェース

本項の内容

プロジェクト設定モジュール	27
プロジェクト 設 定 モジュールのメニューとボタン	28
プロジェクト設定モジュールのフィールド	30
[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス	32
[Performance Center Controller のオプション]ダイアログ・ボックス	38

# プロジェクト設定モジュール

このモジュールを使用すると、すべてのプロジェクトとその設定を表示、管理できます。

フィルな定義なし。								
70	<b>ቻェ</b> クト	7	'− <i>ı</i> L	AUT プール	仮想ユーザ数の	VUD 鼓の上限	同時共	行動の
another project		General			100	0	1	
a test		General			10000	0	2	
<u>a 1</u>		General			1000	10	3	
PC		General		PC default AUT pool	1000	2	3	
sal		General			0	0	0	
vproj		V_pool			1000	20	10	
VC PC1		General			1000	0	10	
AUTOMATION N	IGRATION PROJ.	General			0	0	0	
PC1		General			1000	0	10	
PC VUD トランザ:	がaン   履歴   【 Q							
フィルタ: プロジェクト	の一意の ID[0357d9c	4-e299-4842-905f-	979bb53f2fcd]: ソー	ト基準: 発生日 [Descending];VL	JD トランザクション ID[Descen	ling]		
発生日	青任者 のユーザ名	アクション	VUD 数	更新された使用中のVUD	更新された保留中のVUD	更新されたフロジェクト	の上限	
13/07/2010 14:4	antons	Deallocated	100			0		1006
13/07/2010 14:4	antons	Allocated	100			100		1005

アクセス方法	サイドバーの[ <b>ラボ設定</b> ]で, [ <b>プロジェクト設定</b> ]を選択します。
重要な情報	このモジュールによって, ALM内のすべてのプロジェクトのリストが表示されます。
	あるいは,特定のプロジェクト内からプロジェクト設定にアクセスできます。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(24ページ)
参照情報	「プロジェクトの設定の概要」(23ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<プロジェクト設定モジュー ルの共通の UI 要素>	<ul> <li>プロジェクト設定モジュールのフィールド:フィールドの定義については、 「プロジェクト設定モジュールのフィールド」(30ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン」(28ページ)を参照してください。</li> </ul>
	• ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー, [ヘルプ]メニュー, サイドバーの詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<プロジェクト設定のグリッ ド>	ALM 内 のプロジェクト のリスト とそのプロジェクト 設 定 が表 示 されます。
[PC VUD トランザクショ ン]タブ	各プロジェクト内のPC VUD トランザクションが表示されます。詳細については、「[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス」(32ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているプロジェクトに加えられた変更の一覧が表示されま す。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザー ズ・ガイド』を参照してください。

## プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン

プロジェクト設定モジュールを使用すると、プロジェクト設定を表示、管理できます。

アクセス方法	<ul> <li>サイドバーの[ラボ設定]で、[プロジェクト設定]を選択します。</li> </ul>
	<ul> <li>プロジェクト管理者: ALM のマストヘッドで、 をクリックして[ Performance Center ラボ設定]を選択します。     </li> </ul>
重要な情報	プロジェクト管理者の場合、ALMで現在のプロジェクト設定を表示できます。 一部の設定を変更することもできます。

プロジェクト設定モジュールのメニューとツールバーについて次に説明します。

UI要素	場所	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォル ダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳 細については, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	[プロジェクト設 定]と<右クリッ ク・メニュー>	選択したプロジェクトをコピーして、そのURLをリンクとして貼り 付けます。プロジェクト自体はコピーされません。代わりに、電 子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付け ることができます。リンクをクリックするとALM が起動し、プロ ジェクト・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしてい ない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力 が要求されます。
エクスポート	[プロジェクト設 定]と<右クリッ ク・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。 グリッド のプロジェクト 設定をテキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ド キュメントとしてエクスポートできます。
		次のいずれかのオプションを選択します。
		<ul> <li>すべてエクスポート: グリッドのすべてのプロジェクト設定をエクスポートします。</li> </ul>
		• 選択項目のエクスポート: グリッドの選択したプロジェクト 設定をエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでプロジェクト設定を検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
プロジェクト設定 に移動	プロジェクト設定	[プロジェクト設定に移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番 号で特定のプロジェクト設定レコードを検索できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理で きます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。
お気に入りの整 理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、 プロパティを変 更するか、 ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理で きます。 詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
プロジェクト設定 の詳細	[プロジェクト設 定]と<右クリッ ク・メニュー>	[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択し たプロジェクトの詳細を表示, 編集できます。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示 します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気 に入 りビューのリストを表 示 します。
すべて更新 🧟	表示	最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	プロジェクトの詳細のグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選 択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 プロジェクト設定のフィールドの詳細については、「プロジェクト 設定まざュールのフィールド」(30ページ)を参照してください。
		設定モノユールのリュールに」(30、ヘノ)を多照していことで。
フィルタ/ソートの 設定 <b>ア・</b>	表示	グリッド内のプロジェクト設定に対してフィルタとソートを実行で きます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば, ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
選択項目の更 新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッド で 選択した複数のフィールド 値を更新 できます。 詳細 について は, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイ ド』を参照してください。

## プロジェクト設定モジュールのフィールド

本項では、プロジェクト設定モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
AUT プール	プロジェクトのAUT ホスト・プール。

フィールド	説明
ビルド検証スイー トの自動延長時 間 (分)	初期タイムスロットが経過した時点で,ビルド検証スイートのタイムスロットを自動 延長するときの分数。タイムスロットを延長するには,そのタイムスロットで[タイムス ロットを自動的に拡張]を有効にし,テスト・リソースを十分に確保しておく必要が あります。
CDA ドメイン	CDA サーバのドメイン。
CDA サーバ	CDA サーバの名前。
同時実行数の 上限	プロジェクト内で許可される同時テスト実行の最大数。
Diagnostics サーバ	プロジェクトに定義されている Diagnostics サーバ。
ドメイン名	プロジェクトが作成されたドメイン。
機能テストの自 動延長時間 (分)	初期タイムスロットが経過した時点で,機能テストのタイムスロットを自動延長す るときの分数。タイムスロットを延長するには,そのタイムスロットで[タイムスロットを 自動的に拡張]を有効にし,テスト・リソースを十分に確保しておく必要がありま す。
ホスト数の上限	タイムスロットに予約するホストの合計数 (Controller + Load Generator)は, この 上限を超えることはできません。
ID	プロジェクトのID。
タイムスロットの 自動延長の最 大回数	BVS または機能テストで設定されている初期タイムスロットが経過した後,タイム スロットを自動延長できる回数の最大値。
プール	プロジェクトのホスト・プール。
プロジェクト	プロジェクトの名前。
消費済み VUD 数	プロジェクトによって消費されている VUD の数。
VUD 数の上限	プロジェクトで利用できる VUD の最大数。
VuGen 作業モー	VuGen からスクリプトをアップロードするために使用するモード。
	• [Runtime Files] モード: スクリプトを正しく再生するのに必要なファイルのみ アップロードします。
	• [User Defined] モード: サムネール画像を含む利用可能なすべてのファイルを アップロードします。

フィールド	説明
仮想ユ <del>ーザ数</del> の 上限	プロジェクトで一度に実行できる仮想ユーザの最大数。 すべてのプロジェクトの同時実行パフォーマンス・テストで使用される合計数は, この上限を超えることはできません。

## [プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、プロジェクトの設定を行うことができます。

📴 プロジェクト設定 の詳細					- • •
10 4 6 61 4 1 1 1					
ID: 1001	プロジェ	りト: Project_1			
	書羊糸田				
PC VUD トランザク…	ID:	1001		同時実行数の上限:	10
タイムスロットの設定 の 履歴	プール:	General	~	仮想ユーザ数の上_	10
0	AUT プール:		$\sim$	ホスト数の上限:	1000
	Diagnostics サーバ:		$\sim$	VUD 数の上限:	0
4	VuGen 作業モード:	User Defined	$\sim$	消費済み VUD 数:	0
	■タイムスロットの自一	3		■ビルド検証スイート	20
	■機能テストの自動。	10		CDA サーバ:	~
	CDA ドメイン:			ドメイン名:	DEFAULT
	プロジェクト:	3176c638-1e52-4fde	-8c 🛄	プロジェクトの正式…	DEFAULT\Project_1
				OK(O)	キャンセル(C) ヘルプ(H)

アクセス方法	ラボ管理の場合:
	1. サイドバーの[ <b>ラボ設 定</b> ]で, [ <b>プロジェクト設 定</b> ]を選 択します。
	2. グリッド内のプロジェクトを右クリックし, [プロジェクト設定の詳細]を選択します。
	ALM の場合:
	ALM マスト ヘッド で, 🍄 をクリックして [ <b>Performance Center ラボ設定</b> ]を選択 します。
重要な情報	[Controller のオプション]ページは,特定のプロジェクトにログインした場合にのみ 利用できます。 ラボ管理では,Controller のオプションを設定できません。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(24ページ)
参照情報	「プロジェクトの設 定 の概 要 」(23ページ)

#### 共通要素

次に、共通ユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
0000	<b>最初の/前の/次の/最後のエンティティ</b> :プロジェクトのリストの間を移動で きます。
	利用可能な場所:ラボ管理のみ。
AB	<b>スペル・チェック</b> :選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Re.	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されま す。
AB:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
プロジェクト	プロジェクトの名前。

#### [詳細]ページ

このページには, 選択したプロジェクトの一般的な詳細が表示されます。詳細については, 「プロジェクト 設定モジュールのフィールド」(30ページ)を参照してください。

#### [PC ターゲット IP] ページ

このページを使用すると、パフォーマンス・テストのターゲットとして使用する IP アドレスを定義できます。

🗐 プロジェクト設定 の詳細		_02
0000 50		
ID: 1002		
■ 詳細 ● PC ターゲット IP	* 🗉 🗙 🖸	
<ul> <li>▲ PC VUDトランザク</li> <li>● タイムスロットの設定</li> <li>④ 履歴</li> </ul>		
	OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)	

重要な情報	ターゲット IP を定義できるのは、Performance Center host のみで、スタンドアロン Load Generator では定義できません。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(24ページ)
参照情報	「ターゲット IP アドレスの使用」(23ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
*	新規:[新規ターゲット IP]ダイアログ・ボックスが開き,パフォーマンス・テストのター ゲットとして使用する IP アドレスを定義できます。
	<b>編集</b> :[ターゲット IP 詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したターゲット IP の詳細を表示, 編集できます。
×	<b>削除</b> :選択したターゲット IP を削除できます。
	更新:最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
IP	ターゲット IP アドレス。
マスク	各ネットワークの32ビットのサブネット・マスク。

### [PC VUD トランザクション] ページ

このページを使用すると、プロジェクト内のPC VUD トランザクションを追跡できます。

📑 フロジェクト設定 の詳細							<u>_   ×</u>
	AB	AR E					
ID: 1002	]	2 703	<sup>フ</sup> ェクト: <b>ITESTI</b>				
■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■					H 17010 H 1211		
PC VUDトランザク		94/09/1919FC 発生日	りー息の10182824141 責任者のユーザ名	-ad90-41eb-bedo- アクション	VUD 数	「登準: 完主日[Desc 更新された使用	ending1… 更新された
Sout State							
	$\triangleleft \land$						
		•					•
	-						
OK(O) きゃっせれ(C) へルプ(H)							
			אייין איין		10		

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
アクション	実行する VUD アクション。可能なアクションの詳細については、「VUD のアクション」(35ページ)を参照してください。
使用中の実行 ID	VUDを現在実行しているテスト実行のID。
所有者実行 ID	VUDを最初に発行したテスト実行のID。
発生日	トランザクションが発生した日付。
責任者のユーザ 名	トランザクションを担当するユーザまたは自動化されたシステム・プロセス。
ト <i>一</i> クンの一 意 の ID	同じトランザクションに属するすべてのアクションを識別します。 注: VUD を使用する1つの通常の実行で,発行済み,保留中,期限切 れの3つのアクションがあります。これらの各アクションには,異なるトランザク ション ID が設定されますが,トークン ID は同じです。
更新された使用 中の VUD	トランザクションの結果実行中のVUDの現在の数。
更新された保留 中の VUD	トランザクションの結果保留中の状態にある VUDの現在の数。
更新されたプロ ジェクトの上限	トランザクションの結果によるプロジェクトの VUD の上限。
VUD 数	アクションに関わる VUD の数。
VUD トランザク ション ID	アクション ID。

### VUD のアクション

次の表に、可能な VUD アクションの一覧を示します。

UI 要素	説明
割り当て済み	管理者によってプロジェクトのVUD数の上限に追加されたVUD数。

UI要素	説明
割り当て解除済 み	管理者によってプロジェクトのVUD数の上限から削除されたVUD数。
期限切れ	24時間の有効期間終了後にライセンスから削除される VUD 数。
	<b>注:</b> 24 時間を超えるパフォーマンス・テストに関わる VUD は, 期限が切れて も完了するまで実行し続けます。
発行済み	パフォーマンス・テストに追加されるVUD数。
	注:
	<ul> <li>パフォーマンス・テストに関わるすべての VUD は、実行が開始されていた かどうかに関わらず、テストの開始時点から発行されているものと見なされ ます。</li> </ul>
	<ul> <li>発行済みのVUD 数によって、プロジェクトのVUD 数の上限は減ります。</li> </ul>
	<ul> <li>未使用のすべての VUD は, テストの完了時点でプロジェクトの VUD 数の上限に返されます。</li> </ul>
保留中	テスト実行は完了したが、24時間の有効期間が終了していないため、今後さら に利用できる VUD 数。
返却済み	発行済みで、テストで未使用のVUD数。これらのVUDは、プロジェクトのVUD 数の上限に返され、後日再発行される可能性があります。
再使用済み	保留中の状態のVUDから差し引かれる実行中のVUD数。
	<b>注:</b> ALM Performance Center は、新しい VUD を発行する前に、保留中の 状態の VUD を再利用します。たとえば、 <b>100</b> 個の VUD を含むパフォーマン ス・テストを定義するとします。ここで、現在のプロジェクトの上限は <b>200</b> で、 <b>25</b> 個の VUD が現在保留中の状態です。ALM Performance Center は、この 場合最初に <b>25</b> 個の保留中の VUD を再利用し、ライセンスからは <b>75</b> 個の み発行します。新しい上限は <b>125</b> 個になります。
## [タイムスロットの設定]ページ

このページを使用すると、タイムスロットの設定を行うことができます。

📑 フロジェクト設定 の詳細		<u>_ 0 ×</u>
100001 40	B 🗄	
ID: 1002	プロジェクト TEST	
<ul> <li>■ 詳細</li> <li>● PC ターゲット IP</li> <li>● PC ソロトランザク</li> <li>● タイムスロットの設定</li> <li>● 原歴</li> </ul>	<ul> <li>警告の送信先</li> <li>タイムスロットの作成者</li> <li>タイムスロットの変更者</li> <li>フロジェクト管理者</li> <li>警告のルール</li> <li>今後</li> <li>7 (二) 時間(最小12)以内に開始予定のタイムスロットの失敗で警告を送信</li> <li>9 (4人スロットが失敗状態になって</li> <li>3 (4人スロットの失敗で警告を送信</li> <li>自動起動の再試行</li> <li>タイムスロット、</li> <li>5 (4人スロットの長後の30分間には再試行は発生しません。</li> </ul>	
	OK(0) キャンセル(C) ヘルプ(H)	

UI 要素	説明
警告の送信先	タイムスロット警告を受信する必要があるユーザ。
	• タイムスロットの作成者:タイムスロットを予約したユーザ。
	• タイムスロットの変更者:タイムスロットを最後に変更したユーザ。
	• プロジェクト管理者:タイムスロットが予約されたプロジェクトの管理者。
警告のルール	タイムスロット警告を送信する条件(両方の条件を保持する必要があります)。
	<ul> <li>今後 <xx> 時間以内に開始予定のタイムスロットの失敗で警告を送信:タイムスロット開始予定のXX 時間以内に警告を送信します。</xx></li> </ul>
	<b>標準設定値</b> : 72 時間
	<b>最小值</b> : 12 時間
	<ul> <li>タイムスロットが失敗状態になって <xx> 分経過したら警告を送信:タイムスロットがXX 分間無効になったら警告を送信します。</xx></li> </ul>
	<b>標準設定値</b> :30分
	<b>最大値</b> :360分(6時間)

UI要素	説明
自動起動の再 試行	タイムスロットにリンクされているパフォーマンス・テストの自動起動が予定されているが、実行を開始しない場合、システムは正常に実行されるまで、テストの自動 起動を試行し続けます。
	[自動起動の再試行]オプションでは、システムがテストの自動起動の試行を停止する必要があります。いずれの場合でも、タイムスロットの残りが30分以内になると、再試行は停止されます。
	<b>標準設定値</b> :50%, つまり, タイムスロットの半分が経過すると, システムは再試 行を停止します。
	最大值:99%, 最小值:1%
	注:システムは、最大3回パフォーマンス・テストの再起動を試みます。

### 履歴ページ

このページには、プロジェクトに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

## [Performance Center Controller のオプション]ダイアログ・ ボックス

このダイアログ・ボックスでは、Performance Center プロジェクトの Controller のグローバル・オプションを設定できます。

🖳 Performance Center Contro	ller のオプション 📃 💷
□= 実行オブション	モニタ
-      -        実行環境の設定     -       - Timeout     -       - デバッグ情報     -       - 一般     -       - 実行結果     -       - 照合設定     -	トランザクション データ     「トランザクション モニタを有効にする     「情報のサンプリング頻度(り) S     「家 「夢をモードで送信     ・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	OK(O) キャンセル(C) 標準設定

アクセス方 法	ALM マストヘッドで、 ション]を選択します。 をクリックして[Performance Center Controller のオプ ション]を選択します。 注: このページにアクセスできるのは、ALM プロジェクト 自身 からのみで、ラボ 管理 からはアクセスできません。
重要な情報	Controller は、パフォーマンス・テストのマネージャです。Controller は、スクリプト、その実行時の設定、使用する Load Generator のリストを受け取ります。Controller は、実行するスクリプト、スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数、仮想ユーザの実 行の開始時点を含む指示を Load Generator に発行します。
	パフォーマンス・テスト中に, Controller はオンライン監視情報を表示します。 テスト 実行の終了時に, Controller は Analysis 用のデータを照合します。
	パフォーマンス・テストを実行する前に、 プロジェクト内のすべてのパフォーマンス・テ ストに対して Load Generator と仮想ユーザのオプションを設定できます。 標準設 定ではほとんどの環境に対応できますが、 設定を変更してテストの動作をカスタマ イズできます。
	これらの設定は、プロジェクトの今後のすべてのテスト実行に適用され、通常、一度だけ設定する必要があります。これらの設定は、パフォーマンス・テストのすべての Load Generator にグローバルに適用されます。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(24ページ)
参照情報	「プロジェクトの設定の概要」(23ページ)

### [実行オプション]>[モニタ]

トランザクション・モニタをアクティブにし、トランザクション・データの動作を設定し、オンライン・モニタのデータ・サンプリング頻度、デバッグ、周波数設定を設定できます。

説明
トランザクション, データ・ポイント, および Web リソースの各 オンライン・グラフ用 の データの動 作を設 定します。
• トランザクション・モニタを有効にする:オンライン仮想ユーザ・トランザクション・モニタを有効にして,テスト実行の開始時にトランザクションの監視を開始するには,このオプションを選択します。
<b>情報のサンプリング頻度 (秒) &lt;&gt;:オンライン・モニタがデータをサンプリングして,</b> トランザクション, データ・ポイント, Web リソースの各オンライン・グラフを作成す る頻度 (秒単位)を選択します。
頻度が高いほど、ネットワーク・トラフィックが少なくなります。データは定義された頻度の期間で平均化され、ただ1つの値がControllerに送信されます。
<b>標準設定値</b> :5秒
例:
■ 小さなテストでは、頻度1を使用してください。
■ 大きなテストでは、頻度3~5を使用してください。
<b>注:</b> テスト実行中にこれらの設定を変更できません。モニタを非アクティブ化す るか、頻度を変更する前に、テスト実行を停止する必要があります。
データを Controller に返信 する方法を指定します。
・ サマリ:トランザクション・データのサマリを Controller に返信します。
• 未処理データ:トランザクション・データをすべて未処理形式で Controller に返信します。未処理データを送信すると、データを処理する必要がないため、時間を節約できます。
<b>注:</b> [未処理データ]を選択した場合, Controller に転送されるデータ量に よって,より多くのネットワーク・トラフィックが発生する可能性があります。転送 速度が重要な場合は, [サマリ]を選択してください。

UI 要素	説明
サーバ・リソース・ モニタ	サーバ・リソース・モニタの動作を設定します。 • データ・サンプリング頻度:連続して行われるデータ・サンプリングの間の時間 (秒)です。標準設定では、オンライン・モニタは3秒の間隔でデータをサンプリ ングします。サンプリング頻度を大きくすると、データの監視頻度が減ります。こ の設定はすべてのグラフに適用されます。
	<ul> <li>注:</li> <li>ここで設定したサンプリング頻度は、その後アクティブにするすべてのサーバ・モニタに適用されます。すでにアクティブにされているサーバ・モニタには適用されません。新しいサンプリング頻度をアクティブになっているサーバ・モニタに適用するには、パフォーマンス・テストを保存してから再度開きます。</li> <li>各タイプのモニタには、異なる最小サンプリング頻度が設定されています。標準設定のサンプリング頻度またはここで設定されている頻度がモニタの最小サンプリング頻度より小さい場合、モニタはその最小サンプリング頻度でデータをサンプリングします。たとえば、Oracle モニタの最小サンプリング頻度は10秒です。ここでデータ・サンプリング頻度が10秒未満に設定されている場合、Oracle モニタは10秒の間隔でデータを監視し続けます。</li> </ul>
デバッグ	<ul> <li>デバッグ・メッセージを表示する:オンライン・モニタはデバッグ機能を提供します。デバッグ・メッセージを出力ウィンドウに表示するには、このオプションを選択します。</li> <li>デバッグ・レベル:ネットワーク・モニタの場合、ログに送信するメッセージのデバッグ(詳細)レベルを1~9の範囲で指定できます。</li> </ul>

[実行オプション]>[実行環境の設定]

仮想ユーザ・クォータ,仮想ユーザの停止時,およびランダム・シーケンス・シードに関連するテストの実行 環境の設定を指定して,システムに負荷がかかりすぎるのを防止し,仮想ユーザが実行を停止する方 法を制御できます。 次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
仮想ユ <del>ーザ</del> ・ ク <del>ォー</del> タ	仮想ユーザ・クォータは、システムに負荷がかかりすぎるのを防止し、すべての Load Generator の仮想ユーザに適用されます。
	<b>すべての Load Generator で同時に初期化できる仮想ユーザ数</b> :一度に初期 化できる仮想ユーザ数を制限します(初期化コマンドの送信時)。
	標準設定値: 999
仮 想 ユーザの停 止 時	<ul> <li>テスト実行を手動で停止時に仮想ユーザが実行を停止する方法を制御します。</li> <li>停止前に現在の反復終了まで待機する:(標準設定オプション)停止前に 仮想ユーザが実行中の反復を完了します。仮想ユーザは[徐々に終了]ス テータスに移行し,段階的にテスト実行を終了します。</li> </ul>
	• 停止前に現在のアクション終了まで待機する:停止前に仮想ユーザが実行 中のアクションを完了します。仮想ユーザは[徐々に終了]ステータスに移行 し,段階的にテスト実行を終了します。
	• <b>直ちに停止する</b> :仮想ユーザは直ちに実行を停止して, [終了中]ステータス に移行し, 直ちにテスト実行を終了します。
ファイル・タイプ・パ ラメータのランダ ム・アド バンス・ モード	<ul> <li>シード付きのランダム・シーケンスを使用する: ランダム・シーケンスのシード数を 設定できます。テストの実行中に問題が発生して、同じシーケンスのランダム 値を使用してテストを繰り返す場合、このオプションを選択します。</li> </ul>
	<ul> <li>シードを使用する&lt;#&gt;:各シード値は、テストの実行に使用されるランダム値の 1つのシーケンスを表します。このシード値を使用するときは、常に同じシーケンスの値がテスト内の仮想ユーザに割り当てられます。</li> </ul>
	この設定は、データ・ファイルから値を割り当てるために Random メソッドを使用しているパラメータ化された仮想ユーザ・スクリプトに適用されます。記録された思考 遅延時間の乱数率 (『HP Virtual User Generator ユーザーズ・ガイド』の[実行環 境の設定]ダイアログ・ボックスの情報を参照)にも影響します。

[実行オプション]>[タイムアウト]

Performance Center のさまざまなコマンドのタイムアウトを設定できます。Controller からコマンドが発行されたら、コマンドを実行するための Load Generator または仮想ユーザの最大時間を設定できます。時間制限内にコマンドが完了しない場合, Controller はエラー・メッセージを発行します。

UI 要素	説明
コマンド・タイムア ウト (秒)	<b>タイムアウトをチェックする</b> :次に示すように, Load Generator と仮想ユーザのタイム アウトをチェックできます。
	注: このオプションを選択しない場合, ALM は, Load Generator による接続と 切断,および初期化,仮想ユーザの開始,期間,仮想ユーザの停止の各 アクションが実行されるのを無期限に待機します。
Load Generator	Load Generator のタイムアウト制限:
	<ul> <li>接続操作(秒):任意のLoad Generator に接続するまでに待機する時間(秒) です。この時間内に接続が成功しない場合、Load Generator のステータスは [失敗]になります。</li> </ul>
	標準設定の接続タイムアウト:30秒
	<ul> <li>切断操作(秒):任意のLoad Generatorから切断するまで待機する時間です。Load Generatorがこの時間内に切断しない場合,Load Generatorのステータスは[失敗]になります。</li> </ul>
	標準設定の切断タイムアウト: 120秒
仮想ユーザ	仮想 ユーザのタイムアウト制限:
	• 初期化ステージ(秒):初期化アクションのタイムアウト値。
	標準設定のタイムアウト制限: 180秒
	• 実行ステージ(秒):仮想ユーザの開始アクションのタイムアウト値。
	標準設定のタイムアウト制限: 120秒
	• 一時停止ステージ(秒):期間アクションのタイムアウト値。
	標準設定のタイムアウト制限: 120秒
	• 停止ステージ(秒):仮想ユーザの停止アクションのタイムアウト値。
	標準設定のタイムアウト制限:120秒
	注:計算では、アクティブな仮想ユーザ数とそのタイムアウト値への影響が考慮されます。たとえば、1000個の仮想ユーザが初期化を試行している場合、10個の仮想ユーザより時間がかなりかかります。アクティブな仮想ユーザ数に基づいて、指定したタイムアウト値に内部値が追加されるためです。

#### [実行オプション]>[デバッグ情報]

テスト実行中にトレースする情報のタイプを選択できます。ここでの選択に応じて、トレース・ファイルが作成され、デバッグ目的での情報の収集に使用されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
次のトレースを有 効にする	発生しているパフォーマンス・テストの問題に関連するトレース・フラグ:
	• 一般: テスト実行中に一般トレースを実行します。
	• ファイル転送:テスト実行中にファイルの転送に関わる問題をトレースします。
	• 受信:テスト実行中に受信をトレースします。
	• 送信:テスト実行中に送信をトレースします。
	注: Performance Center エージェントとController は、仮想ユーザに送信され るパラメータ・ファイル、出力コンパイル・ファイル、設定ファイルなどの情報を収 集するいくつかの一時ファイルを作成します。Performance Center エージェン トのファイルは、エージェント・マシンの TMP または TEMP ディレクトリの brr フォルダに保存されます。Controller のファイルは、Controller マシンの TMP ま たは TEMP ディレクトリの Irr フォルダに保存されます。テスト実行の最後に、 これらのファイルはすべて自動的に削除されます。

[実行オプション]>[一般]

IP スプーフィングを有効にした場合に、マルチ IP アドレスを割り当てるモードを選択できます。

[テスト オプション]ダイアログ・ボックスの詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照 してください。 次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
マルチ IP アドレス・ モード	Controller は,次のいずれかの方法で IP アドレスを割り当てることができます。
	<ul> <li>プロセスごとに IP アドレスを割り当てる: プロセスごとに IP アドレスを割り当 てます。</li> </ul>
	<ul> <li>スレッドごとに IP アドレスを割り当てる:スレッドごとに IP アドレスを割り当てるため、テスト実行における IP アドレスの範囲がより多様になります。</li> </ul>
	例:
	<ul> <li>Web 仮想ユーザには、プロセスごとに IP アドレスを割り当てる必要があります。</li> </ul>
	• WinSock 仮想 ユーザの IP アドレスは, スレッドまたはプロセスごとに 割り当 てることができます。

## [実行結果]>[照合設定]

実行結果の照合に関連する動作を指定できます。

UI 要素	説明
出 カメッセージ・ データベース	<ul> <li>次の値より小さい場合に output.mdb を RawResults.zip に追加:照合プロセスは、サイズが指定した RawResults.zip ファイルのサイズより小さい場合にのみ、output.mdb を RawResults.zip に追加します。</li> <li>output.mdb を RawResults.zip から常に除外:照合プロセスは、output.mdb を RawResults.zip から常に除外します。</li> </ul>
<i>ዓ</i> ብ	<ul> <li> <b>照合タイムアウト(分)</b>:照合プロセスが進捗なしに実行を継続する必要がある最大の時間。 </li> <li> <b>診断の照合タイムアウト(分)</b>:結果と診断データの照合時に、照合プロセスが進捗なしに実行を継続する必要がある最大の時間。 </li> </ul>

# 第4章:メンテナンス・タスク

本章の内容

メンテナンス・タスクの概要	
メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース	

## メンテナンス・タスクの概要

サーバ側のテストをALMで実行するには、ラボ・システムが起動し、正常に動作している必要があります。自動メンテナンスのスケジュールを指定しておくと、主要なシステム・コンポーネントを定期的に監視し、システム障害を検出することができます。システムのステータス・チェックには、メンテナンス・タスク・モジュールを使用します。

次の表では、メンテナンス・タスクについて説明します。

UI 要素	説明
Check Host Task	ホストのインストールを確認し、ホストのステータスを[ <b>稼働中</b> ]または[ <b>非稼働</b> ]に 更新します。
	標準設定の頻度:24時間ごと
Data Processor Task	次のアクションのいずれかのデータ処理キューを設定,更新します。テスト実行の分析,SLAの再計算,またはテスト実行のトレンド・レポートへの追加。 標準設定の頻度:1分ごと
Handle Non Polling Functional Hosts	登録済みのすべての機能テスティング・ホストを対象に, [最終ポーリング時刻] フィールドをチェックします。長期間アクティブになっていないテスティング・ホストを 検出すると, ステータスを[ <b>アイドル</b> ]または[ <b>非稼働</b> ]に変更します。
OFW Status Update Task	ファイアウォール越しのホストの実際のステータス ([ <b>稼働中</b> ]または[非稼働])を 更新します。 標準設定の頻度:15分ごと
Orphan Run Task	アクティブなタイムスロット中と外で孤立したテスト実行を識別します。 標準設定の頻度:15分ごと

UI要素	説明			
Resource Recovery Task	[ <b>非稼働</b> ]状態のControllerとLoad Generatorで、定義済みの検証テストを実 行します。ホストがテストに成功した場合、ステータスが[ <b>稼働中</b> ]に変わります。			
	<ul> <li>Controller の検証テスト: OTA 接続, 実行機能, 利用可能なディスク領域 をテストします。</li> </ul>			
	• Load Generator の検証テスト:エージェントへの接続をテストします。			
	タスクのパラメータは次のガイドライン以内である必要があります。			
	<ul> <li>MIN_APPLICATION_DIR_DISK_SPACE: 10 ~ 1000</li> </ul>			
	• CHECK_LG_TIMEOUT: 1 ~ 15			
	• <b>MAX_RETRIES</b> : 1 ~ 1000			
	標準設定の頻度:15分ごと			
	<b>注:</b> ファイアウォール越しの Load Generator の場合, これは OFW ステータス 更新タスクによって実行されます(上記を参照)。			
Result Cleaning Task	次のインスタンスで, Controller または Load Generator からのテスト実行結果をクリーニングします。			
	<ul> <li>結果がすでに照合済みの場合。</li> </ul>			
	<ul> <li>結果が照合されていない古いパフォーマンス・テストがある場合。</li> </ul>			
	<ul> <li>パフォーマンス・テストが削除済みの場合。</li> </ul>			
	RESULT_EXPIRY_DAYS タスク・パラメータには、1~1000の値を指定します。			
	標準設定の頻度:6時間ごと			
Synchronize Lab and SA times	ラボ管理とサイト管理者の時刻の差異を検出し、DATACONST テーブルの SA_LAB_TIME_DIFF_MILLIS パラメータに設定します。			

# メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース

本項の内容

メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ	49
メンテナンス・タスクのフィールド	50
メンテナンス・タスクのメニューとボタン	50

[メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックス ......52

# メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ

このモジュールには、システムによって実行されたメンテナンス・タスクに関する情報が表示されます。

1.2.20 million (2.			
名前	反復実行(分)	120A	最終実行教員
urce Recovery Task	15	リソースの回復なスク	2013/05/02 19:02:11
ult Cleaning Task	360	結果のクリーニングタスク	2013/05/02 15:46:51
Status Update Task	15	ファイアウォール越しのホスト ステータスの更新タスク	2013/05/02 19:02:11
ian Run Task	15	ヘルス チェックのテスト実行	2013/05/02 19:02:11
a Processor Task	1	保留中の Data Processor タスクの処理	2013/05/02 19:03:11
ck Host Task	15	ホストの妥当性チェックのテスト	2013/05/02 19:02:11
dle Non Polling Functional Hosts	5	非ポーリング機能ホストを非稼働およびアイドルにします	2013/05/02 19:02:11
chronize Lab and SA times	5	このジョブは、ラボと SA の間の時間差を DATACONST テーブルのパー	2013/05/02 19:03:11
dle Stale Execution	5	クライアントによってしばらく更新されていない期限切れの実行項目を…	
an PAL Reports Task	60	レポートの構成要素になっていないレポート項目を削除します。	2013/05/02 18:48:10
メータ 説明			

アクセス方法	サイドバーの[ <b>ラボ設 定</b> ]で, [ <b>メンテナンス タスク</b> ]を選択します。
参照情報	「メンテナンス・タスクの概要」(47ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<[メン <del>テナ</del> ンス タスク] タブの UI 要素>	<ul> <li>メンテナンス・タスクのフィールド:フィールドの定義については、「メンテナンス・タスクのフィールド」(50ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>メンテナンス・タスクのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、 「メンテナンス・タスクのメニューとボタン」(50ページ)を参照してください。</li> </ul>
	• ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー, [ヘルプ]メニュー, サイドバーの詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<メン <del>テナ</del> ンス・タスクの グリッド>	メンテナンス・タスクのリストが表示されます。詳細については、「メンテナンス・ タスクの概要」(47ページ)を参照してください。
[パラメータ]タブ	選択したメンテナンス・タスクのパラメータ情報が表示されます。
	テキスト・ボックス内 で右 クリックすると、テキストの書 式 設 定 とスペル・チェック のためのツールバーが表 示 されます。
[説明]タブ	選択したメンテナンス・タスクの説明が表示されます。

# メンテナンス・タスクのフィールド

[メンテナンスタスク]タブでは、次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
説明	メンテナンス・タスクの説明。
ID	メンテナンス・タスクの ID。
最終実行時刻	メンテナンス・タスクを最後に実行した時刻。
名前	メンテナンス・タスクの名前。メンテナンス・タスクのタイプのリストについては、「メン テナンス・タスクの概要」(47ページ)を参照してください。
反復実行 (分)	メンテナンス・タスクの頻度。

## メンテナンス・タスクのメニューとボタン

UI 要素	場所	説明
URL のコピー	[メンテナンスタス ク]と<右クリック・ メニュー>	選択したメンテナンス・タスクをコピーして、そのURLをリンクと して貼り付けます。タスク自体はコピーされません。代わりに、 電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付 けることができます。リンクをクリックするとALMが起動し、タス ク・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない 場合、ALMによって最初にログインの詳細情報の入力が要 求されます。
エクスポート	[メンテナンスタス ク]と<右クリック・ メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。 グリッド のタスクをテキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシー ト, Microsoft Word ドキュメント, HTML ドキュメントとしてエク スポートできます。
		次のいずれかのオプションを選択します。
		• <b>すべてエクスポート</b> : グリッド のすべてのタスクをエクスポート します。
		• 選択項目のエクスポート: グリッドの選択したタスクをエクスポートします。

UI 要素	場所	説明
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き, モジュールでタスクを検索 できます。検索オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してくださ い。
メンテナンス・タス クに移動	メンテナンス・タス ク	[メンテナンスタスクに移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番 号 で特定 のタスクを検索 できます。 現在 のフィルタで利用可 能なタスクにのみ移動 できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。 フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。
メン <del>テナ</del> ンス・タス クの詳細 『『	[メンテナンスタス ク]と<右クリック・ メニュー>	[メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックスが開き, タスク の詳細を表示, 編集できます。
すべて更新 <i></i>	表示	最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き, グリッド のフィール ドの値を置き換えることができます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、 グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
		システムのヘルスのフィールドの詳細については、「メンテナン ス・タスクのフィールド」(50ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの 設定 マー	表示	グリッド内のタスクに対してフィルタとソートを実行できます。現 在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの 下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
選択項目の更 新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッド で 選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細について は,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイ ド』を参照してください。

# [メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したメンテナンス・タスクの詳細情報が表示されます。

📑 メンテナンス タスク の詳細		_ 🗆 🗙
KO O O 🖓 🔒	<b>₽</b> 3 Ξ	
▶ 詳細	詳細 説明 パラメータ	
	* <mark>名前: DFW Status Update Tast</mark> ID: 1002 最終実行 2013/05/02 19:02:11 反復実行 15	
4		
	OK(O) キャンセル(C) ヘルブ(H)	

アクセス方法	1. サイドバーの[ <b>ラボ設 定</b> ]で, [メンテナンス タスク]を選 択します。
	2. グリッドでメンテナンス・タスクを選択し, [メンテナンス タスクの詳細]ボ タン <sup>11111</sup> をクリックします。
参照情報	<ul> <li>「メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ」(49ページ)</li> </ul>
	• 「メンテナンス・タスクのフィールド」(50ページ)
	• 「メンテナンス・タスクの概要」(47ページ)

UI要素	説明
10 0 0 0	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:ホストのリストの間を移動できます。

UI要素	説明
A	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
R <sub>B</sub>	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
[詳細]タブ	現在選択されているメンテナンス・タスクの詳細が表示されます。詳細について は,「メンテナンス・タスクのフィールド」(50ページ)を参照してください。
[説明]タブ	選択したメンテナンス・タスクの説明が表示されます。
[パラメ―タ]タブ	パラメータ, パラメータの値と説明をグリッドに表示します。詳細については、「メン テナンス・タスクの概要」(47ページ)を参照してください。

# 第5章: クラウド設定

本章の内容

クラウド・ホストの概要	
クラウド・ホストの設定方法	
クラウドの初期設定	
クラウド・アカウント	70
ホスト・テンプレート	
ホストのプロビジョニング	
クラウド・リソースの監視	110

## クラウド・ホストの概要

ソフトウェア・アプリケーションのテストには、大量のリソースが必要になることがあります。特にパフォーマンス・テストには、負荷を生成する複数のホストとコントローラを使用し、テスト結果の照合機能などを備えた大規模なラボ環境が必要になることがあります。したがって、必要なホスト数がテスト・ラボの限界を超えてしまうケースや、社内ではラボ環境を保守しないことを選択するケースも考えられます。いずれの場合も、Amazon EC2、Microsoft Azure、HP Helion Public Cloud などのクラウド・プロバイダを利用することによって、それぞれのニーズに合ったテスティング・ホストをオンデマンドで使用できるようになります。このようなクラウド・リソースを最大限に活用することを目的に、ALM ではクラウド・アカウントとの統合に対応しています。

#### 注:

- HP ALM がサポートできるのは、Performance Center Load Generator のプロビジョニングのみです。
- HP ALM と統合できるのは、HP Helion Public Cloud、Microsoft Azure、Amazon EC2 クラウド・ アカウントのみです。
- HP ALM は, 他の HP Helion クラウド・サービス (プライベート, 管理など)とは統合できません。
- クラウドベースの Load Generator は,外部 AUT のテストに最適です。

## クラウド・ホストを使用するメリット

ALM でクラウド・ホストを使用することには、次のようなメリットがあります。

- 必要なときだけにテスティング・ホストをプロビジョニングできる。
- クラウド・プロビジョニングをプロジェクト単位で管理できる。各プロジェクトに、必要なクラウド・リソースのみへのアクセスを割り当てることができる。
- QA テスト担当者は、事前に承認されたテスティング・ホストのプロビジョニングを行うことができるので、 クラウド・アカウントに直接アクセスする必要がない。
- プロジェクト にクレジットを割り当 てることによって, クラウド・ホストの使用を調整できる。
- クラウド・ホストの使用状況レポートに基づいて、クラウド・リソースの消費を管理できる。

## ALM でのクラウド・ホストの使用

ALM でクラウド・ホストを使用するには、次の作業が必要です。

クラウドの 初期設定	クラウド・ アカウントの追加 テンプレートの定義 フロビジョニング	リソース使用状況 の監視
段階	説明	詳細情報
クラウドの初期設 定	クラウド・プロバイダにアカウントを設定し, クラウド・プロバイダ の資格情報を取得します。次に, ALM からクラウド・プロバイ ダへの通信を設定し, クラウドベースの Load Generator との通 信に使用するネットワーク設定を行います。	「クラウド の初 期 設 定 の概 要 」(58 ページ)
クラウド・アカウン トの追加	クラウド・プロバイダにアカウントを設定したら、ALM でもクラウ ド・アカウントを設定します。ALM でクラウド・アカウントを設定 する際, クラウド・プロバイダの資格情報の入力, プロジェクト とアカウントの関連付け, プロビジョニングするホストが消費可 能なクラウド・クレジットの総数の指定を行います。	「クラウド・アカウン トの概 要」(71 ページ)
ホスト・テンプレー トの定 義	ホスト・テンプレートは、プロビジョニング関連の情報 (インスタン ス・タイプ、領域、ハードウェア仕様、ソフトウェア・イメージな ど)の定義に使用されます。標準設定のホスト・テンプレート を使用する方法と、独自のテンプレートを作成する方法があ ります。ALMは、選択されたテンプレートの詳細情報を使用 してホストをプロビジョニングします。	「ホスト・テンプ レートの概 要」(87 ページ)
	<b>注</b> : Microsoft Azure クラウド・アカウントには標準設定テ ンプレートは使用できません。テンプレートを作成する必 要があります。	
クラウド・ホスト の プロビジョニング	プロビジョニングとは、 クラウド上にマシンを作成 する操作をクラ ウド・プロバイダに要求 するプロセスです。 マシンの定義には、 選択したクラウド・アカウントとホスト・テンプレートが使用されま す。 マシンの数と場所はユーザが選択できます。 また、選択し たアカウントのクレジットの残高確認も可能です。	「ホストのプロビ ジョニングの概 要」(99ページ)
リソース使 用 状 況 の監 視	クラウド・ホストのプロビジョニングが完了したら、クラウド・リソースの使用状況を分析および監視できます。これには、使用 状況レポートを作成する方法と、警告と通知を送信する方法があります。	「クラウド・リソース の監視の概要」 (111ページ)

ALM でクラウド・ホストを設定する方法の詳細については、「クラウド・ホストの設定方法」(56ページ)を参照してください。

# クラウド・ホストの設定方法

このタスクでは, ALM でのクラウド・ホストの設定方法を説明します。

- 1. クラウドと通信するための最初のステップを実行します。タスクの詳細については、「クラウド通信の初期設定」(63ページ)を参照してください。
- 2. ALM にクラウド・アカウントを追加します。タスクの詳細については、「クラウド・アカウントを管理する 方法」(71ページ)を参照してください。
- 標準設定のホスト・テンプレートを使用するか、追加のホスト・テンプレートを作成します。Microsoft Azure では、ホスト・テンプレートを作成する必要があります。タスクの詳細については、「ホスト・テン プレートを管理する方法」(88ページ)を参照してください。
- 4. クラウド・ホストをプロビジョニングします。タスクの詳細については、「クラウド・ホストのプロビジョニング と終了方法」(99ページ)を参照してください。
- 5. クラウド 警告を設定し,使用状況レポートを生成して,クラウド・リソースの消費を監視します。タス クの詳細については、「クラウド 警告の構成方法」(111ページ)および「使用状況レポートを作成する 方法」(190ページ)を参照してください。

# クラウドの初期設定

本項の内容

クラウドの初期設定の概要	58
クラウド通信の初期設定	63
クラウド・ネット ワークの設定方法	65
デジタル証明書を作成する方法	66
クラウドの初期設定のユーザ・インタフェース	68

## クラウドの初期設定の概要

クラウド・プロバイダとの通信の初期設定では、クラウド・プロバイダにアカウントを作成し、クラウド・プロバ イダの資格情報を取得する必要があります。次に、ALM からクラウド・プロバイダへの通信を設定し、クラ ウドベースの Load Generator との通信に使用するネットワーク設定を行います。

クラウド・プロバイダでのアカウント作成

最初に, クラウド・プロバイダ・サービスを使用するためのクラウド・プロバイダ・アカウントを作成する必要が あります。 クラウドにリソースを格納しアクセスするために, 資格情報を次のように指定する必要がありま す。

- HP Helion: アクセス・キー,秘密キー、プロジェクト ID、プロジェクト名
- Amazon EC2: アクセス・キー, 秘密キー、アカウント番号
- Microsoft Azure: サブスクリプション ID, 証明書 ファイル

**注:** HP ALM と統合できるのは、HP Helion、Microsoft Azure、Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。

クラウド・プロバイダ・アカウントの作成に関する詳細は、 クラウド・プロバイダが提供するドキュメントを参照 してください。

クラウド・プロバイダとの通信

クラウド・プロバイダとの通信では、直接通信とプロキシ経由の通信のいずれかを選択できます。

次の図は、クラウド・プロバイダとの直接通信を示しています。



ALM サーバが通信を開始し, 企業ファイアウォールを経由してクラウド・プロバイダに通信します。 ポート が開くのは, 発信要求のみです。

次の図は、プロキシ・サーバを経由したクラウド・プロバイダとの通信を示しています。



ALM サーバが, HTTP トンネリングを使用して, 定義されたプロキシ・サーバとの通信を開始します。 プロ キシ・サーバは企業ファイアウォールを経由して, 発信要求をクラウド・プロバイダに転送します。

クラウドベースの Load Generator との通信

クラウドベースのホストとの通信では、直接通信とプロキシ経由の通信のいずれかを選択できます。

#### 注:

- プロキシ経由の場合はSSL (Secure Socket Layer)が必要です。
- HP ALM がサポートできるのは、Performance Center Load Generator のプロビジョニングのみです。

次の図は、 クラウドベースの Load Generator との直接通信を示しています。



Performance Center サーバとController が通信を開始し、ファイアウォールを経由してクラウドベースの Load Generator に接続します。データはポート経由で転送され、TCP (Transmission Control Protocol) が使用されます。ポートは発信要求に対して開かれます。ポートは再設定が可能です。

次の図は、プロキシ・サーバを経由したクラウドベースの Load Generator との通信を示しています。



Performance Center サーバと Controller が通信を開始し、定義したプロキシ・サーバに接続します。 Performance Center サーバと Controller からプロキシ・サーバへの通信には HTTP トンネルが使用されます。 プロキシ・サーバはファイアウォールを経由して、データを TCP ポートからクラウドベース Load Generator に転送します。

注: コントローラとクラウドベース Load Generator との間は SSL がサポートされています。

セキュリティ設定

クラウド・プロバイダに関連するその他のセキュリティ機能。

機能	説明
セキュリティ・グ ループ	ー 般 的 に, ローカル・ネット ワーク上 のホスト へのアクセスはファイアウォールによって 制 御しますが, クラウド・ホスト へのアクセスの制 御 にはセキュリティ・グループを使 用 します。 セキュリティ・グループでは, 使 用 を許 可 するプロトコル, クラウド・ホスト に 対 する受 信 トラフィックと送 信 トラフィックで開 くポート が定 義 されています。 受 信 トラ フィックについては, アクセスを 1 つまたは 複数の IP アドレスに限 定 することができま す。
	例: クラウド・ホストにはリモート・デスクトップ経由で接続する必要があります。 したがって, TCP ポート 3389 (RDP) 経由で受信トラフィックを転送できるよう にセキュリティ・グループを設定します。ただし,外部からの不正アクセスを防 止するために,会社の IP アドレスへのアクセスのみを許可します。
	セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダの Web サイトで設定し, 領域ごとに個別に作成する必要があります。セキュリティ・グループは必要に応じて作成でき, クラウド・プロバイダが設定した最大数が上限となります。クラウド・ホストのプロビジョ ニング時にセキュリティ・グループを選択すると, ホストが停止するまでそのセキュリティ・グループが適用されます。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

機能	説明
キー・ペア	公開イメージから作成されたクラウド・ホストにリモート接続するには,キー・ペアが 必要になります。
	キー・ペアとは, 公開キーと秘密キーのペアです。 公開キーはクラウド・ホストに保 管され, 秘密キーはコンピュータまたはネットワーク上 にローカルに保管されます。
	注意:新しいキー・ペアを作成すると、プロンプトに従って公開キーを保存します。保存先には安全な場所を選択してください。公開キーがないと、ホスト にログインできなくなります。
	秘密キーは、WindowsホストとLinuxホストでは異なる方法で使用します。
	Windows ホスト: Windows ホストへのリモート接続には,管理者パスワードが必要です。秘密キーをアップロードすると,管理者パスワードがクラウド・プロバイダの Web サイトで作成されます。
	Linux ホスト: Linux ホストへの接続には秘密キーをそのまま使用します。
	キー・ペアはクラウド・プロバイダの Web サイトで作成され,領域ごとに個別に作成 する必要があります。キー・ペアは,テスト・チームごとに必要に応じて作成でき,ク ラウド・プロバイダが設定した最大数が上限となります。クラウド・ホストのプロビジョ ニング時にキー・ペアを選択すると,ホストが停止するまでそのキー・ペアが適用さ れます。
	注: カスタム・イメージからホストのプロビジョニングを行う場合,管理者パス ワード (Windows マシン)または公開キー (Linux マシン)は,イメージが作成さ れたコンピュータから取得されます。管理者パスワードまたは秘密キーが必要 な場合は,カスタム・イメージの管理担当者に問い合わせてください。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

機能	説明
エラスティック IP アドレス	このクラウド・プロバイダ機能では、プロビジョニングするホストの静的な IP アドレス を定義できます。ファイアウォールの設定を開く際にエラスティック IP アドレスを使用 すると、ホストマシンをプロビジョニングするときに毎回異なる IP アドレスを使用する 必要がありません。そうするには、ファイアウォール・アクセスを割り当てる IP アドレス の静的なプールを作成し、自分のアカウント専用に予約しておきます。この IP ア ドレスのプールは、明示的に解放するまで、自分のクラウド・アカウントに関連付け られたままになります。
	<b>注</b> : HP Helion は, エラスティック IP アドレスのみをサポートします。ホストのプロビジョニングに, 固定 IP アドレスは使用できません。詳細については, HP Helion Public Cloud Web サイト (http://www.hpcloud.com/)を参照してください。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
証明書ファイル	証明書は, Windows Azure のセキュリティ機能において重要なコンポーネントです。
	アプリケーションやサービスのセキュリティ保護では、主にサービス証明書と管理証 明書の2つを使用します。
	ALM で使用するサービス証明書として, Personal Information Exchange (.pfx)形式のWindows Azure サービス証明書が必要です。
	X.509 (.cer) 形式の Windows Azure 管理証明書を取得し, Azure にアップロード する必要があります。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。

セキュリティ・グループ, キー・ペア, エラスティック IP アドレス, 証明書 ファイルの詳細については, クラウド・ プロバイダが提供 するドキュメントを参照してください。

通信の初期設定に関するタスクの詳細については、「クラウド通信の初期設定」(63ページ)を参照してください。

## クラウド通信の初期設定

このタスクでは、クラウドとの通信を設定する上で最初に必要になる作業について説明します。

概要は、「クラウドの初期設定の概要」(58ページ)を参照してください。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「クラウド・ホストの設定方法」 (56ページ)を参照してください。

- 1. クラウド・プロバイダでのアカウント作成
  - a. クラウド・プロバイダ・サービスに登録し, アカウントを作成します。
  - b. 次のクラウド証明書を取得します。
    - i. HP Helion: アクセス・キー,秘密キー、プロジェクト ID、プロジェクト名
    - ii. Amazon EC2: アクセス・キー,秘密キー、アカウント番号
    - iii. Microsoft Azure: サブスクリプション ID, 証明書 ファイル

**注:** HP ALM と統合できるのは、HP Helion, Microsoft Azure, Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。

2. ALM サーバからクラウド・プロバイダへのクラウド 通信の定義

外側のネットワークとの通信にプロキシ・サーバを使用する場合は、 [クラウドネットワーク設定]ダイ アログ・ボックスでプロキシの設定を定義します。タスクの詳細については、 「クラウド・ネットワークの設 定方法」(65ページ)を参照してください。

**注:** HP Helion では, HP Helion Public Cloud Identity Service がポート 35357 を使用します。 このポートは, HPCS での認証が必要です。発信要求のみにポートが開くようにしてください。プロキシがこのポートに対して http 発信要求を転送できるようにしてください。

- 3. クラウドベースの Load Generator との通信 タスクの詳細については、「クラウド・ネットワークの設定方法」(65ページ)を参照してください。
- 4. HP Helion および Amazon EC2 クラウド・アカウント 向けに、クラウド・プロバイダ側 でセキュリティ設定を定義します。
  - a. クラウド・プロバイダ・コンソールから、セキュリティ・グループを作成します。クラウドベース Load Generator との通信用に定義されたポートが開いている必要があります。セキュリティ・グループの ルールの詳細については、『HP ALM ラボ管理トラブルシューティング・ガイド』を参照してください。

クラウド・プロバイダ・アカウントの作成に関する詳細は、 クラウド・プロバイダが提供するドキュメントを参照してください。

- b. キー・ペアを作成します。
- c. エラスティック IP アドレスを使用する場合には、エラスティック IP アドレスを割り当て、発信トラ フィックが企業ファイアウォールを通過できるように設定してください。
- 5. Microsoft Azure クラウド・アカウント用に, クラウド・プロバイダでセキュリティ設定を定義します。
  - a. JDK の強度を[**無制限**]に設定してください。適切なバージョンの Java Cryptography Extension を java.sun.com からダウンロードします。local\_policy.jar ファイルと, JRE の US\_ export\_policy.jar ファイルを置換します。jar ファイルの標準設定の格納場所は, C:\Program

Files\HP\ALM\java\jre\lib\security です。

- b. ALM で使用する Personal Information Exchange (.pfx) 形式の Windows Azure サービス証明 書を作成します。
- c. X.509 (.cer) 形式の Windows Azure 管理証明書を作成し, Azure にアップロードします。

## クラウド・ネットワークの設定方法

本項では、ALM からクラウド・プロバイダへの通信と、クラウドベースの Load Generator との通信に使用するクラウド・ネット ワークを設定する方法を説明します。

概要は、「クラウドの初期設定の概要」(58ページ)を参照してください。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「クラウド通信の初期設定」(63 ページ)を参照してください。

1. SSL (Secure Socket Layer)を使用する場合の前提条件

クラウドベースの Load Generator で SSL を有効にするには、証明機関 (CA) とデジタル証明書を作成し、作成したファイルを ALM、Performance Center サーバ、Controller に保管する必要があります。証明書の作成の詳細については、「デジタル証明書を作成する方法」(66ページ)を参照してください。

2. [クラウド ネットワーク設定]ダイアログ・ボックスを開く

ラボ管理のマストヘッドで、 やをクリックして [**クラウド ネットワーク設定**]を選択します。 ユーザ・イン タフェースの詳細については、「 [クラウド ネットワーク設定] ダイアログ・ボックス」(69ページ)を参照して ください。

**注**: Performance Center サーバが作成されていない場合, [クラウドネットワーク設定]オプションは使用できません。Performance Center サーバの作成の詳細については, 「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)を参照してください。

- 3. ALM からクラウド・プロバイダへの通信を有効化
  - a. [**プロキシ設定**]で**プロキシ・サーバの** URL (http[s]://server[:8080] という形式)を入力しま す。
  - b. プロキシ・サーバへの接続権限を持つユーザのユーザ名とパスワードを入力します。

**注:** HP Helion では, HP Helion Public Cloud Identity Service がポート 35357 を使用します。 このポートは, HPCS での認証が必要です。発信要求のみにポートが開くようにしてください。プロキシがこのポートに対して http 発信要求を転送できるようにしてください。

4. クラウドベースの Load Generator との通信を有効化

- a. [Performance Center 通信設定]で通信モードを定義します。標準設定では、[Load Generator との通信にプロキシサーバを使用]と[Load Generator との通信に SSL を使用] が選択されます。プロキシ経由で通信する場合は SSL が必要です。
- b. Performance Center エージェント・サービスのポート番号を入力します。このポートは, Load Generator で仮想ユーザを実行する際に使用します。発信要求に対してポートが開くことを確認してください。
- c. リモート管理エージェント・サービスのポート番号を入力します。このポートは、ラボ管理の操作 で使用されます。発信要求に対してポートが開くことを確認してください。

## デジタル証明書を作成する方法

このタスクでは、証明機関とデジタル証明書を作成する方法を説明します。作成した証明機関とデジタル証明書は、 クラウドベースの Load Generator との通信でセキュリティを確保する SSL (Secure Socket Layer)で使用します。

概要は、「クラウドの初期設定の概要」(58ページ)を参照してください。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「クラウド・ネットワークの設定方法」(65ページ)を参照してください。

1. 証明機関 (CA) の作成

**注:** ここでは, gen\_ca\_cert.exe ユーティリティで CA を作成 する方法を説明します。Linux プラットフォームの場合は gen\_ca\_cert ユーティリティを使用してください。

CAを作成するには、次の手順を実行します。

- a. gen\_ca\_cert ユーティリティをくLoadRunner ルート・フォルダ> \bin フォルダから実行します。
- b. 次のいずれかのオプションを指定して, gen\_ca\_cert コマンドを実行します。
  - -country\_name
  - -organization name
  - -common\_name

これにより、ユーティリティを実行したフォルダ内に、CA証明書 (cacert.cer)とCA秘密キー (capvk.cer)の2つのファイルが作成されます。

注:標準設定では, CAの有効期限は作成時から3年間です。有効期限を変更する

には, **-nb\_time** (有効期限の開始日)と**-na\_time** (有効期限の終了日)をそれぞれ使用してください。

次のサンプル・コマンドを実行すると、現在のフォルダに ca\_igloo\_cert.cer と ca\_igloo\_pk.cer の2ファイルが作成されます。

gen\_ca\_cert - country\_name "North Pole" -organization\_name "Igloo Makers" common\_name "ICL" -CA\_cert\_file\_name "ca\_igloo\_cert.cer" - CA\_pk\_file\_name
"ca\_igloo\_pk.cer" -nb\_time 10/10/2013 -na\_time 11/11/2013

- c. 次のいずれかのオプションで CA をインストールします。
  - -install <証明書ファイル名>:既存のCA リストがあれば置換し,指定したCA のみを含むリストを新規作成します。
  - -install\_add <証明書ファイル名>:新しいCAを既存のCAリストに追加します。

注: -install オプションと -install\_add オプションを指定すると、証明書ファイルのみが インストールされます。秘密キー・ファイルは安全な場所に保管し、証明書の発行時の みに使用するようにしてください。

2. デジタル証明書の作成

**注:** ここでは, gen\_cert.exe ユーティリティでデジタル証明書を作成する方法を説明します。 Linux プラットフォームの場合は gen\_cert ユーティリティを使用してください。

デジタル証明書を作成するには、次の手順を実行します。

- a. gen\_cert ユーティリティをくLoadRunner ルート・フォルダ> \bin フォルダから実行します。
- b. 次のいずれかのオプションを指定して, gen\_cert コマンドを実行します。
  - -country\_name
  - -organization\_name
  - organization\_unit\_name
  - -eMail
  - -common\_name

コマンド実行では次の点に注意してください。

○ 証明書の作成には、CA 証明書ファイルとCA 秘密キー・ファイルが必要です。標準設定では、このファイルは現在のフォルダに作成され、ファイル名は cacert.cer と capvk.cer です。

ファイル名と場所が異なる場合は、-CA\_cert\_file\_name オプションと-CA\_pk\_file\_name オ プションをそれぞれ使用します。

- 証明書ファイルは, ユーティリティを実行したフォルダ内に作成されます。標準設定のファイル 名は cert.cer です。
- 3. ALM, Performance Center, Controller への証明書のコピー
  - a. **ALM: cert.cer** と **cacert.cer** を < ALM デプロイメント・ディレクトリ > \repository\sa\DomsInfo\Certificate にコピーします。
  - b. Performance Center サーバ: cert.cer を< Performance Center サーバ・ディレクトリ</li>
     > \dat\cert にコピーし, cacert.cer を< Performance Center サーバ・ディレクトリ</li>
     > \dat\cert\Verify にコピーします。
  - c. **Controller: cert.cer** を< Performance Center ホスト・ディレクトリ> \dat\cert に⊐ピーし, **cacert.cer** を< Performance Center ホスト・ディレクトリ> \dat\cert\Verify に⊐ピーします。

## クラウドの初期設定のユーザ・インタフェース

本項の内容

[クラウド ネット ワーク設 定]ダイアログ・ボックス ......69

## [クラウド ネット ワーク設 定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ALM とクラウドベースの Load Generator との通信を有効にする設定を行います。この設定は、パフォーマンス・テストの実行で使用されます。

アクセス方法	<b>ラボ管理</b> のみ:
	ラボ管理のマストヘッドで、 🍄 をクリックして [ <b>クラウド ネットワーク設定</b> ] を選択します。
関連タスク	• 「クラウド通信の初期設定」(63ページ)
	• 「クラウド・ネットワークの設定方法」(65ページ)
	•「デジタル証明書を作成する方法」(66ページ)
	• 「クラウド・ホストの設定方法」(56ページ)
参照情報	• 「クラウドの初期設定の概要」(58ページ)
	• 「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)

### プロキシ設定

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
プロキシ・サーバ	プロキシ・サーバのURL(http[s]://server[:8080]という形式)。
ユーザ名	プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザの名前 (Domain\username という形式)。
パスワード	プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザのパスワード。

Performance Center 通信設定

UI要素	説明
Load Generator と の通信にプロキシ・ サーバ 法使用	上記の[プロキシ設定] セクションで指定したプロキシ情報に基づいて, Load Generator との通信を有効にします。
	注: このオプションを有効にすると、 [Load Generator との通信に SSL を 使用]オプションも有効になります。

UI要素	説明
Load Generator と の通信に SSL を 使用	SSLを使用した Load Generator との通信を有効にします。
	注:
	<ul> <li>これは、標準設定の選択です。</li> </ul>
	<ul> <li>SSLを使用するには、デジタル証明書を作成する必要があります。証明書は、ALM、Performance Center サーバ、Controller に保管する必要があります。デジタル証明書の作成の詳細については、「デジタル証明書を作成する方法」(66ページ)を参照してください。</li> </ul>
Porformanco	Performance Center エージェント・サービスのポート委号 このポートは Load
Penormance Center エージェン ト・サービスのポート	Generatorで仮想ユーザを実行する際に使用します。
	注:ポートは、発信要求に対して開く必要があります。
	標準設定値: 54345
リモート管理エー ジェント・サービス・ ポート	リモート管理エージェントのポート番号。このポートは, ラボ管理の操作で使用 されます。
	注:ポートは、発信要求に対して開く必要があります。
	<b>標準設定値</b> : 54245

# クラウド・アカウント

本項の内容

クラウド・アカウントの概要	
クラウド・アカウントを管理する方法	71
クラウド・アカウントのユーザ・インタフェース	75

## クラウド・アカウントの概要

クラウド・プロバイダにアカウントを設定したら、ALM でもクラウド・アカウントを設定します。ALM でクラウド・ アカウントを設定する際、クラウド・プロバイダの資格情報の入力、プロジェクトとアカウントの関連付け、プ ロビジョニングするホストが消費可能なクラウド・クレジットの総数の指定を行います。

クラウド・アカウントの追加は、 ラボ管理 または ALM プロジェクトから実行 できます。 ラボ管理 から追加し たアカウントは公開なので、 リンクされているすべてのプロジェクトがアクセスできます。 ALM プロジェクトから 追加したアカウントは非公開なので、 アカウントを作成したプロジェクトのみがアクセスできます。

**注:** ALM にアカウントを追加するには、既存のHP Helion, Microsoft Azure, または Amazon EC2 アカウントが必要です。

## クラウド・クレジット

ALM でクラウド・アカウントをセットアップするときは、効率性を確保しコストを削減するために、仮想的な クラウド・クレジットをプロジェクトに割り当てて、クラウド・プロビジョニングの使用状況を制御できます。各 プロジェクトに対して、プロビジョニングしたホストで消費可能なクラウド・クレジットの総数を定義できま す。なお、使用され消費されるクレジットが、クラウド・プロバイダに対する実際のコストを表すわけではあり ません。

定義した数よりクレジット数が少なくなったときに、電子メールで警告を受け取るように設定できます。詳細については、「クラウド警告の構成方法」(111ページ)を参照してください。また、クラウド・クレジットの消費状況を、使用状況レポートを生成して監視することもできます。詳細については、「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)を参照してください。

#### 注:

- プロビジョニングされたホストは、プロビジョニングで使用したプロジェクトのクレジットを消費します。
- 各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプ レートで指定します。
- 使用可能なクレジットがないと、ホストのプロビジョニングは実行できません。クレジットの総数がゼロになると、新しいホストをプロビジョニングすることができなくなります。プロビジョニング済みのホストは、引き続きクレジットを消費します。

クラウド・アカウントを ALM で作成し管理する処理の詳細については、「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)を参照してください。

## クラウド・アカウントを管理する方法

本項では, ALM でのクラウド・アカウントの管理方法を説明します。

概要については、「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)を参照してください。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「クラウド・ホストの設定方法」 (56ページ)を参照してください。

## クラウド・アカウント の追加

このタスクでは, ALM にクラウド・アカウントを追加する方法, およびそのアカウントにプロジェクトをリンクする 方法を説明します。

1. 前提条件

ALM にクラウド・アカウントを追加するには、サポートされているクラウド・プロバイダと契約しクラウド・ アカウントを取得しておく必要があります。

クラウド・アカウントを準備した後に、 クラウド・プロバイダの Web サイトから次の情報を記録する必要があります。

- アカウントのアクセス・キー (HP Helion および Amazon EC2 アカウントのみ)
- アカウントの秘密キー (HP Helion および Amazon EC2 アカウントのみ)
- プロジェクト ID (HP Helion アカウントのみ)
- クラウド・プロジェクト名 (HP Helion アカウントのみ)
- アカウント番号 (Amazon EC2 アカウントのみ)
- サブスクリプション ID (Microsoft Azure アカウントのみ)
- 証明書ファイル (Microsoft Azure アカウントのみ)
- 2. ALM へのクラウド・アカウントの追加

ALM にクラウド・アカウントを追加するには、次の手順を実行します。

- a. ALM または ラボ管理 で, [クラウド設定]>[クラウド アカウント]に移動します。
- b. [新規クラウド アカウント]ボタン をクリックします。「[新規クラウド アカウント]ダイアログ・ボックス」(81ページ)が開きます。
- c. クラウド・アカウント情報を入力します。 [OK]をクリックすると、 ALM にクラウド・アカウントが追加 されます。
- d. [プロバイダ]が Microsoft Azure の場合, [MS Azure API アクセス証明書]ダイアログ・ボックスが 開きます。
  - i. Personal Information Exchange (.pfx) 形式のMicrosoft Azure サービス証明書を選択します。
ii. サービス証明書のパスワードを入力します。

iii. [OK]をクリックします。

注:アカウントの作成処理は、完了するまでに数分かかります。

**注:** ユーザ・プロジェクトから追加したクラウド・アカウントは公開されておらず, このアカウントを作成したプロジェクトでしか使用できません。ただし, プロジェクトが他のプロジェクトとプールを共有している場合, プロビジョニングされるマシンは, 同じプールを共有するすべてのプロジェクトから認識されるようになります。

これで, このクラウド・アカウントからテンプレートを作成し, ホストをプロビジョニングできるようになりました。

3. クラウド・アカウント へのプロジェクト のリンク

ラボ管理 で作成したクラウド・アカウントからホストをプロビジョニングするのに必要なすべてのプロジェクトは、そのクラウド・アカウントにリンクする必要があります。

ラボ管理 で作成したクラウド・アカウントにプロジェクトをリンクするには, 次の手順を実行します。

- a. ラボ管理で, [クラウド設定]> [クラウド アカウント]に移動します。
- b. アカウント・グリッドで、リンクするクラウド・アカウントを選択します。
- C. [リンクされたプロジェクト]タブで、[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て] なっしいクします。「[クラウド アカウントへのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックス」(83ページ)が開きます。
- d. グリッドからプロジェクトを選択し、 [割り当て]をクリックします。 これにより、選択したプロジェクト がクラウド・アカウントにリンクされます。

これで, リンクされたすべてのプロジェクトは, 選択したクラウド・アカウントからクラウド・ホストにプロビ ジョニングできるようになりました。

**注:** プロジェクトにリンクできるのは、 ラボ管理 で追加したアカウントのみです。 ユーザ・プロジェクトから追加したアカウントは、 このアカウントを追加したプロジェクトに自動的にリンクされ、 他の プロジェクトにはリンクできません。

- クラウド・アカウントに対するクレジットの合計数の定義
   クレジットをラボ管理で定義する場合は、クラウド・アカウントにリストされたプロジェクトごとにクレジットを割り当てます。ALMでは、1つのプロジェクトに対してクレジットを定義します。
  - ラボ管理: [リンクされたプロジェクト]タブの[クレジット残高]で、アカウントにリストされているプロジェクトごとにクレジット数を定義します。

■ ALM: [クラウド設定]> [クラウド アカウント]に移動します。 アカウント・グリッドで、 クラウド・アカウントを選択します。 [クレジット]タブで、 アカウントに対するクレジット数を定義します。

注:

- ホストをプロビジョニングすると、そのホストをプロビジョニングしたプロジェクトとアカウントのクレジットが消費されます。
- 各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプレートで指定します。
- 使用可能なクレジットがないと、ホストのプロビジョニングは実行できません。クレジットの総数 がゼロになると、新しいホストをプロビジョニングすることができなくなります。プロビジョニング済 みのホストは、引き続きクレジットを消費します。
- 定義した数よりクレジット数が少なくなったときに、電子メールで警告を受け取るように設定できます。詳細については、「クラウド警告の構成方法」(111ページ)を参照してください。また、クラウド・クレジットの消費状況を、使用状況レポートを生成して監視することもできます。詳細については、「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)を参照してください。。

### クラウド・アカウントの詳細の変更

クラウド・アカウントの詳細を変更するには、次の手順を実行します。

- 1. クラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。
- [クラウド設定]>[クラウド アカウント]で、グリッド内のクラウド・アカウントを選択し、[クラウド アカウ ントの詳細]ボタン をクリックします。「[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス」(82ページ) が開きます。
- 3. 必要な変更を行い、 [OK]をクリックします。

### クラウド・アカウントの削除

クラウド・アカウントを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. 削除するクラウド・アカウントからプロビジョニングしたすべてのクラウド・ホストを終了します。詳細については、「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(99ページ)を参照してください。
- 2. 削除するクラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。
- 3. [クラウド設定]>[クラウド アカウント]で、 グリッド内のクラウド・アカウントを選択し、 [削除]ボタン ※ をクリックします。 クラウド・アカウントと、 このクラウド・アカウントを使用するすべてのホスト・テンプ

レートが削除されます。

**注意:** クラウド・アカウントを削除すると、このクラウド・アカウントを使用するすべてのホスト・テンプレートも削除されます。

**注**:削除しようとするクラウド・アカウントで現在プロビジョニングされているクラウド・ホストが存在する場合,そのクラウド・アカウントは削除できません。

# クラウド・アカウント のユーザ・インタフェース

本項の内容

クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ	76
クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン	.77
クラウド・アカウント・モジュールのフィールド	79
[新規クラウド アカウント]ダイアログ・ボックス	81
[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス	.82
[クラウド アカウント へのプロジェクトの割り当 て]ダイアログ・ボックス	83
クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ	.84

# クラウド・アカウント・モジュール・ウィンドウ

クラウド・アカウント・モジュールを使用すると、外部のクラウド・アカウントを ALM に追加できます。

アクセス方法	<b>ラボ管理</b> および ALM: サイドバーの[クラウド設定]で[クラウド アカウント]をクリック します。
重要な情報	<b>ラボ管理</b> :ユーザ・プロジェクト内で作成したアカウントは読み取り専用です。これ らのアカウントを編集するには、所有者プロジェクトにアクセスしてください。 ALM:現在のプロジェクト内で作成したアカウントのみを表示できます。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(71ページ),「クラウド・ホストの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<クラウド・アカウ ント・モジュールの 共通の UI 要素 >	クラウド・アカウント・モジュールのフィールド:フィールドの定義については、「クラウド・アカウント・モジュールのフィールド」(79ページ)を参照してください。
	クラウド・アカウントのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン」(77ページ)を参照してください。
<アカウント・グリッ ド>	ALM に追加したクラウド・アカウントの一覧が表示されます。
[説明]タブ	選択したクラウド・アカウントについての説明を入力できます。
[リンクされたプロ ジェクト]タブ	選択したクラウド・アカウントにリンクされているプロジェクトの一覧が表示されます。 またこのタブでは、他のプロジェクトのリンクまたはリンクの解除を行うことができま す。ユーザ・プロジェクトがラボ管理で作成したクラウド・アカウントからホストをプロ ビジョニングするには、プロジェクトにアカウントをリンクする必要があります。またこの タブには、選択したアカウントで使用できるクレジットの合計数が表示されます。詳 細については、「クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ」(84ページ) を参照してください。 利用可能な場所: ラボ管理
クレジット	選択したアカウントで使用できるクレジットの合計数が表示されます。 利用可能な場所: ALM
イベント・ログ	イベント・ログには、クラウド・アカウントを作成する際に発生したイベントが表示され、各イベントの原因と重大度が報告されます。詳細については、「イベント・ロ グ」(154ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[履歴]タブ	選択したクラウド・アカウントに行った変更が一覧されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

# クラウド・アカウント・モジュールのメニューおよびボタン

本項では、クラウド・アカウント・モジュールで利用可能なメニューとボタンを説明します。

重要な情報	<b>ラボ管理</b> :ユーザ・プロジェクト内で作成したアカウントは読み取り専用です。これ らのアカウントを編集するには、所有者プロジェクトにアクセスしてください。 ALM:現在のプロジェクト内で作成したアカウントのみを表示できます。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(71ページ),「クラウド・ホストの概要」(55ページ)

UI要素	א <u>ד</u> ם–	説明
お気に入りに追 加 <sup></sup>	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォル ダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳 細については, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
クラウド・アカウン トの詳細	[クラウド アカウン ト]と<右クリック・ メニュー>	クラウド・アカウントの詳細を表示できるように[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス」(82ページ)を参照してください。
URL のコピー	[クラウド アカウン ト]と<右 クリック・ メニュー>	選択したクラウド・アカウントへのリンクをコピーします。クラウド・ アカウント自体はコピーされません。代わりに、電子メールやド キュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができま す。このリンクをクリックするとALMが開き、クラウド・アカウント が表示されます。ログインしていない場合、ALMによって最初 にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	[編集]と<右ク リック・メニュー>	選択したクラウド・アカウントを削除します。削除しようとするク ラウド・アカウントから現在プロビジョニングされているクラウド・ ホストがない場合にかぎり、そのクラウド・アカウントを削除でき ます。

UI 要素	メニュー	説明
エクスポート	[クラウド アカウン ト]とく右 クリック・ メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスを開き, グリッド内のアカウントを, テキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ド キュメントとしてエクスポートできます。
		次のいずれかのオプションを選択します。
		<ul> <li>すべてエクスポート: グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。</li> </ul>
		• 選択項目のエクスポート: グリッド内で選択したリソースを エクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き,アカウントを検索できます。 検索オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
クラウド・アカウン トへの移動	クラウド・アカウン ト	[クラウド アカウントに移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番 号 で特 定 のクラウド・アカウントを検 索 できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	グリッド の各 カラムにフィルタ・ボックスが表 示 されます。 フィルタ 処 理 オプションの詳 細 については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド 』を参 照 してください。
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。
新規クラウド・ア カウント	クラウド・アカウン ト	新しいクラウド・アカウントを追加できるように[新規クラウドア カウント]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、 「[新規クラウドアカウント]ダイアログ・ボックス」(81ページ)を参照してください。
お気に入りの整 理 珍	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示 します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気 に入りビューのリストを表 示 します。

UI 要素	メニュー	説明
すべて更新 <i>2</i> 3	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[置換]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッド のフィールドの 値を置き換えることができます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
フィルタ/ソートの 設定 了・	表示	クラウド・アカウント・グリッドにフィルタ処理とソートのオプション を設定できます。 次のオプションがあります。 ・ フィルタ/ソートの設定:[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開き ます。クラウド・アカウントのフィルタ処理とソートを実行でき ます。 ・ フィルタ/ソートのクリア:適用したフィルタまたはソートが解 除されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更 新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッドの 複数のクラウド・アカウントのフィールド値を更新できます。 詳 細については, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。

# クラウド・アカウント・モジュールのフィールド

本項では, クラウド・アカウントのフィールドについて説明します。 ラボ管理 では, プライベート・アカウントの フィールドはすべて読み取り専用です。

説明
ALM からクラウド・アカウント への接続 で使 用します。 このキーは, クラウド・アカウン ト・プロバイダから取 得します。
注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

フィールド	説明
アカウント ID	アカウントのID。アカウントの追加時にALMによって自動生成されます。
アカウント番号	Amazon EC2 のアカウント番号。この番号は、クラウド・アカウントからカスタム・イ メージにアクセスするときに使用します。
	注:追加したアカウント番号が正しくない場合は、このアカウントに関連するカ スタム・イメージにアクセスできなくなります。
	<b>利用可能な対象</b> : Amazon EC2 アカウントのみ。
アクティブなホスト	このアカウントから現在プロビジョニングされているホストの数。ホストの表示は,ラボ 管理 では[ <b>ラボ リソース</b> ]>[ <b>ホスト</b> ],ALM では[ <b>ラボ リソース</b> ]>[ <b>テスティング ホ スト</b> ]を選択します。
クラウド・プロジェ クト ID	HP Helion プロジェクト ID 番号。この番号は、クラウド・アカウントからカスタム・イ メージにアクセスするときに使用します。
	<b>注</b> :追加した ID 番号 が正しくない場合は、このアカウントに関連するカスタ ム・イメージにアクセスできなくなります。
	利用可能な対象: HP Helion アカウントのみ。
作成者	アカウントを作成したユーザ。
クラウド・プロジェ クト名	HP Helion プロジェクト名。
プロジェクトで作 成	クラウド・アカウントが作成されたプロジェクト。
説明	クラウド・アカウントの説明。
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。
プロバイダ	アカウントのクラウド・プロバイダ。
	<b>注:</b> HP ALM と統合できるのは、HP Helion、Microsoft Azure、Amazon EC2 クラウド・アカウントのみです。
秘密キー	クラウド・アカウント への接続で <b>アクセス・キー</b> に使用するパスワード。このキーは,ク ラウド・プロバイダから取得します。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

フィールド	説明
サブスクリプション	Microsoft Azure クラウド・アカウント のサブスクリプション ID。
ID	利用可能な対象: Microsoft Azure アカウントのみ。

# [新規クラウド アカウント]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは,新しいクラウド・アカウントをALMに追加します。

アクセス方法	<b>ラボ管理</b> および ALM:
	1. サイドバーの[ <b>クラウド設定</b> ]で[ <b>クラウド アカウント</b> ]をクリックします。
	2. [新規クラウド アカウント]ボタン ** をクリックするか, [クラウド アカウント]メ ニューから[新規クラウド アカウント]を選択します。
重要な情報	<ul> <li>ALM にアカウントを追加するには、既存のHP Helion、Microsoft Azure、または Amazon EC2 アカウントが必要です。</li> </ul>
	<ul> <li>フィールド・クラウド・プロジェクト ID は、プロバイダが HP Helion に設定されている場合にのみ表示されます。</li> </ul>
	<ul> <li>クラウド・アカウントは、ラボ管理から追加すると公開アカウントとなり、どのプロジェクトでも使用できるようになります。ユーザ・プロジェクトから追加したクラウド・アカウントは非公開なので、アカウントを作成したプロジェクトのみが使用できます。</li> </ul>
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
×	<b>すべてのフィールド のリセット</b> :ダイアログ・ボックス内のフィールドに入力されている データをすべて消去します。
AB IN	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Re	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。

UI 要素	説明
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。
詳細	必須フィールドは赤で表示されます。 クラウド・アカウントのフィールドの詳細については、「クラウド・アカウント・モジュールのフィールド」(79ページ)を参照してください。
説明	クラウド・アカウントの説明を入力します。

# [クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したクラウド・アカウントの詳細情報が表示されます。

アクセス方 法	<ul> <li>ラボ管理 および ALM:</li> <li>1. サイドバーの[クラウド設定]で[クラウド アカウント]をクリックします。</li> <li>2. グリッド でクラウド・アカウントを右 クリックし, [クラウド アカウントの詳細]を選択します。</li> </ul>
重要な情報	<ul> <li>このダイアログ・ボックスは、ラボ管理とALMの両方で利用できます。</li> <li>ラボ管理:ユーザ・プロジェクトに追加したクラウド・アカウントは読み取り専用になります。</li> <li>ALM:ラボ管理で作成したアカウントは読み取り専用になります。</li> <li>テナント ID はアカウント・プロバイダが HP Helionの場合のみ表示されます。</li> </ul>
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)

UI 要素	説明
10 0 0 0	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: クラウド・アカウントのリストの間を移動で きます。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。

UI要素	説明
AB:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
アカウント ID	アカウントのID。アカウントの追加時にALMによって自動生成されます。
名前	クラウド・アカウントに付けた名前。
詳細	現在選択されているクラウド・アカウントの詳細が表示されます。使用可能なク ラウド・アカウントのフィールドの詳細については、「クラウド・アカウント・モジュール のフィールド」(79ページ)を参照してください。
クレジット	選択したアカウントの合計クレジットを指定します。
	<b>利用可能な場所</b> : ALM
リンクされたプロジェ クト	アカウントにユーザ・プロジェクトをリンクします。 ラボ管理 で作成したクラウド・アカ ウントにユーザ・プロジェクトからアクセスするには、アカウントをプロジェクトにリンク する必要があります。詳細については、「クラウド・アカウントの[リンクされたプロ ジェクト]ページ」(84ページ)を参照してください。
	<b>利用可能な場所</b> : ラボ管理
イベント・ログ	イベント・ログには、クラウド・アカウントを作成する際に発生したイベントが表示 され、各イベントの原因と重大度が報告されます。詳細については、「イベント・ ログ」(154ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているクラウド・アカウントで行われた変更の一覧です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照して ください。

### [クラウド アカウント へのプロジェクト の割 り当 て] ダイアログ・ボック ス

このダイアログ・ボックスでは、クラウド・アカウントにプロジェクトをリンクします。

アクセス方法	ラボ管理のみ:
	<ul> <li>クラウド・アカウント・モジュールからの場合:ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]にある[クラウド設定]で[クラウドアカウント]を選択します。情報パネルで[リンクされたプロジェクト]を選択し、[クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て]ボタン。</li> </ul>
	<ul> <li>[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]にある[クラウド設定]で[クラウドアカウント]を選択します。クラウド・アカウントを右クリックし、[クラウドアカウントの詳細]を選択します。[クラウドアカウントの詳細]ダイアログ・ボックスが開いたら、[リンクされたプロジェクト]を選択し、[クラウドアカウントへのプロジェクトの割り当て]ボタン。そのリックします。</li> </ul>
重要な情報	[クラウド アカウント へのプロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックスが表示されるのは, ラボ管理のみです。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	<b>すべて更新</b> :最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新 します。
割り当て	選択したプロジェクトをクラウド・アカウントに割り当てます。
<プロジェクト・グリッド>	クラウド・アカウントに割り当て可能なプロジェクトを一覧表示します。
選択済み	クラウド・アカウントに割り当てるプロジェクトを表示します。

# クラウド・アカウントの[リンクされたプロジェクト]ページ

このページでは、クラウド・アカウントに1つまたは複数のプロジェクトをリンクします。アカウントをプロジェクト にリンクすると、そのアカウントを使用して、プロジェクトからホストをプロビジョニングできます。さらにこのペー ジでは、選択したアカウントで使用できる合計クレジットが表示されます。

アクセス方法	<b>ラボ管理</b> のみ:
	<ul> <li>クラウド・アカウント・モジュールからの場合:ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]にある[クラウド設定]で[クラウドアカウント]を選択します。情報パネルで、[リンクされたプロジェクト]を選択します。</li> </ul>
	<ul> <li>[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]にある[クラウド設定]で[クラウド アカウント]を選択します。クラウド・アカウントを右クリックし、[クラウド アカウントの詳細]を選択します。[クラウド アカウントの詳細]ダイアログ・ボックスで、[リンクされたプロジェクト]を選択します。</li> </ul>
重要な情報	ユーザ・プロジェクトから、 ラボ管理 クラウド・アカウントのホストをプロビジョニングする には、 このページでクラウド・アカウントをプロジェクトにリンクする必要 があります。
	クラフト・ア カフントの[ウンクされたフロシェクト] ダイアロク・ホックスが表示されるのは、 ラボ管理のみです。
関連タスク	「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)
参照情報	「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<b>2</b> 2	クラウド・アカウントへのプロジェクトの割り当て:[クラウド アカウントへのプロジェクト の割り当て]ダイアログ・ボックスが開いたら、クラウド・アカウントからのプロビジョニン グが可能なプロジェクトを選択します。詳細については、「[クラウド アカウントへの プロジェクトの割り当て]ダイアログ・ボックス」(83ページ)を参照してください。
8	クラウド・アカウントからのプロジェクトの割り当て解除:選択したプロジェクトは、クラウド・アカウントからプロビジョニングできなくなります。
*	<b>プロジェクトに移動</b> :プロジェクト設定モジュール内で選択したプロジェクトを表示します。
Ø	<b>すべて更新</b> :最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
プロジェクト	クラウド・アカウントにリンクされているプロジェクトを表示します。
クレジット残高	クレジット残高を表示します。

ホスト・テンプレート

本項の内容

ホスト・テンプレートの概要	87
ホスト・テンプレートを管理する方法	88
ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース	90

### ホスト・テンプレートの概要

ホスト・テンプレートには、そのテンプレートを使ってプロビジョニングされるホストに関する技術的な詳細が 定義されます。ホスト・テンプレートには、次の詳細情報が指定されます。

- ホストをプロビジョニングする際に使用するクラウド・アカウント
- 時間あたりのコスト。これは、ホストが1時間あたりに消費するクレジットの数を示します。

**注:**使用され消費されるクレジットが、クラウド・プロバイダに対する実際のコストを表すわけではありません。

• ホストのタイプと用途。

注: HP ALM では、パフォーマンス・テストの Load Generator のみがサポートされています。

- ホストがプロビジョニングされるクラウドの場所。
- ホストのハードウェアの仕様 (インスタンス・タイプ)。
- ホストで使用するソフトウェア・イメージ(マシン・イメージ)

**注:** HP では, ホスト・テンプレートを作成する際に使用できる多くの定義済みのイメージが用意 されています。定義済みのイメージを使用することをお勧めします。インスタンス・タイプとマシン・イ メージは, クラウド・プロバイダの Web サイト上で管理され, ホスト・テンプレートの作成時に自動 的にアクセスされます。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは, 事前定義の画像は使用できま せん。画像の作成が必要です。

すべてのクラウド・ホストは,ホスト・テンプレートからプロビジョニングされます。ホストのプロビジョニング時, ALM はテンプレートの詳細情報をプロビジョニング対象となるホストにコピーします。

ALM は、HP Helion とAmazon EC2 クラウド・アカウントごとにホスト・テンプレートを作成します(標準設定)。テンプレートは事前定義のHP 画像と推奨ハードウェア設定(インスタンス・タイプで定義)を Load Generator マシンに使用します。この標準設定のホスト・テンプレートを使用できますが、独自にホスト・テンプレートを作成することもできます。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは、ホスト・テンプレートを作成する必要があります。テンプレート・ホストを使用する場合は、どのマシン仕様の使用を可能にして推奨するかを管理者が管理できます。

ホスト・テンプレートの管理は、 ラボ管理 または ALM プロジェクトから実行 できます。 ラボ管理 から追加し たホスト・テンプレートは公開されており、 テンプレートのクラウド・アカウントにリンクされるすべてのプロジェク トで使用できます。 ユーザ・プロジェクトから追加したホスト・テンプレートは公開されておらず、 このホスト・ テンプレートを作成したプロジェクトでしか使用できません。

ホスト・テンプレートの作成手順については、「ホスト・テンプレートを管理する方法」(88ページ)を参照して ください。

# ホスト・テンプレートを管理する方法

本項では, ALM でホスト・テンプレートを作成および管理する方法を説明します。

概要については、「ホスト・テンプレートの概要」(87ページ)を参照してください。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「クラウド・ホストの設定方法」 (56ページ)を参照してください。

### ホスト・テンプレート の作 成

このタスクでは、ALMでホスト・テンプレートを作成する方法を説明します。

- ホスト・テンプレートを作成する際の考慮事項
   ホスト・テンプレートを作成する際は、次の事項に留意してください。
  - テスト担当者が必要とするホスト設定ごとに1つのテンプレートを作成します。テスト担当者は既存のテンプレートからのクラウド・ホストのみをプロビジョニングできます。
  - テスト担当者が必要なクラウド・ホストのみをプロビジョニングできるように、各テンプレートによって プロビジョニングされるホストのタイプを明確に示します。
  - ホストによって消費されるクレジット数がそのホストのプロビジョニング費用を正確に反映するようにします。
- 2. 前提条件

ALM にホスト・テンプレートを追加するには、少なくとも1つのクラウド・アカウントを追加しておく必要があります。詳細については、「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)を参照してください。

ホスト・テンプレートを作成する際は、次を指定する必要があります。

- 場所:テンプレートによってホストがプロビジョニングされるクラウド領域を指定します。選択した場所によって、テンプレートで利用できるインスタンス・タイプとマシン・イメージが決まります。
- インスタンス・タイプ:テンプレートから作成したホストのハードウェア構成を指定します。インスタンス・タイプはクラウド・プロバイダによって提供されます。クラウド・プロバイダから利用できる各インスタンス・タイプを十分に理解してから、ホスト・テンプレートの作成を開始してください。
- マシン・イメージ:テンプレートから作成したホストで使用するソフトウェア・イメージを指定します。
   マシン・イメージは、クラウド・プロバイダのWebサイト上で管理されます。クラウド・プロバイダに必要なすべてのイメージをアップロードしてから、ホスト・テンプレートの作成を開始してください。HPでは、使用できる定義済みのイメージのセットも用意しています。Microsoft Azure クラウド・アカウントでは、事前定義の画像は使用できません。
- 3. ホスト・テンプレートの作成

ホスト・テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

- a. ホスト・テンプレートを作成しようとしているクラウド・アカウントを作成したプロジェクトにログインします。
- b. [**クラウド設定**]>[**ホスト テンプレート**]に移動します。
- C. [新規ホスト テンプレート]ボタン をクリックします。[新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボッ クスが開きます。詳細については、「[新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックス」(96ページ)を 参照してください。
- d. 新規ホスト・テンプレートの詳細を入力し、[OK]をクリックします。ホスト・テンプレートが作成されます。各フィールドに入力する内容の詳細については、「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(94ページ)を参照してください。

これで,新しいホスト・テンプレートがクラウド・ホストをプロビジョニングするために使用できるようになりました。

注:

- ユーザ・プロジェクトから追加したホスト・テンプレートは公開されておらず、このホスト・テンプレートを作成したプロジェクトでしか使用できません。ラボ管理から追加したホスト・テンプレートは公開されており、テンプレートのクラウド・アカウントにリンクされるすべてのプロジェクトで使用できます。
- ホスト・テンプレートを作成する際は、同じプロジェクトで追加したクラウド・アカウントしか選択できません。

### Microsoft Azure クラウド・アカウント 用の画像の作成

Microsoft Azure クラウド・アカウントで使用する画像を作成するには、次の手順を実行します。

- 1. Windows Server 2008 R2 Enterprise SP1 x64 画像を使用して、クラウド・コンソールで新しいインス タンスを作成します。詳細については、http://azure.microsoft.com/enus/documentation/articles/virtual-machines-create-custom/を参照してください。
- 2. 作成したインスタンスに接続します。詳細については、http://azure.microsoft.com/enus/documentation/articles/virtual-machines-log-on-windows-server/を参照してください。
- 3. [一般化する]と[シャットダウン]オプションを使用して、システム準備ツールを実行します。詳細については、http://azure.microsoft.com/en-us/documentation/articles/virtual-machines-captureimage-windows-server/を参照してください。インスタンスが停止するまでそのまま待機します。
- 4. インスタンスから画像を作成します。次のフィールドに入力します。
  - a. \$new\_image\_name:画像の名前。
  - b. **\$new\_image\_label**: 画像のラベル。

- c. **\$service\_name**:手順1でプロビジョニングしたインスタンスのサービスの名前。
- d. \$deployment\_name: デプロイメント名。
- e. \$role\_name: 仮想マシンの名前。

### ホスト・テンプレートの詳細の変更

ホスト・テンプレートの詳細を変更するには、次の手順を実行します。

- 1. ホスト・テンプレートを作成したプロジェクトにログインします。
- [クラウド設定]> [ホスト テンプレート]で、グリッド内のホスト・テンプレートを選択し、[ホスト テンプレートの詳細]ボタン をクリックします。「[ホスト テンプレートの詳細]ダイアログ・ボックス」(97ページ)が開きます。
- 3. 必要な変更を行い、 [OK]をクリックします。

### ホスト・テンプレート の削除

ホスト・テンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

- 1. 削除するホスト・テンプレートを作成したプロジェクトにログインします。
- 2. [**クラウド設定**]>[**ホスト テンプレート**]で、グリッド内のホスト・テンプレートを選択し、[**削除**]ボタン をクリックします。ホスト・テンプレートが削除されます。

**注**: ホスト・テンプレートを削除しても、そのテンプレートからプロビジョニングされたクラウド・ホストは終了しません。 クラウド・ホストの終了の詳細については、「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(99ページ)を参照してください。

### ホスト・テンプレートのユーザ・インタフェース

#### 本項の内容

ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ	91
ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン	.91
ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド	. 94
[新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックス	96
[ホスト テンプレートの詳 細]ダイアログ・ボックス	. 97

### ホスト・テンプレート・モジュールのウィンドウ

ホスト・テンプレート・モジュールでは、 クラウド・ホスト のプロビジョニングで使用 するホスト・テンプレートを作成します。

アクセス方法	<b>ラボ管理</b> および ALM: サイドバーの[クラウド設定]で[ホスト テンプレート]をクリッ クします。
重要な情報	<b>ラボ管理</b> :ユーザ・プロジェクト内で作成したホスト・テンプレートは、読み取り専用 になります。これらのアカウントを編集するには、所有者プロジェクトにアクセスしてく ださい。
	ALM: 現在のフロジェクト内で作成したホスト・テンフレートのみが表示されます。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(88ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(87ページ),「クラウド・ホストの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<ホスト・テンプレート・モ ジュール共通の UI 要素 >	<b>ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド</b> :フィールドの定義について は、「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(94ページ)を参照してく ださい。
	<b>ホスト・テンプレートのメニューとボタン</b> : コマンド とボタンの説明については、「ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン」(91ページ)を参照してください。
<テンプレート・グリッド>	ALM に追加したホスト・テンプレートが一覧表示されます。
[説明]タブ	選択したホスト・テンプレートの説明を入力します。
[履歴]タブ	選択したホスト・テンプレートに行った変更が一覧表示されます。詳細に ついては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を 参照してください。

### ホスト・テンプレート・モジュールのメニューとボタン

本項では、ホスト・テンプレート・モジュールで利用できるメニューおよびボタンについて説明します。

重要な情報	<b>ラボ管理</b> :ユーザ・プロジェクト内で作成したホスト・テンプレートは,読み取り専用 になります。これらのアカウントを編集するには,所有者プロジェクトにアクセスしてく ださい。
	ALM:現在のプロジェクト内で作成したホスト・テンプレートのみが表示されます。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(88ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(87ページ),「クラウド・ホストの概要」(55ページ)

UI要素	<b>≯</b> _⊐_	説明
お気に入りに追 加 <sub>6</sub> な	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォル ダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳 細については, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
ホスト・テンプレー トの詳細	[ホスト テンプレー ト]とく 右 クリック・ メニュー>	[ホスト テンプレートの詳細]ダイアログ・ボックスが開きます。 こ こでは, ホスト・テンプレートの詳細情報が表示されます。 詳 細については, 「[ホスト テンプレートの詳細]ダイアログ・ボック ス」(97ページ)を参照してください。
URL のコピー	[ホスト テンプレー ト]とく 右 クリック・ メニュー>	選択したホスト・テンプレートのリンクをコピーします。ホスト・テ ンプレート自体はコピーされません。代わりに、電子メールやド キュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができま す。リンクをクリックするとALMが開き、ホスト・テンプレートにア クセスできます。ログインしていない場合、ALMによって最初 にログインの詳細情報の入力が要求されます。
削除	[編集]と<右ク リック・メニュー>	選択したホスト・テンプレートを削除します。
		<b>注:</b> ホスト・テンプレートを削除しても、そのテンプレートからプロビジョニングされたクラウド・ホストは終了しません。

UI 要素	メニュー	説明
エクスポート	[ホスト テンプレー ト]とく 右 クリック・ メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。 グリッド内のテンプレートを,テキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。
		次のいずれかのオプションを選択します。
		<ul> <li>すべてエクスポート: グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。</li> </ul>
		• 選択項目のエクスポート: グリッド内で選択したリソースを エクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き,テンプレートを検索できます。検索オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
ホストテンプレート に移動	ホスト・テンプレー ト	[ホスト テンプレートに移動]ダイアログ・ボックスが開きます。 ID 番号 でホスト・テンプレートを検索 できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	グリッド の各 カラムにフィルタ・ボックスが表 示 されます。 フィルタ 処 理 オプションの詳 細 については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド 』を参 照 してください。
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。
新規ホスト・テン プレート	ホスト・テンプレー ト	[新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックスが開き, 新しい ホスト・テンプレートを追加できます。詳細については, 「[新 規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックス」(96ページ)を参照し てください。
お気に入りの整 理 ��	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示 します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気 に入りビューのリストを表 示 します。

UI 要素	メニュー	説明
すべて更新 <i>愛</i>	表示	ビューが最新の情報を表示するように更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[置換]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッド のフィールドの 値を置き換えることができます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
フィルタ/ソートの 設定	表示	<ul> <li>ホスト・テンプレート・グリッドで使用するフィルタ・オプションと ソート・オプションを設定します。</li> <li>次のオプションがあります。</li> <li>フィルタ/ソートの設定:[フィルタ]ダイアログ・ボックスが開き ます。ホスト・テンプレートのフィルタ処理とソートを実行で きます。</li> <li>フィルタ/ソートのクリア:適用したフィルタまたはソートが解除されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</li> </ul>
選択項目の更 新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスが開きます。 グリッドで 選択した複数のホスト・テンプレートについて, フィールド値を 更新できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド

本項では、ホスト・テンプレート・モジュールのフィールドについて説明します。ホスト・テンプレートのフィール ドを編集するには、テンプレートを作成したプロジェクトから操作する必要があります。

フィールド	説明
クラウド・アカウン ト	ホストのプロビジョニングに使用したテンプレートのクラウド・アカウント。

フィールド	説明
説明	ホスト・テンプレートの説明。
	<b>ヒント:</b> 各テンプレートでプロビジョニングするホストのタイプを明確に指定します。これによってテスト担当者は,ホストのプロビジョニング時に適切なテンプレートを選択することができます。
ホスト属性	ホストのシステム属性を指定します。
	<b>例</b> :ホストのメモリ:高;ホストの強度:中;インストール済みのコンポーネント:Citrix Client
	<b>ヒント:</b> ホスト属性は ラボ管理 でカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
ホスト・クレジット	このテンプレートからプロビジョニングされた各ホストが1時間あたりに消費するクレ ジット数。
ホスト・インストー	ホストのインストール・タイプ。
)L	次のタイプを利用できます。
	<ul> <li>Unix Load Generator:このUnix ホストを、パフォーマンス・テストでLoad Generator として使用することを示します。</li> </ul>
	• Windows Standalone LG: この Windows ホストを、パフォーマンス・テストでス タンドアロン Load Generator として使用することを示します。
	注:
	<ul> <li>イメージのインストール・タイプは正しく選択してください。設定を間違えると、パフォーマンス・テストが正しく実行されなくなります。</li> </ul>
	<ul> <li>[ホスト インストール]リストには[Unified Functional Testing]オプションと [Windows ホスト]オプションが表示されますが、選択できません。</li> </ul>
ホストの用途	ホスト上で使用できるテスト・ツール。たとえば、Controller、Load Generator、Data Processor、QuickTest Professional、Sprinter などがあります。
	注: HP ALM では Load Generator のみを選択できます。
インスタンス・タイ プ	テンプレートからプロビジョニングするクラウド・ホストのハードウェア仕様。 インスタン ス・タイプは, クラウド・プロバイダの Web サイトで表 示され,ホスト・テンプレートの 作 成 時 に自 動 的 にアクセスされます。

フィールド	説明
場所	HP Helion では,ホストのプロビジョニングに使用できるゾーンです。 Amazon EC2 とMicrosoft Azure では,ホストのプロビジョニングに使用した領域です。
マシン・イメージ	テンプレートからクラウド・ホストをプロビジョニングする際に使用するソフトウェア・イ メージ。マシン・イメージは、クラウド・プロバイダの Web サイトで管理され、ホスト・ テンプレートの作成時に自動的にアクセスされます。 注:マシン・イメージの値を表示できない場合は、使用したクラウド・アカウント 番号が正しいことを確認してください。
テンプレート ID	ホスト・テンプレートの ID。 テンプレートの作成時に ALM によって自動生成されます。
テンプレート名	テンプレートに割り当てる名前。

# [新規ホスト テンプレート]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいホスト・テンプレートを ALM に追加します。

アクセス方法	<b>ラボ管理</b> および ALM:
	1. サイドバーの[クラウド設定]で[ <b>ホスト テンプレート</b> ]をクリックします。
	2. [新規ホスト テンプレート]ボタン ** をクリックするか, [ホスト テンプレート]メ ニューから[新規ホスト テンプレート]を選択します。
重要な情報	ALM にホスト・テンプレートを追加するには、既存のHP Helion, Microsoft Azure, または Amazon EC2 アカウントが必要です。
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(88ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(87ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
×	<b>すべてのフィールド のリセット</b> :ダイアログ・ボックス内のフィールドに入力されている データをすべて消去します。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
Re	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AB:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	ホスト・テンプレートに付ける名前。テンプレートでプロビジョニングするホストのタイプ を明確に示す名前を指定します。これによってテスト担当者は、必要なホストを プロビジョニングできるようになります。
詳細	必須フィールドは赤で表示されます。使用可能なホスト・テンプレートのフィールドの詳細については、「ホスト・テンプレート・モジュールのフィールド」(94ページ)を参照してください。
説明	ホスト・テンプレートの説明を入力します。

### [ホスト テンプレートの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホスト・テンプレートの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	<b>ラボ管理</b> および ALM:
	1. サイドバーの[クラウド設定]で[ <b>ホスト テンプレート</b> ]をクリックします。
	2. グリッドでホスト・テンプレートを右クリックし, [ <b>ホスト テンプレートの詳細</b> ]を 選択します。
重要な情報	• このダイアログ・ボックスは、ラボ管理とALMの両方で利用できます。
	<ul> <li>ホスト・テンプレートのフィールドを編集するには、テンプレートを作成したプロジェクトから操作する必要があります。</li> </ul>
関連タスク	「ホスト・テンプレートを管理する方法」(88ページ)
参照情報	「ホスト・テンプレートの概要」(87ページ)

UI要素	説明
K 4 0 0	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:ホスト・テンプレートのリストの間を移動で きます。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI要素	説明
	<b>類語辞典:</b> 選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
<b>A</b>	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
テンプレート ID	ホスト・テンプレートの ID。ホスト・テンプレートの追加時に ALM によって自動生 成されます。
テンプレート名	ホスト・テンプレートに付けた名前。
詳細	現在選択されているホスト・テンプレートの詳細が表示されます。使用可能なホ スト・テンプレートのフィールドの詳細については、「ホスト・テンプレート・モジュール のフィールド」(94ページ)を参照してください。
説明	ホスト・テンプレートの説明を入力します。
履歴	現在選択されているホスト・テンプレートに加えられた変更が一覧表示されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

# ホストのプロビジョニング

本項の内容

ホストのプロビジョニングの概要	
クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法	
ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース	102

# ホストのプロビジョニングの概要

クラウド・ホストをテスト実行に使用するには、テスティング・ホストと同様に、ラボ・リソースに追加する必要 があります。クラウド・ホストを追加する作業をプロビジョニングと呼びます。ホストのプロビジョニングでは、特 定の設定を使用して、マシンをクラウド上で予約します。この設定には、マシンのハードウェアの詳細情 報とマシンに適用されるソフトウェア・イメージが含まれます。ALMでは、すべてのホストのプロビジョニングに テンプレートを使用します。ホスト・テンプレートの詳細については、「ホスト・テンプレートの概要」(87ペー ジ)を参照してください。

ホストのプロビジョニングの詳細については、「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(99ページ)を参照してください。

注:

- ラボ管理でホストをプロビジョニングするには、[ラボリソース]>[ホスト]を選択します。ラボ管理でホストをプロビジョニングするには、[ラボリソース]>[テスティングホスト]を選択します。
- プロビジョニングされたホストは、プロビジョニングで使用したプロジェクトのクレジットを消費します。
   各ホストはクレジットを時間単位で消費します。1時間あたりの消費クレジット数はホスト・テンプレートで指定します。要求されたホストをプロビジョニングするには、少なくとも1クレジットが必要です。

# クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法

本項では、ALM からクラウド・ホストをプロビジョニングする方法と終了する方法を説明します。

概要については、「ホストのプロビジョニングの概要」(99ページ)を参照してください。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「クラウド・ホストの設定方法」 (56ページ)を参照してください。

### クラウド・ホスト のプロビジョニング

このタスクでは、ALM でのクラウド・ホストのプロビジョニング方法を説明します。

1. 前提条件

ALM からホストをプロビジョニングするには、次の手順を実行します。

- クラウド・アカウントと、プロジェクトにリンクされたホスト・テンプレートが少なくとも1つずつ必要です。詳細については、「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)および「ホスト・テンプレートを管理する方法」(88ページ)を参照してください。
- プロジェクトには、目的のホストをプロビジョニングするのに使用できる十分なクラウド・クレジットが必要です。詳細については、「クラウド・アカウントを管理する方法」(71ページ)を参照してくださ

い。プロジェクトにクレジットを追加するアクセス許可がない場合は、ラボ管理者に問い合わせてください。

ホストをプロビジョニングする際は、次を指定する必要があります。

- セキュリティ・グループ: クラウド・ホストに対して許可される着信および発信ネットワーク・トラフィックを指定します。たとえば、クラウド・ホストにリモート・デスクトップ経由で接続する必要がある場合、セキュリティ・グループは、TCPポート 3389 (RDP) 経由での着信トラフィックを許可する必要があります。セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダの Web サイト上で構成し、プロビジョニング時に ALM で選択します。セキュリティ・グループの詳細については、「クラウドの初期設定の概要」(58ページ)を参照してください。
- キー・ペア: クラウド・ホストにリモートで接続できるようになります。Windows ホストの場合,キー・ペアはメインの管理者のパスワードを生成するのに使用します。Linux ホストの場合,キー・ペアはマシンへのログインに使用します。キー・ペアはクラウド・プロバイダのWebサイト上で作成し、プロビジョニング時に ALM で選択します。キー・ペアの詳細については、「クラウドの初期設定の概要」(58ページ)を参照してください。

注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

**注**: セキュリティ・グループとキー・ペアはクラウドの場所ごとに個別に作成します。必要なセキュリティ・グループとキー・ペアがプロビジョニングを行う場所ごとに構成しておく必要があります。

**注**: HP Helion は, エラスティック IP アドレスのみをサポートします。ホストのプロビジョニングに, 固定 IP アドレスは使用できません。詳細については, HP Helion Public Cloud Web サイト (http://www.hpcloud.com/)を参照してください。

2. ホストをプロビジョニングする際の考慮事項

ホストをプロビジョニングする際は、以下の事項に留意してください。

- ホストをプロビジョニングする場所は、テストの効率に影響する可能性があります。自分のテスト・ ニーズに合ったクラウドの場所を選択するようにしてください。
- ホスト・テンプレートは場所ごとに個別に作成するため、ある場所に存在するテンプレートが別の場所には存在しないことがあります。必要なテンプレートがどの場所にあるかを把握し、また目的のテンプレートを必ずプロビジョニングする場所に追加する必要があります。
- プロビジョニング済みのホストにリモートで接続する必要がある場合,秘密キーを持つためにキー・ペアを選択し、リモート接続を許可するセキュリティ・グループを選択するようにします。

注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。

- ホストはバッチでプロビジョニングします。1つのバッチでプロビジョニングしたホストはすべて、同じアカウント、場所、テンプレートを使用し、同じ構成になります。別のタイプのホストをプロビジョニングするには、異なるバッチを作成する必要があります。1つのプロビジョン要求にホストの複数のバッチを含めることができます。
- 3. クラウド・ホストのプロビジョニング

クラウド・ホストをプロビジョニングするには、次の手順を実行します。

- a. ラボ管理で, [**ラボ リソース**]>[**ホスト**]に移動します。ALMで, [**ラボ リソース**]>[**テスティング ホスト**]に移動します。
- b. [プロビジョニング...]ボタン <sup>(\*)</sup>をクリックします。[ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[クラウドホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックス」(103ページ)を参照してください。
- c. プロビジョニングするホストのバッチごとに詳細を入力し, [バッチの追加]をクリックします。

注:要求されたホストをプロビジョニングするには、少なくとも1クレジットが必要です。

- d. 必要なバッチすべてを追加して、 [プロビジョニング]をクリックします。ホストはプロビジョニングのためのキューに入り、 クラウド・プロビジョニング・レポートが開きます。
- 4. プロビジョニング後:

ホスト・プロビジョニング・レポートにはプロビジョニングの進行状況が表示され, レポートは自動的に 更新され最新情報が表示されます。 プロビジョニング中にエラーが発生すると, そのエラーがホスト・プ ロビジョニング・レポートに表示されます。 詳細については, 「ホスト・プロビジョニング・レポート」(107 ページ)を参照してください。

クラウド・ホストのプロビジョニングが完了すると、ホストでのテスト実行が可能になります。

**注:** クラウド・ホストのステータスが稼働中に変わってから、ホストが使用可能になるまでに数分かかることがあります。

プロビジョニングが完了すると、ホストはプロジェクトのクレジットを消費します。

### クラウド・ホストの終了

クラウド・ホストを終了するには、次の手順を実行します。

- ラボ管理で、[ラボリソース]>[ホスト]に移動します。ALMで、[ラボリソース]>[テスティングホスト]に移動します。
- 2. グリッド内のクラウド・ホストを選択し、 [削除]ボタン きをクリックします。 クラウド・ホストが終了のためのキューに入ります。

ホストが終了するのに数分かかる場合があります。ホストは,終了すると、ホスト・グリッドから削除されます。

# ホスト・プロビジョニングのユーザ・インタフェース

本項の内容

[クラウド ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックス	
ホスト・プロビジョニング・レポート	

# [クラウド ホスト のプロビジョニング]ダイアログ・ボックス

[クラウド ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックスでは,ホストのプロビジョニングを行います。 プロビジョ ニングの対象となるホストの数,プロビジョニング先,必要なホスト設定を選択できます。

クラウド ホスト	のプロビジョニング				
シチ番号2				」 追加	ロされたバッチ(0)
1 バッチ	の作成				
ホスト量:	1	○ ① ■アカウン	Amazon_Project ~		
場所:	Amazon EC2 US E	ast (Northern 🗸 🕕 キンプレー			
現在のアカウ	ント残高パランス:	テンブレート ブライス:	日次合計:		
94.08 ou	ベジット	2 クレジット。時間	48 クレジット/日(2/時間)		
2 <b>ホスト</b> の	の設定				
セキュリティ グ ループ:	Database	'▼ ① ■ブール:	PrimaryCloudPool ~		
キーペア:	key1	✔ ① 屬性:	Host memory:Medium		
通知日	2014/02/12	1 (1) I = 3,7 + 10	? 🃭: 🗹 エラスティック IP アドレスの使用		
			🛨 იაუნდე	ho	
				ブロビジョン	キャンセル ヘルブ

Microsoft Azure の[クラウド ホストのプロビジョニング]ダイアログ・ボックスが開きます。

クラウド ホストのフ	クロビジョニング	×
()ッナ番号1		曹 追加されたハッチ(0)
<ol> <li>バッチ</li> </ol>	の作成	
■ホスト量:	1 • アカウント: Azure • ①	
■場所:	MS Azure West US ・デンブレート: [Azure1 ・ ] ①	
現在のアカウ	たいた残高: デンプレート ブライス: 日次合計: モング しート 田林 - ロックターンス#新聞	
100.00	クレジット 4.00 クレジット/時間 96.00 クレジット/日(4.00/時間)	
<ol> <li>ホスト</li> </ol>	の設定	
■ユーザ名:	0 ・パスワード: 0	
•ブール:	✓ ① 属性: ✓ ⑦	
通知日:	□         • RDP/SSH         □           ★−+:         □         □	
	◆ ハッチの追加	
	プロビジョニング	キャンセル ヘルプ

アクセス方法	<b>ラボ管理</b> :
	1. サイドバーの[ラボリソース]で, [ <b>ホスト</b> ]をクリックします。
	2. [プロビジョニング]ボタン <sup>を</sup> をクリックするか, [テスティング ホスト]>[プロビ ジョニング]を選択します。
	ALM:
	1. サイドバーの[ラボリソース]で, [ <b>テスティング ホスト</b> ]をクリックします。
	2. [ <b>プロビジョニング</b> ]ボタン <sup>巻</sup> をクリックするか, [ <b>テスティング ホスト</b> ]>[ <b>プロビ ジョニング</b> ]を選択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [ <b>リソース</b> ] > [ <b>テスティング ホ</b> スト]を選 択します。
	2. [ <b>ホストのプロビジョニング</b> ]ボタンをクリックします。
重要な情報	ホストをプロビジョニングするには、1つ以上のクラウド・アカウントと1つ以上のホス ト・テンプレートをプロジェクトにリンクしておく必要があります。
関連タスク	「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(99ページ)
参照情報	「ホストのプロビジョニングの概要」(99ページ)

UI 要素	説明
バッチ番号	詳細情報の入力対象となるバッチの番号が表示されます。
ホスト数	バッチでプロビジョニングするホストの数を入力します。 バッチ内のホストのアカウント,場所,テンプレートがすべて同じであり,設定も同じであることを確認してください。
アカウント	プロビジョニングを行うクラウド・アカウントを選択します。
場所	ホストのプロビジョニング先となる地理的な場所を選択します。 適切なホスト・テン プレートが設定されている場所を選択してください。
テンプレート	ホスト・テンプレートでは、ホストの用途、ハードウェア、マシン・イメージ、1時間あ たりの消費クレジットが指定されています。テスト・ニーズに合ったホスト・テンプレー トを選択します。使用可能なテンプレートのリストは、選択した場所で異なりま す。

UI 要素	説明
現在のアカウント 残高	アカウントで使用可能なクレジット数が表示されます。
	利用可能な場所: ALMとPerformance Center
テンプレート価格	選択したテンプレートの1時間あたりのコストがクレジット単位で表示されます。
	利用可能な場所: ALMとPerformance Center
日次合計	バッチが1日あたりに消費するクレジットの総数が表示されます。
	利用可能な場所: ALM とPerformance Center
セキュリティ・グ ループ	テスティング・ホストへのアクセスを許可するセキュリティ・グループを選択します。セキュリティ・グループでは、ホストとの通信で許可する送信接続と受信接続(HTTPのポート 80 や RDP のポート 3389 など)を指定します。セキュリティ・グループはクラウド・プロバイダの Web サイトで設定し、場所ごとに個別に作成する必要があります。選択した場所で設定されているセキュリティ・グループのみが表示されます。詳細については、「クラウドの初期設定の概要」(58ページ)を参照してください。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
プール	新しくプロビジョニングしたホストの追加先となるホスト・プールを選択します。
<b>キ</b> ー・ペア	取得した秘密キーのキー・ペアを選択します。キー・ペアは、Windows マシンの管理者 パスワードの生成、Linux マシンへのログインに使用されます。キー・ペアが必要になるのは、 クラウド・ホスト にリモート 接続する場合 のみです。 キー・ペアはクラウド・プロバイダの Web サイトで管理し、場所ごとに個別に作成する必要があります。 選択した場所で設定されているキー・ペアのみが表示されます。
	注:ホストをプロビジョニングするには、キーペアが少なくとも1つ必要です。
	サイクルの詳細については、「クラウドの初期設定の概要」(58ページ)を参照してく ださい。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
属性	ホストの機能に合ったホスト属性を選択します。ホスト属性を元に、 テストの実行時に目的に適したホストを特定します。
	<b>注:</b> 属性リストは, ALM プロジェクト・カスタマイズから変更できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

UI要素	説明
通知日	ホストがクラウド・プロバイダでプロビジョニングされている場合,通知を送信する日 を入力します。指定した日を過ぎたプロビジョニング済みホストは,クラウド・ホスト 日時ダイジェストに表示されます。
	<b>注</b> :これはオプションのフィールドですが, 期限日が過ぎているホストをよりよく 追跡できるように, 値を入力することをお勧めします。 この値は, ホスト・モ ジュールから変更できます。
エラスティック IP	事前定義済みのIP アドレスのプールをクラウド・プロバイダで定義してある場合, このオプションを選択すると、その事前定義済みの静的 IP アドレスを使ってホスト がプロビジョニングされます。エラスティックIP アドレスの詳細については、「クラウドの 初期設定の概要」(58ページ)を参照してください。
	<b>注</b> : HP Helion は, エラスティック IP アドレスのみをサポートします。ホストのプロビジョニングに, 固定 IP アドレスは使用できません。詳細については, HP Helion Public Cloud Web サイト (http://www.hpcloud.com/)を参照してください。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントには該当しません。
그—ザ名	RDP/SSH ポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのユーザ名。こ のユーザ名は,仮想マシンで使用するオペレーティング・システムで要求される複 雑さの要件を満たす必要があります。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。
パスワード	RDP/SSH ポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのパスワード。このパスワードは、仮想マシンで使用するオペレーティング・システムで要求される複雑さの要件を満たす必要があります。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。
パスワードの確認	RDP/SSH ポートをプロビジョニング済みのマシンに接続するユーザのパスワードを 再度入力します。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。

UI 要素	説明
RDP/SSH ポート	セキュアな接続のリモート・デスクトップのポート。
	注: Microsoft Azure クラウド・アカウントのみに該当します。
バッチの追加	選択したバッチをカートに追加します。 [プロビジョニング]をクリックすると, カート内 にあるすべてのホストがプロビジョニングのキューに追加されます。
追加されたバッチ	プロビジョニングの対象 バッチがすべて表示されます。カートからバッチを削除するに は, [ <b>パッチの削除</b> ]ボタン <mark>の</mark> をクリックします。
バッチの削除 面	選択したバッチを削除し、カートから削除します。
プロビジョニング	カート内のすべてのバッチをプロビジョニングのキューに追加し、ホスト・プロビジョニン グ・レポートを表示します。このレポートの詳細については、「ホスト・プロビジョニン グ・レポート」(107ページ)を参照してください。

# ホスト・プロビジョニング・レポート

ホスト・プロビジョニング・レポートでは、ホストのプロビジョニングの進行状況が場所ごとに表示されます。プロビジョニングのプロセスが手順を追って表示され、詳細な情報はログ・ファイルに記録されます。 クラウド・ホストのプロビジョニングが完了すると、ホストでのテスト実行が可能になります。



アクセス方法	ラボ管理:		
	1. サイドバーの[ラボリソース]で, [ <b>ホスト</b> ]をクリックします。		
	2. [ <b>ホスト操作</b> ]ドロップダウン矢印をクリックし,[ <b>ホスト プロビジョニング レポー</b> ト]を選択します。		
	または, [ <b>プロビジョニング</b> ]ボタン <sup>巻〜</sup> をクリックします。 [クラウド ホストのプロビ ジョニング]ダイアログ・ボックスが閉いたら, [ <b>プロビジョニング</b> ]ボタンをクリックし ます。		
	ALM:		
	1. サイドバーの[ラボリソース]で, [ <b>テスティング ホスト</b> ]をクリックします。		
	2. [ <b>ホスト操作</b> ]ドロップダウン矢印をクリックし,[ <b>ホスト プロビジョニング レポー</b> ト]を選択します。		
	または, [ <b>プロビジョニング</b> ]ボタン <sup>巻〜</sup> をクリックします。 [クラウド ホストのプロビ ジョニング]ダイアログ・ボックスが開いたら, [ <b>プロビジョニング</b> ]ボタンをクリックし ます。		
	My Performance Center:		
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [ <b>リソース</b> ]>[ <b>テスティング ホ</b> スト]を選択します。		
	2. [ <b>プロビジョニング レポート</b> ]ボタンをクリックします。 または、 [ <b>ホストのプロビジョニング</b> ]ボタンをクリックします。 [クラウド ホストのプ ロビジョニング]ダイアログ・ボックスが開いたら、 [プロビジョニング]ボタンをクリッ クします。		
重要な情報	<ul> <li>ホストをプロビジョニングするには、1つ以上のクラウド・アカウントと1つ以上のホスト・テンプレートをプロジェクトにリンクしておく必要があります。</li> </ul>		
	<ul> <li>クラウド・ホストのステータスが稼働中に変わってから、ホストが使用可能になる までに数分かかることがあります。</li> </ul>		
	<ul> <li>プロビジョニングが完了すると、ホストはプロジェクトのクレジットを消費します。</li> </ul>		
関連タスク	「クラウド・ホストのプロビジョニングと終了方法」(99ページ)		
参照情報	「ホストのプロビジョニングの概要」(99ページ)		
UI要素	説明		
----------------------------	---		
開始	このセクションでは、次の詳細情報が表示されます。		
	• プロビジョニングの開始日時。		
	<ul> <li>レポートを作成しているユーザの名前。</li> </ul>		
	• レポートの進行状況。		
プロビジョニングおよび確 認されたホスト数 :	プロビジョニングを待っているホストの数とそのステータスを示します。		
更新	レポートは自動更新され,最新情報が表示されます。矢印をクリックすると,自動更新の頻度を秒単位で変更できます。頻度は,1秒,10秒,30秒のいずれかを選択できます。		
	指定した場所について, プロビジョニングを待っているホストの数とそのステー タスを示します。インジケータをクリックすると, レポートの詳細パネルが開きま す。		
	可能性のある状態は次のとおりです。		
	<b>プロビジョニング</b> :ホストはプロビジョニングの実行中です。		
	確認中:ホストは確認中です。		
	<b>完了</b> :ホストのプロビジョニングが完了し, 確認済みです。		
	完了 - 失敗:ホストのプロビジョニングに失敗しました。		
	レポートの詳細を表示します。レポートには次の項目が表示されます。		
	• <b>すべての場所の表示</b> :同時に複数の場所で稼働している場合は,す べての場所の詳細情報が表示されます。		
	• IP/名前:ホストの名前またはIPアドレス。		
	• インスタンス・タイプ:ホストのハードウェア仕様。		
	• イメージ:ホストの使用するソフトウェア・イメージ。		
	• ステータス:ホストのプロビジョニング・ステータスを示します。		
	• <b>ログ</b> :ホストに関連するイベントのログが表示されます。		

クラウド・リソースの監視

本項の内容

クラウド・リソースの監視の概要	111
クラウド警告の構成方法	
クラウド・リソースの監視のユーザ・インタフェース	

## クラウド・リソースの監視の概要

プロビジョニングしたホストが消費するクラウド・リソースの分析と監視には、使用状況レポートを作成する 方法と警告と通知を送信する方法があります。

### クラウドの使用状況レポート

次のクラウド使用状況レポートを作成できます。

レポート	説明
クラウド・サマリ	消費されたクレジットとプロビジョニングされたホストをプロジェクトごとにまとめて 表示します。
クラウド・クレジット (タ イプ別)	消費されたクラウド・クレジットを, 場所, テンプレート, インスタンス, イメージ ごとの内訳で表示します。
クラウド利用率	クラウド・ホストの稼働時間,実行時間とアイドル時間を比較し,総アイドル時間のクレジット数をプロジェクトごとにまとめて表示します。
クラウド 操作 およびホ スト	各ホストのプロビジョニングと終了の操作,詳細なプロビジョニング・データを表示します。

詳細については、「使用状況レポートの概要」(189ページ)を参照してください。

### クラウド警告および通知

ホストのプロビジョニングでは、次の警告と通知を使用できます。

- アイドル・ホスト (非アクティブ時間)
- アカウント使用状況 (クレジット残高)
- ホスト・ステータスの詳細(稼働中,非稼働,利用不可のホスト)

警告の設定の詳細については、「クラウド警告の構成方法」(111ページ)を参照してください。

## クラウド警告の構成方法

本項では、クラウド警告と通知を構成する方法を説明します。クラウド警告の詳細については、「ホストのプロビジョニングの概要」(99ページ)を参照してください。

- 1. 前提条件
  - ユーザに警告と通知を送信するには、ALMメール・プロトコルを設定する必要があります。詳細 については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
  - クラウドの警告と通知を設定するには、ユーザ権限が必要です。アクセス許可の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
  - 電子メールを受信するには、管理者が電子メール送信に使用するメールを設定する必要があります。管理者は、TDAdmin グループに所属し、有効な電子メール・アドレスを持っている必要があります。
- 2. または ALM または ラボ管 理 のマスト ヘッド で、 をクリックして [**クラウド 警告 および通知**]を選択 します。詳細については、「 [クラウド 警告 および通知]ダイアログ・ボックス」(113ページ)を参照してく ださい。
- 3. ユーザに通知する警告とルールを定義します。

## クラウド・リソースの監視のユーザ・インタフェース

本項の内容

[クラウド警告および通知]ダイアログ・ボックス .....113

## [クラウド警告および通知]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、警告と通知を設定することにより、重要なクラウド・アクティビティに関する情報をユーザに送信します。

アクセス方法	ALM または ラボ管理のマストヘッドで、 🍄 をクリックして [ <b>クラウド 警告 および通</b> 知]を選択します。
重要な情報	<ul> <li>ユーザに警告と通知を送信するには、ALMメール・プロトコルを設定する必要 があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理 者ガイド』を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>クラウドの警告と通知を設定するには、ユーザ権限が必要です。アクセス許可の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</li> </ul>
関連タスク	「クラウド警告の構成方法」(111ページ)
参照情報	「ホストのプロビジョニングの概要」(99ページ)

### 警告の送信先

このパネルでは、警告と通知の送信先となるユーザを設定します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ホストをプロビジョニングしたユーザ (該当する場合)	クラウド・ホストをプロビジョニングしたユーザに通知し ます。
プロジェクト管理者	プロジェクトの管理者ユーザに通知します。
以下のユーザ:	指定したユーザに通知します。

### 警告と通知のルール

この表示枠では、ユーザに通知する際のルールを設定します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
アイドル時間が次の長さを超えたホスト に関する警告を送信	クラウド・ホストがアイドル状態のまま指定の時間が経過した場合, 警告を送信します。
	ALM のみ:現在ログインしているプロジェクトからプロビジョニ ングしたホストに警告を送信します。
	<b>ラボ管理のみ</b> :ラボ管理からプロビジョニングしたホストに警告を送信します。
他 のプロジェクトの公 開 アカウントからプ ロビジョニングされたホストを含める	ラボ管理のみ: ラボ管理から追加したクラウド・アカウントでプ ロビジョニングしたホストを含めます。
クラウド・ホストの日 次ダイジェストを次 の時 刻 に送 信	指定した日時にクラウド・ホスト・サマリを送信します。 このレ ポートには、今日の操作、アカウントの使用状況、ホストの 詳細情報が含まれます。
プロジェクトの特定クラウド・アカウントの 残りクレジット数が次の値を下回ったら 警告を送信	プロジェクトで, クラウド・アカウントのクレジット残高が指定した値を下回った時点で警告を送信します。

# 第6章:ラボ・リソース

本章の内容

ラボ・リソースの概要	
ラボ・リソースの管理	
ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	

## ラボ・リソースの概要

ラボ・リソース・モジュールでは、ALM サーバ側のテストで使用するテスト・リソースの定義、管理、保守を行います。

ラボ管理 なしで ALM を使用すると、ユーザはローカル・コンピュータからテストを管理する必要があります。 このテスト方法はクライアント側の実行と呼ばれます。ラボ管理では、テスト実行にサーバ側の実行を使 用することができます。テスティング・ホストのセットアップが完了すると、ALM を使用して、リモート・サーバで のテストのスケジュール設定やテストの自動実行を行うことができます。ラボ管理では、テスト実行で使 用するホストとホスト・プールのセットアップと保守を行います。

### テスティング・ホスト/ホスト

テスティング・ホストは、テストを実行し、これらのテストから収集したデータを処理するために使用されます。機能ホストやパフォーマンス・ホストとしてホストを定義できます。

機能ホストとパフォーマンス・ホストは、次の用途に使用できます。

<ul> <li>Business Process Testing:ビジネス・プロセス・テストが実行されるテスティング・ホスト。</li> <li>QuickTest Professional:QuickTest Professonal が実行されるテスティング・ホスト。</li> <li>Service Test:Service Test が実行されるテスティング・ホスト。</li> </ul>							
					• システム・テスト:システム・テストが実行されるホスト。		
					<ul> <li>Unified Functional Testing: Unified Functional Testing が実行されるテスティング・ホスト。</li> </ul>		
<ul> <li>VAPI XP:VAPI-XP が実行されるテスティング・ホスト。</li> <li>注:</li> </ul>							
				<ul> <li>機能テストにテスティング・ホストを使用するには、テスティング・ホストを ALM に登録する必要があります。詳細については、「HP ALM Lab Serviceの使用」(337ページ)を参照してください。</li> </ul>			
<ul> <li>機能テスティング・ホストを自動選択の対象から除外することが可能です。</li> </ul>							
<ul> <li>特定のユーザにホストを予約し、他のユーザが予約済みホストを選択で きないようにします。</li> </ul>							

パフォーマンス・ホ スト	<ul> <li>Controller:パフォーマンス・テストの管理に使用されるテスティング・ホスト。テストの実行中に、Controllerは、実行するスクリプト、スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数、仮想ユーザの実行の開始時点と停止時点を含む指示をLoad Generatorに発行します。Controllerはテストごとに1つしかありません。</li> </ul>
	<ul> <li>Load Generator: テスト中に仮想ユーザが実行されるテスティング・ホスト。特定のテストに対して任意の数の Load Generator を使用できます。</li> </ul>
	<ul> <li>Data processor:テストの実行中に収集されたデータを処理、公開するために使用されるテスティング・ホスト。</li> </ul>
	<b>注</b> :
	<ul> <li>柔軟性を高めるために(リソースが少ない場合に特に), Controllerと Load Generatorを兼用した1台のパフォーマンス・ホストを割り当てること ができます。一般的に、この方法はお勧めできません。仮想ユーザの数が 非常に少ないテストに対してのみ適しています。ホストの割り当て時に、 システムは、ControllerとLoad Generatorを兼用したホストの前に、単一 機能のホストの使用を試みます。</li> </ul>
	<ul> <li>1台のホストをController, Data processor 兼用として設定することもできますが、データ処理用には別のホストを設定することをお勧めします。</li> </ul>
	<ul> <li>ファイアウォール越しのホストやUNIXホストは、Load Generator専用として使用できます。</li> </ul>

テスティング・ホスト/ホスト・モジュールは、 ラボ管理 プロジェクトとALM プロジェクトの両方で使用できます。

テスティング・ホストの管理に関するタスクの詳細は、「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)を参照 してください。

ホスト・プール

ホスト・プールとは、テスティング・ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。ホ スト・プールを管理する場合、利用可能な総リソースを理解していることが重要です。

パフォーマンス・テストに関連するプロジェクトでプールを使用する場合,そのプールには Controller, Load Generator, Data Processor がそれぞれ1つ以上必要です。ホストには二重の機能を持たせられるため、プールには、他のホストの中でも Controller 機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。

利用可能な場所: ラボ管理のみ。

ホスト・プールの管理に関するタスクの詳細は、「ホスト・プールを管理する方法」(127ページ)を参照してください。

クラウド・アカウント

クラウド・アカウントとは、 クラウド・プロバイダで実際に設定されているアカウントの ラボ管理 バージョンです。

詳細については、「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)を参照してください。

クラウド・テンプレート

クラウド・テンプレートでは、クラウド・ホストの各タイプを示す詳細情報が定義されています。

詳細については、「ホスト・テンプレートの概要」(87ページ)を参照してください。

タイムスロット

テストを実行したり、ホスト・マシンでメンテナンスを実施する場合、これらのタスクに必要なリソースは、利用可能であり、プロジェクトとライセンスの制限範囲内である必要があります。タイムスロット・モジュールでは、タスク実行準備が整ったときに、必要なリソースが利用できるように、事前に確認してリソースを予約できます。

タイムスロットには、テスト・タイムスロットとメンテナンス・タイムスロットの2タイプがあります。

- テスト・タイムスロットを予約すると、機能テストまたはパフォーマンス・テストの実行時に必要なリソースが確保されます。テスト・タイムスロットの予約は、ALM プロジェクトのみで行います。
- メンテナンス・タイムスロットを予約すると、メンテナンスの実行時に必要なリソースが確保されます。メンテナンス・タイムスロットの予約は、 ラボ管理 プロジェクトで行います。

タイムスロットの予約の詳細については、「タイムスロットの予約方法」(130ページ)を参照してください。

## ラボ・リソースの管理

次に、ラボ・リソースの管理ワークフローを示します。





本項では、ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側実行する際に必要になるテスティング・ホストを作成、変更、監視する方法について説明します。

### 注:

- ホスト・モジュールは、ラボ管理とALMで表示されます。ただし、ALMでは「テスティング・ホスト」と表示されます。ここでの説明は、ラボ管理のホスト・モジュールを対象にしたものですが、ほとんどの機能はALMのテスティング・ホスト・モジュールでも使用できます。
- ALM のテスティング・ホスト・モジュールを使用している場合, プロジェクトのホスト・プールに関連 付けられているテスティング・モジュールのみが表示されます。
- 製品の機能紹介ムービー:パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を例示するムービーを表示するには、ALMのメイン・ウィンドウで、[ヘルプ]>[ムービー]を選択します。
- ALM のエディション:機能テスティング・ホストの管理は、ALM Edition のみで実行できます。ALM エディションとその機能の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ ガイド』を参照してください。.使用しているALMのエディションを調べるには、ALM サイト管理者 に問い合わせてください。。

本タスクの内容

- •「テスティング・ホストの追加」(120ページ)
- 「Excel を使用したテスティング・ホストのインポート」(121ページ)
- 「ラボ・リソースの詳細の変更/表示」(125ページ)
- 「テスティング・ホストに対するホスト接続のチェック」(125ページ)
- •「ホストの再起動」(126ページ)
- 「ホストへのパッチのインストール」(126ページ)
- 「ホストの再設定」(126ページ)

- 「パフォーマンス・ホスト上のプロセスの終了」(126ページ)
- 「テスティング・ホストのホスト・プールへのリンク」(126ページ)

テスティング・ホストの追加



機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行するには、テスティング・ホストをALMに追加す る必要があります。テスティング・ホストの概要については、「ラボ・リソースの概要」(116ページ)を参照して ください。

テスト・ラボのホストを ALM に追加するには、次の手順を実行します。

#### 1. 前提条件

次の内容を確認します。

- 必要なテスティング・ツールがテスティング・ホストにインストールされている必要があります。インストール手順については、各テスティング・ツールのドキュメントを参照してください。
- リモートの場所にあるパフォーマンス・テスティング・ホストを追加する場合は、場所を[ラボリソース]>[場所]モジュールに追加する必要があります。タスクの詳細については、「ホストの場所を管理する方法」(128ページ)を参照してください。
- 追加するテスティング・ホストがファイアウォール越しにある場合,ホストは MI Listener 経由でパフォーマンス・ホストと通信します。MI Listener が[ラボリソース]> [MI Listener]モジュールで追加されたことを確認してください。タスクの詳細については、「MI Listenerを管理する方法」(247ページ)を参照してください。
- 機能テスト用にホストを使用する場合、追加するテスティング・ホストに HP ALM Lab Service を インストールしておく必要があります。HP ALM Lab Service をダウンロードしてインストールするに は、[ヘルプ]> [ALM ツール]を選択してツール・アドインページを開き、[HP ALM Lab Service]リンクをクリックしてから、各オペレーティング・システム用のパッケージをダウンロードしま す。HP Lab Service のインストールの詳細については、「HP ALM Lab Service のインストール」 (329ページ)を参照してください。

### 2. 新しいテスティング・ホストの作成

**ヒント:** ホストのインポート機能を使用すると, ホストのリストを Excel ファイルから ALM にイン ポートできます。詳細については,「Excel を使用したテスティング・ホストのインポート」(121ペー ジ)を参照してください。 [**ラボ リソース**]> [**ホスト**]を選択し, [新規テスティングホスト]ボタン をクリックします。 ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[新規テスティングホスト]ダイアログ・ボックス」(150ページ)を参照してください。

**注:** ALM プロジェクト内で作成されたホストは非公開ホストであり, 同時に1つのホスト・プール にしか存在できません。

### 3. テスティング・ホストを登録します。

機能テスティング・ホストを使用するには、セキュリティ上の理由から、HP ALM Lab Service を使用して機能テスティング・ホストを登録する必要があります。テスティング・ホストの登録後、テスティング・ホストの登録は ラボ管理内で承認される必要があります。

テスティング・ホストで[登録自動承認]フィールドをYに設定した場合,ホストは登録時に自動承認されます。[登録自動承認]をNに設定した場合,[ステータス]フィールドを[登録済み]に変更すると登録作業が完了します。

Lab Service でテスティング・ホストを登録する手順の詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(337ページ)を参照してください。

**注:** 互換性を確保するには、Lab Service と接続先のALM サーバが同じバージョンである必要 があります。使用中のLab Service のバージョンがALM サーバと一致しない場合、[ホスト/テス ティングホスト]グリッドでテスティング・ホストが[利用不可]と表示されます。

パフォーマンス・テスト用にクラウドからホストをプロビジョニングする手順は、「クラウド・ホストのプロビジョニン グと終了方法」(99ページ)を参照してください。

### Excel を使用したテスティング・ホストのインポート

ALM または ラボ管理 では, テスティング・ホストのリストを Excel ファイル (.xls または .csv) からインポート できます。

- 1. Excel ファイルが, インポート機能によってそのカラムを認識, マップできるように設定されていることを 確認します。
  - Excel ファイルの最初の行には、次の表に表示されるフィールド名または対応する論理名が含ま れている必要があります。(日付文字列は、大文字と小文字が区別されません。)

フィールドの中には、必須のフィールド、あるいは必要または任意指定のフィールドがあります。

- 必須は、Excel ファイルに必ずなければならないフィールドを示します。このフィールドを省略すると、インポートは失敗します。このフィールドのカラムのいずれかの行で値を省略すると、その特定の行のインポートが失敗します。
- 必要は、Excel ファイルにある必要があるフィールドを示します。このフィールドを省略すると、

コードによってすべての行に標準設定値が入ったフィールドが追加されます。フィールドを指定しても、このカラムのいずれかの行で値を省略すると、コードによってその行に標準設定値が追加されます。

- ・ 任意指定は、Excel ファイルにある必要がないフィールドを示します。このフィールドを省略しても、インポート手順に影響はありません。
- 仮想,参照,無効なフィールドを表すフィールドは無視されます。
- 空のカラムは許可されます。

次のようにファイル内のカラムと値を設定します。

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
HOST_NAME 必須	名前	任意の文字列	テスティング・ホスト・マシンの有効 な名前。
HOST_ PURPOSE	用途	Controller, Load Generator, QTP,	テスティング・ホストの用途。
必須	Sprinter などがあ ます。	Sprinter などがあり ます。	注:オプションの任意の組み 合わせを指定できます。オプ ションは、スペースなしでセミ コロンで区切る必要がありま す。
			例 : Controller; Data Processor; QTP
HOST_STATE	ステータス	○ 稼働中	テスティング・ホストの状態。
必要		○ 非稼働	
		○ 利用不可	
		<b>標準設定値</b> : 稼 働中	

フィールド名	論理名	值	このフィールドの対象
HOST_ INSTALLATION 必要	インストール	<ul> <li>Unified Functional Testing</li> <li>Unix Load Generator</li> <li>Windows Host</li> <li>Windows Standalone LG</li> </ul>	テスティング・ホストのインストール のタイプ。 注:次には、ダブル・スペース があります。 。「Windows <スペース> <スペース> Host」 。「Unix<スペース><スペー ス>Load Generator」
HOST_ PRIORITY 必要	優先度	<ul> <li>1-最低の優先度</li> <li>2,38</li> <li>9-最高優先度</li> <li><b>標準設定値</b>:5</li> </ul>	テスティング・ホストの優先度。
HOST_SSL_ ENABLED 必要	SSL の有効化	○ Y ○ N <b>標準設定値</b> : N	SSL の有効化
HOST_ USERNAME 任意指定	ユーザ名	任意の文字列	テスティング・ホスト へのログインで 使用するユーザ名。
HOST_ PASSWORD 任意指定	パスワード	任意の文字列	テスティング・ホスト へのログインで 使用するユーザ・パスワード。
HOST_ DOMAIN 任意指定	ドメイン	任意の文字列	テスティング・ホストのドメイン。

フィールド名	論理名	值	このフィールドの対象
HOST_ DESCRIPTION	説明	任意の文字列	テスティング・ホストの説明。
任意指定			

次の表に指定したフィールドは, Excel ファイルに含めないでください。各ホストのインポート中に, これらのフィールドには標準設定値が割り当てられます。

フィールド名	割り当てられる標準設定値
所属プール	ー 般 (ALM プロジェクトから追加する場合は、 プロジェクトのプール)
場所	標準設定値
MI Listener	なし

**注:** これらのフィールドのデータが Excel ファイルに含まれている場合, そのデータは無視されます。特定のホストに関連しない標準設定値は, ホスト・モジュールで手動で変更する必要があります。

### 例:

次の図は、2台のAUTホスト (testabc, testhost)と名前が提供されていない3番目のホストによるExcel ファイルの設定を示しています。

0		• (* • 🖨 )	₹ PCHc	stsImport_eg.	xls [Compatib	ility Mode	] - Microsc	oft Excel			x
e	Home	Insert	Page Layout	Formulas	Data Re	eview	/iew Ad	d-Ins		Ø –	x
No	ormal Page Layout Vorkbook View	Show/Hic	Re Zoom 1	00% Zoom to Selection Zoom	Rew Wind Arrange A	dow 📑 III 📑 nes = 🗖 W	다. Alt Sar 관련 Works	ve Swit	ch ws • Macros		
	D36	- (	f <sub>x</sub>								×
	A	В	С	D	E	F	G	Н	1	J	-
1	HOST_NAME	HOST_PURPOSE	HOST_STATE	HOST_INSTALLA TION	HOST_PRIORITY	HOST_SSL_ ENABLED	HOST_USER NAME	HOST_PASS VORD	HOST_DOMAIN	HOST_DESCRIP TION	Â
2	testabo	Load Generator	Operational	Windows Host	3	N				Host number 1	
3	testhost	Controller;Load Generator			8	Y	user	pass	domain		

### 2. 次の手順でテスティング・ホストをインポートします。

a. [**ラボ リソース**]>[**ホスト**]で[**テスティング ホスト**]>[**インポート**]を選択します。

b. ホストを含む Excel ファイルを参照し, [開く]をクリックします。

インポート・プロセスの最後に、レポートにインポート結果が表示され、インポートされたホストがホスト・モジュールにリストされます。正常にインポートされなかったホストは、手動で追加する必要があります。

ラボ・リソースの詳細の変更/表示

[**ラボ リソース**]>[**ホスト**]を選択してからグリッドのテスティング・ホストを選択し, [**テスティング ホストの詳** 細]ボタン をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスティングホストの詳細]ダイアログ・ボックス」(151ページ)を参照してください。

テスティング・ホストに対するホスト接続のチェック

[ラボリソース]>[ホスト]を選択してから、グリッドのテスティング・ホストを右クリックして[ホストの確認]を選択します。

タスク・マネージャが開き,ホスト上で実行された各チェックの結果全体, [成功]または[失敗]が表示されます。

ホスト・チェックの進行状況は,ホスト・モジュールの[ホストのステータスの確認]タブで確認できます。

注:機能ホストで実行可能なテストは、[ホストへの ping]のみです。

	Load Generator ホスト					Data		
実行されるチェック	通常	UNIX	スタンド アロン	OFW	Controller ホスト	Processor ホ スト	機能 ホスト	
ホスト に対する ping	はい	はい	はい	なし	はい	はい	はい	
インストール済みの パッチ	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし	
サービス	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし	
パフォーマンス	はい	なし	なし	なし	はい	はい	なし	
ファイアウォール越し のステータス	なし	なし	なし	はい	なし	なし	なし	

テスティング・ホストの用途と場所に基づいて、次のチェックが実行されます。

あるいは、上記のチェックとともにホストから特定のURLへの追加の接続チェックを実行できます。グリッド内のホストを右クリックし、[URLへの接続性の確認]を選択して、URLを入力します。

### 例:

- 通常のURL:http://www.website.com
- マシン名:machine22またはhttp://machine22

ホストの再起動

[ラボリソース]>[ホスト]を選択し、再起動するホストをグリッド内で右クリックして[ホストの再起動]を 選択します。

ホストへのパッチのインストール

注:

- ホストにパッチをインストールするには、最初にパッチをALMにアップロードしておく必要があります。詳細については、「パッチのALMへのアップロード方法」(275ページ)を参照してください。
- パッチをホストにインストールできるのは、ホストの状態が[アイドル]の場合のみです。
- パッチは、パフォーマンス・ホストにのみインストールできます。

[ラボリソース]> [ホスト]を選択し、パッチをインストールするホストをグリッド内で右クリックして[パッチの インストール]を選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス」(162ページ)を参照してください。

ホストの再設定

注:再設定可能なのはパフォーマンス・ホストのみです。

ホストを再設定すると、ホストのライセンス、Performance Center のシステム・ユーザ (IUSR\_METRO),ホスト・マシンの通信セキュリティ・パスフレーズがリセットされます。

ホストを再設定するには、 [**ラボ リソース**]> [ホスト]を選択します。 グリッド内の再設定するホストを右ク リックし、 [ホストの再設定]を選択します。

パフォーマンス・ホスト上のプロセスの終了

パフォーマンス・ホストでプロセスを終了するには、 [ラボリソース]> [ホスト]を選択します。ホストを選択

し, [プロセス]タブでプロセスを選択して, 送をクリックします。

テスティング・ホストのホスト・プールへのリンク

注:ホスト・プール管理は、ラボ管理でのみ使用できます。

次のいずれかの方法で、ラボ管理でホスト・プールを設定できます。

- ホスト・モジュールからの場合:1つまたは複数のホスト・プールにテスティング・ホストをリンクできます。
- プール・モジュールからの場合: 各ホスト・プールに1つまたは複数のテスティング・ホストをリンクできま

す。詳細については、「ホスト・プールを管理する方法」(127ページ)を参照してください。

**ホスト・モジュー**ルからテスティング・ホストを1つまたは複数のホスト・プールにリンクするには、次の手順を実行します。

- 1. [**ラボ リソース**]>[**ホスト**]を選択します。
- 2. グリッドのホストを右クリックし, [テスティング ホストの詳細]を選択します。
- 3. [所属プール]の横にある下向き矢印をクリックし、ホストを含めるプールを選択します。[OK]をクリックします。

### ホスト・プールを管理する方法



本項では、ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行する際に、使用するテスティング・ホストのプールを管理する方法について説明します。

**注: 製品の機能紹介ムービー**:パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を 例示するムービーを表示するには、ALMのメイン・ウィンドウで、[ヘルプ]>[ムービー]を選択しま す。

#### 本タスクの内容

- •「ホスト・プールの追加」(127ページ)
- 「ホスト・プールの詳細の変更/表示」(128ページ)
- 「ホストのホスト・プールへのリンク」(128ページ)

### ホスト・プールの追加

ALM でサーバ側テストを設計および実行するには、テスティング・ホストをホスト・プールに追加し、ホスト・ プールをプロジェクトに割り当てる必要があります。ホスト・プールの概要については、「ラボ・リソースの概 要」(116ページ)を参照してください。テスティング・ホストの作成の詳細については、「テスティング・ホストの 管理方法」(119ページ)を参照してください。

ホスト・プールを追加するには、次の手順を実行します。

- 1. [**ラボ リソース**]>[**プール**]を選択します。
- 2. [新規ホスト プール]ボタン をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規ホ スト プール]ダイアログ・ボックス」(165ページ)を参照してください。

ホスト・プールの詳細の変更/表示

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス」(166ページ)を参照してください。

ホストのホスト・プールへのリンク

**プール・**モジュールから1つまたは複数のホストを1つのホスト・プールにリンクするには、次の手順を実行します。

- 1. [**ラボ リソース**]>[**プール**]を選択します。
- 2. グリッド内のホスト・プールを選択します。
- 3. [リンクされたホスト]タブで, [ホストをプールに追加] 4 をクリックします。 グリッド からホストを選択し, [追加]をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされたホスト]ページ」(169ページ)を参照してください。

### ホストの場所を管理する方法



本項では、ALM で機能テストおよびパフォーマンス・テストをサーバ側で実行する際に使用するテスティング・ホストの場所を管理する方法について説明します。

注:

• 新しいクラウド・アカウントを ALM に追加すると、クラウドの場所が自動的に作成されます。 クラウドの場所は読み取り専用です。

製品の機能紹介ムービー:パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を例示するムービーを表示するには、ALMのメイン・ウィンドウで、[ヘルプ]>[ムービー]を選択します。

#### 本タスクの内容

- 「ホストの場所の追加」(129ページ)
- •「ホストの場所の詳細の変更/表示」(129ページ)
- •「ホストへのホストの場所の割り当て」(129ページ)

### ホストの場所の追加

場所に基づいてテスティング・ホストを管理するには、場所モジュールでホストの場所エンティティを作成します。ホストの場所の概要については、「ラボ・リソースの概要」(116ページ)を参照してください。テスティング・ホストの作成の詳細については、「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)を参照してください。

ホストの場所を追加するには、次の手順を実行します。

- 1. [ラボリソース]>[場所]を選択します。
- 2. [新規ホストの場所]ボタン をクリックします。 ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[新規ホストの場所]ダイアログ・ボックス」(172ページ)を参照してください。

ホストの場所の詳細の変更/表示

[**ラボ リソース**]>[**場所**]を選択してからグリッド内でホストの場所を選択し、[ホストの場所の詳細]ボタン

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス」(173ページ)を参照してください。

### ホストへのホストの場所の割り当て

場所をホストに割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1. [**ラボ リソース**]> [**ホスト**]を選 択します。
- 2. グリッドでテスティング・ホストを選択して、 [テスティングホストの詳細]ボタン 建たクリックします。
- 3. [テスティング ホスト]ダイアログ・ボックスが開いたら, [場所]フィールドで場所を選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスティングホストの詳細]ダイアログ・ボックス」(151ページ)を参照してください。



このタスクでは、メンテナンス・タスクを実行するホストの予約方法を説明します。

注:

- このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。
- テスティング・ホストの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
- メンテナンス・タイムスロットの作成
   a. ラボ管理サイドバーの[ホスト]で、[タイムスロット]を選択します。
  - b. タイムスロットのツールバーで, [新規メンテナンス タイムスロット] <sup>11</sup>ボタンをクリックします。
  - c. タイムスロットの詳細を入力し、ホストを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、 「[タイムスロットの予約:メンテナンス]ダイアログ・ボックス」(174ページ)を参照してください。
- 2. 要求されたホストの可用性の確認

次のいずれかを行います。

(推奨)[可用性の計算]をクリックします。システムにより、選択したタイムスロットに要求したホストの可用性が確認されます。この計算の結果は、[タイムスロットのステータス]タブに表示され、リソース可用性予定表に視覚的に表示されます。可用性予定表には、要求されたホストを予約できるタイムスロットがすべて表示されます。要求されたホストを選択したタイムスロットで予約できない場合でも、他のタイムスロットでは利用できることがあります。

タイムスロットを予約できない場合,ホストを再度選択するときに, [タイムスロットのステータス]タブに表示された理由を検討します。タイムスロットを予約できない場合, [送信]をクリックして,タイムスロットを保存できます。

たとえば、15:00から1時間,特定のホストを要求する場合は、[可用性の計算]をクリックします。可用性予定表から、17:00~21:00はすでに予約されていることがわかります。したがって、 15:00~16:00のタイムスロットを選択するか、21:00以降のタイムスロットを選択できます。[タイム スロットのステータス]タブでは、予約可能なタイムスロットが表示されます。 [送信]をクリックします。システムにより、選択したタイムスロットに要求したホストの可用性が計算されます。すべてのホストが利用可能な場合、[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックスが閉じ、タイムスロットが予約され、タイムスロット・モジュールに表示されます。タイムスロットが予約できない場合、[タイムスロットのステータス]タブに理由が表示されます。

**注**: メンテナンスに予約しようとしているホストがまだ開始してない別のタイムスロットに予約されていて、メンテナンス・タスクを遅延できない場合は、まず他のタイムスロットを予約したユーザに相談してください。そのユーザが同意した場合は、他のタイムスロットの開始時刻を移動するか、適宜削除します。

## メンテナンス・タイムスロット のスケジュール - 管理者のユース・ケー ス

Paul は、Mercury Tours のデータセンターでシステム管理者を務めています。システム管理者になって3 年が経過し、サーバ・ラボの管理も担当しています。Mercury Tours は ALM を使用してプロジェクトを管 理しており、昨年、サーバ・ラボのテスティング・ホストの管理にラボ管理を使用することを決定しました。

テスティング・ホストが正常稼働することを確認することは Paul の職務であり, ラボ管理を使用してサーバの保守を行っています。 Paul は, テスティング・ホストを個々に保守できるようにメンテナンス・タイムスロットのスケジュールを設定しており, 次のチェックリストを使ってタイムスロットを計画します。

- ・ メンテナンス・タイムスロットのスケジュール設定の前提条件
- 自分のメンテナンス・タイムスロットの新規作成
- タイムスロット内でのメンテナンス・タスクの実行

Paul は, 今日のメンテナンス・タイムスロットをスケジュール設定し, 一部のホストを安全にシャットダウンして新しいハードウェアをインストールしようとしています。チェックリストを使用して, 作業を開始します。

### メンテナンス・タイムスロットのスケジュール設定の前提条件

Paul は、ラボ管理が正常に稼働しており、テスティング・ホストがすべて登録済みで使用可能な状態であることを確認します。

### 自分のメンテナンス・タイムスロットの新規作成

Paul は LM で[**テスト**]> [**タイムスロット**]を選択します。[タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックスが開きます。

ホストを予約します。			維続時間	0 0 0	1월 20 1 1 1	9. (m.)
					a. 00 + /	70 (10)
			開始時刻:	2014年02月14	✓ 15:30	~
			終了時刻:	2014年02月14	✓ 16:00	~
	+ ~ 社等					
◎ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	王の計算	_				
2014-4-27314E パティ 10:00 11:	00 12:00	13:00 14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
			0		_	
		■可用性が計算さ	れていません			
🗙 リソースが不足しています 🌙	💂 ライセンス/プロジェクト・	の最大数 🕜 不明 📕	リソースが利用できませ	(h)		
兑明						
要求されたリソースが利用可能であ	5ることを確認するため、[す	「用性の計算」をクリックしてくだ	ວັເນ.			
	<ul> <li>2014年3月14日</li> <li>2014年3月14日</li> <li>2014年3月14日</li> <li>2014年3月14日</li> <li>2014年3月14日</li> <li>2014年3月14日</li> <li>2015年3月14日</li> <li>2015年3月14日<td><ul> <li>● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●</li></ul></td><td></td><td></td><td>マロ・マンボマンドド           2014年3月14日           177         10:00         11:00         12:00         13:00         14:00         16:00         16:00           回可用性が計算されていません           (1) リソースが不足しています         (2) ライセンス/ブロジェクトの最大数         (2) 不明         リソースが利用できません           (1) リソースが利用可能であることを確認するため、[可用性の計量]をクリックしてください。</td><td>マロロ・マンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパー</td></li></ul>	<ul> <li>● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●</li></ul>			マロ・マンボマンドド           2014年3月14日           177         10:00         11:00         12:00         13:00         14:00         16:00         16:00           回可用性が計算されていません           (1) リソースが不足しています         (2) ライセンス/ブロジェクトの最大数         (2) 不明         リソースが利用できません           (1) リソースが利用可能であることを確認するため、[可用性の計量]をクリックしてください。	マロロ・マンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパーマンパー

**参照**: 「[タイムスロットの予約:メンテナンス]ダイアログ・ボックス」(174ページ)

Paul は, [タイムスロットの予約]フィールドに次の内容を入力します。

- 名前: Mercury Tours ホスト再起動
- 継続時間:1時間 30 分
- 開始時刻: 10/12/2012, 14:00
- 終了時刻: 10/12/2012, 15:30 10/12/2012, 15:30

Paul は[特定のホストの追加]ボタンをクリックし, 再起動するホストを選択します。

タイムスロットの詳細を再度確認してから、 [送信]をクリックします。 すると、 エラー・メッセージが表示されました。



Paul は, [タイムスロットの予約]ダイアログ・ボックスの下にある[タイムスロットのステータス]タブを確認します。

### 🔏 タイムスロットを予約できません。

次のホストは既に使用中です: mercurytours\_lab2

メッセージには, mercurytours\_lab2 ホスト (再起動するために予約していたテスティング・ホストの1つ) が指定のタイムスロットですでに予約されておりことが表示されています。この競合を解消しないと、メンテ ナンス用にホストを予約することはできません。

Paul が選択できるのは,別のタイミングでメンテナンスを行う方法と,テスティング・タイムスロットの所有者 に連絡してテスティング・タイムスロットの移動を依頼する方法のいずれかです。

Paul がテスト担当者の名前を確認したところ、テスティング・タイムスロットを予約したのは John であること がわかりました。John は仲の良い友人です。電話で連絡し、テスティング・タイムスロットを 16:00 に変更 できないか尋ねたところ、快く応じてくれました。

Paul はテスティング・タイムスロットを開き, 開始時間を変更しました。これにより, メンテナンス・タイムスロットを 14:00 に予約 することができました。

8 97L	スロットの予約									×
実行 🗍	Maintenance	~ 開始: ≞	戶動	~	名前:	Mercury Tour	rs host reboot			
手動メン	テナンス操作のためにポストを	予約します。					維続時間; 開始時刻; 終了時刻;	1 時間 2014年02月18 2014年02月18	30 v 分 v 14:00 v 15:30	
局 特別	主の木ストの追加 🗗 編	# 🗙 🕼 🔳	可用性の計算							
要求され	ሪቱአ	2014年2	月18日							
<b>ホ</b> ストタ	イナ ナロパティ	11:00	12:00	13:00	14:00	15:0	0 16:00	17:00	18:00	19:
		~ ~ ~	/ / / / / .							//
Host	mercurytours	_lab1								
Host	mercurytours	_lab2								
Host	mercurytours	_lab3								
Host	mercurytours	_lab4								
<ul> <li>✔ 間続時刻 × リソースが不足しています</li></ul>										
							送信	キャンセル(C)	()∀(	H)

### タイムスロット内でのメンテナンス・タスクの実行

14:00 になると, Paul はサーバ・ラボ内のテスティング・ホストをシャット ダウンし, 新しいハード ウェアをインストールします。 作業が完了したら, サーバを再起動してテストします。 完了までに1時間しかかからなかったので, タイムスロットの終了時間には十分間に合います。

# ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン	135
ホスト・モジュール	.141
プール・モジュール	163
場所モジュール	.170
タイムスロット・モジュール	.174

# ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン

ラボ・リソース・モジュールを使用すると、テスト実行に使用するラボ・リソースを管理できます。

重要な情報	<ul> <li>一部のリソースは、ラボ管理でのみ使用できます。管理者権限を持つユーザのみ、これらのリソースを管理できます。</li> </ul>
	<ul> <li>ラボ管理の管理者以外のユーザは、自身のプロジェクトに属するホストの詳細とホスト・プールの詳細の表示、ホストの再設定、再起動、ホスト上でのホスト接続のチェックを行うことができます。</li> </ul>
	<ul> <li>このトピックは、次のラボ・リソース・モジュールのすべてに関連します。</li> </ul>
	■ ホスト
	■ プール
	■ 場所
	■ MI Listener ( <b>Performance Center</b> グループで利用可能)
	これらすべてのリソースは, 通常, <リソース> として参照されます。
関連タスク	「ラボ・リソースの管理」(118ページ)

ラボ・リソース・モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI要素	場所	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI要素	場所	説明
登録の承認	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	テスティング・ホストの登録を承認できます。 これにより、テスト実行にそのホストが使用で きるようになります。
		注: <ul> <li>選択したホストの[登録自動承認] フィールドが「Y」の場合,このボタン は無効になります。</li> <li>このボタンはラボ管理のみで表示されます。ホストの追加に使用したプロジェクトには関係しません。</li> </ul>
自動更新	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	グリッドを30秒ごとに自動更新します。
ୖ⊚ URL への接続性の確認	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	[ホストの確認]ボタンと同じチェック,任意の 指定された URL への接続性のチェックを実 行します。
☆ ホストの確認・	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	機能ホストの場合,選択したテスティング・ホ ストに有効な用途が関連付けられているか どうかをチェックします。検証チェックの結果 は、[タスクマネージャ]ダイアログ・ボックスに 表示されます。 パフォーマンス・ホストの場合,選択したホス トとシステム内の他のマシン間の接続性を チェックします。
Data Processor キュー	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	[Data Processor キュー] ウィンド ウが開き, 保留中のデータ処理要求を表示できます。 注: パフォーマンスのためのホストでのみ 使用できます。
削除	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッド内の選択したリソースを削除します。 <b>注:</b> ホストが使用中のMIListenerは、 削除できません。

UI要素	場所	説明
<リソース> の詳細	ツールバーと右ク リック・メニュー	[<リソース> の詳細]ダイアログ・ボックスが開き,選択したリソースの詳細を表示,編集 できます。
エクスポート	ツールバーと<右 クリック・メニュー>	<ul> <li>[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイア ログ・ボックスが開き、リソースを、テキスト・ ファイル、Microsoft Excel ワークシート、 Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメ ントとしてエクスポートできます。</li> <li>次のいずれかのオプションを選択します。</li> <li>すべてエクスポート:グリッドのすべてのリ ソースをエクスポートします。</li> <li>選択項目のエクスポート:グリッド内で選 択したリソースをエクスポートします。</li> </ul>
検索 Q	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き, モジュー ルでリソースを検索できます。検索オプション の詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。
<リソース> に移動	ツールバー	[<リソース> に移動]ダイアログ・ボックスが開 き, ID 番号で特定のリソースを検索できま す。現在のフィルタ内のリソースにのみ移動 できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータ をフィルタ処理できます。フィルタ処理オプショ ンの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。
ホスト・プロビジョニング・レポート	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	選択したクラウド・ホストのプロビジョニング・レ ポートを表示します。詳細については、「ホス ト・プロビジョニング・レポート」(107ページ)を 参照してください。複数のホストを選択した 場合やクラウド・ホスト以外を選択した場 合、このオプションは無効になります。
インポート	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	lab ホストのリストを Excel ファイル (.xls また は .csv) から ALM (.xls または .csv 形 式 ) に インポートできます。

UI要素	場所	説明
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル] を表示/非表示にします。
	ホスト・モジュール	[パッチのインストール]ダイアログ・ボックスが 開き,選択したホストにインストールするパッ チを選択できます。詳細については、「[イン ストールするパッチの選択]ダイアログ・ボック ス」(162ページ)を参照してください。
		<ul> <li>注:</li> <li>Controller ホストとLoad Generator ホストが[実行中]状態の場合,こ れらのホスト上でパッチのインストー ル機能は使用できません。これらの ホストがアイドル時にのみ、パッチを インストールできます。</li> <li>この機能は、ALM 認定パッチのイン ストールのみに使用してください。</li> <li>パフォーマンスのためのホストでのみ 使用できます。</li> </ul>
		利用可能な場所: ラボ管理のみ。
最終プロビジョニング・レポート	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	最後にプロビジョニングしたクラウド・ホストの プロビジョニング・レポートを表示します。詳 細については、「ホスト・プロビジョニング・レ ポート」(107ページ)を参照してください。
新規<リソース> *	ツールバー	リソースを追加 できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザー ズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入り ビューのリストを表示します。

UI 要素	場所	説明
プロビジョニング 📩	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	クラウド・ホストのプロビジョニングを行います。 詳細については、「クラウド・ホストのプロビ ジョニングと終了方法」(99ページ)を参照して ください。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入り ビューのリストを表示します。
提 クイック フィルタ: 🗸 🗸	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	クイック・ビューとは, ホスト・グリッド で事 前 定 義 されているフィルタです。 次 のクイック・ ビューを利 用 できます。
		<ul> <li>すべてのホスト: すべてのホストを表示します。このビューには、クラウド、ローカル、パフォーマンス、機能の各種ホストが含まれます。</li> </ul>
		<ul> <li>機能テスティング・ホスト: UFT, Service Test Professional, Business Process Testing, システム・テスト, VAPI-XP 用 のホストをすべて表示します。</li> </ul>
		・ すべてのパフォーマンス・テスティング・ホス ト: Controller, Data Processor, Load Generator 用のホストをすべて表示しま す。このビューには、クラウド・ホストとロー カル・ホストが両方含まれます。
		<ul> <li>ローカル・パフォーマンス・テスティング・ホス</li> <li>ト:ローカルのパフォーマンス・テスティング・ ホストをすべて表示します。</li> </ul>
		• <b>クラウド Load Generator</b> : クラウド Load Generator をすべて表 示します。

UI 要素	場所	説明
○ ホストの再起動	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	<ul> <li>リモートでホスト・マシンを再起動できます。</li> <li>注: <ul> <li>Controller ホストとLoad Generator ホストは、[実行中]状態の場合、 再起動できません。アイドル時にの み、これらのホストを再起動できま す。</li> <li>UNIX Load Generator ホストは再起 動できません。</li> <li>パフォーマンスのためのホストでのみ 使用できます。</li> </ul> </li> </ul>
🦻 ホストの再設定	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	<ul> <li>選択したホスト・マシンの次の項目をリセットします。</li> <li>ホスト・ライセンス</li> <li>システム・ユーザ(IUSR_METRO)</li> <li>通信セキュリティ・パスフレーズ</li> </ul> 注: <ul> <li>一度に1つのホストのみ再設定できます。</li> <li>パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</li> </ul>
すべて更新 <i>©</i>	表示	最新の情報が表示されるように, グリッドを 更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッドに <置換>ダイアログ・ボックスを開き、 グリッド のフィールド の値を置き換えることができます。詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザー ズ・ガイド』を参照してください。

UI要素	場所	説明
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グ リッドに表示するフィールドとその順序を指定 できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。
フィルタ/ソートの設定	表示	グリッド内のリソースに対してフィルタとソート を実行できます。現在適用されているフィル タとソート順序があれば、ツールバーの下に 表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザー ズ・ガイド』を参照してください。
クラウド・サマリ・パネルの表示	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	ホスト・グリッドの上に[クラウド サマリ]パネル を表示します。
登録解除	ホスト/テスティン グ・ホスト・モ ジュール	テスティング・ホストの登録を解除できます。 これにより, テスト実行にそのホストが使用で きなくなります。
選択項目の更新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開 きます。 グリッドで選択した複数のフィールド 値を更新できます。 詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザー ズ・ガイド』を参照してください。

## ホスト・モジュール

ホスト/テスティング・ホスト・モジュールのウィンドウ	
ホストのフィールド	
[新規テスティングホスト]ダイアログ・ボックス	
[テスティング ホストの詳 細]ダイアログ・ボックス	
イベント・ログ	
[プロセス]ページ	
[サービス]ページ	
[ホストのステータスの確認]ページ	
[ファイアウォール越し]ページ	
[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス	

## ホスト/テスティング・ホスト・モジュールのウィンドウ

このモジュールを使用すると、テスト実行に使用するホストを表示および管理できます。

テスティング ホスト	編集 表示 お気(2	入り(F)				
* 🛎 📑 🗙	o g 🛛 - 🕅	限 クイック フィルタ:		<ul> <li>Q</li> <li>ホスト</li> </ul>	操作 ▼	
フィルタ定義なし						
クラウド ホストのサマ	リ: 合計 0個	<u>0</u> 個はプロビジョニ)	ング中 🧕 個は利	用不可または非稼働	0個は使用可能	ë ×
ソース	名前/IP	ステータス	登録ステータス	所属ブール	用途	場所
🖳 ۵–カル	<u>16.147.111.91</u>	📀 稼働中		General	Controller;Data P	Default
					. 82   +2102.	× × م ده .=
10,000 1000 B	מערידער עם	PG コン   1ン	ストール済みのノロシ	אשטי אלי	-67   #71607	テーダスの ( 🍨
BIUA	≝ ≣ •	I   0¶ ¶4   9	@ ⊞ *>   ۹	<b>Q</b>		

アクセス方 法	<b>ラボ管理</b> :サイドバーの[ <b>ラボリソース</b> ]で, <b>[ホスト</b> ]を選択します。 ALM:サイドバーの[ <b>ラボリソース</b> ]で, <b>[テスティングホスト</b> ]を選択します。
重要な情報	ー部の要素は、パフォーマンス・ホストでのみ表示されます。 ラボ管理:ホスト・モジュールによって、利用可能なすべてのホストのリストが表示されます。
	ALM: テスティング・ホスト・モジュールによって、プロジェクトのホスト・プール内のすべ てのホストのリストが表示されます。 ALM のエディション:機能テスティング・ホスト管理に関連する一部の機能は ALM Editionにのみ利用できます。ALM エディションとその機能の詳細につい ては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照し てください。使用している ALM のエディションを調べるには、ALM サイト管理 者に問い合わせてください。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ホスト・モジュー ルの共通の UI 要素 >	<ul> <li>ホスト・モジュールのフィールド:フィールドの定義については、「ホストのフィールド」(144ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>ホスト・モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「ラボ・ リソース・モジュールのメニューとボタン」(135ページ)を参照してください。</li> </ul>
くクラウド・サマ リ・パネル>	クラウド・ホストのサマリ情報を, ステータスとホストの状態ごとに表示します。ステー タス/ホストの状態の横にある数値をクリックすると, そのステータス/ホストの状態に 基づいてホスト・グリッドをフィルタ処理できます。
	<b>[クラウド サマリ]パネルを表示</b> :[クラウド]メニューで[ <b>クラウド サマリ パネルの表</b> 示]を選択します。
	[クラウド サマリ]パネルを閉じる:表示枠の右にあるXボタンをクリックします。
<ホスト・グリッド>	ALM 内のホストのリストを表示します。
[説明]タブ	現在選択されているホストについての説明が表示されます。
	<b>ヒント:</b> この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックの ツールバーが表示されます。
[イベント ログ]タ ブ	選択したホストで実行されているタスク,操作のステータス,エラーの説明に関する 詳細情報を表示します。詳細については,「イベント・ログ」(154ページ)を参照し てください。
[インストール済 みの PC コンポー ネント]タブ	ホスト・マシンにインストールされている PC コンポーネント (バージョンとパッチを含む) のリストを表示します。
	<b>注:</b> パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
	グリッドを更新するには、
[インストール済 みのプログラム]タ ブ	ホスト・マシンにインストールされているすべてのプログラムのリストを表示します。詳細には、バージョン、ソフトウェアの発行元、ホスト・マシンにインストールされた日 付が含まれます。
	注:パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
	グリッドを更新するには、 🥙 をクリックします。

UI要素	説明
[プロセス]タブ	選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。
	注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
	詳細については、「[プロセス]ページ」(156ページ)を参照してください。
[サービス]タブ	ホスト・マシンで実行中のサービスを表示します。
	注: パフォーマンスのためのホスト でのみ使用 できます。
	詳細については、「[サービス]ページ」(157ページ)を参照してください。
[ホストのステータ スの確認]タブ	ホストの確認の各ステップのステータスを表示します。ホストの確認のステータスの 詳細を表示するには、 [ホストのステータスの確認]タブの行を右クリックし、 [ホスト ステータスの詳細の確認]を選択します。詳細については、 「ホストのステータスの 確認のフィールド」(159ページ)を参照してください。
[PC 実行]タブ	選択したホストで実行されているテスト実行に関する詳細情報を表示します。詳細については、「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(180ページ)を参照してください。
[ファイアウ <del>ォー</del> ル 越し]タブ	ファイアウォール越しのホストの場合,ファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。詳細については、「[ファイアウォール越し]ページ」(160ページ)を参照してください。
	注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
[履歴]タブ	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド 』を参照してください。

## ホストのフィールド

本項では, ホストのフィールドについて説明します。 ラボ管理で, プライベート・ホストおよびパブリック・ホストのフィールドを変更できます。 ALM では, プライベート・ホストのフィールドのみが変更できます。

フィールド	説明
アクティブなタイム スロット ID	このホストが予約されていて、現在開いているタイムスロットのID。
フィールド	説明
---------------------	--
所属プール	ホストの割り当て先のホスト・プール。
	ホスト・プールを使用すると、どのホストをどのホスト・プールに割り当てるかを制御 できます。テスト用のホストを割り当てる場合、システムでは、プロジェクトのホスト・ プールからホストを割り当てます。ホストは少なくとも1つのプールに割り当てる必 要があります。
	注: プライベート・ホストは、1つのプールにしか割り当てできません。
	<b>利用可能な場所</b> : ラボ管理のみ。
クラウド・アカウン ト	ホストのプロビジョニングで使用したクラウド・アカウントの名前。
クラウド・ホスト ID	クラウド・プロバイダがホストに割り当てる一意のID。
クラウド・イメージ	クラウド・ホストに適用するマシン・イメージ。
クラウド・インスタ ンス・タイプ	クラウド・ホストのインスタンス・タイプ。
クラウド要求 ID	単一のプロビジョニング要求を示すクラウド・プロバイダのID。 プロビジョニング要求 には、対象となるホストのバッチがすべて含まれます。 バッチにはそれぞれのクラウド 要求項目 ID が割り当てられています。
	<b>ヒント:</b> クラウド 要 求 ID でフィルタ処 理 すると, あるプロビジョニング要 求 でプロ ビジョニングされたホストがすべて表 示 されます。
クラウド要求項 目 ID	プロビジョニング要求に含まれるホストのバッチに割り当てられたクラウド・プロバイダ ID。バッチ内のホストは、仕様と設定がすべて同じです。
	<b>ヒント</b> : クラウド要求項目 ID でフィルタ処理すると、あるホスト・バッチでプロビ ジョニングされたホストがすべて表示されます。
クラウド・テンプ レート	ホストのプロビジョニングに使用したホスト・テンプレート。ホスト・テンプレートを変更 しても,そのテンプレートを元にプロビジョニングを行った既存のホストには影響しま せん。
プロジェクト で作 成	ホストが作成されたプロジェクト。 プライベート・ホストなど、 ラボ管理内のすべてのホストを変更できます。 ALM では、 プロジェクトのプール内のプライベート・ホストのみを作成し、 変更できます。 注: ラボ管理でのみ表示できます。

フィールド	説明
説明	ホストの説明。
SSL の有効化	Load Generator ホストとController との通信をSSL (Secure Socket Layer) 経由 で行うかどうかを示します。
	<b>注:</b> Load Generator は, 実行時にのみ SSL を使用して Controller と通信します。 実行時以外の機能 (結果の照合など)では, Load Generator は通信 プロトコルとして SSL を使用しません。
	ファイアウォール越しの Load Generator ホストにのみ関連します。
自動適合から除 外	このフィールドをYに設定すると,自動適合でホストを選択できなくなります。ホス トを選択するには,名前を指定する必要があります。
	この設定は、機能ホストのみに適用されます。
ホスト属性	ホストのシステム属性。
	例:メモリ,強度,インストールされているコンポーネント。
	<b>ヒント:</b> ホスト属性は ラボ管理 でカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
ホスト ID	ホストのID。
ホストの状態	ホスト上の現在のアクティビティ。
	• アイドル:ホストが使用されていないことを示します。
	• インストール中:パッチをホストにインストール中であることを示します。
	• 再起動中:ホストを再起動中であることを示します。
	<ul> <li>&lt;実行状態&gt;:パフォーマンス・テストの実行中のホストの状態を示します。</li> </ul>
	• <データ処理の状態>:データ処理タスク中のホストの状態を示します。
	<ul> <li>くプロビジョニング状態&gt;: クラウド・ホストのプロビジョニング・ステータスを示します。ホストのプロビジョニングが完了すると、[ホストの状態]は「アイドル」になります。</li> </ul>

フィールド	説明
ホスト・バージョン	テスティング・ホストにインストールされている Lab Service エージェントのバージョン。
	注意: テスティング・ホストにインストールされている Lab Service エージェントと ALM サーバのバージョンが異なる場合,テスティング・ホストのステータスは[利 用不可]になり,サーバ側のテストを実行できなくなります。テスティング・ホスト を使用可能な状態に戻すには,Lab Service エージェントを最新バージョンに アップグレードし,テスティング・ホスト・グリッドでステータスを[稼働中]にリセット します。
インストール	ホストのインストール・タイプ。
	次のタイプを利用できます。
	<ul> <li>Windows UFT: このホストに Unified Functional Testing がインストールされていることを示します。</li> </ul>
	HP Unified Functional Testing (UFT) は,以前はHP QuickTest Professional とHP Service Test と呼ばれていた製品で構成されています。
	■ QuickTestの機能は、UFT ではGUI テストと呼ばれます。
	■ Service Test の機能は、UFT では API テストと呼ばれます。
	<b>注</b> : [Windows UFT]を選択すると、Service Test とQTP が標準設定の 用途として選択されます。Windows UFT のインストールでは、この標準 設定の用途を1つ以上含める必要があります。
	<ul> <li>Unix Load Generator:このUnix ホストを,パフォーマンス・テストでLoad Generator として使用することを示します。</li> </ul>
	<ul> <li>Windows ホスト: この Windows ホストは、パフォーマンス・テスト (Controller, Load Generator, Data Processor) または汎用機能テスト (システム・テスト, Vapi-XP など)で使用可能であることを示します。</li> </ul>
	• Windows Standalone LG: この Windows ホストを, パフォーマンス・テスト でス タンドアロン Load Generator として使用することを示します。
	注:既存のホストのこのフィールドは変更できません。
最終設定チェック	実行済みの最後の設定チェック。
最終接続性 チェック	実行済みの最後の接続チェック。

フィールド	説明
最終インストー ル・チェック	実行済みの最後のインストール・チェック。
最終パフォーマン ス・チェック	実行済みの最後のパフォーマンス・チェック。
最終ポーリング時 刻	実行済みの最後のポーリング時刻。
最終回復時刻	ホストのステータスが「稼働中」に復帰した最終時刻。ホストが稼働できない状態 になると、ALM はホストの状態を「非稼働」に変更します。その後、稼働状態に 復帰すると、ALM はステータスを「稼働中」に変更し、 [最終回復時刻] フィール ドをタイムスタンプで更新します。
最終実行のタイ ムスロット ID	ホスト上でパフォーマンス・テストまたはデータ処理が行われたタイムスロットのID。
場所	ホストの場所。たとえば、物理的領域に従って場所を定義できます。
	場所によって, ホストがファイアウォール越しにあるかどうかも判断できます。 ファイア ウォール越しにある場合, データ収集を有効にする MI Listener を選択する必要 があります。
論理名	ホストの名前または IP アドレス。
名前/IP	ホストの名前または IP アドレス。
	注:ホスト名は、サフィックスを付けずに入力します。
パスワード	ホスト・マシン上のPerformance Center システム・ユーザのパスワード。
	標準設定值: P3rfoRm@1nce
	注:
	<ul> <li>Performance Center システム・ユーザの名前とパスワードは、UNIX ホスト、以前のバージョンの Performance Center から移行されたホストでのみ表示されます。</li> <li>新たに追加された Windows ホストのシステム・ユーザの名前とパスワード(ここでは詳細は表示されません)は、残りの Performance Center システムのシステム・ユーザの名前とパスワードと同じです。</li> </ul>
MI Listener	データ収集を可能にする MI Listenerの IP アドレスまたは名前。
	ファイアウォール越しのホストにのみ関連します。

フィールド	説明
優先度	ホストに割り当てられているランク。ホストに指定する優先度が高いほど、そのホストがテストに割り当てられる可能性が高くなります。優先度の割り当てでは、さま ざまな条件を考慮する必要があります。主な考慮点は、ホストが専用マシンかど うか、そのマシンにインストールされているハードウェアのタイプです。
プロバイダの場所 ID	クラウド・ホストのプロビジョニングに使用した領域。
用途	ホスト上で使用できるテスト・ツール。たとえば、Controller、Load Generator、Data Processor、QuickTest Professional、Sprinter などがあります。
	注:
	<ul> <li>ホスト・マシンがファイアウォール越しに配置されている場合、またはUNIX マシンである場合、ControllerまたはData Processorとして使用すること はできません。</li> </ul>
	<ul> <li>インストール・オプションとして[Windows Standalone LG]または[Unix Load Generator]を選択した場合,ホストの用途として[Load Generator]が自動的に選択され,他のオプションは無効になります。</li> </ul>
登録自動承認	テスティング・ホストが HP ALM Lab Service による登録後に自動承認されたかどう かを示します。
	詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(337ページ)を参照してください。
登録要求日	新しく追加したテスティング・ホストからALM がホスト登録要求を受信した日時。
登録要求詳細	登録要求を送信したホストに関する詳細情報。
登録ス <del>テー</del> タス	ホストの登録のステータス。テスト用のホストを使用するには、最初に HP ALM Lab Serviceを使用してホストを登録する必要があり、ホストはラボ管理のラボ管 理者によって承認する必要があります。
	詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(337ページ)を参照してください。
	<b>注: [登録ステータス</b> ]が[未登録]の場合, ホストの[ステータス]を「稼働中」 に変更することはできません。
ユーザ用に予約	このホストへのアクセスが許可されるユーザです。
	この設定は、機能ホストのみに適用されます。

フィールド	説明
ソース	テスティング・ホストのソース。
	ローカル:ホストはテスティング・ラボ内にあります。
	<b>クラウド</b> :ホストはクラウド・プロバイダからプロビジョニングされています。
ステータス	ホストのステータス。ホスト名の横に表示される,現在のステータスを示すインジ ケータ。
	可能性のあるステータスは次のとおりです。
	• 稼働中:ホスト・マシンは稼働しています。
	<ul> <li>非稼働:ホスト・マシンはダウンしています。</li> </ul>
	•利用不可:ホストのステータスに関して利用可能な情報はありません。
ユーザ名	ホスト・マシン上のシステム・ユーザの名前。
	標準設定值:IUSR_METRO
	注:
	<ul> <li>システム・ユーザの名前とパスワードは、UNIXホスト、以前のバージョンの ラボ管理から移行されたホストでのみ表示されます。</li> </ul>
	<ul> <li>新たに追加された Windows ホストのシステム・ユーザの名前とパスワード (ここでは詳細は表示されません)は、残りのラボ管理システムのシステム・ ユーザの名前とパスワードと同じです。</li> </ul>

# [新規テスティングホスト]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスではテスティング・ホストを作成できます。

アクセス方法	• ラボ管理:[ラボリソース]で[テスティングホスト]を選択します。[新規テスティ
	ング ホスト] * ボタンをクリックします。
	• ALM: [ラボリソース]で[ <b>テスティング ホスト</b> ]を選択します。 [新規テスティング
	ホスト] * ボタンをクリックします。

重要な情報	<ul> <li>新しいパブリック・ホストを作成できるのは、ラボ管理内のみです。ALM内で作成したホストはプライベート・ホストとみなされ、プロジェクトのホスト・プールに直接追加されます。プライベート・ホストは、ALM内で変更できます。</li> <li>ホストを Load Generator として使用する場合は、ファイアウォール越しにのみ作成できます。</li> </ul>
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
*	<b>すべてのフィールドをクリア</b> :データをクリアします。
45	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Re	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AB:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	新規ホストの名前。
	<b>ヒント:</b> ホストに意味のある名前を付けてください。これは、ホストの場所、用途、タイプ、ID、オペレーティング・システムから作成できます。名前により多くの情報を付加すれば、システムの使用と保守がより簡単になります。名前は覚えやすく、長くしすぎないでください。
	<b>注意:</b> リモート・ホスト上で機能テストを実行するために、ドメイン名を含まな いコンピュータ名である必要があります。入力した名前が登録するホストの名 前と一致しない場合、登録は失敗します。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利 用可能なホスト・フィールドの詳細については、「ホストのフィールド」(144ページ)を 参照してください。

### [テスティングホストの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホストの詳細情報が表示されます。

アクセス方法	• <b>ラボ管理</b> :[ラボリソース]で[ <b>テスティング ホスト</b> ]を選択します。 グリッド のホスト を右 クリックし, [ <b>テスティング ホストの詳細</b> ]を選択します。
	• ALM: [ラボリソース]で[テスティングホスト]を選択します。 グリッドのホストを 右クリックし, [テスティングホストの詳細]を選択します。
重要な情報	• このダイアログ・ボックスは、ラボ管理とALMの両方で利用できます。
	• 一部のUI要素は、 <b>パフォーマンス・ホスト</b> でのみ使用できます。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI 要素	説明
1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 100	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:ホストのリストの間を移動できます。
45	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
R <sub>B</sub>	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
ホスト ID	ホストのID。
名前	ホストの名前です。
詳細	現在選択されているホストの詳細が表示されます。使用可能なホストのフィー ルドについては、「ホストのフィールド」(144ページ)を参照してください。
インストール済みの PC コンポーネント	ホストにインストールされている Performance Center コンポーネント (バージョンと パッチを含む) のリストを表示します。
	注:
	<ul> <li>すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・ バーを使用します。</li> </ul>
	<ul> <li>パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</li> </ul>

UI要素	説明
イベント・ログ	選択したホストで実行されているタスク,イベント・ステータス,エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については,「イベント・ログ」(154ページ)を参照してください。
インストール済みの プログラム	ホスト・マシンにインストールされているすべてのプログラムのリストを表示します。 詳細には、バージョン、ソフトウェアの発行元、ホスト・マシンにインストールされた 日付が含まれます。
	注:
	<ul> <li>すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・ バーを使用します。</li> </ul>
	<ul> <li>パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</li> </ul>
プロセス	選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については,「[プロセス]ページ」(156ページ)を参照してください。
	注:
	<ul> <li>すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・ バーを使用します。</li> </ul>
	<ul> <li>パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</li> </ul>
サービス	ホスト・マシンで実行中のサービスを表示します。詳細については、「[サービス] ページ」(157ページ)を参照してください。
	注:
	<ul> <li>すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・ バーを使用します。</li> </ul>
	<ul> <li>パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</li> </ul>
ホストのステータス の確認	ホストの確認の各ステップのステータスを表示します。ホストの確認のステータスの詳細を表示するには、[ホストのステータスの確認]タブの行を右クリックし、[ <b>ホス</b> トステータスの詳細の確認]を選択します。詳細については、「ホストのステータスの確認のフィールド」(159ページ)を参照してください。

UI要素	説明
PC 実行	選択したホストで実行されているテスト実行に関する詳細情報を表示します。 詳細については、「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(180ページ)を参照して ください。
	<b>注:</b> すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・ バーを使用します。
ファイアウォール越 し	ファイアウォール越しのホストの場合,ファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。詳細については、「[ファイアウォール越し]ページ」(160ページ)を参照してください。
	注: パフォーマンスのためのホスト でのみ使用 できます。
履歴	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細につ いては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照して ください。

# イベント・ログ

イベント・ログには、プロジェクトで発生したイベントが表示され、各イベントの原因と重大度が報告されます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。
	• 🍄 をクリックして[イベント ログ]を選択します。
	• [イベント ログ]タブを選択します。
	利用可能なモジュール:
	■ <b>ラボ管理</b> :ホスト, PC テスト実行, タイムスロット, PC サーバ
	■ ALM プロジェクト:タイムスロット (グリッド・ビューのみ),ホスト,テスト実行
重要な情報	<ul> <li>イベント・ログは、グリッド・ビューでのみ利用可能です。</li> </ul>
	<ul> <li>イベント・ログには、関連する選択内容の情報が表示されます。つまり、プロジェクト全体、タイムスロット、ホスト、サーバなどのイベントが表示されます。</li> </ul>
	<ul> <li>削除可能なイベントをEVENT_LOGデータベース・テーブルに残しておく期間 (日数)は、EVENT_LOG_PURGE_PERIOD_DAYSサイト・パラメータによっ て決定されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</li> </ul>

UI 要素	説明
<b>∀</b> •	フィルタの設定:イベント・ログ内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	<b>カラムの選択</b> : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, イベント・ログに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
0	更新:最新の情報が表示されるように、イベント・ログを更新します。
	<b>すべてエクスポート</b> :[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドのリソースを, テキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。
アクション	イベントが発生したアクションのカテゴリ。
	<b>例</b> :サーバの作成。
コンテキスト	イベントが発生した特定のエンティティ。
	例:PC サーバ: VM05
作成日	イベントがログに記録された日時。
説明	イベントの説明。
イベント・ログ ID	イベント ID。
イベント名	イベントの名前。
イベント・タイプ	イベントの重大度の表示。最も重大なイベントから最も重大でないイベントの順 に, エラー, 警告, または情報。
フロー・コンテキス ト ID	いくつかのイベントに関する一意のアクションを示す GUID。たとえば、テストの実行 など。
モジュール	イベントの原因となった ALM モジュール。
	例 : テスト
プロジェクト名	イベントが発生したプロジェクト。
担当者	イベントを担当するユーザまたは自動システム・プロセス。

UI要素	説明
ソース	イベントの原因となったシステム要素。
サブ・モジュール	イベントが発生した ALM サブ・モジュール。 例 : テスト・ラボ

#### [プロセス]ページ

このページには、選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報が表示されます。

アクセス方 法	<ul> <li>ホスト・モジュールからの場合:サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。情報パネルで、[プロセス]を選択します。</li> <li>[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:サイドバーの[ラボリソース]で、 [ホスト]を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細]を選択します。 [ホスト詳細]ダイアログ・ボックスで、[プロセス]を選択します。</li> </ul>
重要な情報	<ul> <li>ALM では、UNIX マシンまたは Windows スタンドアロン Load Generator に関するプロセスおよびリソースの使用情報を表示できません。</li> <li>[プロセス]ページは、Performance ホストでのみ利用可能です。</li> </ul>
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI要素	説明
Ø	<b>すべて更新</b> :最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。
	プロセスの強制終了: グリッド内の選択したプロセスを終了します。
×	• ホスト・モジュールの場合:選択したプロセスを終了するには、プロセスの 強制終了アクセス許可が必要です。
	• <b>ラボ管 理 サーバ・モジュールの場合</b> :ビューア・アクセス許 可を持 つユーザ が選 択したプロセスを終了 できます。
自動更新	選択した期間が経過した後にグリッドを自動的に更新します。

UI要素	説明
<プロセス・グリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。
	• 名前: プロセスの名前。
	• <b>PID</b> :プロセス ID。
	• プロセッサ時間 (%):プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。
	• メモリ使用量 (KB): プロセスが使用するメモリ量 (KB)。
	<ul> <li>経過時間 (d.hh:mm:ss): プロセス開始以降に経過した時間で、dは日数、hh:mm:ssは経過した時間、分、秒です。</li> </ul>
<ナビゲーション領域>	グリッド内のエントリのページ内を移動できます。 エントリの合計数 がナビゲー ション領域の右側に表示されます。
	ページの下部にあります。

# [サービス]ページ

このページには、選択したホストのサービスが表示されます。

アクセス方 法	<ul> <li>ホスト・モジュールの場合:サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。情報パネルで、[サービス]を選択します。</li> <li>[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスの場合:サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細]を選択します。[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスで、[サービス]を選択します。</li> </ul>
重要な情報	[サービス]ページは、Performanceホストでのみ利用可能です。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI要素	説明
Ø	更新:最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
名前	サービスの名前。
表示名	サービスの正式名。

UI要素	説明
ステータス	サービスのステータス: [Running]または[Stopped]。
スタートアップ・タイプ	サービスのスタートアップの設定方法:
	• Auto:サービスが自動的に開始します。
	• Disabled:サービスは無効になっています。
	• Manual: サービスは手動で開始する必要があります。
<ナビゲーション領域>	ページの下部にあり、 グリッド内のエントリのページ内を移動できます。 エントリの合計数 がナビゲーション領域の右側に表示されます。

#### [ホストのステータスの確認]ページ

このページには、選択したホストのチェックのステータスが表示されます。

アクセス方法	• ホスト・モジュールからの場合:サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。ホストを選択し、情報パネルで、[ホストのステータスの確認]を選択します。
	• [ホスト詳細]ダイアロク・ホックスからの場合:サイトハーの[ラホリソース]で、 [ホスト]を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細]を選択します。 [ホストの詳細]ダイアログ・ボックスで、[ホストのステータスの確認]を選択しま す。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI 要素	説明
	ホストのステータスの確認の詳細: [ホストのステータスの確認詳細]ダイアログ・ボックスが開き,各チェックの詳細を表示できます。フィールドの詳細については、「ホストのステータスの確認のフィールド」(159ページ)を参照してください。
Q	<b>すべて更新</b> :最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。

UI 要素	説明
<b>y</b> •	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用 されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細に ついては、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照し てください。
	<b>カラムの選択</b> : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, グリッド に表 示 するフィー ルド とその順序を指定 できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Q	<b>検索</b> : [検索]ダイアログ・ボックスが開き, 確認を検索できます。 詳細について は, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してくださ い。
<ホストのステータ スの確認のグリッ ド>	ホストの確認のステータスを表示します。 グリッドに表示するカラムを選択するに は、 をクリックします。 フィールドの詳細については、「ホストのステータスの確認 のフィールド」(159ページ)参照してください。

#### ホスト のステータスの確認 のフィールド

[ホストのステータスの確認]ページには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
実際の値	ホストの接続性の確認による実際の値。
カテゴリ	<ul> <li>ホストの確認機能によってチェックされるホストの領域。</li> <li>設定</li> <li>接続性</li> <li>インストール</li> <li>パフォーマンス</li> </ul>
確認	ホストの確認機能によってチェックされるホストのサブ領域。たとえば、パフォーマン ス・チェックの場合のサブ領域は、プロセッサ、メモリ、システムです。
確認日	ホストがチェックされた日付。
確認結果 ID	ホストの確 認 の各 ステップの ID。
エラー	チェック中にエラーが発生した場合、エラーを表示します。

フィールド	説明
期待値	ホストの確認による期待される値。
ステータス	ホストの確認が成功または失敗したかを示します。

#### [ファイアウォール越し]ページ

このページには、Performance Center Load Generator ホストとMI Listener 間の通信設定が表示され、 選択した Load Generator ホストのファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。

アクセス方 法	<ul> <li>ホスト・モジュールからの場合:サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。情報パネルで、[ファイアウォール越し]を選択します。</li> <li>[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:サイドバーの[ラボリソース]で、 [ホスト]を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細]を選択します。 [ホストの詳細]ダイアログ・ボックスで、[ファイアウォール越し]を選択します。</li> </ul>
重要な情報	<ul> <li>ホストの場所がファイアウォール越しとして定義されている場合に、このページ にその情報が表示されます。</li> <li>ファイアウォール越しのホストは、Load Generatorホストとしてのみ使用できま す。</li> <li>[ファイアウォール越し]ページは、Performanceホストでのみ利用可能です。</li> </ul>
関連タスク	<ul> <li>「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)</li> <li>「MI Listener を管理する方法」(247ページ)</li> </ul>
参照情報	<ul> <li>「ラボ・リソースの概要」(116ページ)</li> <li>「MI Listener の概要」(247ページ)</li> </ul>

UI 要素	説明
接続タイムアウト (秒)	エージェントが MI Listener マシンに接続を再試行するまでの待ち時間(秒単位)。ゼロの場合,接続はエージェントの実行時点から開いたままになります。 標準設定値:20秒
	注: このフィールドは必要なフィールドです。

UI 要素	説明
接続の種類 - TCP/HTTP	使用している設定に応じて, [ <b>TCP</b> ]または[ <b>HTTP</b> ]を選択します。 <b>標準設定値</b> :TCP
НТТР	<ul> <li>HTTP 接続タイプ用のHTTP の設定です。</li> <li>プロキシの名前:プロキシ・サーバの名前。[接続の種類]オプションが[HTTP] に設定されている場合,このフィールドは必須です。</li> <li>プロキシ・ポート:プロキシ・サーバの接続ポート。[接続の種類]オプションが [HTTP]に設定されている場合,このフィールドは必須です。</li> <li>プロキシ・ユーザ名:プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザの名前。</li> <li>プロキシ・パスワード:プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザのパスワード。</li> <li>プロキシ・ドメイン:プロキシ・サーバの設定で定義されている場合のユーザのド メイン。このオプションは、NTLMを使用する場合にのみ必要です。</li> </ul>
MI Listener パス ワード	MI Listener マシンへの接続に必要なパスワード。
MI Listener ユー ザ名	MI Listener マシンへの接続に必要なユーザ名。
ポーリング・タイム アウト (秒)	<ul> <li>ファイアウォール越しの Load Generator のステータスを確認するために、ALM は Load Generator が最後に MI Listener に接続した時期を確認します。</li> <li>Load Generator が[ポーリングタイムアウト]で設定した時間数より長い時間 MI Listener マシンに接続されなかった場合、ラボ管理によって Load Generator のステータスは[リソース エラー]に変更されます。</li> <li>標準設定値:60秒</li> </ul>
	<ul> <li>このフィールドは必要なフィールドです。</li> <li>[ポーリングタイムアウト]はALMの設定です。Performance Center エージェントでは設定されません。</li> <li>ポーリング・タイムアウトは、以下に示す接続タイムアウトより長くなるように指定する必要があります。</li> </ul>

UI 要素	説明
セキュア接続を 使用	Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用して通信できます。 <b>標準設定値</b> : 無効
	・サーバ証明書を確認:サーバから送信される SSL 証明書を認証します。サー バ証明書が信頼された証明機関によって署名されていることを確認するに は、 [Medium]を選択します。送信者の IP アドレスが証明書の情報と一致 することを確認するには、 [High]を選択します。この設定は、 [セキュア接続を 使用]が[True]に設定されている場合にのみ利用できます。
	• 秘密キー・パスワード:SSL証明書の認証プロセス中に必要となるパスワード。このオプションは、[クライアント証明書の所有者]オプションが有効になっている場合にのみ関係します。
	<ul> <li>クライアント証明書を使用: SSL 証明書を読み込むことができます(接続を許可するためにサーバで必要な場合)。このオプションは、[セキュア接続を使用] オプションが有効になっている場合にのみ関係します。</li> </ul>
	<b>標準設定値</b> :無効

#### [インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、パフォーマンス・ホストにパッチをインストールできます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ <b>ラボリソース</b> ]で, [ <b>ホスト</b> ]を選択します。
	2. [ <b>ホスト操作</b> ]ドロップダウン矢印をクリックし, [ <b>パッチのインストール</b> ]を選択します。
	<b>ヒント:</b> パッチは, 複数のホストに同時にインストールできます。 複数のホストを 選択するには, キーボードのCTRL キーを押しながらホストを選択します。
重要な情報	<ul> <li>ラボ管理のみでパッチをインストールできます。</li> </ul>
	<ul> <li>ホストにパッチをインストールするには、最初にパッチをALMにアップロードしておく必要があります。詳細については、「パッチのALMへのアップロード方法」 (275ページ)を参照してください。</li> </ul>
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
<パッチ・グリッド>	選択したホストにインストールできる, ALM 内のパッチを表示します。

# プール・モジュール

プール・モジュール・ウィンドウ	164
プール・フィールド	
[新規ホスト プール]ダイアログ・ボックス	165
[ホスト プール詳 細]ダイアログ・ボックス	166
[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス	168
[リンクされたホスト]ページ	

#### プール・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、ホスト・プールを表示、管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で,[ <b>プール</b> ]を選択します。
重要な情報	ホスト・プールとは、ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあ ります。
	HP ALM (Performance Center Edition) パフォーマンス・ホストでホスト・プールを 管理する場合,利用可能な総リソースを理解していることが重要です。ホスト・ プールには、少なくとも1つの Controller,1つの Load Generator,1つの Data Processor が含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられる ため、プールには、他のホストの中でも Controller 機能専用のホストを少なくとも1 台含めることをお勧めします。
	プライベート・ホストは、一度に1つのプールにしか存在できません。
	ホスト・プールにホストを追加する方法はいくつかあります。「テスティング・ホストの 管理方法」(119ページ)を参照してください。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(127ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI要素	説明
<ホスト・プール・モジュー ルの共通の UI 要素>	<ul> <li>プール・モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「プール・ フィールド」(165ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>プール・モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(135ページ)を参照してください。</li> </ul>
<ホスト・プールのグリッド>	ALM 内で定義されているホスト・プールのリストを表示します。
[説明]タブ	現在選択されているホスト・プールについての説明が表示されます。
	<b>ヒント:</b> この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・ チェックのツールバーが表示されます。
[リンクされたホスト]タブ	ホストを選択したプールに追加し、プールからホストを削除できます。詳細 については、「[リンクされたホスト]ページ」(169ページ)を参照してください。

UI要素	説明
[履歴]タブ	現在選択されているホスト・プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

#### プール・フィールド

本項では、ホスト・プールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
C+LG ホスト	ホスト・プール内の Controller と Load Generator を兼用したホストの数。
Controller ホスト	ホスト・プール内の Controller ホストの数。
説明	ホスト・プールの説明。
DP ホスト	ホスト・プール内の Data Processor ホストの数。
LG ホスト	ホスト・プール内の Load Generator ホストの数。
プール ID	ホスト・プールのID。
プール名	ホスト・プールの名前。
	<b>注:</b> この名前には、スペース、ピリオド、次のいずれかの文字を除き、 最大 255文字まで指定できます。 :;*\/"~&?{}\$% <>+=^[]()
ホストの総数	ホスト・プール内のホストの合計数。

#### [新規ホスト プール]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、ホスト・プールを ALM に追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で, [ <b>プール</b> ]を選択します。
	2. プール・モジュールで, [新規ホストプール]ボタン *をクリックします。
重要な情報	各プロジェクトには、少なくとも1つのControllerホスト、1つのLoad Generatorホ スト、1つのData Processorホストを含む必要がある1つのホスト・プールがあります。

関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(127ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
*	<b>すべてのフィールドをクリア</b> :データをクリアします。
45	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
R.	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
プール名	新規ホスト・プールの名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用可能なホスト・プール・フィールドの詳細については、「プール・フィールド」(165 ページ)を参照してください。

### [ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホスト・プールの詳細情報が表示されます。

国ホスト ブール の詳細	
ブール ID: 1000	* ブール名: General
▶ 詳細	1148
☞ リンクされたホスト 砂 履歴	LG 木入ト:     0     Controller ホ     0       C+LG 木入ト:     1     ホストの総数:     2       DP 木入ト:     1     ブール ID:     1000
4 4 4	1999
	B I U A 💩 🗮 🗄 🖬 🕼 🖉 👘 🕫 👘 🥙
	System created default Pool
	OK(0) キャンセル(C) ヘルプ(H)

アクセス方 法	<ol> <li>ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で, [プール]を選択します。</li> <li>グリッドのホスト・プールを右クリックし, [ホスト プール詳細]を選択します。</li> </ol>
重要な <b>情報</b>	<ul> <li>ホスト・プールとは、ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。</li> <li>ホスト・プールを管理する場合、利用可能な総リソースを理解していることが重要です。プールには、少なくとも1つのController、1つのLoad Generator、1つのData Processor が含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられるため、プールには、他のホストの中でもController機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。</li> <li>プライベート・ホストは、一度に1つのプールにしか存在できません。</li> </ul>
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(127ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI要素	説明
10 0 0 01	<b>最初の/前の/次の/最後のエンティティ</b> :ホスト・プールのリストの間を移動できます。
AB STATE	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Rej	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
プール名	ホスト・プールの名前。
詳細	選択したホスト・プールの詳細情報をリストします。利用可能なフィールドの詳細については、「プール・フィールド」(165ページ)を参照してください。
リンクされたホスト	ホストを選択したプールに追加し、 プールからホストを削除できます。詳細については、「[リンクされたホスト]ページ」(169ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているホスト・プールに加えられた変更の一覧が表示されます。 詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を 参照してください。

#### [ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス

このページを使用すると、ホスト・プールに追加するホストを選択できます。

アクセス方法	<ul> <li>プール・モジュールからの場合:</li> </ul>
	ラボ管理サイドバーの[ <b>ラボリソース</b> ]で, [ <b>プール</b> ]を選択します。情報パネル
	で, [リンクされたホスト]を選択し, [ <b>ホストをプールに追加</b> ]ボタン
	• [ホストプール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[ <b>ラボリソース</b> ]で, [ <b>プール</b> ]を選択します。ホスト・プール を右クリックし, [ <b>ホスト プール詳細</b> ]を選択します。 [ホスト プール詳細]ダイア ログ・ボックスで, [ <b>リンクされたホスト</b> ]を選択し, [ <b>ホストをプールに追加</b> ]ボタン <u>そ</u> クリックします。
重要な情報	あるいは, ホストの詳細の[ <b>所属プール</b> ]フィールドから単一のホストを複数のホスト・プールにリンクできます。詳細については, 「ホストのフィールド」(144ページ)を参照してください。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(127ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI要素	説明
	<b>すべて更新</b> :最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	<b>カラムの選択</b> : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, グリッド に表示 するフィー ルド とその順序を指定 できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
7.	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用 されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細に ついては、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照し てください。
追加	選択したホストをホスト・プールに追加します。
<ホスト・グリッド>	ホスト・プールに追加できるホストが一覧表示されます。

UI 要素	説明
選択済み	プールに追加することを選択したホストが表示されます。

#### [リンクされたホスト]ページ

このページを使用すると、ホストをホスト・プールに追加し、プールからホストを削除できます。

アクセス方 法	<ul> <li>プール・モジュールからの場合: ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で、[プール]を選択します。情報パネルで、[リンクされたホスト]を選択します。</li> <li>[ホストプール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合: ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で、[プール]を選択します。ホスト・プールを右クリックし、[ホストプール詳細]を選択します。[ホストプール詳細]ダイアログ・ボックスで、[リンクされたホスト]を選択します。</li> </ul>
重要な情報	[リンクされたホスト]ページを使用すると、複数のホストをホスト・プールにリンクできます。
	あるいは, ホストの詳細の[ <b>所属プール</b> ]フィールドから単一のホストを複数のホスト・プールにリンクできます。詳細については, 「ホストのフィールド」(144ページ)を参照してください。
関連タスク	「ホスト・プールを管理する方法」(127ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI要素	説明
9	テスティング・ホストの詳細:[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したリン クされているホストの詳細情報を表示できます。詳細については,「[テスティング ホストの詳細]ダイアログ・ボックス」(151ページ)を参照してください。
8 <sup>3</sup>	ホストをプールに追加: [ホストをプールに追加]が開き, ホスト・プールに追加する ホストを選択できます。詳細については, 「[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボッ クス」(168ページ)を参照してください。
8	<b>ホストの削除</b> :ホスト・プールから選択したホストを削除します。
1	<b>ホストに移動</b> :ホスト・モジュール内の選択したリンクされているホストを表示します。
	<b>すべて更新</b> :最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。

UI 要素	説明
7.	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用 されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細に ついては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照し てください。
	<b>カラムの選択</b> : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, グリッドに表示 するフィー ルドとその順序を指定できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Q	<b>検索</b> : [検索]ダイアログ・ボックスが開き, ホストを検索できます。 詳細について は, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してくださ い。
<リンクされている ホストのグリッド>	ホスト・プールに属しているホストが一覧表示されます。

# 場所モジュール

場所モジュール・ウィンドウ	171
場所のフィールド	171
[新規ホストの場所]ダイアログ・ボックス	
[ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス	

#### 場所モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、ホストの場所を表示、管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ <b>ラボリソース</b> ]で, [ <b>場所</b> ]を選択する。
	<b>注:</b> 場所モジュールは、ラボ管理でのみ使用できます。
関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」(128ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<場所モジュールの共 通の UI 要素>	•場所モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「場所のフィールド」(171ページ)を参照してください。
	<ul> <li>場所モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(135ページ)を参照してください。</li> </ul>
<ホストの場所のグリッ ド>	ALM 内で定義されているホストの場所のリストを表示します。
[説明]タブ	現在選択されているホストの場所についての説明が表示されます。
	<b>ヒント:</b> この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[履歴]タブ	現在選択されているホストの場所に加えられた変更の一覧が表示されま す。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ ガイド』を参照してください。

#### 場所のフィールド

本項では、ホストの場所のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
クラウド・プロバイダ	場所の作成に使用したクラウド・プロバイダを示します。
	クラウドの場所のみで表示されます。

フィールド	説明
説明	ホストの場所の説明。
場所 ID	ホストの場所のID。
場所の名前	ホストの場所の名前。名前には、ホストの場所との論理接続がある必要があり ます。
ファイアウォール越 し	ホストの場所がファイアウォール越しかを示します。
プロバイダの場所 ID	クラウド・プロバイダが場所の特定に使用する ID を示します。
	クラウドの場所のみで表示されます。

#### [新規ホストの場所]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、ホストの場所を ALM に追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で, [ <b>場所</b> ]を選択します。
	2. ホストの場所モジュールで、 [新規ホストの場所]ボタン * をク リックします。
関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」(128ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI 要素	説明
×	<b>すべてのフィールドをクリア</b> :データをクリアします。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
R.	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
場所の名前	新規ホストの場所の名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ,赤色で表示されます。利用可能なホストの場所のフィールドの詳細については,「場所のフィールド」(171 ページ)を参照してください。

#### [ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホストの場所の詳細情報が表示されます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で, [ <b>場所</b> ]を選択します。
	2. グリッド内の場所を右クリックし, [ <b>ホストの場所詳細</b> ]を選択します。
重要な情報	ホストの場所は、ホストの詳細でその場所を選択する前に定義する必要があります。
関連タスク	「ホストの場所を管理する方法」(128ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

UI要素	説明
10 0 0 01	<b>最初の/前の/次の/最後のエンティティ</b> :ホストの場所のリストの間を移動できます。
* <b>5</b>	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Rej	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
場所 ID	ホストの場所のID。
場所の名前	ホストの場所の名前。
詳細	現在選択されているホストの場所の詳細が表示されます。利用可能なフィール ドの詳細については、「場所のフィールド」(171ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているホストの場所に加えられた変更の一覧が表示されます。 詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を 参照してください。

### タイムスロット・モジュール

**注**:本項では、ラボ管理専用のプロジェクトタイムスロット・モジュールで表示される画面のユーザ・インタフェースを説明します。タイムスロット・モジュールのユーザ・インタフェースの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

#### [タイムスロットの予約:メンテナンス]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、メンテナンスのタイムスロットを予約し、予約したメンテナンスのタイムスロットの詳細を表示できます。

アクセス方法	• 新規メンテナンス・タイムスロットの予約 (ラボ管理のみ):
	ラボ管理サイドバーの[ <b>ラボリソース</b> ]で, [ <b>タイムスロット</b> ]を選択します。次のい ずれかを実行します。
	■ タイムスロットのツールバーで、 [新規タイムスロット]ボタンをクリックします。
	■ カレンダー・ビューのみ:カレンダーの任意の場所をダブルクリックするか、ター ゲット時間を右クリックして、[新規タイムスロット]を選択します。
	• 既存のメンテナンス・タイムスロットの予約:
	<b>[ラボ管理]から</b> :サイドバーの[ <b>ラボリソース</b> ]で, [ <b>タイムスロット</b> ]を選択しま す。
	ALM から: サイドバーの[テスト]の下にある[タイムスロット]を選択します。
	次のいずれかを実行します。
	<ul> <li>グリッド・ビュー:タイプが[メンテナンス]のタイムスロットを右クリックして、[タイムスロットの詳細]を選択します。</li> </ul>
	■ カレンダー・ビューのみ:メンテナンス(黄色)のタイムスロットを右クリックして, [タイムスロットの詳細]を選択します。
重要な情報	<ul> <li>メンテナンスのタイムスロットを予約または表示するには、このダイアログ・ボックスを使用します。</li> </ul>
	<ul> <li>テストのタイムスロットとデータ処理のタイムスロットについては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</li> </ul>
関連タスク	「タイムスロットの予約方法」(130ページ)
参照情報	『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』

UI要素	説明
実行	タイムスロットがメンテナンス・タイプであることを示します。
起動	メンテナンス・タスクが手動で実行されることを示します。
	<b>注:</b> このフィールドは無効になっていて,選択は変更できません。
名前	タイムスロットのわかりやすい名前。
継続時間	メンテナンス・タイムスロットの継続時間(時,分)。
	<b>注:</b> メンテナンス・タイムスロットは, 15分以上, 480時間 (20日)以下で予約できます。
開始時刻	タイムスロットが開始する日時(時,分)。
	<b>注:</b> メンテナンス・タスクにホストを予約する必要があり、ホストが 同じタイムスロットのテストの実行にすでに予約されている場 合,テストのタイムスロットの開始を変更するか、テストのタイムス ロットを削除できます。変更する前に、テストのタイムスロットを予 約したユーザに相談してください。
終了時刻	タイムスロットが終了する日時(時,分)。
😼 特定のホストの追加	[特定のホストの追加]ダイアログ・ボックスが開き、メンテナンス・タイムスロットのホストを選択できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	<b>注:</b> タイムスロットには、少なくとも1つのホストを選択する必要 があります。
	利用可能条件:新しい,開かれた,または未来のメンテナンス・タイムスロット。
×	削除:選択したホストを要求したホストのリストから削除します。

UI 要素	説明
	開始時刻を現在に設定:リソースの可用性のグラフで,現在の時 刻を選択します。
	<b>注:</b> 開始時刻が現在の時刻に設定されているタイムスロットは、予約の送信時に直ちに開きます。
🗐 可用性の計算	選択したタイムスロットに要求したリソースの可用性が計算されま す。結果は、リソースの可用性の予定表に視覚的に表示され、[タ イムスロットのステータス]タブにメッセージが表示されます。
	可用性予定表には、要求されたホストを予約できるタイムスロットが すべて表示されます。要求されたホストを選択したタイムスロットで予 約できない場合でも、他のタイムスロットでは利用できることがありま す。
<メッセージ・バー>	ダイアログ・ボックスの上部にあります。 タイムスロットに関するメッセー ジと警告が表示されます。
	利用可能な場所:既存のタイムスロットのみ。
<リソース可用性予定表>	要求されたリソースの可用性が予定表に表示されます。
	• <b>可用性が計算されていません</b> :新しいタイムスロットに要求したリ ソースの可用性を計算する前,またはタイムスロットを変更すると きに予定表に表示されます。
	<ul> <li>              ◆ 開始時刻:要求したリソースが利用できる場合,タイムスロットに利用可能な開始時刻を示します。      </li> </ul>
	• <b>メリソースが不足しています</b> :要求されたすべてのリソースが、予 定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。
	<ul> <li>         ・          ・         ・</li></ul>
	• ⑦ <b>不明</b> :タイムスロットに要求したリソースの可用性の計算前に 表示されます。
	• <b>リソースが利用できません</b> :要求されたリソースが,予定表に示された開始時刻に利用可能ではないことを示します。

UI要素	説明
[要求されたホスト]グリッド	タイムスロットに要求されたホストが表示されます。
	<b>注:</b> タイムスロットには、少なくとも1つのホストを選択する必要 があります。
[タイムスロットのス <del>テー</del> タス]タ ブ	タイムスロット 予約のステータスが表示されます。
	タイムスロット障害の詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[説明]タブ	現在選択されているタイムスロットについての説明が表示されます。
	<b>ヒント:</b> この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[追加の詳細]タブ	タイムスロットに関連する追加の詳細が表示されます。
	利用可能な場所:既存のタイムスロットのみ。
[イベント ログ]タブ	タイムスロットに関連するイベントのログが表示されます。詳細については、「イベント・ログ」(154ページ)を参照してください。
	利用可能条件:既存のタイムスロットの詳細。

# 第7章: PC テスト 実行

本章の内容

PC テスト実行モジュールの概要	. 179
PC テスト実行のユーザ・インタフェース	. 179

# PCテスト実行モジュールの概要

PC テスト実行モジュールは、システム内の全プロジェクトにわたるすべてのテスト実行に関する情報を表示します。テストの実行状態に関連する詳細情報、関連仮想ユーザ、ホストとタイムスロット情報を表示できます。イベント・ログでは、各テストで発生したイベントにドリルダウンし、詳細を表示できます。

# PC テスト 実行 のユーザ・インタフェース

#### 本項の内容

PC テスト実行モジュールのウィンドウ	
PC テスト実行モジュールのフィールド	
PC テスト実行モジュールのメニューとボタン	
[実行詳細]ダイアログ・ボックス	

# PC テスト実行モジュールのウィンドウ

このモジュールは、システム内の全プロジェクトにわたる個々のテスト実行に関する情報を表示します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [PC テスト実行]を選
	択します。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
< PC テスト実行モジュー ルの共通の UI 要素 >	<ul> <li>PC テスト実行モジュールのフィールド:フィールドの定義については、 「PC テスト実行モジュールのフィールド」(182ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>PC テスト実行モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「PC テスト実行モジュールのメニューとボタン」(183ページ)を参照してください。</li> </ul>
	• ALM <b>メイン・メニューとサイドバー</b> : [ツール]メニュー, [ヘルプ]メニュー, サイドバーの詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<pc テスト実行のグリッド<br="">&gt;</pc>	全プロジェクトにわたるすべてのテスト実行のリストが表示されます。各テ スト実行の詳細情報が表示されます。

[イベント ログ]タブ

UI 要素	説明
<b>V</b>	フィルタの設定:イベント・ログ内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	<b>カラムの選択</b> : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き,イベント・ログに表示する フィールド とその順序を指定できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Ø	更新:最新の情報が表示されるように、イベント・ログを更新します。
UI 要素	説明
-------------------	--
	<b>すべてエクスポート</b> :[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドのリソースを, テキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。
	<b>イベントの詳細</b> :[イベントの詳細]ダイアログ・ボックスが開き,選択したイベント・ロ グの詳細を表示できます。
アクション	イベントが発生したアクションのカテゴリ。 例:サーバの作成。
作成日	イベントがログに記録された日時。
コンテキスト	イベントが発生した特定のエンティティ。 例 : PC サーバ: VM05
説明	イベントの説明。
イベント・ログ ID	イベント ID。
イベント名	イベントの名前。
イベント・タイプ	イベントの重大度の表示。最も重大なイベントから最も重大でないイベントの順 に、エラー、警告、または情報。
フロー・コンテキス ト ID	いくつかのイベントに関する一意のアクションを示す GUID。たとえば, テストの実行 など。
モジュール	イベントの原因 となった ALM モジュール。
	例 : テスト
プロジェクト名	イベントが発生したプロジェクト。
担当者	イベントを担当するユーザまたは自動システム・プロセス。
サブ・モジュール	イベントが発生した ALM サブ・モジュール。 例 : テスト・ラボ

### PC テスト 実行 モジュールのフィールド

PC テスト実行モジュールでは、次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
平均仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの平均数。
Controller	テスト実行に関わるController。
ドメイン/プロジェクト	テストのドメインとプロジェクト。
経過時間	テストの実行にかかった時間(分)。
	注:このフィールドは手動で編集しないでください。
終了日	実行の終了日。
	注:このフィールドは手動で編集しないでください。
関係する仮想ユーザ数	実行中に少なくとも一度初期化された仮想ユーザ数。
Load Generator	テスト実行に関わるLoad Generator。
最大仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの最大数。
プロジェクト ID	テストのプロジェクト ID。
実行 ID	テスト実行の識別番号。この番号は、負荷テストの実行開始時にシ ステムによって自動的に生成されます。
実行名	テスト実行の名前。
状態	テスト実行の状態。テストが特定の状態で停止する場合、変更できます。
開始日	実行の開始日。
	注:このフィールドは手動で編集しないでください。

フィールド	説明
開始時刻	実行の開始時刻。
	注:このフィールドは手動で編集しないでください。
ー時結果のディレクトリ・パス	テスト結果が一時的に格納されるディレクトリのパス。
テスト名	作成時にテストに与えられた名前。
テスト担当者	テストを実行しているユーザの名前。
VUD を消費	テスト実行で使用されているVUD数。
タイムスロット ID	テスト実行のタイムスロットのID。

### PC テスト 実行 モジュールのメニューとボタン

本項では、PC テスト実行モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [PC テスト実行]を
	選択する。

PC テスト実行モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI要素	場所	説明
	<右クリック・メ >	現在実行中のテストを停止します。
実行の停止		<b>注:</b> 選択したテスト実行のステータスが[初期 化中],「実行中], [停止中]のいずれかで ある場合のみ有効です。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き,非 公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入り ビューを追加できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガ イド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
URL のコピー	[実行]と<右ク リック・メニュー>	選択したテスト実行をコピーして、そのURLをリン クとして貼り付けます。テスト実行自体はコピーさ れません。代わりに、電子メールやドキュメントなど の別の場所にアドレスを貼り付けることができま す。リンクをクリックするとALM が起動し、テスト実 行ファイルまたはフォルダが表示されます。ログイン していない場合、ALM によって最初にログインの 詳細情報の入力が要求されます。
削除 🔀	[編集]と<右ク リック・メニュー>	選択したテスト実行を削除します。 注:選択したテスト実行がアクティブな状態 のいずれかでない場合にのみ有効になりま す。
Data Processor キュー	<右 クリック・メ ニュー>	実行後のテスト実行の分析, SLAの再計算, テ スト実行のトレンド・レポートへの追加を行う場 合, そのアクションがデータ処理キューに追加され るため, アクションがいつ実行されるか確認できま す。
エクスポート	[実行]と<右ク リック・メニュー>	<ul> <li>[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスを開き、グリッド内のテスト実行を、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。</li> <li>次のいずれかのオプションを選択します。</li> <li>すべてエクスポート:グリッド内のすべてのテスト実行をエクスポートします。</li> <li>選択項目のエクスポート:グリッド内の選択したテストの実行をエクスポートします。</li> </ul>
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き, モジュールでテ スト実行を検索できます。検索オプションの詳細 については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してくださ い。
実行に移動	実行	[実行に移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番 号で特定のテスト実行を検索できます。現在の フィルタに含まれるテスト実行にのみ移動できま す。

UI要素	場所	説明
タイムスロットに移動	<右 クリック・メ ニュー>	タイムスロット・モジュールが開き, 選択したテスト 実行のタイムスロットが表示されます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィ ルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細 については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してくださ い。
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, プ ロパティを変更するか, ビューを削除してお気に入 りビューのリストを整理できます。詳細について は, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリ ストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリ ストを表示します。
すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように, グリッドを更新 します。
実行の詳細	[実行]と<右ク リック・メニュー>	[実行の詳細]ダイアログ・ボックスが開き,選択したテスト実行の詳細を表示,編集できます。
実行画面	<右 クリック・メ ニュー>	パフォーマンス・テスト実行画面が開き, テスト実行を表示, 管理できます。詳細については, 『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
		<b>注:</b> テスト実行のステータスが[ <b>実行中</b> ]であ る場合のみ有効です。

UI要素	場所	説明
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッド に表示するフィールドとその順序を指定できます。 詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
		テスト実行のフィールドの詳細については、「PC テ スト実行モジュールのフィールド」(182ページ)を参 照してください。
フィルタ/ソートの設定 🔽	表示	グリッド内のテスト実行に対してフィルタとソートを 実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されま す。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

## [実行詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、テスト実行の詳細が表示されます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [PC テスト実行]を選択 する。
	2. グリッド内のテスト実行を右クリックし、 [実行の詳細]を選択します。

UI要素	説明
10 0 0 01	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:プロジェクトのリストの間を移動できます。
AB	<b>スペル・チェック</b> :選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典:選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR: E	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。

UI要素	説明
詳細	選択したテスト実行の詳細情報が表示されます。詳細については、「PC テスト 実行モジュールのフィールド」(182ページ)を参照してください。
イベント・ログ	選択したテスト実行中に発生したイベントがリストされます。詳細については, 「イベント・ログ」(154ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているテスト実行に行われた変更の一覧です。詳細について は,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してくだ さい。

# 第8章:使用状況レポート

本章の内容

使用状況レポートの概要	
使用状況レポートを作成する方法	
レポートを PDF または Excel 形式 にエクスポート する方法	
使用状況レポートの時間フレーム	
使用状況レポートのユーザ・インタフェース	

## 使用状況レポートの概要

ALM Performance Center 使用状況レポート・モジュールでは、Performance Center 全体の分析を実行できます。実行可能な分析には、サイト・ユーザ、リソース使用状況、同時実行リソースの使用状況とライセンスによる上限との比較、タイムスロットの使用状況、継続時間別および実行別のリソース使用状況があります。クラウドベースのホストを使用する環境では、クラウド・リソースの使用状況を分析および監視することもできます。

次の表に、各レポートの説明を示します。

レポート	説明
リソース・サマリ	プロジェクトによるシステムのさまざまなリソースの使用方法に関する集計データを 表示します。
同時実行対ライセ ンス	プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況の詳細, ライセンスの上限内での システム・リソースの使用方法に関する情報を表示します。
タイムスロット の使 用状況	タイムスロットに関連付けられたリソースの予約と使用状況に関する情報を表示します。
継続時間別リソー ス	選択した時間フレームにわたるシステム・リソースの使用状況に関する一般的な 情報を表示します。 プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況 の統計を表示できます。
実行別リソース	テスト実行に関する一般的な情報を表示します。 プロジェクトごとやプロジェクト 内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できます。
プロジェクトごとの VUD ライセンス使 用状況	選択した各プロジェクトの1日あたりのVUD使用状況に関する情報を表示します。
日 次 VUD ライセ ンス使 用 状 況	すべてのプロジェクトにわたって集計された1日あたりのVUD使用状況に関する 情報を表示します。
プロトコル粒度	仮想ユーザ・スクリプトと関連付けられているプロトコルの使用状況に関する情 報を表示します。
クラウド高レベル・ レポート	消費されたクレジット とプロビジョニングされたホストをプロジェクト ごとの内訳で表示します。
クラウド・クレジット (タイプ別)	消費されたクレジットを,場所,テンプレート,インスタンス,イメージごとの内訳で 表示します。
クラウド利用率	クラウド・ホストの稼働時間,実行時間とアイドル時間を比較し,総アイドル時間のクレジット数をプロジェクトごとにまとめて表示します。

レポート	説明
クラウド操作	各ホストのプロビジョニングと終了の操作,詳細なプロビジョニング・データを表示 します。

レポートの表示方法の詳細については、「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)を参照してく ださい。

## 使用状況レポートを作成する方法

このタスクでは、使用状況レポートを表示する方法と、フィルタ条件を設定する方法について説明します。フィルタ条件は、レポートの対象にするプロジェクト、結果を表示する時間フレームを定義します。

**注:** このタスクは,上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

ALM Performance Center レポートの詳細については、「使用状況レポートの概要」(189ページ)を参照してください。

1. 表示したいレポートの選択

ラボ管理から: ラボ管理の[Performance Center]で[使用状況レポート]を選択すると、ALM Performance Center レポート・ツリーが表示されます。 ツリーから、表示したいレポートを選択します。

**Performance Center から**: My Performance Center ナビゲーション・バーで, [レポート]をクリックします。

各レポートのユーザ・インタフェース要素の詳細については、「使用状況レポートのユーザ・インタフェース」(192ページ)を参照してください。

レポートで表示するプロジェクトの選択
 [プロジェクト]ドロップダウン・リストでプロジェクトを選択します。

注: レポートを生成するには、少なくとも1つのプロジェクトを選択する必要があります。

3. レポートに関する必要な時間フレームの選択

[時間フレーム]ドロップダウン・リストから、レポートに適用する時間フレームを選択します。指定されているオプションに加えて、カスタムの時間フレームを設定できます。

指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参照してください。

レポートに関する必要なクラウンド・アカウントを選択します。
 [アカウント]ドロップダウン・リストから、レポートに適用するクラウンド・アカウントを選択します。

利用可能な場所: クラウドの使用状況レポート

5. レポートの更新による新しいフィルタ設定の反映 [生成]をクリックします。レポートに、選択したプロジェクトと時間フレームに関する情報が表示されます。

## レポートをPDF または Excel 形式にエクスポートする 方法

次のタスクでは、Performance Center レポートを PDF または Excel 形式 にエクスポート する方法 について 説明します。

**注:** このタスクは,上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

レポートのPDF へのエクスポート

レポートを PDF ファイルにエクスポートするには、レポートの右上隅にある[PDF にエクスポート] レーター リックします。

利用できない場所: クラウドの使用状況レポート

レポートの編集可能な Excel ファイルへのエクスポート レポートを編集可能な Excel ファイルにエクスポートするには、レポートの右上隅にある[Excel ILエクス

**ポート**] をクリックします。

## 使用状況レポートの時間フレーム

次の表に、レポートの選択で利用できる時間フレームの説明を示します。

時間フレーム	説明
今日	現在の日付の00:00~23:59
前日	前日の00:00~23:59
今週	現在の週の月曜日から日曜日まで
先週	前の週の月曜日から日曜日まで
今月	現在のカレンダー月の最初から最後まで
先月	前のカレンダー月の最初から最後まで
今四半期	現在の四半期
前四半期	前の四半期
今年	現在の年の1月から12月まで
前年	前年の1月から12月まで

# 使用状況レポートのユーザ・インタフェース

使用状況レポートを1024x768の解像度で表示する場合, すべてのユーザ・インタフェース・コント ロールを表示するには, ALM モジュールやレポート選択ツリーを折りたたみます。

本項の内容

リソース・サマリ・レポート	. 193
同時実行対ライセンス・レポート	195
タイムスロットの使用状況レポート	202
継続時間別リソース・レポート	204
実行別 リソース使用状況 レポート	. 208
プロジェクトごとの VUD ライセンス使 用 状 況 レポート	211
日 次 VUD ライセンス使 用 状 況 レポート	213
プロトコル粒度使用状況レポート	. 215
クラウド高レベル・レポート	. 217
クラウド・クレジット (タイプ別)レポート	219
クラウド利用率レポート	223

クラウド操作レポート	22
	······································

### リソース・サマリ・レポート

リソース・サマリ・レポートには、 プロジェクトによるシステムのさまざまなリソースの使用方法に関する集計 データが表示されます。

リソ-	-ス	++	٦IJ	レポート	

レポートは、ブ	ロジェクトごとのリン	ノース使用状況に	関する集計情報	を示します		D 😡
ブロジェクト: すべての項目がチェックされ 🗸 時間フレーム: 今日 🗸 生成						
ロジェクト別リソース	使用状況 マシン別	上位プロジェクト	『行別上位プロジェク	ト 仮想ユーザ別上	位プロジェクト	
プロジェクト別リソース	<b>使用状況</b> マシン別	上位ブロジェクト   ヨ プ	『行別上位プロジェク ロジェクト別リソース	ト  仮想ユーザ別上 使用状況	位プロジェクト	
プロジェクト別リソース フロジェクト	(使用状況) マシン別 (x= 開除されたブロジェクト)	上位プロジェクト   リ プ 実行数	そ行別上位プロジェク ロジェクト別リソース 仮想ユーザ数	ト   仮想ユーザ別上 使用状況 マシン数	位プロジェクト 継続時間 (時間	:9)]
<b>プロジェクト別リソース</b> プロジェクト DEFAULT\test	【使用状況】マシン別 (==   除されたプロジェクト)	上位ブロジェクト 月 プ 実行数 17	E行別上位プロジェク ロジェクト別リソース 仮想ユーザ数 160	<ul> <li>         ・ 仮想ユーザ別上 使用状況         マシン数         32      </li> </ul>	位プロジェクト 継続時間 (時間	:∯] 0:57

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>リソース サマリ</b> ]を選択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。
	2. [使用状況レポート]のリストで,[ <b>リソース サマリ</b> ]を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)

UI要素	説明
	<b>PDF/Excel にエクスポート</b> : クリックして, レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ:プロ ジェクト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所 : ラボ管理のみ

UI 要素	説明
次でフィルタ:時 間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレー ムの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参照し てください。
[プロジェクト別リ ソース使用状 況]タブ	選択した各プロジェクトのリソース使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。
	照してください。
[マシン別上位プ ロジェクト]タブ	すべての実行にわたって集計された, プロジェクトごとに使用されているマシン数を 表示するグラフが含まれています。
	X軸:プロジェクトごとに使用されているマシン数。
	Y軸:使用されているマシン数に従って,降順に表示されたプロジェクト。
	注: ほとんどの場合, グラフには, 最大で10個の選択したプロジェクトの情報 が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されてい る場合, これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合, 10を超えるプ ロジェクトが表示される可能性があります。
[実行別上位プ	プロジェクトごとのテスト実行数を表示するグラフが含まれています。
ロジェクト]タブ	X軸:プロジェクトごとのテスト実行数。
	Y軸:テスト実行数に従って,降順に表示されたプロジェクト。
	<b>注:</b> ほとんどの場合, グラフには, 最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報 が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されてい る場合, これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合, 10を超えるプ ロジェクトが表示される可能性があります。
[仮想ユーザ別	すべての実行にわたって集計された、プロジェクトごとの仮想ユーザ数を表示する
上位プロジェクト]	グラフが含まれています。
ダノ	X 軸 : プロジェクトごとの仮 想 ユーザ数 。
	Y軸:仮想ユーザ数に従って,降順に表示されたプロジェクト。

### [プロジェクト別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが
	昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの
	見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
継続時間	プロジェクト内でテストが実行された合計時間。
マシン数	すべてのプロジェクトにわたって集計された, プロジェクトで使用されたマシンの合計数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており, 赤色の x で示されます。
実行数	すべてのテストにわたって集計された, プロジェクト内のテスト実行の合計数。
仮想ユーザ数	すべての実行にわたって集計された, プロジェクト内の仮想ユーザの合計 数。

### 同時実行対ライセンス・レポート

同時実行対ライセンス・レポートには、プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況の詳細、ライセンスの上限内でのシステム・リソースの使用方法に関する情報が表示されます。

同時実行	対 ライ・	センス	、レポ	°−⊦								
レボートは、プロ	ジェクトごと	この同時	実行リン	/ース使月	財状況の	詳細お。	よびライt	マンス上	限との対	比情報を	E示します。 [2] 戻 🕜	
プロジェクト: [	すべての項	目がチェ	ックされ、	✔ 時	間フレー	-L: 🧧	₽			~	生成	
カジェクト別同時実行	全体的な同	司時実行委	全体的	りなライセン	ノス使用制	【況 実行	テ別上位ブロ	コジェクト	仮想ユ	ーザ別上位	シブロジェクト	
				プ	ロジェクト	別同時実	行					
プロジェクト (1=開放されたプロジェクト)			同時実行		同時	実行仮想:	ユーザ		時実行マ	ソン	全体的な継續時間	
		最大 値	平均	上眼	最大 値	平均	上眼	最大 値	平均	上眼	[時間:分]	
DEFAULT\test		0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	1000		0
DEFAULT\AFC01		0	0.0	100	0	0.0	100	0	0.0	1000		0

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>同時実行対ライセンス</b> ]を選択 します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>同時実行対ライセンス</b> ]を選択 します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)

UI 要素	説明
	<b>PDF/Excel にエクスポート</b> : クリックして, レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ:プロ ジェクト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所 : ラボ管理のみ
次でフィルタ:時 間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参照してください。
[プロジェクト別同 時実行]タブ	選択した各プロジェクトの同時実行リソース使用状況情報を表示するテーブルが 含まれています。 詳細については、「[プロジェクト別同時実行]テーブル」(197ページ)を参照してく ださい。
[全体的な同時 実行数]タブ	選択したすべてのプロジェクト,およびシステム内のすべてのプロジェクトにわたって 集計された同時実行リソース使用状況情報を表示するテーブルが含まれていま す。 詳細については、「[全体的な同時実行数]テーブル」(198ページ)を参照してくだ さい。

UI 要素	説明
[全体的なライセ ンス使用状況]タ ブ	実行数と仮想ユーザ数の最大値と平均値の使用状況をPerformance Center ライセンスの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれていて、管理者は 実際に使用されているPerformance Center ライセンスの割合を判断できます。
	使用状況は,選択したすべてのプロジェクト,およびシステム内のすべてのプロジェ クトにわたって集計されています。
	詳細については、「[全体的なライセンス使用状況] グラフ」(199ページ)を参照し てください。
[実行別上位プ ロジェクト]タブ	プロジェクトごとの同時実行数の最大値と平均値を、プロジェクトの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれています。このプロジェクトの上限は、プロジェクト設定([ラボ設定]>[プロジェクト設定])で定義されています。これによって、管理者は、指定された上限内で最も効率的に実行されているプロジェクトを特定できます。 詳細については、「[実行別上位プロジェクト]グラフ」(200ページ)を参照してください。
[仮想ユーザ別 上位プロジェクト] タブ	プロジェクトごとの同時実行仮想ユーザ数の最大値と平均値を、プロジェクトの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれています。このプロジェクトの上限は、プロジェクト設定([ <b>ラボ設定</b> ]>[プロジェクト設定])で定義されています。これによって、管理者は、指定された上限内で最も効率的に実行されているプロジェクトを特定できます。
	詳細については、「[仮想ユーザ別上位プロジェクト]グラフ」(201ページ)を参照し てください。

#### [プロジェクト別同時実行]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが
	昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの
	見出しをクリックします。

UI要素	説明
同時実行 <i>マ</i> シン	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行マシン (Controller と
平均	Load Generator)の平均数。
同時実行マシン	プロジェクト設定([ <b>ラボ設定</b> ]>[プロジェクト設定])で定義されている, このプロ
上限	ジェクトに許可されている同時実行マシンの最大数。

UI 要素	説明
同時実行マシン	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行マシン (Controller と
最大値	Load Generator)の最大数。
同時実行 平均	プロジェクトの同時テスト実行の平均数。このレポートの目的から、1つのテスト 実行は同時実行とみなされます。
同時実行 上限	プロジェクト設定([ <b>ラボ設定</b> ]>[プロジェクト設定])で定義されている, このプロ ジェクトに許可されている同時実行の最大数。このレポートの目的から, 1つの テスト実行は同時実行とみなされます。
同時実行 最大	プロジェクトの同時テスト実行の最大数。このレポートの目的から、1つのテスト
値	実行は同時実行とみなされます。
同時実行仮想 ユーザ平均	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの平均数。
同時実行仮想	プロジェクト設定 ([ <b>ラボ設定</b> ]>[プロジェクト設定]) で定義されている, このプロ
ユーザ上限	ジェクトに許可されている同時実行仮想ユーザの最大数。
同時実行仮想	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの最大
ユーザ最大値	数。
全体的な継続時	プロジェクト内でテストが実行された合計時間。この値は、同時実行継続時間
間	ではなく、負荷テストにシステムが使用された実際の時間を示します。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており,赤色のxで示 されます。

#### [全体的な同時実行数]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが
	昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの
	見出しをクリックします。

UI要素	説明
同時実行マシン平均	同時実行マシンの平均数。
同時実行マシン最大値	同時実行マシンの最大数。

UI要素	説明
同時実行 平均 (ライセンス (%))	同時実行の平均数。括弧内の値は、同時実行の平均数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行 最大値 (ライセン ス(%))	同時実行の最大数。括弧内の値は、同時実行の最大数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行 PC ライセンス	Performance Center ライセンスで許可された同時実行の最大数。
同時実行仮想ユーザ平均 (ライセンス (%))	同時実行仮想ユーザの平均数。括弧内の値は、同時実行仮想 ユーザの平均数をPerformance Center ライセンスのパーセントで表記 したものです。
同時実行仮想ユーザ最大 値 (ライセンス (%))	同時実行仮想ユーザの最大数。括弧内の値は、同時実行仮想 ユーザの最大数をPerformance Center ライセンスのパーセントで表記 したものです。
同時実行仮想ユーザPC ラ イセンス	Performance Center ライセンスで許可された同時実行仮想ユーザの 最大数。
全体的な継続時間	すべてのプロジェクトにわたって集計された, テストが実行された合計 時間。
プロジェクト	[All Projects]または[Selected Projects]。

#### [全体的なライセンス使用状況] グラフ

X 軸	使用中のPerformance Center ライセンスの最大と平均のパーセント。
丫軸	すべてのプロジェクトにわたって集計された仮想ユーザ数と実行数の使用状況, および選択したプロジェクトのみの仮想ユーザ数と実行数の使用状況。

#### 例

次の例では、システム内のすべてのプロジェクトの仮想ユーザの最大数が Performance Center ライ センスの 30.1% を使用していましたが、すべてのプロジェクトの仮想ユーザの平均数はライセンスの 3.6% しか使用していませんでした。このことで、管理者は Performance Center ライセンスのかなりの 部分が未使用であることがわかります。



#### [実行別上位プロジェクト]グラフ

[実行別上位プロジェクト]グラフ

重要な情報	ほとんどの場合, グラフには, 最大で10個の選択したプロジェクトの情報が表示 されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合, これ らすべてのプロジェクトが表示されます。この場合, 10を超えるプロジェクトが表示 される可能性があります。
X 軸	使用中の許可された同時実行数の最大と平均のパーセント。
Y軸	同時実行の最大数に従って、降順に表示されたプロジェクト。

#### 例

次の例では、LR\_proプロジェクトの[最大値-実行数]の値は30%です。つまり、このプロジェクトの 同時実行の最大数はその上限の30%に到達していました。このプロジェクトの[平均-実行数]の 値は、同時実行の平均数がその上限の12.7%に到達したことを示しています。これらの値によっ て、管理者は、同時実行のプロジェクトの定義済み上限のかなりの部分が活用されていないことが わかります。



### [仮想ユーザ別上位プロジェクト] グラフ

重要な情報	ほとんどの場合、グラフには、最大で10個の選択したプロジェクトの情報が表示 されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これ らすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10を超えるプロジェクトが表示 される可能性があります。
X 軸	使用中の許可された同時実行仮想ユーザ数の最大と平均のパーセント。
丫軸	同時実行仮想ユーザの最大数に従って、降順に表示されたプロジェクト。

#### 例

次の例では、proj1 プロジェクトの[最大値 - 仮想ユーザ数]の値は10%です。つまり、このプロジェクトの同時実行仮想ユーザの最大数はその上限の10%に到達していました。このプロジェクトの[平均 - 仮想ユーザ数]の値は、同時実行仮想ユーザの平均数がその上限の8.4%に到達したことを示しています。これらの値によって、管理者は、同時実行仮想ユーザのプロジェクトの定義済み上限のかなりの部分が活用されていないことがわかります。



## タイムスロットの使用状況レポート

タイムスロットの使用状況レポートには、タイムスロットに関連付けられたリソースの予約と使用状況に関する情報が表示されます。

タイムスロット使用状況	リレポート					
レポートは、予約使用状況に関す	る詳細を示します	ġ			D2 6	2 2
プロジェクト: すべての項目;	がチェックされ 🗸	・時間フレー	ム: 今日		<b>~</b> 生	成
プロジェクト別タイムスロットの使用状況 期間	<b>县使用状况别上位</b> :	ブロジェクト 仮想	ユーザの使用状況	別上位ブロジェクト	マシン使用状況	別上位ブロジェク
プロジェクト別タイムスロットの使用状況						
プロジェクト (x=制体されたプロジェクト)	維統時間	[時間:分]	マシ	ン数	仮想:	ユーザ
	予約済み	使用済み	予約済み	使用済み	予約済み	使用済み
DEFAULT\test	1:13	0:57	34	32	170	160
DEFAULT\AFC01	2:27	1:23	20	16	560	440

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使 用 状 況 レポート ] のリストで, [ <b>タイムスロットの使 用 状 況</b> ]を選 択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。
	2. [使 用 状 況 レポート]のリストで, [ <b>タイムスロットの使 用 状 況</b> ]を選 択 します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)

<b>PDF/Excel にエクスポート</b> :クリックして, レポートを PDF または Excel にエクス ポートします。
レポートを生成します。
レポートに含めるプロジェクトを選択します。
<b>利用可能な場所</b> : ラボ管理のみ
レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレー ムの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参照し てください。
プロジェクトごとの継続時間,マシン数,仮想ユーザ数に関する予約と使用状況の情報を表示するテーブルが含まれています。
詳細については,「[プロジェクト別タイムスロットの使用状況]テーブル」(204ペー ジ)を参照してください。
プロジェクトごとのタイムスロットの継続時間に関する予約と使用状況の情報を 表示するグラフが含まれています。これによって,管理者は,どのプロジェクトが予 約済みの継続時間を最も効率的に使用しているかがわかります。
X 軸:各プロジェクトで予約され、使用されている継続時間の合計。
Y 軸:継続時間の使用状況に従って,降順に表示されたプロジェクト。
<b>注:</b> ほとんどの場合, グラフには, 最大で 10 個の選択したプロジェクトの情 報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されて いる場合, これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合, 10を超え るプロジェクトが表示される可能性があります。
プロジェクトごとのタイムスロットのマシンに関する予約と使用状況の情報を表示 するグラフが含まれています。これによって,管理者は,どのプロジェクトが予約済 みのマシン数を最も効率的に使用しているかがわかります。
X 軸:各プロジェクトで予約され、使用されているマシン数の合計。
Y 軸:仮想ユーザの使用状況に従って,降順に表示されたプロジェクト。
注: ほとんどの場合, グラフには, 最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合, これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合, 10を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。

UI要素	説明
[仮想ユーザの使 用状況別上位プ ロジェクト]タブ	プロジェクトごとのタイムスロットの仮想ユーザに関する予約と使用状況の情報を 表示するグラフが含まれています。これによって、管理者は、どのプロジェクトが予 約済みの仮想ユーザ数を最も効率的に使用しているかがわかります。
	X軸:各プロジェクトで予約され,使用されている仮想ユーザの合計数。
	Y軸:マシンの使用状況に従って,降順に表示されたプロジェクト。
	注: ほとんどの場合, グラフには, 最大で10個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合, これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合, 10を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。

[プロジェクト別タイムスロットの使用状況]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが
	昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの
	見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
継続時間 予約済み	プロジェクトに予約された時間。
継続時間 使用済み	プロジェクト内で使用された時間。
マシン数 予約済み	プロジェクトに予約されたマシン数。
マシン数 使用済み	プロジェクト内で使用されてたマシン数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており,赤 色のxで示されます。
仮想ユーザ予約済み	プロジェクトに予約された仮想ユーザ数。
仮想ユーザ使用済み	プロジェクト内で使用された仮想ユーザ数。

### 継続時間別リソース・レポート

継続時間別リソース・レポートには、選択した時間フレームにわたるシステム・リソースの使用状況に関する一般的な情報が表示されます。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計

#### を表示できます。

レポートは、ブロジェクトごとやユーザごとの時間別リソース使用状況の詳細を示します。			🔉 🔊		
プロジェクト:	すべての	項目がチェックされ 🗸	時間フレーム: 今日	~	生成
プロジェクト別リソース使用状況 プロジェクト別リソース使用状況 プロジェクト別リソース使用状況					
プロジェク ト	(エ=開除されたプロジェクト)	アクティブな合計継続時間 [時間:分]	合計予約維統時間 [時間: 分]	アクティブな 1時間ごと の平均マシン数	アクティブな 1時間ごと の平均仮想ユーザ数
DEFAULT\test		0:57	1:13	2.0	0.0
DEFAULT\AFC01		1:23	2:27	2.0	0.0

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>継続時間別リソース使用状況</b> ] を選択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリック します。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>継続時間別リソース使用状況</b> ] を選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)

UI要素	説明
	<b>PDF/Excel にエクスポート</b> : クリックして, レポートを PDF または Excel にエク スポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ:プロジェク	レポートに含めるプロジェクトを選択します。
F	利用可能な場所: ラボ管理のみ
次でフィルタ:時間フ レーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間 フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ペー ジ)を参照してください。

UI要素	説明
[プロジェクト別リソース	選択した時間フレームにわたるプロジェクトごとのリソース使用状況を表示
使用状況]タブ	するテーブルが含まれています。
	詳細については、「[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル」(206ページ) を参照してください。
[ユー <del>ザ</del> 別リソース使 用	ユーザごとのリソース使用状況を表示するテーブルが含まれています。
状 況 ]タブ	詳細については、「[ユーザ別リソース使用状況]テーブル」(207ページ)を参照してください。

[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って,テーブルをソートできます。見出しの矢印は,カラムが
	昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの
	見出しをクリックします。

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
アクティブな 1 時間 ごとの平 均 マシン 数	アクティブな1時間ごとに使用されているマシンの平均数。
	<b>注:</b> アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
アクティブな 1 時間ごとの平均仮想 ユーザ数	アクティブな 1 時間ごとに実行されている仮想ユーザの平均数。
	注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれて おり,赤色のx で示されます。
アクティブな合計継続時間	予約済みのタイムスロット中にテストが実行された合計時 間。
	注: アクティブな継続時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。

UI要素	説明
合計予約継続時間	プロジェクト別に[タイムスロット]ページで予約された合計時 間。

### [ユーザ別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	• 選択したプロジェクト内の権限を持つユーザのみ表示されます。
	<ul> <li>任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。</li> </ul>

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
アクティブな 1 時間ごとの平均ホスト 数	アクティブな1時間ごとに使用されているホストの平均数。
	<b>注:</b> アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
アクティブな 1 時間ごとの平均仮想 ユーザ数	アクティブな 1 時間ごとに実行されている仮想ユーザの平均数。
	<b>注:</b> アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
氏名	ユーザの名前。削除されたユーザもレポートに表示されま す。
アクティブな合計継続時間	予約済みのタイムスロット中にテストが実行された合計時 間。
	注: アクティブな継続時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
合計予約継続時間	ユーザ別に[タイムスロット]ページで予約された合計時間。

### 実行別リソース使用状況レポート

実行別リソース使用状況レポートには、テスト実行に関する一般的な情報が表示されます。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できます。

レボートは、プロジェクトス	ごとやユー	-ザごとの実行別	リリソース使用状法	兄の詳細を示します	. [	۵ 🖌 🖄
ブロジェクト・						
<u>ज्रू</u> रक	)項目がチュ	<sub>Ey</sub> oan 🗸 🚦	新闻フレーム: 🔤	今日	✓ 生	成
オロジェクト別リソース使用状況	○項目がチュ ユーザ別リ	ェックされ   ✔   8	寺町フレーム: [*	今日	≇	成
オロジェクト別リソース使用状況	O項目がチュ ユーザ別リ	<sub>■ッ</sub> クされ   ▼   目 リソース使用状況   ブ	寺間フレーム: [* ロジェクト別リソース	今日 使用状況		成
マジェクト別リソース使用状況 アロジェクト別リソース使用状況 フロジェ (x= 解除されたブロシェク ph )	D項目がチョ ユーザ別リ 合計実 行数	<u> こックされ</u> マリース使用状況  プ  関  し  、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	守向フレーム: ロジェクト別リソース 度想ユーザ数	今日 使用状況 合計標裁時間 [時 間:分]	<ul> <li></li> <li>またごとの平均準装時 回[時間:分] </li> </ul>	- 成 実行ことの平均マ シン数
マンマン・ ママン ママン マージェント SU ン ママン マージェン ママン ママン ママン ママン ママン ママン マーン マー	<ul> <li>ユーザ別リ</li> <li>合計案 行数</li> <li>16</li> </ul>	cックされ ●     f	守向フレーム: ロジェクト別リソース 東行ことの平均 振想ユーザ数 10.0	今日 使用状況 合計機破時間 [時 間:分] 0.57	▼ 生 実行ごとの平均種歳時 間 [時間:分] 0.04	- 成 実行ごとの干均マ シン数 2

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center</b> ]>[ <b>使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>実行別リソース使用状況</b> ]を 選択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>実行別リソース使用状況</b> ]を 選択します。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)

UI要素	説明
	<b>PDF/Excel にエクスポート</b> :クリックして,レポートを PDF または Excel にエク スポートします。
生成	レポートを生成します。
次 でフィルタ: プロジェク ト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所 : ラボ管理のみ

UI要素	説明
次でフィルタ:時間フ レーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間 フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ペー ジ)を参照してください。
[プロジェクト別リソース 使用状況]タブ	選択した時間フレームにわたるプロジェクトごとのテスト実行の統計を表示 するテーブルが含まれています。 詳細については、「[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル」(209ページ) を参照してください。
[ユー <del>ザ</del> 別リソース使 用 状 況 ]タブ	ユーザごとのテスト実行の統計を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、「[ユーザ別リソース使用状況]テーブル」(210ページ)を参照してください。

[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	<ul> <li>テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再 試行回数さえも含まれています。</li> </ul>
	<ul> <li>任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。</li> </ul>

UI 要素	説明
実行ごとの平均継続時間	リストされている実行に使用された平均時間。
実行ごとの平均マシン数	実行ごとに使用されているマシンの平均数。
実行ごとの平均仮想ユーザ数	実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており,赤色のxで示されます。
合計継続時間	リストされている実行で使用された合計時間。
合計実行数	プロジェクト内の実行の合計数。
関連仮想ユーザの合計数	プロジェクト内の仮想ユーザの合計数。

### [ユーザ別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	<ul> <li>テーブルには、システムから削除されたか、権限がなくなったユーザの実行も含まれています。</li> </ul>
	<ul> <li>テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再 試行回数さえも含まれています。</li> </ul>
	<ul> <li>任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。</li> </ul>

UI要素	説明
実行ごとの平均継続時間	リストされている実行に使用された平均時間。
実行ごとの平均マシン数	実行ごとに使用されているマシンの平均数。
実行ごとの平均仮想ユーザ数	実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。
氏名	ユーザの名前。削除されたユーザもレポートに表示され ます。
合計継続時間	リストされている実行で使用された合計時間。
合計実行数	ユーザに関連付けられている実行の合計数。
関連仮想ユーザの合計数	ユーザに関連付けられている仮想ユーザの合計数。

## プロジェクト ごとの VUD ライセンス使用状況レポート

プロジェクトごとの VUD ライセンス使用状況レポートには,選択した各プロジェクトの1日あたりの VUD 使用状況に関する情報が表示されます。

アクセス方法	ALM / ラボ管理:	
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。	
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>VUD ライセンスのプロジェクト使用</b> <b>状況</b> ]を選択します。	
	My Performance Center:	
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。	
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>VUD ライセンスのプロジェクト使用</b> <b>状況</b> ]を選択します。	
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)	

UI要素	説明
	<b>PDF/Excel にエクスポート</b> :クリックして,レポートを PDF または Excel にエクス ポートします。
生成	レポートを生成します。
次 でフィルタ:プロ ジェクト	レポートに含めるプロジェクトを選択します。 利用可能な場所: ラボ管理のみ
次でフィルタ:時間 フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参照してください。
[プロジェクトごとの VUD]タブ	選択したプロジェクトごとの日次 VUD 使用状況に関する情報を表示するテーブ ルが含まれています。詳細については、「[プロジェクトごとの VUD]テーブル」(212 ページ)を参照してください。
[VUD トランザク ション]タブ	トランザクションごとの VUD に関する情報を表示するテーブルが含まれています。 詳細については,「[VUD トランザクション]テーブル」(212ページ)を参照してください。

[プロジェクトごとのVUD]テーブル

重要な情報	<ul> <li>テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再 試行回数さえも含まれています。</li> </ul>
	<ul> <li>任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。</li> </ul>

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
割り当て済み	当日の初めにプロジェクトに割り当てられた VUD数。
消費済み	当日中に消費された VUD 数。
日付	VUD 使用状況情報が表示されている日付。
新しい値	当日の終わりに残ったVUD数。
プロジェクト	プロジェクトの名前。

#### [VUD トランザクション] テーブル

重要な情報	<ul> <li>テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再 試行回数さえも含まれています。</li> </ul>
	<ul> <li>任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。</li> </ul>

UI要素	説明	
アクション	VUD の現在の状態。	
日付	VUD 情報が表示されている日付。	
使用中	現在実行中のVUD数。	
新規上限	プロジェクトで現在利用できる VUD 数。	

UI要素	説明
保留中	実行できる VUD 数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており, 赤色のx で示されます。
実行 ID	実行 ID。
テスト名	パフォーマンス・テストの名前。
一意 ID	発行から有効期限まで VUDを識別する一意な ID。
ユーザ	トランザクションを実行したユーザ。
值	[ <b>アクション</b> ]カラムで示された状態にある VUD 数。

### 日次 VUD ライセンス使用状況レポート

日次 VUD ライセンス使用状況レポートには、特定の日のすべてのプロジェクトにわたって集計された全体的な VUD 使用状況情報が表示されます。

アクセス方法	ALM / ラボ管理:	
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。	
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>日次 VUD ライセンスのサイト使用</b> <b>状況</b> ]を選択します。	
	My Performance Center:	
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。	
	2. [使用状況レポート]のリストで, [日次 VUD ライセンスのサイト使用 状況]を選択します。	
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)	

UI要素	説明
<b>⊳ ⊳</b>	<b>PDF/Excel にエクスポート</b> :クリックして, レポートを PDF または Excel にエクス ポートします。

UI要素	説明
生成	レポートを生成します。
[日次 VUD 使用 状況]タブ	日次 VUD 使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。詳細については、「[日次 VUD 使用状況]テーブル」(214ページ)を参照してください。
次でフィルタ:時間フ レーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フ レームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を 参照してください。

### [日次 VUD 使用状況]テーブル

重要な情報	<ul> <li>テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再 試行回数さえも含まれています。</li> </ul>
	<ul> <li>任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。</li> </ul>

UI 要素	説明
追加済み	当日追加された VUD 数。
消費済み	当日使用された VUD 数。
日付	VUD 使用状況情報が表示されている日付。
新しい値	当日の終わりに残った VUD 数。

クラウド操作

## プロトコル粒度使用状況レポート

#### プロトコル粒度使用状況レポートでは、仮想ユーザ・スクリプトによるプロトコルの使用状況が表示されま す。

リソース サマリ	プロトコル粒度例	を用状況し	<i>ѵ</i> ポート				
同時実行対ライセンス							
タイムスロットの使用状況	レホートは、スクリフトフロトコルの使用状況に関する詳細を示します					I⊵ IxI 😮	
継続時間別リソース	時間フレーム: 今週		~		生成		
実行別リソース			-				
プロジェクトごとの VUDライセンス使	プロトコル粒度使用状況サマリ スクリプト使用状況 期間使用状況						
日次 VUD ライセンス使用状況			プロト	コル粒肌	€使用状況サマ	7U	
ブロトコル粒度	プロトコルタイプ	<i>አ</i> ንሀ <b>ፓ</b> ኑ		仮想ユーザ		繼續調	]
カラウド直しべつししポート		# 使周済み (%)	実行ごとの平均	最大	実行ことの平均	分(%)	
	Ajax - Click and Script	1 (33.33%)	1	1	1	6 (25%)	_
クラウド クレジット (タイプ別)	C Vuser	1 (33.33%)	1	10	2	12 (50%)	
···· · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Web - HTTP/HTML	1 (33.33%)	1	4	1	6 (25%)	J
クラウド利用率							
万马市山"晶作							

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [プロトコル粒度]を選択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>プロトコル粒度</b> ]を選択します。
重要な情報	このレポートには,実行段階に到達した仮想ユーザのみが反映されます。
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)

UI要素	説明
	<b>PDF/Excel にエクスポート</b> :クリックして、レポートを PDF または Excel にエク スポートします。

UI要素	説明
次でフィルタ:時間フ レーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ) を参照してください。
生成	レポートを生成します。
[プロトコル粒度使用 状況サマリ]タブ	スクリプトの使用状況, 仮想ユーザの使用状況, 継続時間に関する情報 を表示します。
[スクリプト使用状況] タブ	スクリプト使用状況をプロトコルごとにグラフで表示します。
[期間使用状況]タブ	期間の使用状況をプロトコルごとにグラフで表示します。

### プロトコル粒度使用状況サマリ

UI 要素	説明
プロトコル・タイプ	仮想 ユーザ・スクリプトのプロトコル
スクリプト	<ul> <li>使用済み(%):特定のプロトコル・タイプについて、テストがスクリプトを使用した回数の合計。テストが同じスクリプトを使用した回数を合計します。パーセンテージは、スクリプトの使用回数全体に対して、特定のプロトコルの使用回 (# Used)×100 数が占める割合を示します。計算式:<sup>Sum of # Used</sup></li> <li>実行ごとの平均:すべての実行回数に対するプロトコルの実行回数が占める 割合を示します。計算式:<sup>Total number of runs</sup></li> </ul>
仮 想 ユーザ	<ul> <li>最大:サンプリングした1回の実行で使用される仮想ユーザの最大数。複数のテスト・スクリプトを同時に同じプロトコルで実行する場合,たとえば,最初のテスト・スクリプトで仮想ユーザ10人,他のスクリプトで仮想ユーザ100人を実行した場合,レポートの最大値は100となります。同時実行した他のテスト・スクリプトの仮想ユーザは集計されません。</li> <li>実行ごとの平均:実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。計算式: Sum of the average number of Vusers Total number of runs</li> </ul>
継続時間	<b>分 (%)</b> : プロトコルが使用された分数の合計。計算式: Sum of the Avg Vusers Per Run × Duration パーセンテージは、すべての継続時間に対して、プロトコルの継続時間が占める <u>Total duration × 100</u> 割合を示しています。計算式: Total duration of all runs
# クラウド高レベル・レポート

クラウド高レベル・レポートでは、プロビジョニング済みのホストと消費クレジットがプロジェクトごとに時系列で表示されます。

#### グリッド・ビュー:

クラウド高レベル	レポート				
レボートには、クラウド使用	目状況の高レベルの	のビューが表示されます			D 🕞 😧
ブロジェク ト:   マカウン	ヨがチェックされ ✔	時間フレーム: 今日 ビジョニング)	עלעד 🗸	~: アカウントの選択	❤ 生成
Weeks					
プロジェクト	2013-08-19 00:00:00		2013-08-12 00:00:00		62- 5-6
/2/2//	クレジット	ホスト	クレジット	ホスト	III 🖸
DEFAULT/David	32.0	4	0	٥	
DEFAULT/Lab Management	101.0	6	72.0	3	
etr	133.0	9	72.0	3	

#### グラフ・ビュー:

クラウド高レイ	ドル レポート						
レボートには、 クラウ	ド使用状況の高レベルの	ンビューが表示されま	ब्				D R 😮
プロジェク すべて ト:	の項目がチェックされ・	時間フレーム: 今	B	▼ アカウント:	アカウントの選択	~	生成
77	アウントの使用状況 (プロ	ビジョニング)					
77 160 -	カウント使用状況(週ごと)						E1- E-F
140 -							
120 -							
100 -				= DEFAU	_T/David		
80 -				DEFAU	LT/Lab Management		
60 -							
40 -							
20 -							
0 -	2013-08-19 00:00	00	2013-08-12 00:00:00				

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使 用 状 況 レポート]のリストで,[ <b>クラウド 高 レベル レポート</b> ]を選 択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。
	2. [使 用 状 況 レポート]のリストで, [ <b>クラウド 高 レベル レポート</b> ]を選 択 します。
重要な情報	<ul> <li>このレポートはグリッドまたはグラフで表示できます。</li> </ul>
	<ul> <li>レポートをグリッド表示すると、エクスポート・オプションを使用できます。</li> </ul>
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)
参照情報	<ul> <li>「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)</li> </ul>
	• 「クラウド・リソースの監視の概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	レポートがグラフで表示されます。
	PDF/Excel にエクスポート:クリックして,レポートを PDF または Excel にエクスポー トします。
生成	レポートを生成します。レポートを作成する前に、レポート・フィルタを更新してくだ さい。
次でフィルタ:アカ ウント	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。 レポートには, 選択したクラ ウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
次 でフィルタ: プロ ジェクト	レポートに出力するプロジェクトを選択します。 レポートには,選択したプロジェクト からプロビジョニングされたホストのみが表示されます。 利用可能な場所: ラボ管理のみ。
次でフィルタ:時 間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参照してください。

UI要素	説明
<月/週でグループ	レポートの結果の集計方法を指定します。
16 2	• [月]を選択すると、各月のデータをカラムごとに表示します。
	• [週]を選択すると、各週のデータをカラムごとに表示します。
	例: [月]を選択すると、レポートの各カラムには、その月全体で消費されたクレジットとプロビジョニングされたホストが集計されます。選択した時間フレーム内の各月がカラム1つに相当します。
<レポート出力>	レポートの出力が表示されます。選択した[ <b>表示モード</b> ]に応じて, レポートがグ リッドまたはグラフで表示できます。
<使用状況の内 訳>	レポートがグラフで表示されます。
	• <b>クレジット</b> : アカウントの使用状況を消費クレジットごとに表示します。
	• ホスト: アカウントの使用状況をプロビジョニング済みホストごとに表示します。
表示モード	レポートの出力方法を選択します。
	• グリッド・ビュー : レポートをグリッド で表示します。
	• グラフ・ビュー〇:レポートをグラフで表示します。

グリッド表示では、次のカラムがレポートに表示されます(見出しがない項目は括弧で囲みます)。

フィールド	説明
クレジット	指定した時間フレーム内で、プロジェクトが消費したクレジット数を表示します。
<日付>	カラムに表示する時間フレームの開始時間を表示します。
ホスト	指定した時間フレーム内で, プロジェクトがプロビジョニングしたホストの数を表 示します。
プロジェクト	ホストのプロビジョニングを行い, クレジットを消費したプロジェクト (ドメインを含む) を表示します。

# クラウド・クレジット (タイプ別) レポート

クラウド・クレジット (タイプ別) レポートには、消費されたクラウド・クレジット数が場所、テンプレート、インスタンス、マシン・イメージごとに表示されます。

グリッド・ビュー:

この項目がチェックさん ノジット (場所別)	n マ 時間フレ クレジット (テン	ーム: 今日	~	アカウント: <b>アカウン</b>	トの選択 🗸	生成
ノジット (場所別)	クレジット (テン	プレート別 しろしき				
			ジット (インスタンス別	))   クレジット (イメー	ジ別)	
HP Mock US WEST 2		EC2 Mock Asia F	Pacific (Sydney)	EC2 Mock US We	st (Oregon)	Ear Er
クレジット	ホスト	クレジット	ホスト	クレジット	ホスト	
32.0	4	٥	0	٥	0	
0	0	2.0	2	171.0	3	
	HP Mock US WEST 2 オンシット 323 0 32,0	HP Mock VVEST 2 ジレジント ポスト ジレジント ペスト シレジント ペスト マレジント マレジント ペスト マレジント ペスト マレジント マレジント ペスト マレジント マレジント ペスト マレジント マレジント ペスト マレジント マレジント マレシー マレジント マレシー マレジント マレシー マレント マレント マレント マレント マレント マレント マレント マレント	HP Mock US WEST 2 ECE Mock Alau 5 フレジント 市工ト クレジント 323 4 0 0 0 2 0 2 0 2 0 2 2 0 2 0	HP Mock VMEST Σ         EC2 Mock Analo Pacific (Sydney)           20/25 k         RX h         20/25 k         RX h           20/26 k         0         0         0           0         0         20         2         1           0         0         20         2         1           20/26 k         0         0         0         1           0         20         2         1         1           20/20 k         0         2         1         1           10         1         1         1         1           20/20 k         4         2.0         2         1	1197 Ubock Adua Pacific (Systemy) EC2 Mock Adua Pacific (Systemy) EC2 Mock US We フレジント ホスト ウレジット ホスト ウレジット 323 4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	HP Mock VB/SET 2         EC2 Mock Akala Pacific (Sydew)         EC2 Mock VS Wett (Dregot)           72/57 k         RZ h         72/57 k         RZ h           8         9         9         9         9           9         28         111         111         111           9         28         111         111         111           9         28         2         111.8         111           9         28         2         111.8         111           9         28         2         111.8         111           9         28         2         111.8         111

#### グラフ・ビュー:

クラウド 🤅	クレジット (タイプ別)		
レポートには、	消費されたクラウド クレジットの内訳が表示されます		D 🕞 🕜
プロジェク ト:	すべての項目がチェックされ 🗸 時間フレーム: 今日	▼ アカウント: アカウントの選択 、	生成
	クレジット (場所別) クレジット (デンブレート別) クレ	ジット (インスタンス別) クレジット (イメージ別)	
クレジット	~		Har Int
合計クレ	ジット (場所別)		
	22 2	H <sup>P</sup> Mork UB WEBT 2     EC2 Mork UB WeBT (Styleny)     ■ EC2 Mork UB Weat (Chipteny)	

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center</b> ]> [ <b>使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使用状況レポート]のリストで[ <b>クラウド クレジット (タイプ別)</b> ]を 選択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで, [レポート]をクリックします。
	2. [使用状況レポート]のリストで[ <b>クラウド クレジット (タイプ別)</b> ]を 選択します。
重要な情報	<ul> <li>このレポートはグリッドまたはグラフで表示できます。</li> </ul>
	<ul> <li>レポートをグリッド表示すると、エクスポート・オプションを使用できます。</li> </ul>

関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)
参照情報	• 「クラウド・アカウントの概要」(71ページ)
	• 「クラウド・リソースの監視の概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート: クリックして, レポートを PDF または Excel にエクス ポートします。
	利用可能な場所:グラフ・ビューのみ。
生成	レポートを生成します。 レポートを作成する前に, レポート・フィルタを更新してく ださい。
[クレジット (イメージ 別)]タブ	マシン・イメージごとにクレジットの使用状況を表示します。
[クレジット (インスタ ンス別)]タブ	インスタンス・タイプごとにクレジットの使用状況を表示します。
[クレジット (場所 別)]タブ	場所ごとにクレジットの使用状況を表示します。
[クレジット (テンプ レート別)]タブ	ホスト・テンプレートごとにクレジットの使用状況を表示します。
次 でフィルタ:アカウ ント	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。 レポートには, 選択したクラウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
次でフィルタ:プロ ジェクト	レポートに出力するプロジェクトを選択します。 レポートには,選択したプロジェクトからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
	利用可能な場所: ラボ管理のみ。
次でフィルタ:時間フ レーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フ レームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参 照してください。
<レポート出力>	レポートの出力が表示されます。選択した[ <b>表示モード</b> ]に応じて, レポートがグ リッドまたはグラフで表示できます。

UI要素	説明
<使用状況の内訳 >	• <b>クレジット</b> : アカウントの使用状況を消費クレジットごとに表示します。
	• ホスト:アカウントの使用状況をプロビジョニング済みホストごとに表示します。
	利用可能な場所:グラフ・ビューのみ。
表示モード	レポートの出力方法を選択します。
	• グリッド・ビュー
	• グラフ・ビュー〇:レポートをグラフで表示します。

グリッド表示では、次のカラムがレポートに表示されます(見出しがない項目は括弧で囲みます)。

フィールド	説明
クレジット	指定した場所, テンプレート, インスタンス, イメージを使用するプロジェクトが消費したクレジット数を表示します。
<イメ <i>―ジ</i> >	マシン・イメージを使用してプロビジョニングしたホストの数と,そのマシン・イメージのホストが消費するクレジット数を表示します。 利用可能な場所:[クレジット(イメージ別)]タブのみ。
<インスタンス>	インスタンス・タイプを使用してプロビジョニングしたホストの数と, そのインスタンス・ タイプのホストが消費するクレジット数を表示します。
	利用可能な場所:[クレジット (インスタンス別)]タブのみ。
ホスト	指定した場所, テンプレート, インスタンス, イメージを使用するプロジェクトがプロ ビジョニングしたホストの数を表示します。
<場所>	場所からプロビジョニングしたホストの数と、その場所が消費するクレジット数を表示します。
	利用可能な場所:[クレジット(場所別)]タブのみ。
プロジェクト	ホストのプロビジョニングを行い, クレジットを消費したプロジェクト (ドメインを含む) を表示します。
<テンプレート>	テンプレートからプロビジョニングしたホストの数と、そのテンプレートからプロビジョニ ングしたホストが消費するクレジット数を表示します。
	利用可能な場所:[クレジット(テンプレート別)]タブのみ。

# クラウド利用率レポート

クラウド利用率レポートでは、クラウド・ホストの稼働時間とアイドル時間を比較します。このレポートでは、クラウド・リソースが有効活用されているかどうかを確認できます。

#### グリッド・ビュー:

クラウド利	用率			
レボートには、ク	7ラウド リソースの利用率が表示されます			D R 🛛
ブロジェク ト:	すべての項目がチェックされ 🗸 時間フレーム:	今日 🗸 7	Pカウント: アカウントの選択 🗸	生成
	ホスト利用率			
プロジェクト	会對使用時間	会計アイドル時間	会計クレジット福岡アイドル時間	ビュー モード
DEFAULT/Devid	7.33	7.33	29.31	
DEFAULT/Leb Manage	ement 54.93	54.93	104.48	
Total	62.25	62.26	193.79	

#### グラフ・ビュー:



アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>クラウド利用率</b> ]を選択しま す。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。
	2. [使用状況レポート]のリストで, [ <b>クラウド利用率</b> ]を選択しま す。
重要な情報	<ul> <li>このレポートはグリッドまたはグラフで表示できます。</li> </ul>
	<ul> <li>レポートをグリッド表示すると、エクスポート・オプションを使用できます。</li> </ul>
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)
参照情報	<ul> <li>「クラウド・ホストの概要」(55ページ)</li> </ul>
	• 「クラウド・リソースの監視の概要」(111ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	レポートがグラフで表示されます。
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして,レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。レポートを作成する前に、レポート・フィルタを更新してくだ さい。
次でフィルタ:アカ ウント	レポートに出力するクラウド・アカウントを選択します。 レポートには, 選択したクラ ウド・アカウントからプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
次でフィルタ:プロ ジェクト	レポートに出力するプロジェクトを選択します。レポートには,選択したプロジェクト からプロビジョニングされたホストのみが表示されます。
	利用可能な場所:フル官理のみ。
次でフィルタ:時 間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参照してください。

UI要素	説明
<レポート出力>	レポートの出力が表示されます。選択した[ <b>表示モード</b> ]に応じて,レポートがグ リッドまたはグラフで表示できます。
表示モード	レポートの出力方法を選択します。
	• グリッド・ビュー : レポートをグリッドで表示します。
	• <b>グラフ・ビュー</b> ○:レポートをグラフで表示します。

グリッドに表示されるレポートの出力には、次のカラムがあります。

フィールド	説明
合計使用時間	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで, テストを実行した時間の 合計 (時間単位)。
合計アイドル時間	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで, テスト実行が可能である にもかかわらず未使用状態だった時間の合計(時間単位)。
クレジット換算の合計アイ ドル時間(推定)	プロジェクトによってプロビジョニングしたホストで, テスト実行が可能である にもかかわらず未使用状態だったときに消費したクレジット数の合計。
プロジェクト	使用状況のサマリを表示するプロジェクト (ドメインを含む)。

## クラウド操作レポート

クラウド操作レポートでは、クラウド・ホストで行ったプロビジョニングと終了操作が個々に表示されます。また、テストでの使用状況がホストごとに表示されます。

アクセス方法	ALM / ラボ管理:
	1. <b>[Performance Center]&gt;[使用状況レポート</b> ]を選択します。
	2. [使用状況レポート]のリストで,[ <b>クラウド操作</b> ]を選択します。
	My Performance Center:
	1. My Performance Center ナビゲーション・バーで、 [レポート]をクリックします。
	2. [使用状況レポート]のリストで,[ <b>クラウド操作</b> ]を選択します。

重要な情報	<ul> <li>このレポートには、操作、ホスト、使用状況という3つの要素が含まれます。</li> </ul>		
	<ul> <li>このレポートに表示されるデータは、Excelのみにエクスポートできます。</li> </ul>		
関連タスク	「使用状況レポートを作成する方法」(190ページ)		
参照情報	• 「クラウド・ホストの概要」(55ページ)		
	• 「クラウド・リソースの監視の概要」(111ページ)		
参照情報	• 「クラウド・ホストの概要」(55ページ)		
	• 「クラウド・リソースの監視の概要」(111ページ)		

ユーザ・インタフェース要素

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
D	Excel にエクスポート: クリックすると、レポートが Excel にエクスポートされます。
	Excel のレポートには, レポート出力の追加カラムが含まれます。
生成	レポートを生成します。レポートを作成する前に、レポート・フィルタを更新してくだ さい。
ホストに戻る	クラウド操作またはホストの使用状況を個別に表示しているときに選択できます。 クラウド・ホストのリストに戻ります。
操作に戻る	クラウド・ホストを個別に表示しているときに選択できます。 クラウド操作のリストに 戻ります。
<カラム検索>	選択したカラムを検索します。数値フィールドの検索では、入力した数値と <b>完全</b> ー <b>致</b> するレコードを検索します。テキスト・フィールドの検索では、入力したテキス トを <b>含む</b> レコードを検索します。
次でフィルタ:アカ ウント	レポートに出 カ するクラウド・アカウントを選 択します。 レポートには, 選 択したクラ ウド・アカウント からプロビジョニングされたホストと操 作 のみが表 示 されます。
次 でフィルタ: プロ ジェクト	レポートに出力するプロジェクトを選択します。 レポートには,選択したプロジェクト からプロビジョニングされたホストと操作のみが表示されます。 利用可能な場所: ラボ管理のみ。
次でフィルタ:時 間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(191ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
操作 <i>と</i> ホストの選 択	すべてのクラウド・ホストまたはすべてのクラウド操作を表示しているときに選択できます。 レポート出力が変更され、 クルド操作またはクラウド・ホストのいずれかが表示されます。
<レポート出力>	レポートの出力が表示されます。選択した[ <b>表示モード</b> ]に応じて,レポートがグ リッドまたはグラフで表示できます。
すべてのホストの 表示	クラウド・ホストを個別に表示しているときに選択できます。 クラウド・ホストをすべて 表示するリストに戻ります。
すべての操作の 表示	クラウド操作を個別に表示しているときに選択できます。 クラウド操作をすべて表示するリストに戻ります。

#### 操作ビュー

クラウド	100 Line Yue Management アメリン DerAuel、 ノロシエンド CAB_rROBEOT   ユージ. alex_allit   な V   V   アメリン DerAuel、 ノロシエンド CAB_rROBEOT   ユージ. alex_allit   な V   V   V   V   V   V   V   V   V							
,ポート(こ(ま	、 クラウド ホスト上の操作	のログが表示。	れます					
プロジェク ・:	すべての項目がチェックされ	い 🖌 時間フ	レーム: 今日	~	アカウント:	アカウントの選択	~	生成
<ul> <li>・ 操作</li> <li>操作</li> </ul>	C ホスト							
ID	要求 ID	網行	Miser	相続時間	要求されたホス	ь <del>х</del> дь	기다:	2±01-
1001	96465667-bb6F-4bbo9332- 1eb5df53e2f8	Provision	9-8/2013 10:13:45 AM	2.00	,			
1002	23bdf4f3-501a-463e-9b25- 3728b8bd5c67	Provision	9/10/2013 10:26:29 AM	0.66	1	1		
1003	905e7a7o-8598-4259-9ecf- 50c38ab4b47b	Provision	9/10/2013 10:32:51 AM	0.84	1	1		
1004	70216607-ce8d-4177-b8a5- d22dd5552d	Terminate	9/10/2013 10:34:13 AM	1.37	,	1		
1005	5fb36189-e43o-4e8a-8ca1- 4042cea28218	Terminate	9/10/2013 12:08:25 PM	1.35		1		
000	a5fb4703-8377-4212-83e7- 37f2130bb1c9	Provision	9/10/2013 12:24:48 PM		,			
1007	e11dd95-d358-450d-b3d1- d07a2dd9119e	Provision	9/10/2013 12/20/52 PM	1.15	1	1		
008	050+000frado8-450f-bd27- 58aa2fs7edc2	Terminate	9/10/2013 12:28:39 PM	3.50		1		
009	e713a#d-de07-440e-03a8- ad1#7187105	Provision	9/10/2013 2:12:05 PM	6.67	,			

操作ビューでは、各プロビジョニング操作と終了操作が一覧表示されます。[ホスト]カラムの数値をクリックすると、操作の対象となるホストを確認できます。

アクセス方法:[操作]ラジオ・ボタンをクリックします。

操作ビューのレポートには、次のカラムがあります。

フィールド	説明
ID	クラウド操作のID。
要求 ID	クラウド操作を示すクラウド・プロバイダの ID。
操作	クラウド操作のタイプ([プロビジョニング]または[終了])。
開始時刻	クラウド操作が開始された日時。
継続時間	ホストのプロビジョニングまたは終了にかかった時間(分)。

フィールド	説明
要求されたホスト数	プロビジョニング操作: クラウド・プロバイダに要求されたホストの数。
	終了操作:終了するホストの数。
ホスト	プロビジョニング操作:実際にプロビジョニングされたホストの数。すべてのホスト でプロビジョニングが失敗した場合は空白になります。
	終了操作:終了するホストの数。
	ホスト数をクリックすると,操作の対象となるホストがすべて一覧表示されます。
プロジェクト	クラウド操作を開始したプロジェクト。

#### ホスト・ビュー

クラウド操	作							
レポートには、	ウラウド ホスト上の	操作のログが表示さ	れます					R 😮
ブロジェク [ ト:	すべての項目がチェー	ックされ 🗸 時間フレ	,- <i>L</i> a: <b>今</b> ⊟	~	· アカウント:	アカウントの選択	<b>~</b>	生成
○操作 ● ホスト	ホスト							
#2.H8	5MIL	プロビジョン塗み	結了達み	会計アップタイム	金計アイドル時間	使用状况	プロビジョニング発行	1871用作
107,21.76.103	107.21.76.103	9/8/2013 10:12:45 AM				Usage	1001	•
23 20 33 65	23.20.33.65	9/10/2013 10:20:29 AM	9/10/2013 10:34:13 AM	7	7	Usage	1002	1004
54,211,220,147	64,211,220,147	9/10/2013 10:22:51 AM	9/10/2013 12:08:26 PM	96	95	Usage	1003	1005
184.72.199.245	184.72.199.245	9/10/2013 12:20:52 PM	9/10/2013 12:28:39 PM	1	1	Usage	1007	1008
64.212.234.173	64.212.234.173	9/10/2013 2:12:05 PM	9/10/2013 3:17:29 PM	60	60	Usage	1009	1010

ホスト・ビューでは, 各ホストに関連するプロビジョニング操作と終了操作が表示されます。[プロビジョニング操作]カラムのIDをクリックすると, そのプロビジョニング操作の詳細を確認できます。[終了操作]カラムのIDをクリックすると, その終了操作の詳細を確認できます。

アクセス方法:[ホスト]ラジオ・ボタンをクリックします。

ホスト・ビューのレポートには,次のカラムがあります。

フィールド	説明
ホスト名	クラウド・ホストの IP アドレス。
ラベル	プロビジョニング操作で指定したクラウド・ホストの論理名。
プロビジョニング	ホストのプロビジョニングを行った日時。
終了	ホストを終了した日時。ホストが終了していない場合は空白になります。
合計アップタイム	ホストのプロビジョニングにかかった時間。ホストが終了していない場合は空白 になります。

フィールド	説明
合計アイドル時間	プロビジョニング済みのホストがテストに使用されていない時間。ホストが終了 していない場合は空白になります。
使用状況	クリックすると、選択したホストの使用状況ビューが開きます。
プロビジョニング操作	ホストをプロビジョニングしたときの操作のID。
終了操作	ホストを終了したときの操作のID。ホストが終了していない場合は「0」と表示されます。

使用状況ビュー

使用状況ビューでは、選択したホストを使用して実行したテストがすべて表示されます。

アクセス方法:ホスト・ビューの[使用状況]カラムで,ホストの[使用状況]ボタンをクリックします。

使用状況ビューのレポートには、次のカラムがあります。

フィールド	説明
タイムスロット ID	テストを実行したタイムスロットのID。
実行 ID	テスト実行のID。
開始	テスト実行を開始した日時。
終了	テスト実行が終了した日時。
継続時間	テスト実行の継続時間(分)。
プロジェクト	テスト実行を開始したプロジェクト。
ユーザ	テスト実行を開始したユーザ。

# 第9章:システム・ヘルス

本章の内容

システムのヘルスの概要	231
システムのヘルスのユーザ・インタフェース	

# システムのヘルスの概要

ALM でパフォーマンス・テストを設計, 実行するには, Performance Center システムが正常に稼働中である必要があります。システムのヘルス・モジュールでは, システム・コンポーネント間の通信をチェックするタスクを実行することによって, システム稼働を正常な状態に維持することができます。

# システムのヘルスのユーザ・インタフェース

本項の内容

システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ	232
[システム チェックの設 定] ダイアログ・ボックス	233

# システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ

このモジュールには、ALM Performance Center システムのヘルスのメンテナンス・タスクと全般的なシステム・チェックに関する情報が表示され、ALM Performance Center システムで完全な検証を実行できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [ <b>システムのヘルス</b> ]を 選択します。
参照情報	「システムのヘルスの概要」(231ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
▶ システムの確認	[システム チェックの設定]ダイアログ・ボックスが開き,システム・チェックの対象にする ALM-Performance Center システム内のサーバとホストを選択できます。詳細については,「[システム チェックの設定]ダイアログ・ボックス」(233 ページ)を参照してください。
Ø	すべて更新:最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	[自動更新]が有効になっている場合, このボタンは無効になります。
	自動更新をオンに設定/自動更新をオフに設定: 有効にした場合, 最新のタスク情報が表示されるように, グリッドを5秒ごとに自動更新します。
	失敗ステータスのみを持つシステム・チェック結果が表示されます。
失敗したタスクのみ表示	
エクスポート	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き, システム・チェックの 結果を Microsoft Excel ワークシートとしてエクスポートできます。
	次のいずれかのオプションを選択します。
	• <b>すべて</b> :グリッドのすべてのタスクをエクスポートします。
	• 選択済み:グリッドの選択したタスクをエクスポートします。

UI要素	説明
<結果グリッド>	システム・チェックの進行状況と結果が表示されます。 次のフィールドがあります。
	• <b>ステータス</b> :システム・チェックのステータスです。
	• コンポーネント:サーバ名またはホスト名。
	• 説明:タスクの説明。
	• 結果:タスクの結果。
	• 開始時刻:タスクが開始された時刻。
	<ul> <li>終了時刻:タスクが終了した時刻。</li> </ul>
	• 成功: タスクの確認が成功または失敗したかを示します。
タスク結果	タスク・ステータスとシステム・チェックの結果が表示されます。
タスク・ログ	稼働中のサーバまたはホストで実行されるタスク
	アクションのステータス、エラーの説明に関する詳細情報が表示されます。

# [システムチェックの設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、システム・チェックの実行時に対象とする ALM-Performance Center システム・コンポーネント (サーバとホスト)を選択できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で、[システムのヘルス]を選択します。 システムの確認 をクリックします。
重要な情報	<ul> <li>システム・チェックは、稼働中状態のPerformance Center サーバとホストのみで実行されます。</li> <li>システム・チェックは、Controller 田冷のナストのひてまたされます。</li> </ul>
	• システム・テエジクは、Controller 用述のパストのみで美生」されます。
参照情報	「システムのヘルスの概要」(231ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
ALM Platform の確 認	システム・チェックで ALM サーバを対象にします。

UI要素	説明
Performance Center サーバの確認	システム・チェックで稼働中のPerformance Center サーバを対象にします。
	<ul> <li>すべて:システム・チェックで稼働中のPerformance Center サーバをすべて 対象にします。</li> </ul>
	<ul> <li>特定:システム・チェックの対象にする稼働中のPerformance Center サー バを選択できます。</li> </ul>
ホストの確認	システム・チェックで Controller 目的の稼働中の Performance Center ホストを対象にします。
	<ul> <li>すべて:システム・チェックで Controller 目的の稼働中の Performance Center ホストをすべて対象にします。</li> </ul>
	<ul> <li>特定:システム・チェックの対象にするController目的の稼働中の Performance Centerホストを選択できます。</li> </ul>
<performance Center サーバのグリッ ド&gt;</performance 	システム・チェックの対象にするように選択した Performance Center サーバがリ ストされ、その詳細が表示されます。詳細については、「PC サーバ・モジュール のフィールド」(312ページ)を参照してください。
<performance Center ホスト・グリッ ド&gt;</performance 	システム・チェックの対象にするように選択した Performance Center ホストがリストされ、その詳細が表示されます。詳細については、「ホストのフィールド」 (144ページ)を参照してください。

# 第10章: PC ライセンス

本章の内容

HP ALM Performance Center ライセンスの概要	236
Performance Center のライセンス・キーの設定方法	238
Performance Center Community ライセンス・バンドルの設定方法	239
PC ライセンスのユーザ・インタフェース	240

# HP ALM Performance Center ライセンスの概要

HP ALM Performance Center を使用するには、次のライセンスを定義する必要があります。

ライセンス	説明
ALM	ALM ライセンスは、ALM のインストール・プロセスの一環として設定され、サイト管理で管理されます。ALM ライセンスの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ライセンス	説明		
Performance Center	<ul> <li>Performance Center のライセンスには2つのタイプがあります。</li> <li>PC:PC ライセンスは、同時実行または仮想ユーザの合計数によって制限され、有効期限が設定されている可能性があります。</li> </ul>		
	<b>注</b> : このライセンスは,恒久的な Community ライセンス・バンド ルとして無償で提供されます。このバンドルには,Controller 1つ(同時実行数は1) と仮想ユーザ50人が含まれます。		
	• PC_VUDS: バーチャル・ユーザ・デイ (VUD) ライセンスでは,指定された仮想 ユーザ数 (VUD)を24時間の期間 (バーチャル・ユーザ・デイ)以内に無制限 で実行できます。 バーチャル・ユーザ・デイの終わりに,ライセンス済み VUD の 残りの数が計算されます。 この計算では,使用済みの VUD 数を差し引くか, 同時実行で使用した場合は,ライセンス済み VUD の合計数から同時実行 VUD の最大数を差し引きます。		
	たとえば、ユーザに 1,000 個 の VUD を実行できるライセンスがあったとします。 ユーザは、200 個 の仮想 ユーザを必要とし、45 分間 実行 されるパフォーマン ス・テストを作成します。テストを 08:00:00 時、10:00:00 時、14:00:00 時、 16:00:00 時に実行します。それぞれのケースで、テストは次のテストが始まる 前に終了します。仮想 ユーザを同時実行で使用していないため、各テストで 同じ 200 個 の VUD を再利用できます。つまり、24 時間の期間の最後に、ラ イセンスから 200 個 の VUD のみ差し引かれ、残りの 800 個を今後使用でき ることになります。		
	ただし, ユーザが2番目の実行を午前8時30分に開始した場合,2番目の テストの初期化時に最初のテストはまだ実行中です。この重複によって,同 時実行のために400個(各テストで200個ずつ)の仮想ユーザ数が必要にな ります。この期間の最後に、ライセンスから400個のVUDが差し引からます。 400が同時実行仮想ユーザの最大数であるためです。今後使用できる残り の合計は,600個のVUDとなります。		
	注:		
	<ul> <li>Performance Center ライセンスとホスト・ライセンスは、Performance Center サーバのインストール後に直接設定されます。ライセンスの設定は、PC ライセンス・モジュール・ウィンドウで行います。詳細については、「PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ」(241ページ)を参照してください。</li> </ul>		
	<ul> <li>次のものを除き, HP 開発のプロトコル上で VUD を実行できます。 COM/DCOM, VB Com, VB 仮想ユーザ, VB Script 仮想ユーザ, VB.NET 仮想ユーザ, VB.NET テンプレート。</li> </ul>		
	■ SDK プロトコル上では、VUD を実行できません。		

ライセンス	説明
	<ul> <li>UFT Professional スクリプトなどの GUI 仮想 ユーザ・スクリプト上では、 VUD を実行 できません。</li> <li>VUD ベースの Performance Center ライセンスを使用 する場合,ホスト・ライセンスは無関係です。</li> </ul>
ホスト	<ul> <li>ホスト・ライセンスは、ホスト上のプロトコルごとの仮想ユーザ数の上限を定義します。ホスト・ライセンスの仮想ユーザ・タイプには、次の2つがあります。</li> <li>くバンドル・タイプ&gt;バンドル:各バンドルにプロトコルの集合が含まれています。プロトコル・バンドルを選択した場合、このセクションには、含まれているプロトコルのリストが表示されます。</li> <li>グローバル:グローバル・ライセンスを使用すると、合計制限内に留まる限り、すべての仮想ユーザ・タイプを実行できます。「グローバル」の後に続く数は、購入した仮想ユーザの合計数を示します。</li> </ul>
Community ライ センス・バンドル	Performance Center では、恒久的な Community ランセンス・バンドルが無償で 提供されます。この、シドルには、次の内容が含まれます。 Controller 1 つ (同時実行数は 1)、PC Lifecycle ユーザ1人、恒久的な仮想 ユーザ50人。これらの仮想ユーザは、GUI (UFT)、COM/DCOM、テンプレート・プ ロトコル以外のすべてのプロトコルに対して有効です。Community ライセンス・バン ドルにはサポートは含まれません。 <b>注</b> : この、シドルは、Performance Center インストール DVD のルート・ディレク トリにある <b>CommunityLicense</b> に格納されています。

**注**: Performance Center ライセンスとホスト・ライセンスは、Performance Center サーバのインストール 後に直接設定されます。 ライセンスの設定は、PC ライセンス・モジュール・ウィンドウで行います。 詳細については、「Performance Center のライセンス・キーの設定方法」と「Performance Center Community ライセンス・パンドルの設定方法」を参照してください。

# Performance Center のライセンス・キーの設定方法

本項では、Performance Center のライセンス・キーを設定する方法について説明します。

#### 1. 前提条件

ALM ライセンスが ALM サイト管理で設定されていることを確認します。 ALM ライセンスの詳細については、 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2. ライセンス・キーをアクティブ化します。

ライセンスをアクティブにするには、HP Software Licensing Portal (http://www.hp.com/software/licensing) にアクセスし、Entitlement Order Number を入力してください。

ライセンスを持っていない場合は、HP Software Licensing Portal (http://www.hp.com/software/licensing) にアクセスし、[**ライセンス サポートへの問い合わせ**]リンクを クリックしてください。

- 3. ライセンス・キーを設定します。
  - a. ラボ管理で, Performance Center にある[PC ライセンス]を選択します。PC ライセンス・モジュール・ウィンドウが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については,「PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ」(241ページ)を参照してください。
  - b. 次のいずれかのオプションを選択します。
    - 。 ライセンス・キーの追加:ライセンス・キーを1つ追加します。
    - ファイルからライセンスを追加:複数のライセンス・キーを同時に追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックス」(244ページ)を参照してください。

# Performance Center Community ライセンス・バンドルの設定方法

本項では、Performance Center Community ライセンス・バンドルの設定方法について説明します。

1. 前提条件

ライセンス・バンドルは、Performance Center インストール DVD のルート・ディレクトリにある CommunityLicense に格納されています。このバンドルには、次のファイルが含まれます。PC-Communitylicfile.dat, LR-Communitylicfile.dat, PCSAALM-Communitylicfile.dat

2. サイト管理で PCSAALM-Communitylicfile.dat を設定します。

「サイト管理」の[ライセンス]タブをクリックします。PCSAALM-Communitylicfile.datをアップロードします。

ライセンスのアップロードについての詳細は、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- 3. ラボ管理で PC-Communitylicfile.dat とLR-Communitylicfile.dat を設定します。
  - a. ラボ管理で, Performance Center にある[PC ライセンス]を選択します。PC ライセンス・モ ジュール・ウィンドウが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については,「PC ライセンス・モ ジュール・ウィンドウ」(241ページ)を参照してください。

b. [ファイルからライセンスを追加]をクリックします。PC-Communitylicfile.datとLR-Communitylicfile.datを追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ファイルから ライセンスを追加]ダイアログ・ボックス」(244ページ)を参照してください。

# PC ライセンスのユーザ・インタフェース

#### 本項の内容

PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ	241
[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックス	

# PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ

このページでは、Performance Center ライセンスとVUD ベースのライセンスのサマリ、ホスト・ライセンスの 情報を表示できます。

PC ライゼノスのサマリ <sub>体験なライセンス</sub> Host ライゼノスのサ				ペンスのサマリ (有効な	ライセンス		
合計f 合計f 次の: VUD 購入; 残りの プロシ すべ	仮想ユーザ教:     司詩実行教:     司詩実行教:     ライセンス有効期限:     ライセンスのサマリ     斉み VUD 合計教:     シ VUD 合計教:     アムクトに割り当てられて     てのライセンス	いない数:	1150 101 Unlimite 0 0 0	Community Database DCOM .NET Recor Wireless Web&Multi	/ d/Replay media		50 200 100 400 100
• =	うイセンス キーの道加 🔹	ファイルからライセンスを追	助 🔹 期限切れを非表	示 🗎 ライセンスの詳細	啣 ヘルプ		
	ライセンス タイブ	期限切れモード	有効期限(GMT)	Host ライセンスパンドル	数量	PC 仮想ユーザ	同時実行
<b>%</b>	Host	Permanent	Unlimited	Community	50		
<b>%</b> i	PC	Permanent	Unlimited				1
6	PC	Permanent	Unlimited			50	
6	PC	Permanent	Unlimited			100	
8	PC	Permanent	Unlimited			100	
8	PC	Permanent	Unlimited			100	
<b>%</b> ì	PC	Permanent	Unlimited				100
8	PC	Permanent	Unlimited			100	
8	PC	Permanent	Unlimited			100	
6	Host	Permanent	Unlimited	Database	100		

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]から[ <b>PC ライセンス</b> ]を選 択します。
関連タスク	<ul> <li>「Performance Center のライセンス・キーの設定方法」(238ページ)</li> <li>「Performance Center Community ライセンス・バンドルの設定方法」 (239ページ)</li> </ul>
参照情報	「HP ALM Performance Center ライセンスの概要」(236ページ)

#### [PC ライセンスのサマリ]領域

すべての Performance Center ライセンスのサマリ情報が表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
合計仮想ユーザ数	すべてのライセンスの仮想ユーザの合計数。
合計同時実行数	同時に実行できる仮想ユーザの合計数。
ライセンスの有効期限	ライセンスの有効期限が切れる日を示します。

#### VUD ライセンスのサマリ領域

VUD ベースのすべてのライセンスのサマリ情報が表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
購入済み VUD 合計数	購入した VUD の合計数。
残りの VUD 合計数	残っている VUD の合計数。
プロジェクトに割り当てられていない数	割り当てられていない VUD の合計数。

#### [ホスト ライセンスのサマリ]領域

すべてのホスト・ライセンスについて、プロトコル・バンドルと容量の情報を表示します。

すべてのライセンス領域

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
🍨 ライセンス キーの追加	一度に1つのライセンス・キーをインストールできます。
	クリックして[新規ライセンスの追加]ダイアログ・ボックスを開き, 新規ラ イセンス・キーを入力します。
	<b>注:</b> 必要なアクセス許可を持っている場合にのみ, ライセンスを 追加できます。
	「ファイルからライヤンスを追加〕ダイアログ・ボックスを開くと、複数のラ
🖕 ファイルからライセンスを追加	イセンス・キーを同時にインストールできます。ユーザ・インタフェースの 詳細については、「[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボック ス」(244ページ)を参照してください。
● 期限切れを表示	すべてのライセンスを表示,または期限切れのライセンスを非表示に します。
🐝 期限切れを非表示	

UI要素	説明
ライセンスの詳細	クリックすると, [ライセンスの詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 次の情報が表示されます。
	• 割り当て日: ライセンスがシステムに追加された日付。
	• ライセンス・キー:ライセンス・キー。
	• タイプ:ライセンスのタイプ。
	詳細をExcel ファイルにエクスポートするには, [Excel にエクスポート] をクリックします。
	<b>注:</b> 必要なアクセス許可を持っている場合にのみ, ライセンスの 詳細を表示できます。
ライセンス・タイプ	選択したライセンス・キーに利用できるライセンスのタイプ。値は次のとおりです。PC, PC_VUDS, Host。詳細については、「HP ALM Performance Center ライセンスの概要」(236ページ)を参照してください。
期限切れ <del>てー</del> ド	• 永 <del>続</del>
	• 時間制限: ライセンスは有効期限で制限されます。
	<ul> <li>一時:製品のインストール後,定義済み日数の間供与される時間制限ライセンス。</li> </ul>
有効期限 (GMT)	ライセンスの有効期限が切れる日時。
ホスト	<ul> <li>ライセンス・パンドル: ライセンスが適用される仮想ユーザ・プロトコル・バンドルの名前を示します。 ライセンスを使用すると、 Controller でプロトコル・バンドルに含まれているすべてのプロトコルの仮想ユーザを実行できます。</li> </ul>
	<ul> <li>容量:LoadRunner Controller から同時に実行できる仮想ユーザの最大数を示します。</li> </ul>
PC	• 仮想ユーザ: 仮想ユーザ数。
	• 同時実行:同時に実行できるテスト実行の最大数。

# [ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、複数の Performance Center ライセンス・キーを同時にインストールできます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]から[PC ライセンス]を選択します		
	ファイルからライセンスを追加 をクリックします。		
重要	必要なアクセス許可を持っている場合にのみ、ライセンスを追加できます。		
関連タスク	• 「Performance Center のライセンス・キーの設定方法」(238ページ)		
	•「Performance Center Community ライセンス・バンドルの設定方法」(239ページ)		
参照情報	「HP ALM Performance Center ライセンスの概要」(236ページ)		

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明	
ライセンス・ファイル	[選択]をクリックしてライセンス・ファイルを選択します。	
期限切れまたはインス トール済みのライセンスを 表示/非表示	すべてのライセンスを表示するか, または期限切れとインストール済みのラ イセンスを非表示にします。	
#	連続する ID 番号を示します。	
ライセンス・タイプ	選択したライセンス・キーに利用できるライセンスのタイプ。値は次のとおりです。PC, PC_VUDS, Host。詳細については、「HP ALM Performance Center ライセンスの概要」(236ページ)を参照してください。	
期限切れ <del>てー</del> ド	• 永続	
	• 時間制限: ライセンスは有効期限で制限されます。	
	<ul> <li>一時:製品のインストール後,定義済み日数の間供与される時間 制限ライセンス。</li> </ul>	
有効期限	ライセンスの有効期限が切れるGMT日時を示します。	

UI要素	説明	
ホスト	<ul> <li>ライセンス・バンドル: ライセンスが適用される仮想ユーザ・プロトコル・ ンドルの名前を示します。 ライセンスを使用すると、 Controller でプロト コル・バンドルに含まれているすべてのプロトコルの仮想ユーザを実行 できます。</li> </ul>	
	<ul> <li>容量: LoadRunner Controller から同時に実行できる仮想ユーザの最 大数を示します。</li> </ul>	
PC	• 仮想ユーザ: 仮想ユーザ数。	
	• 同時実行:同時に実行できるテスト実行の最大数。	
追加	選択したライセンスをインストールします。	

# 第11章: MI Listener

本章の内容

MI Listener の概要	247
MI Listenerを管理する方法	.247
MI Listener モジュール	248

## MI Listener の概要

MI Listener は、コントローラと Performance Agent 間のルータとして機能します。MI Listener を使用する ことにより、ファイアウォール越しに仮想ユーザを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプ リケーション診断データを収集できます。

MI Listener は、Performance Agent から定期的にデータを受け取ります。テストの実行中に、Controller は MI Listener からデータを取得し、実行時データとして処理します。

MI Listener は Load Generator でのみ利用できます。

ファイアウォールを使用するようにラボ管理を設定する方法の詳細については、『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』のファイアウォールの使用に関する項を参照してください。

MI Listenerの管理については、「MI Listenerを管理する方法」(247ページ)を参照してください。

# MI Listener を管理する方法

本項では、ファイアウォールを介してホスト上でパフォーマンス・テストを実行する際に使用する MI Listener を管理する方法を説明します。

**注: 製品の機能紹介ムービー**:パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を 例示するムービーを表示するには、ALMのメイン・ウィンドウで、 [ヘルプ]> [ムービー]を選択しま す。

本タスクの内容

- 「MI Listener の追加」(247ページ)
- 「ホストの場所の詳細の変更/表示」(247ページ)
- 「ホストへの MI Listener の割り当て」(248ページ)

MI Listener の追加

MI Listener を追加するには、次の手順を実行します。

- 1. [Performance Center]>[MI Listener]を選択します。
- 2. [新規 MI Listener]ボタン \* をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規 MI Listener]ダイアログ・ボックス」(253ページ)を参照してください。

ホストの場所の詳細の変更/表示

[Performance Center]>[MI Listener]を選択し、 グリッド で MI Listener を選択してから、[MI

Listener の詳細]ボタン をクリックします。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[MI Listener 詳細]ダイアログ・ボックス」(253ページ)を参照してください。

ホストへの MI Listener の割り当て

ホストに MI Listener を割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1. [**ラボ リソース**]>[**ホスト**]を選択します。
- 2. ファイアウォール越しに位置するホストをグリッドで選択し、 [テスティングホストの詳細]ボタン しょう クリックします。
- 3. [**テスティング ホスト**]ダイアログ・ボックスが開いたら, [**MI Listener**]フィールドで MI Listener を選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスティングホストの詳細]ダイアログ・ボックス」(151ページ)を参照してください。

# MI Listener モジュール

MI Listener モジュール・ウィンドウ	249
MI Listener のフィールド	.250
MI Listener モジュールのメニューとボタン	.250
[新規 MI Listener]ダイアログ・ボックス	253
[MI Listener 詳 細 ] ダイアログ・ボックス	253

# MI Listener モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、MI Listenerを表示、管理できます。MI Listenerを使用すると、ファイア ウォール越しのホスト上でパフォーマンス・テストを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとア プリケーション診断データを収集できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [MI Listener]を選択します。		
重要な情報	<ul> <li>ファイアウォールを使用するように ALM を設定する方法の詳細については、 『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』でのファイアウォールの使用に関する項を参照してください。</li> </ul>		
	• MI Listener がホストによって使用されている場合は、削除できません。		
関連タスク	「MI Listenerを管理する方法」(247ページ)		
参照情報	•「MI Listener の概要」(247ページ)		
	• 「ラボ・リソースの概要」(116ページ)		

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明		
<mi listener="" モジュール<br="">の共通の UI 要素&gt;</mi>	<ul> <li>MI Listener モジュールのフィールド: フィールドの定義については, 「MI Listener のフィールド」(250ページ)を参照してください。</li> <li>MI Listener モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明につ</li> </ul>		
	いては、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(135ページ)を参 照してください。		
<mi listener="" のグリッド=""></mi>	ALM 内の MI Listener のリストを表示します。		
[説明]タブ	現在選択されている MI Listener についての説明が表示されます。		
	<b>ヒント:</b> この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・ チェックのツールバーが表示されます。		
[履歴]タブ	現在選択されている MI Listener に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。		

### MI Listener のフィールド

本項では, MI Listener のフィールドについて説明します。

フィールド	説明		
説明	MI Listener の説明。		
MI Listener ID	MI Listener $old D_{\circ}$		
公開 IP	MI Listener の公開 IP アドレス。		
	<b>注:</b> 同じ MI Listener に対して 2 つの異なる IP アドレス (1 つは Controller との 内部通信用, もう1 つはファイアウォール越しの Load Generator との公開通 信用) がある場合, ここに <b>公開 IP アドレス</b> を入力します。 [ <b>MI Listener 名</b> ] フィールド (次を参照) には, 内部 IP アドレスを入力します。		
MI Listener 名	MI Listener の名前。		
	<b>注:</b> 同じ MI Listener に対して2つの異なる IP アドレス (1 つは Controller との 内部通信用, もう1つはファイアウォール越しの Load Generator との公開通 信用)がある場合, ここに <b>内部 IP アドレス</b> を入力します。 [ <b>公開 IP</b> ]フィール ドには, 公開 IP アドレスを入力します (上記参照)。		
用途	MI Listener に指定されたロール。		
	<ul> <li>ファイアウォール越しの診断データの収集</li> </ul>		
	• ファイアウォール越しの監視		
	<ul> <li>ファイアウォール越しのホストの実行</li> </ul>		

## MI Listener モジュールのメニューとボタン

MI Listener モジュールでは, MI Listener を管理します。

**関連タスク** 「MI Listener を管理する方法」(247ページ)

MI Listener モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォル ダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳 細については, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
削除	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッドで選択した MI Listener を削除します。
×		注:ホストが使用中のMI Listenerは、削除できません。
MI Listener の詳 細	ツールバーと右ク リック・メニュー	[ <b>MI Listener の詳細</b> ]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したリ ソースの詳細を表示および編集できます。
エクスポート	ツールバーと <右 クリック・メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスまた は[選択済みグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックス が開きます。グリッドの MI Listener を,テキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント,ま たは HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 ・ すべて:グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 ・ 選択項目:グリッド内で選択したリソースをエクスポートし ます。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リソース>に移 動	ツールバー	[ <b>MI Listener に移動</b> ]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番号で MI Listener を検索できます。移動できるのは, 現在適用して いるフィルタに含まれる MI Listener のみです。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理で きます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。

UI 要素	場所	説明
新規 MI Listener	ツールバー	MI Listener を追加します。
お気に入りの整 理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示 します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気 に入りビューのリストを表 示 します。
すべて更新 <i>Q</i>	表示	最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのフィール ドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、 グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
フィルタ/ソートの 設定	表示	グリッド内のMI Listener に対してフィルタとソートを実行できま す。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツー ルバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
選択項目の更 新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッド で 選択した複数のフィールド 値を更新 できます。詳細について は, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイ ド』を参照してください。
## [新規 MI Listener]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、 MI Listener を ALM に追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [MI Listener]を選択しま す。
	2. MI Listener モジュールで, [新規 MI Listener]ボタン * をクリックします。
重要な情報	MI Listener を使用すると、ファイアウォール越しに仮想ユーザを実行し、ファイア ウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。
関連タスク	「MI Listener を管理する方法」(247ページ)
参照情報	•「MI Listener の概要」(247ページ)
	• 「ラボ・リソースの概要」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
*	<b>すべてのフィールドをクリア</b> :データをクリアします。
45	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
R.	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
MI Listener 名	新しい MI Listener の名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用できる MI Listener のフィールドの詳細については、「MI Listener のフィールド」 (250ページ)を参照してください。

## [MI Listener 詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択した MI Listener の詳細情報が表示されます。

アクセス方 法	<ol> <li>ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [MI Listener]を選択します。</li> <li>グリッド内の MI Listener を右 クリックし, [MI Listener 詳細]を選択します。</li> </ol>
重要な情報	MI Listener を使用すると、ファイアウォール越しのホスト上でテストを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。
関連タスク	「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
参照情報	<ul> <li>「MI Listener の概要」(247ページ)</li> <li>「ラボ・リソースの概要」(116ページ)</li> </ul>

UI 要素	説明
10 0 0 01	<b>最初の/前の/次の/最後のエンティティ</b> : MI Listener のリストの間を移動できま す。
4 <b>5</b>	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Re	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
MI Listener ID	MI Listener $\sigma$ ID $_{\circ}$
MI Listener 名	MI Listener の名前。
詳細	現在選択されている MI Listener についての詳細が表示されます。利用可能な フィールドの詳細については、「MI Listener のフィールド」(250ページ)を参照してく ださい。
履歴	現在選択されている MI Listener に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

# 第12章:診断管理

本章の内容

J2EE/.NET 診断の概要	256
ERP/CRM 診断の概要	. 256
ERP/CRM メディエータの追加方法	258
HP Diagnostics サーバの追加方法	259
Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法	260
Oracle 11i 診断を事前に設定する方法	264
SAP 診断を事前に設定する方法	265
Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法	265
Oracle サーバのログを有効にする方法	267
Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法	268
診断のユーザ・インタフェース	. 269

#### J2EE/.NET 診断の概要

HP Diagnostics と HP Application Lifecycle Management (ALM) との統合によって, Java 2 Enterprise Edition (J2EE), .NET 接続, SAP, Oracle, その他の複雑な環境のパフォーマンスを 監視,分析できるようになります。

パフォーマンス・テスト中に, HP Diagnostics データをドリルダウンしてテスト全体や特定のトランザクションを表示できます。 テストの後に, HP LoadRunner Analysis を使用して, テスト中に収集されたオフライン診断データを分析できます。

サーバ要求の監視

J2EE/.NET 診断を使用するようにパフォーマンス・テストを設定する場合, 仮想ユーザ・トランザクションの コンテキスト外で発生するサーバ要求のパーセントをキャプチャするように ALM に指示できます。

この機能を有効にする利点は、次の場合にも、バックエンドのVMへの呼出しをキャプチャできることです。

- プローブが RMI 呼び出しをキャプチャしていない場合
- RMI 呼び出しをキャプチャできない場合 (おそらく、サポートされていないアプリケーション・コンテナが使用されているため)
- アプリケーションが複数のVM間の通信に他の何らかのメカニズムを使用している場合

J2EE と.NET の診断の使用の詳細については、『HP Diagnostics User Guide』を参照してください。

#### ERP/CRM 診断の概要

次の項では、ERP/CRM診断の概要について説明します。

ERP/CRM 診断について

パフォーマンス・テスト中, ALM 診断 モジュールは, Web, アプリケーション, データベース・サーバにわたって 個々のトランザクションのトレース, 時間測定, トラブルシューティングを行います。 これで, 低速のエンド ユーザ・トランザクションからボトルネックとなったメソッド や SQL ステートメントまでドリルダウンできます。 ALM Performance Center 診断 モジュールを使用すると, 組織では次のことが可能になります。

- エンドユーザ体験に重大な影響を与えるアプリケーション・コンポーネントの迅速な隔離。
- 開発者へのパフォーマンスの改善方法に関する正確なデータの提供。

ERP/CRM 診断モジュールのアーキテクチャ

ERP/CRM 診断のアーキテクチャは、次の図に示すように、次のコンポーネントで構成されています。



- メディエータ: ERP/CRM メディエータ ("メディエータ") は、Web、データベース、アプリケーション・サーバからオフライン・トランザクション・データを収集し、相関します。メディエータのインストールの詳細については、『HP LoadRunner インストール・ガイド』を参照してください。
- Controller: テスト実行の前に、Controllerはすべてのサーバ情報をメディエータに転送し、監視に参加するユーザのパーセントを分配します。テストの実行後に、Controllerは、集計されたトランザクション・データ・ファイルをメディエータから収集し、結果を照合します。結果は、Siebel診断、SAP診断、Oracle DB 結果ディレクトリに転送されます。
- Load Generator: 負荷テストを実行すると、Controller によって各仮想ユーザが Load Generator に分配され、Load Generator によって仮想ユーザ・スクリプトが実行されます。
- Analysis:詳細な診断グラフと診断レポートを表示します。診断グラフの詳細については、『HP LoadRunner Analysis ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

#### メディエータのリモート・サーバへの接続

ERP/CRM 診断モジュールを設定する場合, 監視するサーバを定義するには, トレース/ログ・ファイルを 格納するサーバのユーザ名を入力します。本項では, サーバがリモート Windows サーバまたは UNIX サーバである場合に, メディエータがサーバに接続する方法について説明します。

- リモート Windows サーバを監視する場合、メディエータは、診断設定プロセス中に[<診断タイプ> サーバの設定]ダイアログ・ボックスに入力した設定詳細を使用してサーバへの接続を試みます。この 設定では、リモート・マシンに対する管理者権限を付与する必要があります。
- リモート Linux を監視する場合、メディエータではリモート・シェル接続タイプをサポートしています。リモート・シェル接続の詳細については、『HP LoadRunner インストール・ガイド』の Linux Load Generator のインストールの確認に関する項を参照してください。

Siebel 診断とSiebel DB 診断の概要 Siebel 診断は、次の2つのモジュールに分かれています。

- Siebel 診断モジュール: Siebel トランザクションをレイヤ、領域、サブ領域、サーバ、スクリプトにブレークダウンできます。また、トランザクションの呼び出しチェーンと呼び出しスタックの統計を表示して、トランザクションの各部分で費やされる時間のパーセントを追跡することもできます。Siebel-Web 仮想ユーザでは Siebel 診断がサポートされています。
- Siebel DB 診断モジュール: データベースのパフォーマンスの問題を迅速に特定し解決できます。各トランザクションの SQL が表示されるほか、各スクリプトで問題が生じている SQL クエリと、問題がどの時点で発生したかを特定できます。Siebel-Web 仮想ユーザでは Siebel DB 診断がサポートされています。

Siebel/Siebel DB 診断モジュールを事前に設定する方法の詳細については、「Siebel/Siebel DB 診断 を事前に設定する方法」(260ページ)を参照してください。

Oracle 11i診断の概要

Oracle 11i 診断では、Oracle NCA システム上のパフォーマンスの問題を特定できます。診断情報は、トランザクションから SQL ステートメントおよび各ステートメントの SQL ステージまでドリルダウンできます。 Oracle NCA 仮想ユーザでは Oracle 11i 診断がサポートされています。

Oracle 11i 診断モジュールを事前に設定する方法の詳細については、「Oracle 11i 診断を事前に設定する方法」(264ページ)を参照してください。

SAP 診断の概要

SAP 診断では、特定の問題 (たとえば DBA, ネットワーク, WAS, アプリケーション, OS/HW)の根本原因をすばやく簡単に特定できます。また問題を該当する専門家に限定して通知し、チームのメンバ全員に示す必要はありません。

SAP診断モジュールの設定方法の詳細については、「SAP診断を事前に設定する方法」(265ページ) を参照してください。

サーバ側のデータ収集: SAP 診断は SAP Distributed Statistical Records (DSR) に基づいています。ア プリケーション・サーバで実行されるダイアログ・ステップごとに統計レコードが生成されます。レコードには、 応答時間コンポーネント、データベースの統計情報, RFC 時間などの情報が含まれます。Diagnostics メディエータは、パフォーマンス・テスト中にサーバからの診断データの収集を担当します。

**仮想ユーザの色分け**: SAP 診断では、SAPGUI プロトコルを再生できます。 [設定] ダイアログで色分け される仮想ユーザのパーセントを設定します (最大 100%)。 SAPGUI ユーザの色分けによるアプリケーショ ン・サーバのオーバーヘッド は発生しません。

#### ERP/CRM メディエータの追加方法

このタスクでは、J2EE/.NET 診断とERP/CRM 診断を使用するために、Diagnostic サーバとDiagnostic メディエータを追加する方法について説明します。

**注:** このタスクは,上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

1. 前提条件

メディエータが監視対象サーバと同じLAN にインストールされていることを確認します。 ERP/CRM メ ディエータのインストールの詳細については、『HP LoadRunner インストール・ガイド』を参照してください。

- 2. メディエータの追加と設定
  - a. ラボ管理サイドバーで, Performance Centerの下の[診断]を選択します。
  - b. [ERP/CRM 診断]タブを選択します。
  - c. [新規 Diagnostics メディエータ]ボタン \* をクリックし,必要な情報を入力します。 ユーザ・インタフェースの詳細については、「診断モジュールのフィールド」(270ページ)を参照してください。

#### HP Diagnostics サーバの追加方法

このタスクでは、HP Diagnostics サーバを追加して J2EE/.NET 環境を監視,分析できるようにする方法 について説明します。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

- 1. ラボ管理サイドバーで, Performance Centerの下の[診断]を選択します。
- 2. [J2EE/.NET 診断]タブを選択します。
- 3. [新規 Diagnostics サーバ」ボタンをクリックし,必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの 詳細については、「診断モジュールのフィールド」(270ページ)を参照してください。
- [ラボ設定]で、[プロジェクト設定]を選択します。該当するプロジェクトを右クリックし、[プロジェクト 設定の詳細]を選択します。[Diagnostics サーバ]フィールドで該当するサーバ情報を追加します。

**注:**診断データをオンラインで利用できるようにするには、Diagnostics サーバの時刻がプローブと同期されていることを確認してください。

#### Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者がSiebel診断を有効にし、実行できるようになる、ALM管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- •「前提条件」(260ページ)
- 「リモート・シェル (RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続している場合」(260ページ)
- •「診断を有効にするサーバ・マシンの設定」(261ページ)
- 「Siebel アプリケーション・サーバからメディエータへのファイルのコピー」(262ページ)
- 「時間の同期」(263ページ)
- 「 (Siebel DB) Siebel サーバでのログの有効化」(263ページ)
- 1. 前提条件

ERP/CRM メディエータがインストールされ,設定されていることを確認します。詳細については,「ERP/CRM メディエータの追加方法」(258ページ)を参照してください。

- 2. リモート・シェル(RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続している場合
  - RSH とRCP デーモンがUNIX サーバ上で実行されていることを確認します。
  - UNIX ユーザにリモート・シェル・コマンドを実行する権限があることを確認します。これをチェックするには、 DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

rsh <サーバ・マシン名 > -1 <UNIX ユーザのログイン名 > -n <コマンド >

例:

```
rsh my_unix -1 my_name -n "cd ~;pwd"
```

注: DOS コマンド・プロンプト・ウィンド ウから動作する RSH コマンドのみ使用できます。

■ RSH コマンドの実行後に出力が生成されないことを確認します。

**注:**.login, .profile, .cshrc の各ファイルから出力を生成しないでください (たとえば, echo による出力や, biff などによる間接的な出力も不可です)。既存のユーザの RSH ステップが出力を生成する場合,そのステップを削除できないのであれば,出力が生成されない新しいユーザを作成し,そのユーザにサーバ・マシンで RSH コマンド および RCP コマンドを実行する権限を与えます。

3. 診断を有効にするサーバ・マシンの設定

診断データを収集するように Siebel アプリケーション・サーバと Web サーバを設定するには、次の手順を実行します。

a. テストの対象となるすべての Siebel アプリケーション・サーバおよび Web サーバで, Siebel 診断 を有効にします。

Siebel サーバの環境変数を次のように設定します。

SIEBEL\_SarmEnabled=true

次に、サーバを再起動します。

b. サーバのパフォーマンス設定を最適化します。

次の変数を使用して、メモリ・キャッシュやファイル・サイズの最大値を変更できます。

SIEBEL\_SarmMaxMemory= <バイト数 > SIEBEL\_SarmMaxFileSize = <バイト数 >

SIEBEL\_SarmMaxMemory の値は、情報を Siebel ログ・ファイルに書き込む前に Siebel がメ モリ内に保持するバッファのサイズを制御します。このパラメータ値を増やすことで、サーバのパ フォーマンスを向上できます。ただし、実行の最後に得られる情報は、Analysis グラフには表示 されません。

次の設定をお勧めします。

#### • SIEBEL\_SarmMaxMemory

值	仮想ユーザ数
5000	20 未満 (低い負荷の場合)
1000000	100 超 (高い負荷の場合)

#### • SIEBEL\_SarmMaxFileSize

値	仮想ユーザ数
500000	20 未満 (低い負荷の場合)

值	仮想ユーザ数
25000000	100 超 (高い負荷の場合)

サーバで Siebel ログ・ファイルが生成される頻度が 10 秒ごとに 2 つ以上の場合, SIEBEL\_SarmMaxFileSize の値を増やす必要があります。

#### c. Siebel サーバ ID のリストを生成します。

Siebel サーバでコマンド・ウィンドウを開き,次のコマンドを実行します。

<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /u <ユーザ名> /p <パスワード> /g <ゲートウェイ・ サーバ> /e <Enterprise サーバ> /c "list servers show SBLSRVR\_NAME, SV\_SRVRID" ここで:

/u <ユーザ名>:サーバ管理者のユーザ名

/p <パスワード>:サーバ管理者のパスワード

/g <ゲートウェイ・サーバン:ゲートウェイ・サーバのアドレス

/e <Enterprise サーバシ: Enterprise サーバ名

/c <コマンド>:単一のコマンドを実行

このコマンドにより, すべての Siebel アプリケーション・サーバおよび ID のリストが生成されます。この情報は[Siebel サーバ設定]ダイアログ・ボックスで必要となるため, サーバ ID を記録しておいてください。

4. Siebel アプリケーション・サーバからメディエータへのファイルのコピー

アプリケーション・サーバを設定したら、次に示すファイルを Siebel アプリケーション・サーバの \bin ディレクトリから、<メディエータのルート>\bin ディレクトリ、<Windows>\System32 ディレクトリ、またはメディエータ・マシンの PATH に含まれる他の任意のディレクトリにコピーします。

Siebel 7.53 の場合,次のファイルをコピーします。

<ul> <li>sarmanalyzer.exe</li> </ul>	<ul> <li>sslcshar.dll</li> </ul>
ssicver.dll	ssicosa.dll
■ sslcsym.dll	

Siebel 7.7 の場合,次のファイルをコピーします。

■ ssicosa.dll
<ul> <li>sslcosd.dll</li> </ul>
ssicrsa.dll
<ul> <li>ssicscr.dll</li> </ul>
<ul> <li>sslcshar.dll</li> </ul>
ssicsrd.dll
<ul> <li>sslcsym.dll</li> </ul>
ssicver.dll

- 5. 時間の同期
  - Windows Siebel サーバの場合: Siebel システム内のすべてのマシンの時間が同期されていることを確認します。これによって、SQLとトランザクションの相関が正しいことが確認されます。

Load Generator から次のコマンドを実行して, Siebel Gateway とLoad Generator の時間を同期 します。

net time \ <Gateway 名 > /set /y

<Gateway 名> は, Siebel Gateway の名前で置き換えます。

■ Unix Siebel サーバの場合: Siebel システム内のすべてのマシンの時間が同期されていることを 確認します。これによって、SQLとトランザクションの相関が正しいことが確認されます。

UNIX システムでは、次のいずれかの方法で時間を同期させることができます。

- UNIX Siebel Gateway サーバで date コマンドを使用して時間を手動で変更して, Load Generator の時間と同期 するようにします。
- 。 Load Generator で時間を変更して, UNIX Siebel Gateway サーバと同期するようにします。
- Analysis で時間差を設定します。詳細については、『HP LoadRunner Analysis ユーザーズ・ ガイド』の Siebel DB 診断 グラフに関する章を参照してください。
- 6. (Siebel DB) Siebel サーバでのログの有効化

タスクの詳細については、「Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法」(265ページ)を参照してく ださい。

#### Oracle 11i 診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者がOracle 11i Diagnostics を有効にし、実行できるようになる、ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

**注:** このタスクは,上位レベルのタスクの一環です。詳細については,「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- •「前提条件」(264ページ)
- 「リモート・シェル (RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続する前の考慮事項」(264ページ)
- 「Oracle サーバでのログの有効化」(265ページ)
- •「Oracle サーバの診断パスワードの設定または無効化 オプション」(265ページ)
- 1. 前提条件

例:

ERP/CRM メディエータがインストールされ,設定されていることを確認します。詳細については,「ERP/CRM メディエータの追加方法」(258ページ)を参照してください。

- 2. リモート・シェル(RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続する前の考慮事項
  - RSH とRCP デーモンがUNIX サーバ上で実行されていることを確認します。
  - UNIX ユーザにリモート・シェル・コマンドを実行する権限があることを確認します。これをチェックするには、 DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

rsh <サーバ・マシン名 > -1 <UNIX ユーザのログイン名 > -n <コマンド >

rsh my\_unix -l my\_name -n "cd ~;pwd"

注: DOS コマンド・プロンプト・ウィンド ウから動作する RSH コマンドのみ使用できます。

■ RSH コマンドの実行後に出力が生成されないことを確認します。

**注:**.login, .profile, .cshrc の各ファイルから出力を生成しないでください (たとえば, echo による出力や, biff などによる間接的な出力も不可です)。既存のユーザのRSH ステップが出力を生成する場合, そのステップを削除できないのであれば, 出力が生成されない新

しいユーザを作成し, そのユーザにサーバ・マシンで RSH コマンド および RCP コマンドを実行 する権限を与えます。

- 3. Oracle サーバでのログの有効化 タスクの詳細については、「Oracle サーバのログを有効にする方法」(267ページ)を参照してください。
- 4. Oracle サーバの診断パスワードの設定または無効化 オプション

ALM が Oracle サーバの診断パスワードを扱えるようにするには、仮想ユーザ・スクリプトでパスワードを設定するか、サーバ自体でパスワード要求を無効にできます。タスクの詳細については、「Oracle サーバの診断パスワードを設定,無効にする方法」(268ページ)を参照してください。

#### SAP診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者がSAP診断を有効にし、実行できるようになる、ALM管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

ERP/CRM メディエータのインストール

ERP/CRM メディエータがインストールされ,設定されていることを確認します。詳細については, 「ERP/CRM メディエータの追加方法」(258ページ)を参照してください。

**注:** SAP 診断を使用する場合, SAPGUI クライアントがERP/CRM メディエータと同じマシンにイン ストールされていることを確認します。

### Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法

このタスクでは、Siebel サーバでログを有効、無効にする方法について説明します。

#### 注:

- このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については, 「ラボ管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。
- Siebel サーバでログを有効にすると、サーバのパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。ログを無効にして、パフォーマンス・テストの完了後にログの標準設定を復元することをお勧めします。

Siebel サーバのログを有効にするには

次の手順を実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /g <ゲートウェイ・サーバ> /s <Siebel サーバ> /e <Enterprise サーバ名 > /u <ユーザ名 > /p <パスワード >

ここで:

/u <ユーザ名>:サーバ管理者のユーザ名

/p <パスワード>:サーバ管理者のパスワード

/g <ゲートウェイ・サーバン:ゲートウェイ・サーバのアドレス

/e <Enterprise サーバン: Enterprise サーバ名

/s <Siebel サーバ>: Siebel サーバ(標準設定のサーバ)

2. 次のコマンドを入力します。

change evtloglvl ObjMgrsqllog=4 for comp <コンポーネント名>

evtloglvl EventContext=3 for comp <コンポーネント名>

evtloglvl ObjMgrSessionInfo =3 for comp <コンポーネント名>

例:

Call Center コンポーネントの場合, コンポーネント名として sccobjmgr\_enu を入力します。

change evtloglvl ObjMgrsqllog=4 for comp sccobjmgr\_enu

Siebel サーバのログを無効にするには 次の手順を実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /g <ゲートウェイ・サーバ> /s <Siebel サーバ> /e <Enterprise サーバ名 > /u <ユーザ名 > /p <パスワード >

ここで:

/u <ユーザ名>:サーバ管理者のユーザ名

/p <パスワード>:サーバ管理者のパスワード
/g <ゲートウェイ・サーバン:ゲートウェイ・サーバのアドレス</p>
/e <Enterprise サーバン: Enterprise サーバ名</p>
/s <Siebel サーバン: Siebel サーバ名 (標準設定のサーバ)</p>

2. 次のコマンドを入力します。

change evtloglvl ObjMgrsqllog=0 for comp <コンポーネント名 >

change evtloglvl EventContext=0 for comp <コンポーネント名 >

change evtloglvl ObjMgrSessionInfo =0 for comp <コンポーネント名 >

## Oracle サーバのログを有効にする方法

このタスクでは、Oracle サーバでログを有効にする方法について説明します。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「トレース診断が有効であることの確認」(267ページ)
- 「トレース・ファイルのサイズの無制限への設定」(268ページ)
- 1. トレース診断が有効であることの確認 次の手順を実行します。
  - a. 管理者権限を持つユーザとして Oracle アプリケーション・サーバにログオンし, Oracle アプリケー ションに使用するモジュールを選択します。[Responsibilities]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - b. [System Administrator]を選択し, [OK]をクリックします。
  - c. [**Functions**]タブで, [**Profile**] > [**System**]を選択し, [**Open**]をクリックします。[System Profile Values]ダイアログ・ボックスが開きます。
  - d. [Display]セクションで[Site]および[Profiles with No Values]を選択し, [Profiles]フィール ドに %Diagnostics% と入力して, [Find]をクリックします。
  - e. 診断プロファイルが無効になっている場合は([Site]カラムに「Yes」と表示される),設定を

「No」に変更します。

f. 設定を保存します。

2. トレース・ファイルのサイズの無制限への設定

Oracle 9i の場合:

Oracle サーバで, SQL エディタを使用して次のコマンドを実行します。

Alter system set max\_dump\_file\_size=UNLIMITED scope=both;

Oracle 8i の場合:

a. Oracle サーバで, SQL エディタを使用して次のコマンドを実行します。

Alter system set max\_dump\_file\_size=2048000;

b. **\$ORACLE\_HOME**\admin\ <sid> \pfile\init <sid> .ora の init\*.ora ファイルを編集します。パ ラメータの行を検索して値を変更し、ファイルを保存します。

**注:**トレース・ファイルは非常に大きくなる可能性があるため、データベース・サーバ上に十分なディスク領域があることを確認してください。

## Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする 方法

ALM が Oracle サーバの診断 パスワードを扱えるようにするには, 仮想 ユーザ・スクリプト でパスワードを設定するか, サーバ自体 でパスワード 要求を無効にできます。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

- 「仮想ユーザ・スクリプトでの診断パスワードの設定」(268ページ)
- 「Oracle サーバでの診断 パスワード 要求 の無効化」(269ページ)

仮想ユーザ・スクリプトでの診断パスワードの設定

VuGen で, スクリプトに nca\_set\_diagnostics\_password(<パスワード<) 関数を追加し, パスワードを選択します。

**注:** nca\_set\_diagnostics\_password 関数は, nca\_connect\_server 関数よりも後の位置に追加 する必要があります。 Oracle サーバでの診断パスワード要求の無効化

次の手順を実行します。

- 1. 管理者権限を持つユーザとして Oracle サーバにログオンし, Oracle アプリケーションに使用するモジュールを選択します。[Responsibilities]ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2. [System Administrator]を選択し, [OK]をクリックします。
- 3. [**Functions**]タブで, [**Profile**] > [**System**]を選択し, [**Open**]をクリックします。[System Profile Values]ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4. [Display]セクションで[User]を選択し、必要なユーザ名を入力します。[Profile]フィールドに %Utilities:Diagnostics%と入力し、[Find]をクリックします。Utilities:Diagnostics プロファイルの 値が表示されます。
- 5. Utilities: Diagnostics プロファイルの[User]カラムの値を「Yes」に設定します。
- 6. 設定を保存します。

## 診断のユーザ・インタフェース

本項の内容

診断モジュール・ウィンドウ	
診断モジュールのフィールド	
診断モジュールのメニューとボタン	

#### 診断モジュール・ウィンドウ

診断モジュールのウィンドウを使用すると、ERP/CRMメディエータとJ2EE/.NET サーバを追加、管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで, Performance Centerの下の[ <b>診断</b> ]を選択し ます。
関連タスク	• 「ERP/CRM メディエータの追加方法」(258ページ)
	•「HP Diagnostics サーバの追加方法」(259ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<alm の共通領域=""></alm>	ALM の共通領域の詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド 』を参照してください。
<診断モジュールのフィールド >	診断モジュールで利用できるフィールドの詳細については、「診断モジュールのフィールド」(270ページ)を参照してください。
<診断モジュールのメニューと ボタン>	診断モジュールで利用できるアイコンの詳細については、「診断モ ジュールのメニューとボタン」(271ページ)を参照してください。
[ERP/CRM 診断]タブ	ERP/CRM診断メディエータを追加,管理できます。
[J2EE/.NET 診断]タブ	J2EE/.NET 診断サーバを追加, 管理できます。
[履歴]タブ	変更日時,変更者の名前を含め,選択したサーバメディエータに加 えられた変更の履歴が表示されます。
	詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザー ズ・ガイド』を参照してください。

#### 診断モジュールのフィールド

本項では、診断モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	メディエータ/サーバの説明。
SSL の有効化	ALM がSSL 経由で Diagnostics と通信している場合, [ <b>有効化</b> ]を選択します。

フィールド	説明
論理名	メディエータ/サーバに与えられている論理名。
コンピュータ名 /IP	メディエータ/サーバの名 前または IP アドレス。
ファイアウォール 越し	ファイアウォール越しの監視が有効かどうかを指定します。有効にする場合は, [Y]を選択し, 無効にする場合は, [N]を選択します。
	<b>注:</b> ERP/CRM 診断でのみ利用可能です。
パスワード	HP Diagnostics へのログオンに使用するパスワードを入力します。 標準設定値: Admin
	<b>注:</b> J2EE/.NET 診断でのみ利用可能です。
ポート	Diagnostics サーバが使用するポート番号を入力します。 <b>標準設定値</b> : 2006
	<b>注:</b> J2EE/.NET 診断でのみ利用可能です。
タイプ	ERP/CRM メディエータのタイプ。
	<b>注:</b> ERP/CRM 診断でのみ利用可能です。
ユーザ名	HP Diagnostics にログインするユーザ名 を入 力します。
	<b>注:</b> 指定するユーザ名には、 [ <b>表示</b> ], [変更], [実行]の各権限がある必 要があります。ユーザ権限の詳細については, 『HP Diagnostics インストール および設定ガイド』を参照してください。

### 診断モジュールのメニューとボタン

本項では、診断モジュールのメニューとボタンについて説明します。

UI 要素	א⊏⊐–	説明
×	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバメディエータを削除します。

UI 要素	メニュー	説明
サー・・シメディエー タの確認 🍛	[Diagnostics サーバメディエー タ]と<右 クリック・ メニュー>	クリックして, サー・バメディエータが起動され, 実行中であるか どうかをチェックします。
URL のコピー	Diagnostics サー ノ∛メディエータ	選択したサーバメディエータをコピーして, その URL をリンクと して貼り付けます。サーバメディエータ自体はコピーされませ ん。代わりに, 電子メールやドキュメントなどの別の場所にア ドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックするとALM が開き, サーバメディエータに移動します。ログインしていない 場合, ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要 求されます。
Diagnostics サーバッメディエー タ詳細 💷	[Diagnostics サーバメディエー タ]と <右 クリック・ メニュー>	クリックすると, サー・バメディエータの詳細が表示されます。
エクスポート	[Diagnostics サーバメディエー タ]と <右 クリック・ メニュー>	<ul> <li>[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>グリッド のサーバメディエータをテキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。</li> <li>次のいずれかのオプションを選択します。</li> <li>すべてエクスポート:グリッドのすべてのサーバッメディエータをエクスポートします。</li> <li>選択項目のエクスポート:グリッド内で選択したサーバッメディエータをエクスポートします。</li> </ul>
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き, モジュールでフィールドの詳 細を検索できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Diagnostics サーバメディエー タに移動 🄊	Diagnostics サー ノѶメディエータ	サー・・ ジメディエータ ID の入 力を要 求 するダイアログ・ボックスが 開きます。 [OK]をクリックすると, サー・・ ジメディエータの詳 細 ウィンド ウが開きます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理で きます。 フィルタ処理オプションの詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。

UI 要素	メニュー	説明
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。
新規 Diagnostics サーバシメディエー タ *	Diagnostics サー ノヾメディエータ	クリックして, 新しい ERP/CRM メディエータまたは J2EE/.NET サーバを追加します。 関連 するフィールド の詳 細については, 「診断モジュールのフィールド」(270ページ)を参照してください。
すべて更新 <i></i>	表示	最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き、 グリッドのフィール ドの値を置き換えることができます。 詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
カラムの選 択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。 診断のフィールドの詳細については、「診断モジュールのフィー ルド」(270ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの 設定	表示	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。 現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツール バーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更 新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッドで 選択した複数のフィールド値を更新できます。 詳細について は, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイ ド』を参照してください。

# 第13章:パッチ管理

本章の内容

パッチの概要	275
パッチの ALM へのアップロード 方 法	275
パッチ管理のユーザ・インタフェース	275

パッチの概要

パッチ・モジュールでは、Performance Center パッチを ラボ管理 にアップロードし、該当 するホストまたは サーバにインストールできます。

#### パッチのALM へのアップロード方法

このタスクでは、 パッチを ALM にアップロード する方法 について説明します。

**注:** このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)を参照してください。

パッチをアップロードするには、次の手順を実行します。

- 1. ラボ管理サイドバーで, Performance Centerの下の[パッチ]を選択します。
- 2. [新規パッチ]ボタン をクリックします。[パッチの選択]ダイアログ・ボックスが開き, アップロードする パッチ (.msp/.msi)を選択できます。
- 3. [開く]をクリックします。[新規パッチ]ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 4. 新しいパッチの詳細を入力し、 [OK]をクリックします。 パッチがシステムに追加され、 パッチ・グリッドに表示されます。

### パッチ管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

パッチ・モジュール・ウィンドウ	276
パッチ・モジュールのフィールド	276
パッチ・モジュールのメニューとボタン	277
[パッチの詳細]ダイアログ・ボックス	279
[新規パッチ]ダイアログ・ボックス	280

#### パッチ・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、パッチを表示、アップロードできます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで, Performance Centerの下の[パッチ]を選択します。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード 方 法 」(275ページ)
参照情報	• 「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
	• 「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。 グリッド内で選択されたパッチに関する説明を表示します。
<パッチ・グリッド>	ALM Performance Center にアップロードされたパッチのリストを表示します。
<パッチ・モジュールの 共通のUI 要素>	<ul> <li>パッチ・モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「パッチ・モジュールのフィールド」(276ページ)を参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>パッチ・モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については, 「パッチ・モジュールのメニューとボタン」(277ページ)を参照してください。</li> </ul>
	• ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー, [ヘルプ]メニュー, サイドバーの詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### パッチ・モジュールのフィールド

本項では、パッチ・モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	選択したパッチの説明を表示します。
ID	パッチ ID。
名前	パッチ名 。
パス	パッチのパス。

### パッチ・モジュールのメニューとボタン

本項では、パッチ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで, Performance Centerの下の[パッチ]を選択し
	ます。

UI 要素	場所	説明
お気に入りに追 加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォル ダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳 細については, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	[パッチ]と<右ク リック・メニュー>	選択したパッチをコピーし, そのURLをリンクとして貼り付けま す。パッチ自体はコピーされません。代わりに, 電子メールやド キュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができま す。リンクをクリックするとALM が起動し, パッチ・ファイルまたは フォルダが表示されます。ログインしていない場合, ALM に よって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。
エクスポート	[ノ <sup>ヘ</sup> ッチ]と<右ク リック・メニュー>	<ul> <li>[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>グリッドのパッチをテキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</li> <li>次のいずれかのオプションを選択します。</li> <li>すべてエクスポート:グリッドのすべてのプロジェクト設定をエクスポートします。</li> <li>選択項目のエクスポート:グリッドの選択したプロジェクト設定をエクスポートします。</li> </ul>
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き,モジュールでパッチを検索 できます。検索オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してくださ い。
パッチに移動 ③	パッチ	[パッチに移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番号で特定の パッチを検索できます。現在のフィルタに含まれるパッチにのみ 移動できます。

UI 要素	場所	説明
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理で きます。 フィルタ処理オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。
新規パッチ	パッチ	[パッチの選択]ダイアログ・ボックスが開き, アップロードするパッ チを選択できます。
お気に入りの整 理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, プロパティを変 更するか, ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理で きます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
パッチの詳 細 🗊	[パッチ]と<右ク リック・メニュー>	[パッチの詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したパッチの 詳細を表示, 編集できます。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示 します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示 します。
すべて更新 <i>©</i>	表示	最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	プロジェクトの詳細のグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選 択 【【】	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 パッチのフィールドの詳細については、「パッチ・モジュールの フィールド」(276ページ)を参照してください。

UI 要素	場所	説明
フィルタ/ソートの 設定 <b>マ</b> ・	表示	グリッド内のパッチに対してフィルタとソートを実行できます。現 在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの 下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更 新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッドで 選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細について は, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイ ド』を参照してください。

## [パッチの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、ラボ管理のパッチの詳細を表示できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで, Performance Centerの下の[パッチ]を選択します。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード 方 法 」(275ページ)
参照情報	• 「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)
	• 「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)

UI要素	説明
K 0 0 0	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:プロジェクトのリストの間を移動できます。
1	<b>スペル・チェック</b> :選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	フィールドの定義については、「パッチ・モジュールのフィールド」(276ページ)を参照 してください。

## [新規パッチ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、Performance Center の新しいパッチを追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーで, Performance Centerの下の[パッチ]を選択 します。
	2. [新規パッチ]ボタン * をクリックします。[パッチの選択]ダイアログ・ ボックスが開きます。
	3. パッチの場所に移動し, [ <b>開く</b> ]をクリックします。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード 方 法 」(275ページ)

UI 要素	説明
×	<b>すべてのフィールドをクリア</b> :ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	<b>類語辞典:</b> 選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	パッチのフィールドがリストされます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「パッチ・モジュールのフィールド」(276ページ)を参照してください。
	<b>ヒント:</b> このページの[説明]フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
名前	新しいパッチに付ける名前を入力します。
	構文の例外:サーバ名には、次の文字は使用できません。\/:"?<> *%'

# 第14章: AUT ホストの管理

#### 本章の内容

AUT リソースの概要	282
Excel から AUT ホスト・データをインポートする方 法	.282
AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	.287

#### AUT リソースの概要

テスト対象アプリケーション (AUT) のコンポーネント (Web サーバ アプリケーション・サーバやデータベース・サーバなど) は, AUT ホストと呼ばれるマシンでホストされます。 AUT ホストをグループ化したものが, AUT プールです。

AUT ホストは、トポロジとSiteScopeの統合機能の核となる要素です。

# Excel からAUT ホスト・データをインポート する方法

このタスクでは、AUT ホストのリストを Excel ファイル (.xls または .csv) から ALM にインポートする方法について説明します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- •「前提条件」(282ページ)
- 「AUT ホストのインポート (Performance Center ユーザのみ)」(286ページ)
- •「結果」(286ページ)
- 1. 前提条件

Excel ファイルは、インポート機能によってそのカラムを認識、マップできるように設定する必要があります。

Excel ファイルの最初の行には、次の表に表示されるフィールド名または対応する論理名が含まれている必要があります。(日付文字列は、大文字と小文字が区別されません。)

フィールドの中には、必須のフィールド、あるいは必要または任意指定のフィールドがあります。

- 必須は、Excel ファイルに必ずなければならないフィールドを示します。このフィールドを省略すると、インポートは失敗します。このフィールドのカラムのいずれかの行で値を省略すると、その特定の行のインポートが失敗します。
- 必要は、Excel ファイルにある必要があるフィールドを示します。このフィールドを省略すると、 コードによってすべての行に標準設定値が入ったフィールドが追加されます。フィールドを指定 しても、このカラムのいずれかの行で値を省略すると、コードによってその行に標準設定値が 追加されます。
- ・ 任意指定は、Excel ファイルにある必要がないフィールドを示します。このフィールドを省略しても、インポート手順に影響はありません。
- 仮想,参照,無効なフィールドを表すフィールドは無視されます。
- 空のカラムは許可されます。

#### 次のようにファイル内のカラムと値を設定します。

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_NAME	論理名	任意の文字列	AUT ホストの論理名
必要			<b>注</b> : この値が空の場合, AUTHOST_MACHINE_NAME と同じ値が設定されます
AUTHOST_ MACHINE_NAME 必須	コンピュータ名 /IP	マシン名/IP	AUT ホストの物理マシン名
AUTHOST_ USERNAME 必須	ユーザ名	マシンのユーザ名	AUT ホスト・マシンにログオンする ためのユーザ名
AUTHOST_ PASSWORD 必須	パスワード	ユーザ名 のパスワー ド	AUT ホスト・マシンにログオンする ためのパスワード

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_OS	OS タイプ	■ SUNOS (標準 設定)	AUT ホスト・マシンのオペレーティ ング・システム
ムに対してのみ必		<ul> <li>Sun Solaris</li> </ul>	(UNIX プラットフォームに対して
安		<ul> <li>MacOSX</li> </ul>	0007)
		■ Linux	
		<ul> <li>Red Hat Enterprise Linux</li> </ul>	
		<ul> <li>AIX</li> </ul>	
		■ FreeBSD	
		■ HP-UX	
		■ HP/UX	
		<ul> <li>HP/UX 64-bit</li> </ul>	
		<ul> <li>NonStopOS</li> </ul>	
		<ul> <li>OPENSERVE</li> <li>R</li> </ul>	
		■ SCO	
		<ul> <li>SGI Irix</li> </ul>	
		■ Tru64 5.x	
		<ul> <li>Tru64 pre 4.x (Digital)</li> </ul>	
AUTHOST_ PLATFORM	プラットフォーム	■ Windows (標準 設定)	AUT ホスト・プラットフォーム
必要		<ul> <li>UNIX</li> </ul>	

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_ PROTOCOL 必要	プロトコル	Windows: NetBIOS (標準 設定) SSH WMI UNIX: IONIX: IONIX: IONIX: SSH	AUT ホスト・プロトコル
AUTHOST_UNIX_ PROMPT UNIX プラットフォー ムに対してのみ必 要	UNIX プロンプト	#(標準設定)	AUT ホスト・マシン上 の UNIX プ ロンプト
AUTHOST_ DESCRIPTION 任意指定	説明	任意の文字列	AUT ホストの説 明

#### 例:

次の図は、2台のAUTホスト (**1.2.3.4**, **5.6.7.8**)と名前が提供されていない3番目のマシンによる Excel ファイルの設定を示しています。

_												_
(		- (4 - 🖷	🕽 🗧 Aut	HostsImpo	rt_eg.xls [C	ompatibility	y Mode] - I	vicrosoft E	Excel	_	•	c
	Hom	e Insert	Page La	ayout Fo	ormulas	Data R	eview Vi	ew Ado	d-Ins	🥑 –	•	x
F	Paste	Arial B I U Comparison Fon	• 11 • • A A A • A • t □	■ = 三 = 注 注 Align	■ 🗗 - ■ 💀 - ≫ ►¶ - ment -	General \$ ✓ % •.0 .00 •.00 →.0	, A	Dele Forn Cell	rt • ete • mat •	Σ - Ž ↓ - Å ∠ - Editin	7- 4-	
	11	•	- (0	<i>f</i> ∗ AUT	HOST DES	CRIPTION						¥
	Δ	B	C	D	E	F	G	н	Sectores 1	(constraints		
1	AUTHOST_ NAME	AUTHOST_ MACHINE_ NAME	AUTHOST_ USERNAME	AUTHOST_ PASSWORD	AUTHOST_ OS	AUTHOST_ PLATFORM	AUTHOST_ PROTOCOL	AUTHOST_ UNIX_PROM PT	AUTHO DESCR N	OST_ IIPTIO	3	-
2		1.2.3.4	Sam	Sam					Only mandat fields a filled	tory are		
3	Machine1	5.6.7.8	Peter	Peter	SUNOS	Windows	NetBios		Other f are fille well	fields ed as		
4	Machine3		Jane	Jane								
5												

- 2. AUT ホストのインポート (Performance Center ユーザのみ)
  - a. 次のように AUT ホスト・モジュールを開きます。
    - ALMの場合:ALM サイドバーの[Performance Center]で, [AUT ホスト]を選択します。
    - ラボ管理の場合: ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT ホスト]を選択します。
  - b. [**AUT ホスト**]>[**インポート**]を選択します。
  - c. AUT ホストを含む Excel ファイルを参照し, [開く]をクリックします。
- 3. 結果

インポート・プロセスの進行状況が表示されます。プロセスの最後に、レポートにインポート結果が表示されます。インポートされた AUT ホストが AUT ホスト・モジュールにリストされます。正常にインポートされなかった AUT ホストは、手動で追加する必要があります。

例:

上記の手順1でのExcel ファイルのインポート結果を、次の図に示します。

* 🗐 🗙	<b>9</b> 7 • [								
Logical Name	Machine Na	ime / IP	Platform	OS Type	Protocol	Username	Password	UNIX Prompt	Description
1.2.3.4	1.2.3.4		Windows	NT	NetBIOS	Sam	••••••	#	Only mandatory.
Machine1	5.6.7.8		Windows	NT	NetBIOS	Peter	•••••	#	Other fields are f
		WARI (Row AUTH	NING: 2 Cell 4]: AU IOST PLATI	THOST_OS ORM field d	field data (S ata (Window	UNOS') is inci	onsistent with T OS field dat		
Description H	listory	was re	eplaced to 'N	Τ'.			-		
	Other fields are filled as well		ERROR: [Row 3 Cell 2]: Reid 'AUTHOST_MACHINE_NAME' is mandatory, but no value was assigned to it.						

#### 注:

- Excel ファイルには、マシン 1.2.3.4 の論理名が入力されていなかったため、マシン名 /IP と同じ論理名が与えられています。
- マシン1のオペレーティング・システムは SUNOS と指定されていましたが、プラットフォームは Windows と指定されていました。SUNOS は UNIX プラットフォームにのみ関連するため、こ れらの値は整合性を欠いています。このため、値 SUNOS は NT で置き換えられました。
- Excel ファイルにリストされていた3番目のマシンには、マシン名が指定されていませんでした。このマシンはインポートされませんでした。手動で追加する必要があります。
- 必要であるが、必須ではない値は、インポート・プロセス中にシステムによって自動的に入 力されています。
- 仮想,参照,無効なフィールドを表すカラムは無視されます。

### AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース

#### 本項の内容

AUT ホスト・モジュール	.288
AUT ホストのフィールド	289
[新規 AUT ホスト]ダイアログ・ボックス	290
[AUT ホストの詳 細]ダイアログ・ボックス	.291
AUT プール・モジュール	292
[リンクされたホスト]ページ	293
[AUT ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス	294
AUT プールのフィールド	.295

[新規 AUT ホスト プール]ダイアログ・ボックス	296
[AUT ホスト プール詳 細]ダイアログ・ボックス	. 296
AUT リソース・モジュールのメニューとボタン	. 297

#### AUT ホスト・モジュール

このモジュールを使用すると、AUTホストを表示,管理できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。
	<ul> <li>ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT ホスト]を 選択します。</li> </ul>
	• ALM サイドバーの[Performance Center]で, [AUT ホスト]を選択 します。
重要な情報	AUT ホスト・モジュールは、ラボ管理とALMの両方で利用できます。
参照情報	「AUT リソースの概 要 」(282ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<共通のメニューと ツールバー>	AUT リソース・モジュールのメニューとツールバーの詳細については、「AUT リ ソース・モジュールのメニューとボタン」(297ページ)を参照してください。
<aut ホスト・グリッド<br="">&gt;</aut>	ALM で定義されている AUT ホストのリストを表示します。
[説明]タブ	AUTホストに関する主な詳細と説明を表示します。
	ヒント:編集と形式のオプション用の[説明]領域を右クリックしてください。
[履歴]タブ	選択した AUT ホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照して ください。
### AUT ホストのフィールド

次の表に, AUT ホストのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
所属プール	AUT ホストが所属するホスト・プール。
	<b>利用可能な場所</b> : ラボ管理のみ
説明	AUTホストの説明。
論理名	AUTホストに与えられている論理名。
コンピュータ名 /IP	AUT ホスト・マシンの名 前または IP アドレス。
更新日時	AUTホストの詳細情報が最後に変更された日付。
OS タイプ	AUT ホスト・マシンのオペレーティング・システム。
パスワード	AUTホスト・マシンにログインするためのパスワード。
プラットフォーム	AUT ホスト・マシンの基本オペレーティング・システム: Window または UNIX。
プロトコル	AUT ホストとの通信 (監視目的)に使用されるネットワーク・プロトコル。
	標準設定值: NetBIOS, WMI, SSH
UNIX プロンプト	オペレーティング・システムによって使用されるプロンプト。AUT ホストとの通 信 (監視日的)にも使用されます。
	利用可能な場所・UNIX のAUT ホストのみ。
ユーザ名	AUT ホスト・マシンにログインするためのユーザ名。

### [新規 AUT ホスト]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい AUT ホストを作成できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。
	[ラボ管理]から:
	1. ラボ管理サイドバーの[ <b>Performance Center</b> ]で, [ <b>AUT ホスト</b> ]を選択します。
	2. [新規 AUT ホスト] * をクリックします。
	ALM から:
	1. ALM サイドバーの[ <b>Performance Center</b> ]で, [ <b>AUT ホスト</b> ]を選択します。
	2. [新規 AUT ホスト] * をクリックします。
重要な情報	ALM で AUT ホストを作成すると、AUT ホストが自動的にプロジェクトの AUT プー ルに追加されます。
	<b>ヒント</b> : AUT ホストのリストを Excel ファイルからインポートできます。詳細については、「Excel から AUT ホスト・データをインポート する方法」(282ページ)を参照してください。
参照情報	•「AUT リソースの概 要」(282ページ)
	<ul> <li>『HP ALM Performance Center ガイド』</li> </ul>

UI要素	説明
*	<b>すべてのフィールドをクリア</b> : データをクリアします。
<b>≜</b> €∕	<b>スペル・チェック</b> :選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	<b>類語辞典:</b> 選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。

UI要素	説明
コンピュータ名 /IP	AUT ホスト・マシンの名 前 または IP。
説明	新しい AUT ホストの詳細情報を入力できます。詳細については、「AUT ホストのフィールド」(289ページ)を参照してください。

### [AUT ホストの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、AUTホストの詳細を表示,変更できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。
	<ul> <li>ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で、[AUT ホスト] を選択します。グリッドのAUT ホストを右クリックし、[AUT ホスト の詳細]を選択します。</li> </ul>
	<ul> <li>ALM サイドバーの[Performance Center]で、[AUT ホスト]を選択します。 グリッドの AUT ホストを右 クリックし、[AUT ホストの詳細]を選択します。</li> </ul>
参照情報	「AUT リソースの概 要」(282ページ)

UI 要素	説明
0000	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:AUTホストのリストの間を移動できます。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Re	<b>類語辞典:</b> 選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR.	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
コンピュータ名 /IP	AUT ホスト・マシンの名 前または IP。
詳細	選択した AUT ホストの詳細情報を表示します。詳細については、「AUT ホストのフィールド」(289ページ)を参照してください。
履歴	選択した AUT ホストに加えられた変更の一覧が表示されます。 詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### AUT プール・モジュール

このモジュールを使用すると, AUT プールを表示, 管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT プール]を選択します。
関連タスク	AUT プール・モジュールは、 ラボ管理でのみ利用できます。
参照情報	「AUT リソースの概 要 」(282ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<共通のメニューと ツールバー>	AUT プール・モジュールのメニューとツールバーの詳細については、「AUT リソース・モジュールのメニューとボタン」(297ページ)を参照してください。
<aut プールのグリッ<br="">ド&gt;</aut>	システム内 で定 義 されている AUT プールを表 示します。
[説明]タブ	AUT プールに関する主な詳細と説明を表示します。
	ヒント:編集と形式のオプション用の[説明]領域を右クリックしてください。
[リンクされたホスト]タ ブ	AUT ホストを選択したプールに追加し、 プールからホストを削除できます。詳細については、「[リンクされたホスト]ページ」(293ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	選択した AUT プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### [リンクされたホスト]ページ

このページを使用すると、AUT ホストを AUT プールに追加し、AUT・プールから AUT ホストを削除できます。

アクセス方法	• AUT プール・モジュールからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT プール]を選択しま す。情報パネルで, [ <b>リンクされたホスト</b> ]を選択します。
	• [AUT プール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT プール]を選択しま す。AUT プールを右クリックし, [AUT プール詳細]を選択します。[AUT プール 詳細]ダイアログ・ボックスで, [リンクされたホスト]を選択します。
	注: ラボ管理でのみ利用できます。
重要な情報	[リンクされたホスト]ページを使用すると、複数のAUTホストをAUTプールにリン クできます。
	あるいは、AUT ホストの詳細の[ <b>所属プール</b> ]フィールドから単一のAUT ホストを 複数のAUT プールにリンクできます。詳細については、「AUT ホストのフィールド」 (289ページ)を参照してください。
参照情報	「AUT リソースの概 要」(282ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
9	AUT ホストの詳細: [AUT ホストの詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したリ ンクされている AUT ホストの詳細情報を表示できます。詳細については,「AUT ホストのフィールド」(289ページ)を参照してください。
87	<b>ホストをプールに追加</b> : [AUT ホストをプールに追加]が開き, AUT プールに追加 する AUT ホストを選択できます。
8	<b>ホストの削除</b> : AUT プールから選択した AUT ホストを削除します。
*	<b>ホストに移動</b> : AUT ホスト・モジュール内の選択したリンクされている AUT ホストを 表示します。

UI 要素	説明
	<b>すべて更新</b> :最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
<b>₹</b> •	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用 されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細に ついては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照し てください。
	<b>カラムの選択</b> :[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き, グリッドに表示するフィー ルドとその順序を指定できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Q	<b>検索</b> : [検索]ダイアログ・ボックスが開き, AUT ホストを検索できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リンクされている ホストのグリッド>	AUT プールに属している AUT ホストが一覧表示されます。ホストのフィールドの詳細については、「AUT ホストのフィールド」(289ページ)を参照してください。

### [AUT ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス

このページを使用すると, AUT プールに追加する AUT ホストを選択できます。

アクセス方法	• AUT プール・モジュールからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT プール]を選択しま す。情報パネルで, [リンクされたホスト]を選択し, [ホストをプールに追加]ボ
	タンニーをクリックします。
	• [AUT プール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT プール]を選択しま す。AUT プールを右クリックし, [AUT プール詳細]を選択します。[AUT プール 詳細]ダイアログ・ボックスで, [リンクされたホスト]を選択し, [ホストをプールに 追加]ボタン <sup>通</sup> をクリックします。
	<b>注:</b> ラボ管理でのみ利用できます。
重要な情報	あるいは, AUT ホストの詳細の[ <b>所属プール</b> ]フィールドから単一の AUT ホストを 複数の AUT プールにリンクできます。詳細については,「AUT ホストのフィールド」 (289ページ)を参照してください。
参照情報	「AUT リソースの概要」(282ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
	<b>すべて更新</b> :最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	<b>カラムの選択</b> : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, グリッドに表示するフィー ルドとその順序を指定できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<b>∀</b> •	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用 されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細に ついては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照し てください。
追加	選択した AUT ホストを AUT プールに追加します。
<aut ホスト・グ<br="">リッド&gt;</aut>	AUT プールに追加 できる AUT ホストが一 覧表示されます。
選択済み	プールに追加することを選択した AUT ホストが表示されます。

### AUT プールのフィールド

AUT プールには,次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明			
説明	AUTプールの説明。			
更新日時	AUTプールの詳細情報が最後に変更された日付。			
プール ID	AUTプールのID。			
プール名	AUT プールの名前。			
	<b>注:</b> この名前には、スペース、ピリオド、次のいずれかの文字を除き、最大 128 文字まで指定できます。			
ホストの総数	ホスト・プール内の AUT ホストの合計数。			

## [新規 AUT ホスト プール]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい AUT プールを作成できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT プール]を選択します。 [新規 AUT ホスト プール] <sup>**</sup> をクリックします。
参照情報	「AUT リソースの概要」(282ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
×	<b>すべてのフィールドをクリア</b> :データをクリアします。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
R.	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
プール名	AUTプールの名前。
詳細	新しい AUT プールの詳細情報を入力できます。詳細については、「AUT プールのフィールド」(295ページ)を参照してください。

### [AUT ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、AUT プールの詳細を表示,変更できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUT ホスト]を選択します。 グ リッドのAUT ホストを右クリックし, [AUT ホストの詳細]を選択します。
参照情報	「AUT リソースの概 要 」(282ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
0000	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:AUT プールのリストの間を移動できます。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Re	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
プール名	AUTプールの名前。
詳細	選択した AUT プールの詳細情報を表示します。詳細については、「AUT プー ルのフィールド」(295ページ)を参照してください。
リンクされたホスト	AUT ホストを選択したプールに追加し、 プールからホストを削除できます。詳細については、「[リンクされたホスト]ページ」(293ページ)を参照してください。
履歴	選択した AUT プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### AUT リソース・モジュールのメニューとボタン

これらのモジュールを使用すると、テスト対象のアプリケーションをホストしている AUT リソースを管理できます。

アクセス方法	次のいずれかを実行します。
	<ul> <li>ラボ管理の場合: ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [<aut リソース="">]を選択します。</aut></li> </ul>
	• ALM の場合 : ALM サイドバーの[Performance Center]で, [AUT ホスト]を選択します。
	<b>注:</b> ラボ管理では, AUT ホストとAUT プールの両方を定義できます。 ALM では, AUT ホストのみ定義できます。

重要な情報	• AUT ホストは、ラボ管理とALMの両方で管理できます。
	• 管理者権限を持つユーザのみ, AUT プールを管理できます (ラボ管理で)
	0
参照情報	「AUT リソースの概 要」(282ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	場所	説明
<aut リソース=""> の詳細</aut>	<aut リソース=""> と右 クリック・メ ニュー</aut>	[ <aut リソース=""> 詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択した AUT リソースの詳細情報を表示できます。</aut>
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォル ダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳 細については, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	<aut リソース=""> と&lt;右 クリック・メ ニュー&gt;</aut>	選択した AUT リソースの URL をコピーして, リンクとして貼り 付けます。電子メールやドキュメントなどの別の場所に URL を貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動 し, リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。 ログインし ていない場合, ALM によって最初にログインの詳細情報の 入力が要求されます。
削除	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッド 内 の選 択 した AUT リソースを削 除 します。
エクスポート	<aut リソース=""> と &lt;右 クリック・メ ニュー&gt;</aut>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き, AUT リソースを, テキスト・ファイル, Microsoft Excel ワーク シート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ドキュメントとして エクスポートできます。
		次のいずれかのオプションを選択します。
		• <b>すべてエクスポート</b> : グリッド のすべてのリソースをエクスポートします。
		• 選択項目のエクスポート: グリッド内で選択したリソースを エクスポートします。

UI 要素	場所	説明
検索	ビュー	[検索]ダイアログ・ボックスが開き,モジュールでリソースを検 索できます。検索オプションの詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
<aut リソース=""> に移動</aut>	<aut リソース=""></aut>	[ <aut リソース=""> に移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番号 で特定 のリソースを検索 できます。 現在 のフィルタ内 のリソース にのみ移動 できます。</aut>
グリッド・フィルタ	[表示]と<右ク リック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理で きます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
インポート	AUT ホスト	AUT ホストのリストを Excel ファイル (.xls または .csv) から ALM にインポートできます。 詳細 については、「Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法」(282ページ)を参照 してください。
情報パネル	[表示]と<右ク リック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。
新規 <autリ ソース&gt;</autリ 	<aut リソース=""></aut>	AUT リソースを追加 できます。
*		<b>注:</b> AUT プールの場合, ラボ管理でのみ利用できます。
お気に入りの整 理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、 プロパティを変 更するか、 ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理で きます。 詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示 します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気 に入りビューのリストを表 示 します。
すべて更新 <i>Q</i>	ビュー	最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。

UI 要素	場所	説明
置换	[編集]と<右ク リック・メニュー>	<aut リソース=""> グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き, グリッド のリソースのフィールド の値を置き換えることができま す。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</aut>
カラムの選択	ビュー	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、 グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。
		リソースのフィールドの詳細については、次を参照してください。
		• 「AUT ホストのフィールド」(289ページ)
		• 「AUT プールのフィールド」(295ページ)
フィルタ/ソートの 設定	ビュ <b>ー</b>	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。 現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツール バーの下に表示されます。フィルタ処理オプションの詳細につ いては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ ガイド』を参照してください。
選択項目の更 新	[編集]と<右ク リック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスが開き、 <aut リソー<br="">ス&gt; グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。 詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</aut>

# 第15章: プロジェクト 管理

本章の内容

### ラボ管理対応プロジェクトの使用の概要

ラボ管理対応プロジェクトを作成した後,サイト管理でそのプロジェクトを管理します。ALM でのプロジェクトの管理の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ただし、サイト管理の管理タスクに加え、追加の手順を把握しておく必要がある特定のユースケースがあ ります。次に、それらのユースケースを示します。

#### プロジェクトのステージングから運用環境への移行

詳細については、「ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法」(303ページ)を参照 してください。

#### プロジェクトのコピーの作成

プロジェクトのコピーの作成方法の詳細については、 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理対応プロジェクトのコピーを作成する場合,次のことを認識しておく必要があります。

- 新しいプロジェクトでも、ラボ管理拡張が有効になっている必要があります。
- テスト実行の詳細情報は、使用状況レポートには表示されません。
- タイムスロットとプロジェクトの設定はコピーされません。
- 元のプロジェクトに関連付けられている結果ファイルはコピーされません。

#### ラボ管理プロジェクトのアーカイブ

ラボ管理対応プロジェクトのアーカイブとは、プロジェクトが置かれているサーバからプロジェクトをエクスポートまたは削除し、後でそのプロジェクトを同じサーバにインポートし戻すことです。

プロジェクトのエクスポート,インポート,アクセスの復元の詳細については,『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理対応プロジェクトをアーカイブする場合、次のことを認識しておく必要があります。

- 同じ PUID を持 つプロジェクト が元 のサーバに存 在している場 合, プロジェクトをそのサーバにインポートできません。
- プロジェクトへのアクセスを復元する場合、次のことを認識しておく必要があります。
  - テスト実行の詳細情報は,使用状況レポートには表示されません。
  - タイムスロットとプロジェクトの設定情報が失われます。

### ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する 方法

次のタスクでは、ラボ管理システムをステージングから運用環境へ正常に移行する方法について説明します。

**注**: システムの移行の結果,運用環境で最初に作成され, ラボ管理に含まれていたすべての情報 が失われます。

タスクは次の手順で構成されています。

- 「サイト管理のオープン」(303ページ)
- 「ラボ管理のステージングから運用環境への移行」(303ページ)
- •「運用環境でのラボ管理のアクティブ化」
- 「ALM ライセンスの更新」(303ページ)
- •「サーバおよびホストの更新」(304ページ)
- •「プロジェクトのステージング環境から運用環境への移行」(304ページ)
- •「運用環境でのプロジェクトのアクティブ化」(304ページ)
- 「運用環境でのラボ管理のプロジェクト設定」(304ページ)
- 1. サイト管理のオープン

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- ラボ管理のステージングから運用環境への移行
   a. ステージング環境で、サイト管理の[ラボ管理]タブを選択します。
  - b. ステージングからラボ管理プロジェクトを削除し、運用環境に復元します。ラボ管理の削除と復元の詳細については、「[ラボ管理]タブ」(19ページ)を参照してください。
- 3. 運用環境でのラボ管理のアクティブ化 ラボ管理のアクティブ化の詳細については、「[ラボ管理]タブ」(19ページ)を参照してください。
- 4. ALM **ライセンスの**更新

運用環境のラボ管理で、ALM ライセンスを更新します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

#### 5. サーバおよびホストの更新

**注:** 運用環境のサーバとホストがステージング環境のものと異なる場合に、この手順を実行してください。

ラボ管理で既存のサーバとホストを削除し、新しいサーバとホストで置き換えます。

- Performance Center サーバを追加する方法の詳細については、「Performance Center サーバを 管理する方法」(306ページ)を参照してください。
- ホストを追加する方法の詳細については、「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)を参照してください。
- 6. プロジェクトのステージング環境から運用環境への移行

各プロジェクトをステージング環境から削除し、運用環境に復元します。プロジェクトの削除と復元の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

7. 運用環境でのプロジェクトのアクティブ化

プロジェクトのアクティブ化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

#### 8. 運用環境でのラボ管理のプロジェクト設定

運用環境に移行した各プロジェクトについて、この手順を実行します。プロジェクト設定の詳細については、「プロジェクト設定」(22ページ)を参照してください。

# 第16章: PC サーバ

本章の内容

PC サーバの概 要	306
Performance Center サーバを管理する方法	306
Performance Centerサーバ・モジュールのユーザ・インタフェース	307

PC サーバの概要

PC サーバ・モジュールでは、Performance Center の機能で必要な情報とリソースの管理を行います。 PC サーバの新規作成、Performance Center サーバ・ステータスのモニタ、サーバ情報の編集、サーバ・パ フォーマンスのチェックを実行できます。

Performance Center サーバの管理の詳細については、「Performance Center サーバを管理する方法」 (306ページ)を参照してください。

### Performance Center サーバを管理する方法

このタスクでは、Performance Center サーバを管理するためのさまざまなオプションについて説明します。

注:このタスクは、次の上位レベルのタスクの一環です。「ラボ管理の管理の使用方法」(15ページ)

Performance Center サーバの詳細については、「PC サーバの概要」(306ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「サーバの追加」(306ページ)
- 「Performance Center server に対するサーバ接続のチェック」(306ページ)
- •「サーバの再起動」(307ページ)
- 「サーバへのパッチのインストール」(307ページ)

#### サーバの追加

- 1. ラボ管理で、 [サーパ]> [PC サーパ]を選択します。
- 2. [新規 PC サーバ]ボタン \*\* をクリックします。
- 3. [新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックスで,必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細 については、「[新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス」(314ページ)を参照してください。

Performance Center server に対するサーバ接続のチェック

ラボ管理サイドバーの[サーバ]から[PC サーバ]を選択します。 グリッド内のサーバを右クリックし, [サーバの確認]>[サーバの確認]を選択します。

タスク・マネージャが開き、サーバ上で実行された各チェックの結果全体、 [成功]または [失敗]が表示されます。

サーバ・チェックの進行状況は, PC サーバ・モジュールの[**サーバのステータスの確認**]タブで確認できます。

次のチェックが実行されます。

- サーバへの ping: Performance Center サーバが選択したマシンへの ping を実行します。
- Ping URL: 選択したサーバがリストされている URL への ping を実行します。

あるいは、上記のチェックとともにサーバから特定のURLへの追加の接続チェックを実行できます。 グリッド 内のサーバを右クリックし、 [サーバの確認]> [URLへの接続性の確認]を選択して、 URLを入力しま す。

#### 例:

- 通常のURL:http://www.website.com
- マシン名:machine22 または http://machine22

サーバの再起動

ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。 グリッド内の再起動するサーバを右クリックし、[サーバの再起動]を選択します。

#### サーバへのパッチのインストール

**注:** サーバにパッチをインストールするには、最初にパッチをALMにアップロードしておく必要があります。詳細については、「パッチのALMへのアップロード方法」(275ページ)を参照してください。

ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。 グリッド内のパッチをインストールするサーバを右 クリックし、[パッチのインストール]を選択します。

**ヒント:** パッチは, 複数のサーバに同時にインストールできます。複数のサーバを選択するには, キー ボードのCTRL キーを押しながらサーバを選択します。

### Performance Centerサーバ・モジュールのユーザ・イン タフェース

本項の内容

PC サーバ・モジュール・ウィンドウ	
PC サーバ・モジュールのメニューとボタン	309
PC サーバ・モジュールのフィールド	
[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス	

[新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス	314
[プロセス]ページ	.315
[サーバのステータスの確認]ページ	.316

### PC サーバ・モジュール・ウィンドウ

PC サーバ・モジュール・ウィンドウを使用すると、Performance Center サーバを管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<pc サーバ・モ<br="">ジュールの共通の UI 要素&gt;</pc>	• PC サーバのフィールド: フィールドの定義については、「PC サーバ・モジュールの フィールド」(312ページ)を参照してください。
	• PC サーバのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「PC サーバ・ モジュールのメニューとボタン」(309ページ)を参照してください。
	• ALM のマストヘッド, メニュー, サイドバー: (詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。)
<グリッド・フィルタ >	各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。 このフィルタ・ボックスが空の場合,現在カラムにはフィルタが適用されていません。
	ボックスに条件を直接入力するか, ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し, [フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。 詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<サーバ・グリッド>	Performance Center サーバのリストを表示します。
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。 グリッド内で選択したサーバに関する情報を表示します。
[説明]タブ	現在選択されているサーバについての説明が表示されます。
	テキスト・ボックス内 でクリックすると, テキストの書 式 設 定 とスペル・チェックのための ツールバーが表 示 されます。
[イベント ログ]タ ブ	選択したサーバで実行されているタスク,操作のステータス,エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(180ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[プロセス]タブ	選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。 詳細については、「[プロセス]ページ」(315ページ)を参照してください。
[サーバのステータ スの確認]タブ	サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。サーバの確認のステータスの詳細を表示するには、タブ内の行を右クリックし、 [サーバのステータスの確認の詳細]を選択します。詳細については、「 [サーバのステータスの確認] ページ」(316 ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### PC サーバ・モジュールのメニューとボタン

本項では、PC サーバ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)

UI要素	א⊏⊐–	説明
BALM 接続     [PC サーバ]と	[PC サーバ]と<	内部と外部のALM URLを定義できます。
	石 クリック・メ ニュー>	内部 URL は、すべての Performance Center コンポーネ ントが ALM への接続に使用します。
		このURLは次の形式である必要があります。 http:// <alm>:<port></port></alm>
	<b>例</b> :http://myalm:8080	
		<b>注:</b> SSL 接続では, ALM の内部 URL は, https で 始まる必要があります。例: https://myalm:443.
🌽 サーバの再設定	[PC サーバ]と< 右 クリック・メ ニュー>	選択したサーバのシステム情報をリセットします。 たとえば, 内部/外部 URL, ユーザID などです。
</th <th>[PC サーバ]と&lt; 右 クリック・メ ニュー&gt;</th> <th>[パッチのインストール]ダイアログ・ボックスが開き, 選択し たサーバにインストールするパッチを選択できます。</th>	[PC サーバ]と< 右 クリック・メ ニュー>	[パッチのインストール]ダイアログ・ボックスが開き, 選択し たサーバにインストールするパッチを選択できます。

UI要素	メニュー	説明
😳 サーバの確認	РС <del>サ</del> —バ	選択したサーバとシステム内の他のマシン間の接続性を チェックします。
🗘 サーバの再起動	[PC サーバ]と< 右 クリック・メ ニュー>	選択したサーバをリモートで再起動できます。
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開 フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加で きます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	PC サーバ	選択したサーバをコピーして、そのURLをリンクとして貼 り付けます。サーバ自体はコピーされません。代わりに、 電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼 り付けることができます。リンクをクリックするとALMが起 動し、リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ロ グインしていない場合、ALMによって最初にログインの 詳細情報の入力が要求されます。
削除	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバを削除します。
エクスポート	[PC サーバ]と< 右 クリック・メ ニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き ます。グリッド のサーバをテキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 ・ <b>すべてエクスポート</b> :グリッドのすべてのサーバをエクス ポートします。
		• 選択項目のエクスポート:グリッド内で選択したサー バをエクスポートします。
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き,モジュールでサーバを 検索できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してく ださい。
PC サーバに移動	РС <del>サ</del> —/	[PC サーバに移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番号 で特定のサーバを検索できます。現在のフィルタ内の サーバにのみ移動できます。

グリッド・フィルタ 表示	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処
	理できます。 フィルタ処理オプションの詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガ イド』を参照してください。
<b>情報パネル</b> 表示	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非 表示にします。
新規 PC サーバ PC サーバ	PC サーバを追加できます。
<b>お気に入りの整理</b> お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
PC サーバの詳細       [PC サーバ         □□       右 クリック・>         ニュー>       □	]と< [PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択し 、 たサーバの詳細が表示されます。詳細については, 「[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス」(313ページ)を 参照してください。
非公開 お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを 表示します。
<b>公開</b> お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気 に入 りビューのリストを 表 示します。
<b>すべて更新</b> 表示	最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。
<b>置換</b> [編集]と< リック・メニュ	右ク PC サーバのグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き, ー> グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細 については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<b>カラムの選択</b> 表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 PC サーバのフィールドの詳細については、「PC サーバ・エジュールのフィールド」になって、ジェを照してください。

UI要素	⊀ニュー	説明
フィルタ/ソートの設定 〒 -	表示	グリッド内のサーバに対してフィルタとソートを実行できま す。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、 ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。 詳細 については、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### PC サーバ・モジュールのフィールド

本項では, PC サーバ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)

UI要素	説明
設定の最終チェック	最後の設定のチェックが成功または失敗したかを表示します。
接続性の最終チェック	最後の接続のチェックが成功または失敗したかを表示します。
説明	Performance Center サーバの説明。
外部 URL	外部ソースから Performance Center サーバへの接続に使用する URL。 <b>注</b> : SSL 接続の場合,外部 URL に次の形式を使用して, Performance Center server を追加します。 https:// <pc サーバ=""> <b>例</b>: https://mypcs:443</pc>
インストールの最終チェック	最後のインストールのチェックが成功または失敗したかを表示します。
内部 URL	Performance Center サーバと ALM とのすべての内部通信,および負荷分散に使用する URL。

UI要素	説明
名前	新規サーバの設定時に割り当てるサーバ名。
パフォーマンスの最終 チェック	最後のパフォーマンスのチェックが成功または失敗したかを表示します。
サーバロ	サーバID。
サーバの状態	サーバの現在の状態。可能性のある状態は次のとおりです。
	• アイドル:サーバはアイドル状態です。
	<ul> <li>パッチのインストール中:インストール用のパッチをサーバにインストー ル中で、サーバは一時的に利用できません。</li> </ul>
	• 再起動中:サーバは再起動中で,一時的に利用できません。
	標準設定値:[アイドル]
ステータス	サーバの現在のステータス。可能性のあるステータスは次のとおりです。
	• 稼働中:サーバは稼働中です。
	• 非稼働:サーバは稼動していません。
	• 利用不可 .: サーバは利用できません。

### [PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス

[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスでは、単一のサーバの表示と更新ができます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択し ます。
	2. サーバを右クリックし, [PC サーバの詳細]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)

UI 要素	説明
K & & A	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:サーバのリストの間を移動できます。

UI 要素	説明
45	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
サーバ ID	サーバのID。
名前	サーバの名前。
詳細	現在選択されているサーバの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「PC サーバ・モジュールのフィールド」(312ページ)を参照してください。
イベント・ログ	選択したサーバで実行されているタスク,操作のステータス,エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、「イベント・ログ」(154ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているサーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細に ついては,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照し てください。
プロセス	選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示しま す。詳細については、「[プロセス]ページ」(315ページ)を参照してください。
サーバステータスの 確認	サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。サーバの確認のステータスの詳細を表示するには、タブ内の行を右クリックし、 [サーバステータスの詳細の確認]を選択します。詳細については、 「[サーバのステータスの確認]ページ」 (316ページ)を参照してください。

### [新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい Performance Center サーバを追加できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択し ます。	
	2. [新規 PC サーバ「ボタン * をクリックします。	
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)	

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
×	<b>すべてのフィールドをクリア</b> :ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
AB	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	PC サーバのフィールドが一覧表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「PC サーバ・モジュールのフィールド」(312ページ)を参照してください。
	<b>ヒント:</b> このページの[説明]フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
名前	新しいサーバに付ける名前を入力します。
	構文の例外:サーバ名には、次の文字は使用できません。\/:"?<> *%'

### [プロセス]ページ

このページには、選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報が表示されます。

アクセス方法	• PC サーバ・モジュールからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択します。情報パネル で, [ <b>プロセス</b> ]を選択します。
	• [PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択します。 サーバを右ク リックして, [ <b>サーバの詳細</b> ]を選択します。 [PC サーバの詳細]ダイアログ・ボッ クスで, [ <b>プロセス</b> ]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)
参照情報	「PC サーバの概 要」(306ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明
<b>Ø</b>	更新:最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
×	プロセスの強制終了: グリッド内の選択したプロセスを終了します。
	注:
	• ホスト・モジュールの場合:選択したプロセスを終了するには、プロセスの強制終了アクセス許可が必要です。
	• Performance Center サーバ・モジュールの場合:ビューア・アクセス許可を持つユーザが選択したプロセスを終了できます。
<プロセス・グリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。
<プロセス・グリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。 <ul> <li>名前:プロセスの名前。</li> </ul>
<プロセス・グリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。 • 名前:プロセスの名前。 • PID:プロセスID。
<プロセス・グリッド <i>&gt;</i>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。 •名前:プロセスの名前。 •PID:プロセスID。 •プロセッサ時間(%):プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。
<プロセス・グリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。 • 名前:プロセスの名前。 • PID:プロセスID。 • プロセッサ時間 (%):プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。 • メモリ使用量 (KB):プロセスが使用するメモリ量 (KB)。
<プロセス・グリッド <i>&gt;</i>	<ul> <li>プロセスに関する次の詳細情報を表示します。</li> <li>名前:プロセスの名前。</li> <li>PID:プロセスID。</li> <li>プロセッサ時間(%):プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。</li> <li>メモリ使用量(KB):プロセスが使用するメモリ量(KB)。</li> <li>経過時間(d.hh:mm:ss):プロセス開始以降に経過した時間で、dは日数、hh:mm:ssは経過した時間、分、秒です。</li> </ul>

### [サーバのステータスの確認]ページ

このページは、サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。

アクセス方法	• PC サーバ・モジュールからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択します。情報パネル で, [ <b>サーバのステータスの確認</b> ]を選択します。
	• [PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合:
	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>PC サーバ</b> ]を選択します。 サーバを右ク リックし, [ <b>PC サーバの詳細</b> ]を選択します。 [PC サーバの詳細]ダイアログ・ ボックスで, [ <b>サーバのステータスの確認</b> ]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(306ページ)
参照情報	「PC サーバの概 要」(306ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します (ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	[サーバのステータスの確認]の詳細:次のフィールドが表示されます。
	• 実際値:サーバの接続性の確認による実際の値。
	• 確認:サーバの確認機能によってチェックされるサーバのサブ領域。
	• 確認結果 ID:サーバの確認の各ステップのID。
	• 期待値:サーバの確認による期待される値。
	• カテゴリ:サーバの確認機能によってチェックされるサーバの領域:設定,接続性,インストール,パフォーマンス。
	• 確認日:サーバがチェックされた日付。
	• エラー: チェック中にエラーが発生した場合, エラーを表示します。
	• ステータス: サーバの確認が成功または失敗したかを示します。
0	<b>更新</b> : ページを更新します。
<b>₹</b> •	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用 されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細に ついては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照し てください。

UI 要素	説明
	<b>カラムの選択</b> : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, グリッドに表示 するフィー ルドとその順序を指定できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Q	<b>検索</b> : [検索]ダイアログ・ボックスが開き,グリッド内を検索できます。 詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<サーバのステータ スの確認 のグリッ ド>	サーバの確認のステータスを表示します。 グリッドに表示するカラムを選択するには,
実際の値	サーバの接続性の確認による実際の値。
カテゴリ	<ul> <li>サーバの確認機能によってチェックされるサーバの領域:</li> <li>設定</li> <li>接続性</li> <li>インストール</li> <li>パフォーマンス</li> </ul>
確認	サーバの確認機能によってチェックされるサブ領域。たとえば、パフォーマンス・チェッ クの場合のサブ領域は、プロセッサ、メモリ、システムです。
確認日	サーバがチェックされた日付。
確認結果 ID	サーバの確認の各ステップのID。
エラー	チェック中にエラーが発生した場合、エラーを表示します。
期待値	サーバの確認による期待される値。
ステータス	サーバの確認が成功または失敗したかを示します。

# 第17章: CDA サーバ

本章の内容

CDA サーバの概要	320
CDA サーバを管理する方法	.320
CDA サーバのユーザ・インタフェース	.321

### CDA サーバの概要

CDA サーバ・モジュールは、ラボ管理内での HP Continuous Delivery Automation (CDA) サーバの作成 と構成に使用します。CDA には、一連の動的なターゲット環境に複合アプリケーションを送信する方法 の定義に必要結果および関係を示すデータ・モデルが用意されています。

CDA は ALM と統合して、リソースの動的なプロビジョニングおよびデプロイメントを可能にします。AUT 環境設定を CDA にリンクすると、ALM は環境パラメータの特定の値を入力するようにユーザに要求しなくてもリンクされたテストの実行を行うことができます。ラボ管理で CDA サーバを定義すると、AUT 環境パラメータを CDA パラメータにリンクするために ALM で CDA サーバを使用できます。 CDA および AUT パラメータの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

### CDA サーバを管理する方法

このタスクでは、ラボ管理で CDA サーバを作成する方法を説明します。ラボ管理で CDA サーバを管理 し、ALM で CDA リンケージを実行します。

ALM での CDA 設定は、次のワークフローで行います。



- 1. 通信セキュリティ・パスフレーズの更新
  - a. サイト管理で, **COMMUNICATION\_SECURITY\_PASSPHRASE** サイト・パラメータを更新し ます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してくだ さい。
  - b. ALM サーバ上の HP Application Lifecycle Management サービスを再起動します。
- 2. ラボ管理でのCDA サーバの作成
  - a. ラボ管理で, [**サーバ**]>[CDA サーバ]を選択します。
  - b. [新規 CDA サーハ]ボタン \*をクリックします。

注: サイトごとに設定できる CDA サーバは 1 つだけです。

c. [新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックスで, サーバ情報を入力します。 CDA のフィールドの詳細

については、「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(325ページ)を参照してください。 ユーザ・イン タフェースの詳細については、「[新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックス」(325ページ)を参照してく ださい。

- d. 送信後, CDA サーバ・データで互換性チェックが行われます。内部 URL は, 接続チェックに使用します。接続に問題がない場合には, CDA サーバがグリッドに表示されます。
- 3. プロジェクト 設定の更新
  - a. ラボ管理で, [**ラボ設定**]>[**プロジェクト設定**]を選択します。
  - b. 該当するプロジェクトをグリッドから選択し, [プロジェクト設定の詳細]ボタン と をクリックします。
  - c. [プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックスで, [CDA サーバ]フィールドと[CDA ドメイン] フィールドを更新します。[OK]をクリックします。

これで、CDA サーバが ALM とリンクできます。

### CDA サーバのユーザ・インタフェース

本項の内容

CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ	.322
CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン	322
CDA サーバ・モジュールのフィールド	.325
[新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックス	325
[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス	326

### CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, <b>[CDA サーバ</b> ]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(320ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI要素	説明		
<cda サーバ・モ<br="">ジュールの共通の UI 要素&gt;</cda>	• CDA サーバのフィールド: フィールドの定義については、「CDA サーバ・モ ジュールのフィールド」(325ページ)を参照してください。		
	• CDA サーバのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン」(322ページ)を参照してください。		
	<ul> <li>ALM のマストヘッド、メニュー、サイドバー: (詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。)</li> </ul>		
<グリッド・フィルタ>	各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合,現在カラムにはフィルタが適用されていません。		
	ボックスに条件を直接入力するか,ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し, [フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。		
<サーバ・グリッド>	CDA サーバのリストを表示します。		
[履歴]タブ	現在選択されている CDA サーバに加えられた変更の一覧が表示されます。 詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』 を参照してください。		

### CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン

本項では、CDA サーバ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [CDA サーバ]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(320ページ)

UI 要素	メニュー	説明
お気に入りに追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, 非公開フォル ダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳 細については, 『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
CDA サーバ詳細 同	[CDA サーバ]と <右 クリック・メ ニュー>	[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したサー バの詳細が表示されます。詳細については,「[CDA サーバ 詳細]ダイアログ・ボックス」(326ページ)を参照してください。
削除	[編集]と<右ク リック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバを削除します。
エクスポート	[CDA サーバ]と <右 クリック・メ ニュー>	<ul> <li>[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>グリッド のサーバをテキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</li> <li>次のいずれかのオプションを選択します。</li> <li>すべてエクスポート:グリッドのすべてのサーバをエクスポートします。</li> <li>選択項目のエクスポート:グリッド内で選択したサーバをエクスポートします。</li> </ul>
検索	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き,モジュールでサーバを検索 できます。詳細については,『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
CDA サーバに移 動	CDA サーバ	[CDA サーバに移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番号で 特定のサーバを検索できます。現在のフィルタ内のサーバにの み移動できます。
グリッド・フィルタ	表示	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	表示	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示に します。

UI 要素	メニュー	説明
新規 CDA サー パ *	CDA サーバ	CDA サーバを追加できます。
お気に入りの整 理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユー ザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示 します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気 に入りビューのリストを表 示 します。
すべて更新 <i>Q</i>	表示	最新の情報が表示されるように、 グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右ク リック・メニュー>	CDA サーバのグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き、グ リッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細につい ては、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガ イド』を参照してください。
カラムの選 択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示する フィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参 照してください。 PC サーバのフィールドの詳細については、「CDA サーバ・モ ジュールのフィールド」(325ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの 設定 了・	表示	グリッド内のサーバに対してフィルタとソートを実行できます。現 在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの 下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更 新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。 グリッド で 選択した複数のフィールド 値を更新 できます。 詳細について は, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイ ド』を参照してください。
# CDA サーバ・モジュールのフィールド

本項では, CDA サーバ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [CDA サーバ]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(320ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
外部 URL	外部ソースから CDA サーバへの接続に使用する URL。これは,必須フィー ルドです。
	URL のフォーマット : http://[サーバ名 ]:[ポート]/cda
	<b>注:</b> SSL 接続の場合, 外部 URL に次の形式を使用して, CDA サー バを追加します。
	https:// <cda_server></cda_server>
ID	サーバID。
内部 URL	Performance Center サーバとALM とのすべての内部通信,および負荷分散 に使用する URL。
名前	新規サーバの設定時に割り当てるサーバ名。
	URL のフォーマット: http://[サーバ名][ポート]

# [新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい CDA サーバを作成できます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>CDA サーバ</b> ]を選択し ます。
	2. [新規 CDA サーバ]ボタン ** をクリックします。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(320ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
×	<b>すべてのフィールドをクリア</b> :ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
* <b>B</b>	<b>スペル・チェック</b> :選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Rej	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	新しいサーバに付ける名前を入力します。
	<b>構文の例外</b> :サーバ名には、次の文字は使用できません。\/:"?<> * %'

# [CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス

[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックスでは、単一のサーバの表示と更新ができます。

アクセス方法	1. ラボ管理サイドバーの[ <b>サーバ</b> ]で, [ <b>CDA サーバ</b> ]を選択し ます。
	2. サーバを右クリックし, [CDA サーバ詳細]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(320ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
10 0 0 01	最初の/前の/次の/最後のエンティティ:サーバのリストの間を移動できます。
45	スペル・チェック:選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
Re	<b>類語辞典</b> :選択した単語の類義語,反義語,関連語が表示されます。
AR:	<b>スペル・オプション</b> :スペル・チェックの方法を設定できます。

UI 要素	説明
ID	サーバのID。
名前	サーバの名前。
詳細	現在選択されているサーバの詳細が表示されます。 利用可能なフィールドの詳細については、「CDA サーバ・モジュールのフィールド」 (325ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているサーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細に ついては、 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド 』を参照し てください。

# 第18章: Lab Service

### 本章の内容

HP ALM Lab Service の概要	.329
HP ALM Lab Service のインストール	.329
HP ALM Lab Service の使用	337
HP ALM Lab Service Agent	.340

## HP ALM Lab Service の概要

HP ALM Lab Service はテスティング・ホスト上でエージェントとして機能するため, ALM はホスト上でテスト とメンテナンス・タスクをリモートで開始できます。

Lab Service は、テスト・ツール・ホストでバックグラウンド実行されます。テスティング・ホストを ALM ラボ管理機能と統合するには、ラボ管理または ALM のホスト/テスティング・ホスト・モジュールでホストを定義してから、[Lab Service の設定]ページを使用して ALM Lab Service を ALM サーバに指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「HP ALM Lab Service Agent」(340ページ)を参照してください。

1回の登録処理で、エージェントのIDが検証され、ALMとホスト間にセキュリティ保護された通信チャネルが確立されます。登録後、ALMを使用してリモート・ホスト上で機能テストとメンテナンス・タスクを実行します。

Lab Service は、ALM とテスト・ホスト間のセキュアなインタフェースとして機能します。ALM との通信 (テスト要求,テスト結果、メンテナンス・タスクなど)は、Lab Service を経由します。Lab Service は、標準 HTTP プロトコルを通じて ALM と通信し、ファイアウォールを通過できます。ALM Lab Service を停止すると、テストの実行で ALM ラボ管理によるホストの使用が回避されます。

タスクの詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(337ページ)を参照してください。

# HP ALM Lab Service のインストール

このタスクでは、HP ALM Lab Service のインストール方法について説明します。

HP ALM Lab Service のインストールの修正,修復の詳細については、「HP ALM Lab Service の変 更またはアンインストール」(336ページ)を参照してください。

HP ALM Lab Service - インストール・ウィザードによる Lab Service のインストール

1. HP ALM Lab Service MSI インストール・ファイルを HP ALM の[アドイン]ページでダウンロードしま す。オペレーティング・システム環境に合わせてインストール・パスを選択します。

**注:** 互換性を確保するには、Lab Service と接続先のALM サーバが同じバージョンである必要 があります。使用中のLab Service のバージョンがALM サーバと一致しない場合、[ホスト/テス ティングホスト]グリッドでテスティング・ホストが[**利用不可**]と表示されます。

2. MSI インストール・ファイルを実行します。HP ALM Lab Service - インストール・ウィザードが起動 し, [ようこそ]画面が開きます。

🛃 HP ALM Lab Service	-  インストール ウィザード 🔀
()) ALM Lab Service	HP ALM Lab Service のインストール ウィザードへようこそ インストール ウィザードは、HP ALM Lab Service をコンピュータ上に インストールします。 続行するには、 じかへ] をクリックしてください。
→ ようこそ インストール先フォル… カスタム セットアップ 設定の確認 インストール 完了	警告: この製品は、著作権に関する法律および国際条約により保護さ れています。
	< 戻る(8) (次へ吸) キャンセル

注:

- マシンの管理者権限が必要です。
- ユーザ・アクセス制御 (UAC) を無効にする必要があります。

[次へ]をクリックします。

3. [インストール先フォルダ]画面が開きます。

Lab Service をインストールするフォルダを指定します。 [変更]をクリックすると、インストール先フォルダを変更できます。

👹 HP ALM Lab Service	-
() ALM Lab Service	インストール先フォルダ 以下のフォルダにインストールするには[次へ]、別のフォルダにインストールす るには【変更】をクリックしてください。
ようこそ → インストール先フォ カスタム セットアップ 設定の確認 インストール 完了	HP ALM Lab Service のインストール先: C:¥Program Files¥HP¥HP ALM Lab Service¥ 変更( <u>C</u> )
	< 戻る(B) (大へ(M)) キャンセル

注:インストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限が必要です。

表示されているフォルダへのインストールを開始するには、[次へ]をクリックします。

4. [カスタム セットアップ]画面が開きます。

この画面では、Lab Service の自動ログイン機能を有効にすることができます。[自動ログイン]チェックボックス・アイコンをクリックし、[この機能を有効にする]を選択します。自動ログインの詳細については、「自動ログイン」(340ページ)を参照してください。

🙀 HP ALM Lab Service	- インストール ウィザード	×
ALM Lab Service	カスタム セットアップ 機能をインストールする必要がある場合、以下のアイコンをクリックしてくださ い。	
ようこそ インストール先フォ ・ カスタム セットアップ 設定の確認 インストール 完了		
	〈戻る個〉 次へ(10) > キャンセル	

注意: Windows XP では, HP ALM Lab Service のセット アップを行うと, 自動 ログインに必要 なファイル (GINA DLL) がインストールされます。他のアプリケーションでホストへのログインをカスタ マイズしている場合,別バージョンのファイルがすでにインストールされている可能性があります。 したがって,このファイルを置換するとエラーが発生することがあります。 自動 ログイン機能を有効 にする場合は,他のアプリケーションをアンインストールしてから,Lab Service のインストールを再開してください。

[次へ]をクリックします。

5. [設定の確認]画面が開きます。

1 😽	IP ALM Lab Service	- インストール ウィザード	×
A	D LM Lab Service	設定の確認 	
•	ようこそ インストール先フォ カスタム セットアップ 設定の確認 インストール 完了	インストールを開始さするには[インストール]をクリックしま す。	
		< 戻る(B) (インストール女) キャンセル	, _

設定を確認または変更する場合は、[戻る]をクリックします。

設定を確定してインストール処理を開始するには、[次へ]をクリックします。

[インストール]ページが開き, HP ALM Lab Service のファイルがインストールされます。

🙀 HP ALM Lab Service	- インストール ウィザード
<b>1</b>	HP ALM Lab Service のインストール
ALM Lab Service	InstallShield ウイザードは、HP ALM Lab Service をインストールして います。しばらくお待ちください。
ようこそ	ステータス:
インストール先フォ	
カスタム セットアップ	
設定の確認 ♪ イロフトニル	
<b>ラ</b> インスピール 完了	
201	
	< 戻る(2) 次へ(2) / ★→ンセル

6. インストールが完了すると、[HP ALM Lab Service の設定]ダイアログ・ボックスと[完了]画面が開きます。

🙀 HP ALM Lab Service	- インストール ウィザード 🔀
ALM Lab Service	HP ALM Lab Service インストール ウィザードの完了 HP ALM Lab Service のインストールが完了しました。
ようこそ インストール先フォ カスタム セットアップ 設定の確認 インストール → 完了	[完了]をクリックする前に、[HP ALM Lab Service の設定] ページを 使用して Lab Service を設定することを推奨します。エージェントは設 定が完了するまで動作しません。
	< 戻る(B) <b>完了(D</b> キャンセル

[Lab Service の設定]ダイアログ・ボックスにホスト設定を入力し、 [**OK**]をクリックします。 [Lab Service の設定] ページのユーザ・インタフェースの詳細については、「HP ALM Lab Service Agent」 (340ページ)を参照してください。

- Lab Service の設定はこの段階で行うことをお勧めしますが、後で設定することも可能です。 エージェントを実行するには、設定を完了する必要があります。
- インストールで自動ログインを有効にすると、コンピュータの再起動を指示するメッセージが表

示されます。[Lab Service の設定]ページの内容を確認してから、再起動してください。

これで, Lab Service のインストールは完了です。[完了]画面の[完了]をクリックします。Lab Service のトレイ・アイコン」がWindows タスクバーに表示されます。

サイレント・モード での Lab Service のインストール

コマンド・ラインで,次の Microsoft MSI サイレント・インストール・コマンドを入力します。

msiexec /i "<MSI の場所>/HpAlmLabService\_x64.msi" /qb SERVERNAME=http://<サーバ名 >:<ポート>/qcbin HOSTUSERNAME=<ユーザ名 >

注:

- マシンの管理者権限が必要です。
- ユーザ・アクセス制御 (UAC)を無効にする必要があります。

次に、指定可能な ALM 固有のパラメータを示します。

パラメータ	説明
HOSTUSERDOMAIN=<ドメイン>	自動ログインが有効の場合に必要です。ログイン・ユーザのドメインを指定します。

パラメータ	説明
HOSTUSERNAME=<ユーザ名>	<b>必須パラメータ。</b> テスティング・ホストでのテスト実 行時に, ログインが必要なユーザを指定します。
	注:このユーザには次の権限が必要です。
	• グローバル・オブジェクトの作成
	・ All COM の権限
	<ul> <li>インストール先フォルダに対する読み取り および書き込み権限</li> </ul>
	<ul> <li>所定のタイプのテストを実行するために 必要になるすべての権限。たとえば、 UFT テストを ALM から実行する場合、 選択するユーザには UFT テストの実行に 必要な権限がすべて必要になります。 各テスト・ツールで必要な権限の詳細に ついては、テスト・ツールのユーザ・ガイド を参照してください。</li> </ul>
HOSTUSERPASSWORD=<パスワード >	自動ログインが有効の場合に必要です。ログイ ン・ユーザのパスワードを指定します。
ISAUTOLOGIN=1	自動ログイン機能を有効にします。自動ログイン が有効の場合, HOSTUSERDOMAIN パラメー タとHOSTUSERPASSWORD パラメータを指定 してください。自動ログインの詳細については、 「自動ログイン」(340ページ)を参照してください。
LOGLEVEL=くログ・レベル>	Lab Service がログを記録する際のレベル (くロ グ・レベル>)を指定します。サポートされるログの レベルは、エラー、オフ、警告、情報、詳細です。 ログ・レベルの詳細については、「HP ALM Lab Service Agent」(340ページ)を参照してください。
LOGLOCATION="くログ・ディレクトリ>"	Lab Service のログを記録する場所 ( <b>くログ・ディ</b> レクトリ>)を指定します。
REGISTER=1	インストールの完了後に,登録要求をALMサー バに自動送信します。

パラメータ	説明
SERVERNAME=http://くサーバ名 >:<ポート>/acbin	<b>必須パラメータ。</b> ALM サーバの URL。
	例: SERVERNAME=http://almserver1:8080/qc bin

これ以外にも標準のMSIパラメータが提供されています。詳細情報は、コマンド・ラインで msiexec /?と入力して確認できます。

### HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール

HP ALM Lab Service のインストールの変更

- 1. MSI インストール・ファイルを実行します。[ようこそ]画面で HP ALM Lab Service インストール・ ウィザード が起動します。[次へ]をクリックします。
- 2. [プログラムのメンテナンス]画面が開きます。

[変更]ラジオ・ボタンを選択します。[次へ]をクリックします。

3. [カスタム セットアップ] 画 面 が開きます。

機能アイコンを使用して, HP ALM Lab Service 機能を有効または無効にします。

[次へ]をクリックします。

4. [設定の確認]画面が開きます。

[次へ]をクリックします。

5. [完了]画面が開きます。[完了]をクリックします。

HP ALM Lab Service の削除

注意: Lab Service を削除したら、別のバージョンを再インストールする前にホストを再起動する必要 があります。再起動せずに新しいバージョンを再インストールしようとすると、インストールが失敗します。

MSIファイルを使用してLab Serviceを削除するには、次の手順を実行します。

1. MSI インストール・ファイルを実行します。[ようこそ]画面で HP ALM Lab Service - インストール・

ウィザードが起動します。[次へ]をクリックします。

2. [プログラムのメンテナンス]画面が開きます。

[削除]ラジオ・ボタンを選択します。[次へ]をクリックします。

3. [プログラムの削除]画面が開きます。[削除]をクリックします。

MSI インストール・ファイルの実行時に Lab Service が実行中であった場合, [使用中のファイル] 画面が開く場合があります。[OK]をクリックして, 削除を完了します。

4. [完了]画面が開きます。[完了]をクリックします。

Windows の[プログラムと機能]を使用して Lab Service を削除するには、次の手順を実行します。

- 1. [コントロールパネル]>[すべてのコントロールパネル項目]>[プログラムと機能]に移動して, Windows の[プログラムと機能]画面を開きます。
- 2. [HP ALM Lab Service]を右クリックして, [アンインストール]を選択します。

サイレント・アンインストールを使用して Lab Service を削除するには、次のいずれかのコマンドを実行します。

- msiexec /x "<msi の場所>\HpAlmLabService\_x64.msi"
- msiexec /x {8A0D781B-7976-419F-91D9-15F3121FCFA5}

# HP ALM Lab Service の使用

このタスクでは、HP ALM Lab Service の使用方法について説明します。ALM を使用してテスティング・ホストで機能テスト・セットからテストを実行するには、Lab Service を使用して ALM でホストを登録する必要があります。

HP ALM Lab Service の詳細については、「HP ALM Lab Service の概要」(329ページ)を参照してください。

**注:** 互換性を確保するには、Lab Service と接続先のALM サーバが同じバージョンである必要があります。使用中のLab ServiceのバージョンがALM サーバと一致しない場合、[ホスト/テスティングホスト]グリッドでテスティング・ホストが[利用不可]と表示されます。



このタスクは次のステップで構成されています。

- •「テスティング・ホストの作成」(338ページ)
- 「HP ALM Lab Service の構成」(338ページ)
- 「ラボ管理でのホストの登録の承認」(339ページ)
- 「Lab Service の停止/開始」(339ページ)
- 1. テスティング・ホストの作成

ALM またはラボ管理の[ラボリソース]で,ホスト/テスティング・ホスト・モジュールを選択します。[新 規テスティングホスト]ボタンをクリックし,テスティング・ホスト情報を入力します。新しいテスティング・ ホストの[登録ステータス]が[未登録]に設定されます。

**注:**[登録自動承認]を[Y]に設定することで、ALMでテスティング・ホスト登録を自動的に承認するように準備できます。

タスクの詳細については、「テスティング・ホストの管理方法」(119ページ)を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規テスティングホスト]ダイアログ・ボックス」(150ページ) を参照してください。

- 2. HP ALM Lab Service の構成 Lab Service を設定するには、次の内容が必要です。
  - ALM サーバの URL。
  - テスティング・ホストでのテスト実行専用に使用する、専用のWindows ユーザ名。

注:このユーザには次の権限が必要です。

- 。 グローバル・オブジェクトの作成
- All COM の権限
- 所定のタイプのテストを実行するために必要になるすべての権限。たとえば、UFT テストをALM から実行する場合,選択するユーザにはUFT テストの実行に必要な権限がすべて必要になります。各テスト・ツールで必要な権限の詳細については、テスト・ツールのユーザ・ガイドを参照してください。
- Windows ユーザ名のパスワードとドメイン。インストールの間に自動ログインを有効にした場合のみ,利用できます。
- (オプション) テスティング・ホストとALM 間の通信で使用するプロキシ・サーバの URL と証明書。

[設定]ページを使用して, ALM と通信するように Lab Service を設定できます。

[設定]ページを使用して Lab Service を登録するには,次の手順を実行します。

- a. システム・トレイにある[Lab Service]アイコンLEを右クリックします。[設定]ページを開きます。
- b. ALM サーバURL とホスト・ユーザ情報を入力します。必要に応じてプロキシ・サーバ情報を入力します。[設定]ページに関するユーザ・インタフェースの詳細については、「HP ALM Lab Service Agent」(340ページ)を参照してください。[ホストの登録]をクリックします。
- c. ラボ管理で,ホスト・グリッドを更新します。新しいホストの[登録ステータス]が[保留中]に設定 されます。
- 3. ラボ管理でのホストの登録の承認

ホストを作成したときに[登録自動承認]を[Y]に設定した場合,登録が自動的に承認されます。

自動的に承認されるようにホストを設定しない場合には、ホストを手動で承認する必要があります。ホストの登録要求はラボ管理者によってラボ管理内から承認できます。ホストをプライベート・ホ ストとして ALM プロジェクトから作成した場合、そのプロジェクトから登録を承認できます。

ホスト・モジュールのグリッドからホストを選択し、[ホスト操作]ドロップダウン矢印をクリックし、[登録の承認]を選択します。[登録ステータス]が[保留中]から[登録済み]に変わります。

新しいテスティング・ホストが登録されます。 ALM を使用して, このホストで機能テストのスケジュール を設定して実行できます。

4. Lab Service の停止/開始

タスクバーのアイコンを使用して, Lab Service を開始および停止できます。 アイコンを右 クリックして, 次のいずれかを実行します。

- 停止するには、 [ALM Lab Service の停止]をクリックします。
- 開始するには、 [ALM Lab Service の開始]をクリックします。

#### 注意:

- Lab Service を停止すると、テスティング・ホストはラボ管理に[非稼働]と表示されます。再度開始するまで、テスティング・ホストでサーバ側の実行を使用してテストを実行することはできません。
- Lab Service を停止した後,待機時間が長すぎると,ALMで Lab Service が再起動された かどうかを確認するためにポーリングが停止されます。ホスト/テスティング・ホスト・グリッドでテ スティング・ホストの[ステータス]を手動で[稼働中]に設定する必要があります。

自動ログイン

ALM を使用して, 登録したテスティング・ホスト上でテストを実行するには, テストの実行権限を持つ Lab Service ユーザがテスティング・ホストにログインする必要があります。Lab Service では, テスト実行を要求 したユーザがテスティング・ホストに自動ログインする設定を行うことができるので, ユーザがログインしてい ない状況を避けることができます。

自動ログインを有効にするには、[設定]ページでユーザ名とパスワードを入力する必要があります。詳細については、「HP ALM Lab Service Agent」(340ページ)を参照してください。

自動ログインが有効な状態でセッションを切断すると(セッション・ウィンドウを閉じる,など), ユーザは自動的にログイン状態に戻り, テストを実行します。ただし, 画面がロックされていると, セッション・ユーザ・インタフェース (UFT GUI テストなど)が必要なテストは実行できません。

#### 注:

- 自動ログインを有効にする操作には、マシンの管理者権限が必要です。
- 自動ログインを有効にするには、ユーザ・アクセス制御 (UAC)を無効にする必要があります。
- 既存のLab Service環境で自動ログインを無効または有効にするには、MSI ファイルを実行してから[変更]をクリックします。詳細については、「HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール」(336ページ)を参照してください。

### HP ALM Lab Service Agent

アクセス方法	Windows タスクバーで Lab Service のアイコンを右 クリックして, [設定]を 選択します。	
重要な情報	[設定]ページを使用して, Lab Service とALM サーバとの通信を管理できます。	
関連タスク	「HP ALM Lab Service の使用」(337ページ)	
参照情報	「HP ALM Lab Service の概要」(329ページ)	

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

[一般]タブ

🔄 HP ALM Lab Se	rvice の設定	
<b>一般 プロキシ</b>		
リーハag定 * ALM サーバ・	http://almserver1:8080/acbin	(?)
71200 y 712		
ホスト設定		
▪ ホストユーザ名:	mtoursuser	(?)
ホスト パスワード:	*****	(?)
ホスト ドメイン:	mtours	(?)
ホスト名:	mtours 11	
メッセージ:	intours was	
	ホストの登録	
ログ設定		≹(R)
		₹(R)
 ・ログファイルの場…	C:¥ProgramData¥HP¥ALM-Execution Agent Logs	<b>≹(R)</b>
・ ログ ファイルの場 ログ レベル:	C:#ProgramData#HP#ALM-Execution Agent Logs	₹(R) 

このタブでは、Lab Service の一般的な設定を行います。

UI要素	説明
[サーバ設定]セ クション	ALM サーバ:Lab Service と通信する ALM サーバの URL。 この URL は次の形式である必要があります。 http(s)://< サーバ名 >:<ポート >/qcbin

UI 要素	説明
[ホスト設定]セク ション	<ul> <li>ホスト・ユーザ名:このホストでのALMテストの実行に使用するWindowsユーザの名前。名前には、バックスラッシュ記号(い)は指定できません。</li> </ul>
	注:このユーザには次の権限が必要です。
	■ グローバル・オブジェクトの作成
	■ All COM の権限
	■ インストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込み権限
	<ul> <li>所定のタイプのテストを実行するために必要になるすべての権限。たとえば、UFT テストを ALM から実行する場合、選択するユーザにはUFT テストの実行に必要な権限がすべて必要になります。各テスト・ツールで必要な権限の詳細については、テスト・ツールのユーザ・ガイドを参照してください。</li> </ul>
	<ul> <li>ホスト・パスワード: Windows ユーザのパスワード。このフィールドに入力できるのは、自動ログインが有効な場合のみです。</li> </ul>
	<ul> <li>ホスト・ドメイン: Windows ユーザのドメイン。このフィールドに入力できるのは、 自動ログインが有効な場合のみです。</li> </ul>
[ホストの登録] セクション	• ホスト名: ALM がテスティング・ホストの識別に使用する名前。
	• メッセージ: ラボ管理の管理者に送信されるメッセージ。
	• ホストの登録: ALM サーバを使用したテスティング・ホストを登録します。
	詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(337ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[ログ設定]セク ション	ログ・ファイルの場所:ログが書き込まれるディレクトリ。ログでテスト実行およびメン テナンス・タスクの進行状況が記録されます。ディレクトリが存在しない場合は、作 成されます。このフィールドは入力が必須です。
	<b>注:</b> [ホスト設定]で定義したユーザ名に、ログ・ファイルのパスに対する書き 込みアクセス権が割り当てられていないと、実行ログは作成されません。
	<b>ログ・レベル</b> :ドロップダウン・メニューでログ・レベルを選択します。
	• Off: ログは記録されません。
	• Error:エラーのみがログに記録されます。
	• Warning:エラーと警告がログに記録されます。
	• Info:エラー, 警告, 情報 がログに記録されます。
	<ul> <li>Verbose: Lab Service エージェントが実行したアクションがすべてログに記録されます。</li> </ul>
	ログ・レベルを高く設定すると、パフォーマンスに影響する可能性があります。 デバッグ情報の生成が必要である場合を除き、 [Error]レベルに設定するこ とをお勧めします。

[プロキシ]タブ

🔟 HP ALM Lab Service の設定		- • •
一般 プロキシ		
<ul> <li>プロキシなし</li> <li>手動プロキシ設定</li> </ul>		
• プロキシ タ	HTTP v	
・ プロキシ サ	.193.71.207	: 8080
	📝 プロキシ サーバにパスワードが必要です	
• ユーザ名 :	mtours	
<ul> <li>パスワード:</li> </ul>	******	
	OK(0) キャンセル(C)	

このタブでは、テスティング・ホストがプロキシ・サーバ経由でALMと通信する場合に使用するプロキシ・ サーバ情報を入力します。

UI 要素 (表示 順)	説明
プロキシなし	テスティング・ホストがALMサーバと直接通信する場合、このオプションを選択します。
手 動 <i>プロキ</i> シ設 定	テスティング・ホストが ALM サーバとプロキシ・サーバを介して通信する場合, このオ プションを選択します。このオプションを選択した場合, プロキシ・タイプとプロキシ・ サーバを入力する必要があり, オプションでユーザ名とパスワードを指定できます。
プロキシ・タイプ	テスティング・ホストとプロキシ・サーバ間の通信で使用するプロトコル。
プロキシ・サー バ: <ポート番号 >	プロキシ・サーバのホスト名または IP アドレス。 右のフィールドにポート番号を入力 してください。

UI 要素 (表示 順)	説明
プロキシ・サーバ にパスワードが必 要	プロキシ・サーバとの通信で認証が必要な場合,このオプションを選択します。この オプションを選択した場合,プロキシ・サーバのユーザ名とパスワードを入力する必 要があります。
ユーザ名	プロキシ・サーバの認証に使用するユーザ名。
パスワード	指定したユーザ名のパスワード。

**注**: プロキシ設定には、UI では指定できないものがあります。このようなプロキシの詳細設定を行う には、HP.ALM.Lab.Agent.RemoteService.exe.config 設定ファイル (HP ALM Lab Service インス トール・ディレクトリ)を変更します。標準のインストール・ディレクトリは C:\Program Files\HP\HP ALM Lab Service です。設定ファイルを編集する手順は、このリンクに掲載されている MSDN の手順を参照してください。

# ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡く ださい。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の 情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on ラボ管理ガイド (ALM ラボ管理 12.20)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規 メッセージに貼り付け、SW-Doc@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。



